

ISSN 1343-7550

研究会報告

第 48 号

東アジア言語文化学会

東アジア言語文化研究 〈第 4 号〉

日本語文法研究会 発行

卷頭の辞

東アジア言語文化学会会長 高橋弥守彦

東アジア言語文化学会の学会誌『東アジア言語文化研究』は、現在では日本本部が奇数号、中国支部が偶数号を出しています。毎年、どちらの学会も大会では多くの研究発表があり、活発な意見交換が行われております。これは70年余り前に設立された奥田靖雄先生を指導者とする民主主義科学者協会言語部会（現「言語学研究会」）からの伝統です。この部会では、言語資料を集め、積極的に言語研究をして論文を発表し、会員の意見を聞き、修正すべき箇所があれば修正する。すなわち、個人の研究ではありますが、会員の積極的な討論を経た集団主義による研究です。論文は、もちろん個人名で発表します。鈴木康之先生によれば、会員が毎週集まるので、集団主義による研究が可能だったそうです。これは研究発表の場ばかりでなく、普段からその傾向が強かったそうです。

東アジア言語文化学会は、その時々の研究内容と時代の要求により、会員間の話し合いがあり、学会名を変更しましたが、根底には鈴木康之先生の連語論研究があります。これは当初から一貫したものです。70余年前当初、鈴木先生たちは奥田靖雄先生の指導の下で、格助詞の研究をしていましたが、格助詞の各機能も二つ以上の実詞の意味関係で決定されるという研究結果に達し、格助詞の研究から連語論研究に入りました。連語論研究は、今でも以下の三点により研究が進められております。

1. 実例の中に回答がある。
2. 個別的な言語研究ではなく、体系の中での言語研究に搖るぎない規則性がある。
3. 優れた言語学者は優れた文学者でなければならない。

この三点は毎週木曜日に開かれていた当時の言語学研究会（駒込）の中で奥田靖雄先生、宮島達夫先生、高橋太郎先生、鈴木重行先生、鈴木康之先生などが良く院生や若手研究者に言っていた言葉です。言語研究は連語論研究だけでなく、他の言語研究の理論でも同様のことが言えると思います。そのために学会誌には連語論研究だけではなく、認知文法や生成文法などの観点からの優れた論文が多々掲載されております。

東アジア言語文化学会の言語学、特に日本における連語論研究が始まってから2022年現在までで、70年余年の歴史があります。この間、多くの連語論に関する研究発表や論文が公刊され、著書が出版されました。その中でも特筆すべき学術書としては、奥田靖雄を中心とする『日本語文法・連語論（資料編）』（1983）と鈴木康之著『現代日本語の連語論』（2011）が挙げられます。両書は執筆当時の日中間における時代と環境の影響を受け、前者は個別言語研究にとどまっていますが、後者は日本語を核とする対照研究への視点が含まれています。本学会日本本部のなかに連語論普及委員会があり、すでに何度か学会常務委員会で討論を重ねましたので、近いうちに活動を開始する予定です。興味のある院生や研究者の方は、遠慮なく参加してくださることを希望しております。大いに歓迎します。

2022年8月、東京の自宅にて

東アジア言語文化研究（第4号）

（研究会報告 総48号）

卷頭の辞 鈴木康之・高橋弥守彦 i

目次 iii

〔日本語及び日中対照研究〕

ヲ格を伴う有対自動詞構文の意味	許永蘭 1
副詞「せめて」における反事実用法	張北林 11
日本語の原因・理由文の日中対応モデル構築	湯明星 20
中国語を母語とする日本語学習者における「テ」と原因・理由を表す接続語の混用に関する考察	廖琳 30
ノニ複文における日中対訳の実証的研究	鄒善軍・李光赫 40
中国語の反事実構文とその日本語訳研究	李光赫・劉志穎 50
「仮定」・「反事実」を表すタラ条件文の日中対訳考察	劉志穎 60
中国語と日本語の慣用句における「茄子」のイメージの対照研究	徐秀姿・徐暢 70
日中流行語に見られる形態素化現象に関する対照分析	張黎 80

〔日本語教育〕

オンラインリソースを活用した自律学習のニューメディア環境の一考察	崔秀霞・永井由佳里 90
中国語を母語とする日本語学習者における条件表現「ば」の誤用に関する一考察	杜紅陽 100
日本語教育におけるマイクロレクチャーの役割	林樂青・楊玖瀅 110
「やさしい日本語」版多発災害情報マニュアルの語彙特徴	孫蓮花・薛靜博 119

〔言語文化〕

五山禪林における『莊子』の受容	吳春燕 129
阿倍仲麻呂による在唐科挙及び進士及第	張維徽 139
《書經》池田末利訳における明示的加訳に関する研究	金京愛・邱怡清 148

原発危機報道におけるエビデンシャリティに関する研究 劉智俊・姚艷玲 158

中国女子大学生のあいさつ行動についての実証的研究 李凌飛・施暉 168

陳望道訳『共産党宣言』の注釈付き術語の翻訳及び翻訳底本に関する研究 鄭穎 178

[書評]

SF 小説で描かれた万物の共生構想 李曉霞・川本真佐美 187

執筆者紹介 196

英文目次 197

ヲ格を伴う有対自動詞構文の意味¹

許 永蘭 (瀋陽工業大学)
XU Yonglan

Meaning of the paired Intransitive Verb construction with wo case

要旨：

本稿は、現代日本語において、「太郎が頭を垂れる」「太郎が病室を移る」「太郎が仕事を終わる」のような、ヲ格を伴う有対自動詞構文を考察対象とし、認知言語学の観点から、構文の意味を明らかにすることを目的とした。分析の結果は以下のとおりである。

ヲ格を伴う有対自動詞(「X が Y を有対自動詞」)構文の意味は、以下の①から③をベースとし、③をプロファイルする。

- ① : X が何らかの動作・活動をする
- ② : Y の位置・状態が変化する
- ③ : X の位置・状態が変化する

X : 使役主体+変化主体

Y : 使役対象

X と Y の関係 : X が Y を所有する

キーワード：ヲ格 有対自動詞 構文の意味 ベース プロファイル

目次

1. はじめに
2. 先行研究の検討
3. 分析
4. おわりに

1. はじめに

日本語動詞の自他については、形式と意味のミスマッチから、認定の難しさが指摘されており(野村(1982))、日本語教育においても、習得困難が指摘されている(長沢(1995))。

¹ 本稿は次の口頭発表に加筆修正したものに基づく。

2010年6月：「ヲ格を伴う有対自動詞構文の意味」、2010年度日本語教育学会第1回研究集会、於愛知淑徳大学

小林(1996)、市川(1997))。本稿は、この形式と意味のミスマッチの現象としてあげられる
ヲ格を伴う有対自動詞構文²(例文(1)の下線部³)を考察対象とする。

- (1) a. 太郎が頭を垂れる— 太郎が頭を垂らす
b. 太郎が病室を移る— 太郎が病室を移す
c. 太郎が仕事を終わる— 太郎が仕事を終える

本稿の目的は、認知言語学の観点から、現代日本語における「ヲ+有対自動詞」構文⁴の意味を明らかにすることである。

2. 先行研究の検討

ヲ格を伴う有対自動詞構文について言及した研究として、水谷(1964)、櫻井(1977)、須賀(1981、1990)、鈴木(1985)、福島(1991)、姚(2007)、小柳(2015)、菅井(2017)などがある。以下では、代表的な研究として、須賀(1981)、姚(2007)、小柳(2015)を取りあげて検討する。

まず、須賀(1981)は、ヲ格と共に起する「あく」「かわる」「うつる」「はずれる」「たれる」「おわる」の6つの動詞を考察対象としている。そして、この用法を、①自他用法の誤り、②他動詞の省略、③自動詞の臨時の他動詞化、④自動詞と共に通する他動詞、⑤自動詞の用法とする先行研究の立場を整理した上で、自身は⑤自動詞の用法という立場をとると主張している。本稿もこの立場に従う⁵。須賀は、これらの動詞が「XがYを自動詞」という構文で用いられる場合、「Xの行為がYにおいてなされる」とい点で、Xの行為とY

² 本稿において、ヲ格を伴う有対自動詞構文とは、須賀(1981)、姚(2007)を踏まえ、対応する他動詞形からなる他動詞構文を有しながら、自動詞形を用いてヲ格と共に起させている構文のことをいう。ここで、対応する他動詞構文とは、ヲ格を伴う有対自動詞構文と同一の真理条件的意味を表すことができる構文のことである。なお、「2つの文の真理条件的意味が同じであるとは、一方の文が『真(本当のこと)』であれば他方の文も『真』であり、一方の文が『偽(うそのこと)』であれば他方の文も『偽』であるということ」(町田・糸山(1995: 118))をいう。この規定に従うと、「太郎が病室を移る」は、同一の真理条件的意味を表す「太郎が病室を移す」という対応する他動詞構文を有していることから、ヲ格を伴う有対自動詞構文と言えるが、「太郎が角を曲がる」「太郎が手を触れる」は、同一の真理条件的意味を表す対応する他動詞構文を有していないと考えられるため、ヲ格を伴う有対自動詞構文とは言えなくなる。

³ 例文中に施した下線は特に断らない限り、引用者によるものである。例文中、直接の分析対象となっている箇所は実線の下線で示し、それ以外の問題となる箇所は点線の下線で示す。また、同一の例文中で、複数の語句(AとB)が置き換え可能である場合、{A/(B)}のように示す。この場合、括弧なしの語句が、元の引用例の語句であることを示す。用例は、国立国語研究所言語資源開発センターによって構築された『現代日本語書き言葉均衡コーパス 中納言版』(BCCWJ)と『日本語歴史コーパス 中納言版』(CHJ)、インターネット上で公開されているウェブページ(検索エンジン Google)を利用した。

⁴ Goldberg(1995: 4)は、構文とは「Cが形式と意味のペアであるときに Fiのある側面あるいは Siのある側面が、Cの構成要素から、または既存の確立した構文から厳密には予測できない場合、かつその場合に限り、Cは一つの「構文」である」(河上他訳 2001: 5)と定義している。本稿もこの定義に従う。以下、ヲ格が有対自動詞を伴う場合、「ヲ+有対自動詞」あるいは「XがYを有対自動詞」と表記する場合もある。

⁵ 「たれる」について、鈴木(1985)は、動詞の形態の変遷を踏まえ、現代語の「ヲ垂れる」(一段活用)は古典語の「垂る」(下二段活用)の他動詞をそのまま受け継いでいると指摘している。しかし、現代日本語においては、古典語で容認可能であった「藻塩を垂れる」(紫式部『源氏物語』、CHJ)のような表現は容認できない。「ヲ垂れる」の現代語における自他の認定については、さらなる検討が必要であり、本稿は、それ以上立ち入らず、須賀(1981)に従い、自動詞とみて議論を進める。

とは関係を持つが、自動詞は Y に変化を及ぼさず、X は Y に対する変化の与え手ではない」(p.562)と指摘している。「X は Y に対する変化の与え手ではない」という記述はその後の研究にも受け継がれる。しかし、次の例文(2)の下線部において、「口」(Y)の「あく」変化が「彼」(X)以外の存在によってもたらされているとは考えにくい。

- (2) ただ、それらの光景にそぐわぬのは、彼が大きな口をあいて、雷のような鼾をかい
ていることでした。(江戸川乱歩『ちくま日本文学全集』、BCCWJ)

次に、姚(2007)は、「歩道を歩く」、「仕事を終わる」、「首を垂れる」のようなヲ格名詞句を伴う自動詞構文の成立条件を検討し、構文全体が「意図性」、「対象性」、「支配性」という3つの意味的要因によって特徴付けられるとしている。しかし、「うつかり操作を間違った」と言えるように、「意図性」が認められない場合もある。また、「対象性」、「支配性」の意味的要因だけでは、ヲ格を伴う有対自動詞構文の意味を十分に特徴付けられたとは言えない。以下の例文は、「意図性」「対象性」「支配性」が認められる場合にも、ヲ格を伴う有対自動詞構文は容認できず、他動詞構文や自動詞構文が用いられる。

- (3) a. * 太郎が手をあがる／太郎が手をあげる／太郎の手があがる
b. * 次郎が仕事をはじまったく／次郎が仕事をはじめた／次郎の仕事がはじまったく

最後に、小柳(2015)は、須賀(1981)における6つの動詞に、「まちがう」を加えた7つの動詞⁶を取りあげ、ヲ格を伴う用法を「場」の焦点化によって生まれる場焦点化他動詞構文と称して分析している。ここでの「場」は「所有」と「占有」に分けられる。「太郎が口をあく」「犬が尻尾を垂れる」のように用いられる文は、ガ格成分がヲ格成分の「所有」者である。そして、構文は、所有者(ガ格成分)を焦点化し、所有者がヲ格成分の状態変化によって特徴付けられることを表す。一方、「太郎が下宿をうつる」「太郎が席をかわる」「太郎が音程をはずれる」「田中さんが仕事をおわる」「山田さんが答を間違う」のように用いられる文は、ヲ格成分がガ格成分に「占用」される対象である。そして、構文は、占有者(ガ格成分)を焦点化し、占有者が「占有」した場を離れる、あるいは、移動することを表す。この分析は、本稿も継承する点が多いが、不十分な点もある。小柳は「X が Y をたれる」について、「なぜ犬では『尻尾』『舌』が注目され、人では『頭、首(=頭の意)、まぶた』が注目され、木では『枝』なのか。それは人、動物、木はそのような部位によって<存在様態>が特徴付けられると感じるからである。」(p.296)と述べている。しかし、次の例文から見るように、「尻尾」と「頭」でも、「尻尾を垂れる」「頭を垂れる」とは言えるが「尻尾を立つ」「頭を下げる」とは言えない。上の説明ではこの点について説明できない。

⁶ 7つの動詞のうち、「垂れる」については、鈴木(1985: 116)を踏まえて他動詞とみなし、自動詞の例から除外している(小柳(2015: 295))。

- (4) 猫は本のうえに立ちピンと尻尾を {立てて/* (立って)} いる。(長尾剛『漱石ゴシップ』、BCCWJ)
- (5) 「またよろしくお願ひします」と、その女性は、受付の晴美に、丁寧に頭を {下げて/* (さがって)}、エレベーターホールの方へ歩いて行った。(赤川次郎『三毛猫ホームズと愛の花束』、BCCWJ)

以上、先行研究を概観したが、この構文はさらになぜ取り上げられた自動詞が 6 つしかないほど生産性が低いのかについても疑問が残されている。

3. 分析

まず、ヲ格を伴う有対自動詞構文を考察するにあたり、本稿で取り上げる動詞を示す。先行研究とハイコ・ナロック他(2015)の『現代語自他対一覧表 EXcel 版』を参考に調べた結果、以下の 7 つの動詞が挙げられている。

- (6) ①あく：与太郎が口をあいて寝ている。(須賀(1981: 555))
②かわる：一郎は勝手に座席をかわった。(須賀(1981: 555))
③うつる：友人が下宿をうつるそうだ。(須賀(1981: 558))
④はずれる：指揮者は良夫が音程をはずれているのに気づいた。(須賀(1981: 559))
⑤たれる：犬がしっぽをたれて歩いている。(須賀(1981: 560))
⑥おわる：山田君は仕事をおわって家に帰った。(須賀(1981: 561))
⑦まちがう：次郎はまたこのやさしい問題をまちがった。(小柳(2015: 294)、一部改変)

このうち、①「あく」について、鈴木(1985)は明治から昭和初期にかけて発行された文学作品の用例調査と現代大学生への言語意識アンケート調査、翻訳作品調査をもとに、「現在衰退の方向に向かっているものと考えられる。そして、『ヲ+自動詞』の代わりに、同じ内容を『ヲ+他動詞』で表す傾向がみられる」(鈴木(1985: 113))と述べている。この見解について、筆者は、2022 年 6 月に中国の大学で日本語を教えている日本人教師 24 名を対象に、鈴木(1985)のアンケート調査用例 11 例⁷と『現代日本語書き言葉均衡コーパス中納言版』の用例 6 例を加えて、「目をあく」「口をあく」の容認度調査を行った。17 例すべてが原文に「あく」という動詞が用いられており、この箇所を空欄にして、「あく」と「あける」のどちらを選んでもらうアンケートを実施した。調査の結果、「ヲ+あく」を選択した人数の割合は 10%から 20%が 7 例、10%以下が 10 例と、鈴木(1985)の調査結果を下回り、鈴木(1985)の予測を裏付ける結果となった。このことから、本稿は、「あ

⁷ 鈴木(1985)には合計 17 例あるが、原文が「ヲ+あく」になっている用例は 12 例である。筆者は、この 12 例を調査対象とし、調査結果は 11 例が有効となった。

く」は、現代日本語において、ヲ格を伴う有対自動詞として容認度が低いと考え、議論の対象からはずすことにする。

以上から、本稿では、現代日本語において、ヲ格を伴う有対自動詞構文に用いられる動詞として、「かわる」「うつる」「はずれる」「たれる」「おわる」「まちがう」の6つの動詞を取り上げて考察する。

次に、ヲ格を伴う有対自動詞構文の意味について、次のような仮説を立てる。意味記述に際し、認知言語学の観点から、ベースとプロファイル⁸の概念を用いる。

(7) 「X ガ Y ヲ有対自動詞」⁹構文の意味

a. ベース : ①+②+③

- ① : X が何らかの動作・活動をする
- ② : Y の位置・状態が変化する
- ③ : X の位置・状態が変化する

X : 使役主体+変化主体

Y : 使役対象

X と Y の関係 : X が Y を所有する

b. プロファイル : ③

まず、(7)a は、構文の意味におけるベースを表している。このベースは、X が何らかの動作・活動をし(①)、その結果、Y の位置・状態が変化する(②)と同時に X の位置・状態が変化する(③)事態である。この場合、X は何らかの働きかけによって、Y に変化を生じさせる使役主体であり、同時に X 自身が変化する変化主体でもある。Y は、X によって、変化が生じる使役対象である。また、X と Y の関係は、X が Y を所有することである。次に、(7)b は、構文の意味におけるプロファイルを表している。構文は、(7)a をベースとし、その中の一部、つまり、X の位置・状態が変化する(③)という部分をプロファイルする。以下、この仮説について検証する。まず、(7)a のベースについて確認する。次の例文を見てみよう。

⁸ 粕山(2010)は、「ベース」と「プロファイル」について、「ある語の意味を特徴付ける際に、関係する認知領域の中でも、特にその意味に対して直接の基盤となるものを『ベース』と言います。一方、ベースの中で、その語(の意味)が直接指示示す部分を『プロファイル』と言います」(p.71)と述べている。本稿もこの定義に従う。つまり、プロファイルはベースの中で、認知的際立ちが高い部分のことである。なお、ここでの「認知領域」とは、「ある言語表現の意味を特徴付けるのに必要なもろもろの背景となる領域」(p.70)のことである。

⁹ ヲ格を伴う有対自動詞構文において、ガ格は、主題化して「ハ」で表されることもあれば(例文(i))、ガ格が話し手である場合、文中に現れない場合もある(例文(ii))。本稿では、この場合もまとめて、ガ格と称することにする。

i 犬は尻尾を垂れて藪から道へ出た。(青空文庫、『凍雲』、矢田津世子)

ii (私は)最後にその点についての再度の御答弁をお願いをして、質問を終わります。(国会会議録、1986、常任委員会)

- (8) さりげなく表情を取りつくろって、「こちらに席を移っていいですか」と、レモン・ティを運んで来たボーイに尋ねた。〔中略〕替った席からは壁の絵がよく見える。(阿刀田高『鈍色の歳時記』、BCCWJ)
- (9) その日、風野は仕事を終ったあと、衿子と新宿駅の西口で待合させた。(渡辺淳一『愛のごとく』、BCCWJ)
- (10) もっとも大事なことは、どんなサプリメントを選ぶかということ一。選び方を間違ってしまうと、健康を守るどころか、逆に身体に害を及ぼすことすらあるのです。(日本代替医療研究会監修『マキシモルソリューションズがあなたを守る!』、BCCWJ)

例文(8)は、話し手(X)が足を動かす動作を行い、「席」(Y)、すなわち「座る場所」の位置が「壁の絵がよく見える」位置に変化し、同時に、話し手(X)の存在位置も変化するということを表す。この場合、話し手(X)は自分の足を動かすという動作を行って、自分の「座る場所」に変化を引き起こす使役主体であると同時に、自身の存在位置が変化する変化主体でもあると考えられる。この場合、「席」(Y)、つまり、「座る場所」は、話し手の動作によって変化が生じる使役対象である。話し手(X)と「席」(Y)は、「私の席」と言えることから、所有関係にあると考えられる。

続いて、例文(9)は、「風野」(X)が、たとえば、会社の業務を予定の時刻まで行い、それによって、「仕事」(Y)がそれまで続いた状態から続かない状態に変化し、同時に、「風野」(X)自身も自由に使える時間が持てるようになることを表す。ここで、「風野」(X)は会社の業務を予定の時刻まで行うことによって、「仕事」の継続時間を変化させる使役主体であると同時に、自身も自由な時間が持てるようになる変化主体でもある。この場合、「仕事」(Y)は、継続時間が変化する使役対象である。「風野」(X)と「仕事」(Y)は、「風野の仕事」と言えることから、所有関係にあると考えられる。

さらに、例文(10)は、読み手(X)が「サプリメント」の「選び方」に対し、分析や比較などの知的活動を行い、それによって、「選び方」(Y)が正しい方法と異なる方法に変化すると同時に、読み手(X)自身も「健康を守るどころか、逆に身体に害を及ぼす」という何らかの影響を受ける状態に変化する可能性があることを表している。ここで、読み手(X)は、知的活動を行い、「選び方」に変化を生じさせる使役主体であると同時に、何らかの影響を受ける状態になる変化主体でもあると考えられる。「選び方」(Y)は、正しくないと考えられる方法に変化する使役対象である。読み手(X)と「選び方」(Y)は、「私の選び方」と言えることから、所有関係¹⁰にあると考えられる。

¹⁰ 「父親が釣り糸をたれている」について、櫻井(1977)と小柳(2015)は、「父親」と「釣り糸」との間に所有者と所有物の関係が成り立つとしている。本稿もこれに従う。また、「良夫が音程をはずれる」において、「音程」は「2つの音の高低の差」(『明鏡国語辞典』)を指し、「良夫」の演奏により生じた

続いて、次の例文を見てみよう。

- (11) 中途半端に仕事をさせられ、会長の思いつきで部署を {変えられ/* (変わり)} 、毎日毎日「何している、それはダメだ、私には理解できない！」と戯言を聞かされ、ストレスだらけです。(<https://jobtalk.jp/companies/27799/answers/2590495>、閲覧日：2022年7月31日)
- (12) そう言うと、藤井刑事は、席を {はずし/* (はずれ)} 、五分ほどして、課長らしい人をつれて、もどってきた。(高木彬光『仮面よ、さらば』、BCCWJ)
- (13) 塩をふりかけ、レモン汁を {垂らして/* (垂れて)} さらに1分ほど炒めたら出来上がりです。(<https://recipe.rakuten.co.jp/recipe/1510012746/>)<https://jobtalk.jp/companies/27799/answers/2590495>、閲覧日：2022年7月31日)

これらの例文は、上で見たベースの内容(7)a を満たさないため、ヲ格を伴う有対自動詞構文は容認できないと考えられる。まず、例文(11)は、話し手(X)が他者である「会長」の指示により、自身の「部署」(Y)が変化することを表す。つまり、X は使役主体ではない。次に、例文(11)は、「藤井刑事」(X)が足を動かす動作をし、自身の存在位置が変化するが、「席」(Y)には変化がない。これは、「席が外れた」という自動詞の表現が容認できないことから確認できる。つまり、Y は使役対象ではない。また、例文(13)は、料理をする人(X)が「レモン汁」(Y)に対し、レモン汁の入った瓶の口を下に向ける動作をして、「レモン汁」の何滴かが料理の中に入ることを表す。この場合、「レモン汁」のみが変化し、料理をする人(X)には、位置や状態変化が認められない。つまり、X は変化主体ではない。また、料理をする人(X)と「レモン汁」(Y)の関係は、「私のレモン汁」という表現が通常不自然であることから、所有関係ではないと考えられる。以上から、ヲ格を伴う有対自動詞構文の意味は、(7)a のベースを満たす必要があることが分かる。

次に、プロファイルについて確認する。(7)b で見たように、ヲ格を伴う有対自動詞構文は、③X の位置・状態が変化することをプロファイルする。よって、(7)a の①X が何らかの動作・活動をする、あるいは、②Y の位置・状態が変化するという2つのことをプロファイルしやすい文脈では、容認できないか容認度が下がる。次の例文を見てみよう。

- (14) 猫は本のうえに立ちピンと尻尾を {立てて/* (立って)} いる。(=4))
- (15) 「またよろしくお願ひします」と、その女性は、受付の晴美に、丁寧に頭を {下げて/* (さがって)} 、エレベーターホールの方へ歩いて行った。(=5))

先行研究の検討で見たように、「尻尾」に対し、「尻尾を垂れる」は容認できるが、

ものであるため、「良夫」と所有物と所有者の関係が認められると考えられる。

「尻尾を立つ」は容認できない。また、「頭」に対し、「頭を垂れる」とは言えるが「頭を下がる」とは言わない。「垂れる」について、小柳(2015: 296)は、「『人が{頭・まぶた}をその重みにまかせて下げている状態』、『犬が{舌・尻尾}をその重みにまかせて下げている状態』、『(柳の)木が{枝}をその重みにまかせて下げている状態』、このような状態が〈場〉全体(人・犬・木)を特徴付けるものとして把握されていることを言語化したのが『～を垂れる』である」と述べている。ここで、「重みまかせ」という表現は、Xの動作が地球の重力に対抗しない動作であることを意味する。Xの動作が地球の重力に対抗する動作である場合は、そうでない場合に比べ、認知的際立ちは高くなる。「尻尾」に対し、「垂れる」を用いる場合は、Xの動作が「重みまかせ」で下方向に向かわせればよいが、「立てる」が用いられている場合は、Xが地球の重力に対抗する動作をしなければならず、認知的際立ちが高くなり、プロファイルされやすい文脈となる。そのため、Xの動作、つまり(7)a①がプロファイルされるようになり、③をプロファイルするという条件を満たさなくなる。ただ、例文(15)において、「Yヲ垂れる」と同じく、対象を地球の重力と同じ方向に向かわせる「Yヲ下げる」は、なぜ「Yヲ下がる」と言えないのであろうか。この例文は、「丁寧に」あいさつするためには、頭を下方向に向けることを表し、Xが頭に力を入れて適切にコントロールする必要がある。「垂れる」のように「重みまかせ」では「丁寧に」あいさつすることはできない。よって、Xの動作、つまり、(7)a①の認知的際立ちが高くなり、プロファイルしやすい文脈になっているため、③をプロファイルするという(7)bを満たさなくなる。同様に、次の例文では、Xの動作((7)a①)、あるいは、Yの変化((7)a②)をプロファイルしやすい文脈として考えられ、ヲ格を伴う有対自動詞構文は容認できない。

- (16) a. * 太郎が手をあがる／太郎が手をあげる／太郎の手があがる
b. * 次郎が仕事をはじめた／次郎が仕事をはじめた／次郎の仕事がはじめた(=3))

例文(16)aは、「太郎」(X)が「手」(Y)を上方向に移動させることを表し、それによって「太郎」の姿勢が変わることを表すと考えられるが、「Yヲ上がる」という表現は成り立たない。これは、「手」を上方向に移動する動作は、「立てる」の場合と同じく重力に対抗する動作であり、認知的際立ちが高いため、Xの作用①がプロファイルされやすい。この場合は、「Yヲ他動詞」という他動詞構文が用いられる。また、Yに変化が生じているため、これをプロファイルする((7)a②)場合は、「Yガ自動詞」という自動詞構文が用いられる。同様に、「仕事をはじめる」((16)b)ことは、Xが身体的・知的活動を行うことであり、「仕事を終える」(Xがそれまで続いた身体的・知的活動を停止する)ことに比べ、認知的際立ちが高い。よって、Xの動作・活動をプロファイルしやすく、Xの変化のみをプロファイルする条件を満たさない。この例においても、Xの動作・活動をプロファイルする他動詞構文とYの変化をプロファイルする自動詞構文が用いられる。

以上、ヲ格を伴う有対自動詞構文の意味について、仮設の検証を行った。

それでは、なぜヲ格を伴う有対自動詞構文は生産性が低いのであろうか。本稿は、ヲ格を伴う有対自動詞構文は変化主体と使役主体が同一であり、主体の変化のみをプロファイルするからであると考える。変化主体と使役主体が同一である場合、通常、主体の変化がプロファイルされると、主体の働きかけとともにプロファイルされやすい。よって、この構文に用いられる動詞は、「垂れる」「終わる」のように、主体の働きかけの認知的際立ちが低い事態に限られる。上の例で見たように、「猫が尻尾を立てる」(例文(14))、「女性が丁寧に頭を下げる」(例文(15))「太郎が手をあげる」(例文(16)a)、「次郎が仕事をはじめた」(例文(16)b)が表す事態は、変化主体と使役主体が同一であると考えられるが、使役主体の働きかけの認知的際たちが相対的に高いため、他動詞と対応する自動詞は、ヲ格を伴って用いることができない。要するに、ヲ格を伴う有対自動詞構文の生産性が低いのは、その構文の意味を満たす事態が非常に限られるためであると考えられる。

4. おわりに

本稿は、ヲ格を伴う有対自動詞構文を考察対象とし、構文の意味を記述した。ヲ格を伴う有対自動詞(「X が Y を有対自動詞」)構文の意味は、以下の①から③をベースとし、③をプロファイルする。

- ① : X が何らかの動作・活動をする
- ② : Y の位置・状態が変化する
- ③ : X の位置・状態が変化する

X : 使役主体 + 変化主体

Y : 使役対象

X と Y の関係 : X が Y を所有する

本稿により、日本語動詞の自他における形式と意味のミスマッチの現象の一つに説明を与えることができたと思われる。また、構文の意味を明らかにすることにより、構文の生産性にも動機付けを与えることができた。今後の課題は、ヲ格を伴う有対自動詞構文の間にも生産性の違いがあるが¹¹、これについても説明できるようにすることである。また、天野(1987)における「状態変化主体の他動詞構文」、佐藤(1994)における「介在性表現」など、所有者をプロファイルする他の構文との比較も視野に入れる必要がある。さらに、考察対象をヲ格を伴う自動詞構文に広げ、その構文的意味を構文の多義性の観点から考察する必要がある。最後に、衰退の方向に向かっているとされる「ヲ+あく」について、通時的な観点から言語事実と原因を考察し、言語変化の一般的な規則を探ることも必要である。日本語教育への応用としては、動詞の自他の指導は、動詞そのものの形式と意味、ヲ格との共起に注目するだけでなく、構文的意味を重視した指導が必要である。

¹¹ たとえば、「終わる」「変わる」は多くのヲ格名詞と共に起するが、「はずれる」は「音程」に限られる。

参考文献

- 天野みどり(1987)「状態変化主体の他動詞構文」『国語学』151、国語学会左 1-14(110-97)
- 市川保子編(1997)『日本語誤用辞典』、凡人社
- 北原保雄編(2010)『明鏡国語辞典』(第二版)、大修館書店
- 小林典子(1996)「相対自動詞による結果・状態の表現—日本語学習者の習得状況—」、『文藝言語研究篇』29、pp.41-56
- 小柳昇(2015)「日本語のモノと場の二者関係の概念化と自動詞・他動詞構文に関する研究」、東京外国語大学博士論文
- 櫻井光昭 (1977)「古代語の再帰的他動詞」『學術研究 (国語・国文学編)』26、pp.67-82
- 佐藤琢三 (1994)「他動詞表現と介在性」『日本語教育』84、pp.53-64
- 菅井三実(2017)「変化事象とヲ格の振る舞い」『日本認知言語学会論文集』17、pp.501-516
- 須賀一好(1981)「自他違い—自動詞と目的語、そして自他の分類」馬淵和夫博士退官記念国語学論集刊行会編『馬淵和夫博士退官記念 国語学論集』、大修館書店、pp.543-567
- 須賀一好(1990)「〈終了〉の意味と自他の形態—他動詞形用法に接近した自動詞形用法の分析—」、『日本語と日本文学』13、筑波大学国語国文学会、pp.20-27
- 鈴木英夫(1985)「『ヲ+自動詞』の消長について」『国語と国文学』62-5、東京大学国語国文学会、pp.104-117
- 長沢房枝(1995)「L 1, L 2, バイリンガルの日本語文法能力」、『日本語教育』86、pp.173-189
- 野村剛史(1982)「自他・他動・受身動詞について」『日本語・日本文化』11、大阪外国語大学研究留学生別科、pp.161-179
- ハイコ・ナロック、プラシャント・パルデシ・影山太郎・赤瀬川史朗(2015)『現代語自他対一覧表 Excel 版』(<https://watp.ninjal.ac.jp/resources/>)
- 福島直恭(1991)「他動性と自動性の対立の解消に関する一考察」『学習院女子短期大学紀要』29、pp.107-122
- 水谷靖夫(1964)「『話を終わる』と『話を終える』」『口語文法講座 3 ゆれている文法』、明治書院、pp.45-60
- 町田健・糸山洋介(1995)『よくわかる言語学入門 解説と演習』日本語教師トレーニングマニュアル3、バベル・プレス
- 糸山洋介(2010)『認知言語学入門』、研究社
- 姚艶玲(2007)「日本語のヲ格名詞句を伴う自動詞構文の成立条件—認知言語学的観点からのアプローチー」、『日本語文法』7(1)、日本語文法学会、pp.3-19
- Goldberg, Adele E. (1995) *Constructions: A construction Grammar Approach to Argument Structure*. Chicago: University of Chicago Press. (河上誓作・早瀬尚子・谷口一美・堀田優子訳(2001)『構文文法 英語構文への認知的アプローチ』、研究社)

副詞「せめて」における反事実用法

張北林（大連理工大学）

Zhang Beilin

Counterfactual Usage of the Adverb *Semete*

要旨

本稿は、副詞「せめて」の反事実用法を中心に考察を行なった。その結果、「せめて」の反事実用法は全用例の 24.86%を占めていることが明らかになった。そして、反事実の触発語である「もっと」の反事実用法率をやや上回ることが分かった。また、「せめて」は行為的な叙法副詞と条件的な叙法副詞の両方に跨っており、二重の叙法性を持っていることが明白になった。

キーワード： 行為的な叙法副詞、せめて、反事実用法

目次

0. はじめに
1. 先行研究
2. データ概要
3. 反事実を表す「せめて」
4. 反事実以外の用法
5. おわりに

0. はじめに

副詞「せめて」は、従来、行為的な叙法副詞であるとされてきた。そして、願望や当為などの述語の陳述的タイプと呼応して用いられるとしている。ただ、「せめて」の反事実用法についての言及は非常に稀である。本稿は「せめて」の反事実用法を中心に、考察を行うこととする。

1. 先行研究

森山・仁田・工藤（2000）では、副詞を陳述副詞、程度副詞、情態副詞の三種に分類している。そして、陳述副詞を叙法副詞、評価副詞、取り立て副詞の三種類に分けている。そのうちの叙法副詞は「必要に応じて述語の叙法の程度を強調・限定したり文の叙法性を明確化したりするものであって…」と指摘している（p. 188）。

同じ文献では、叙法副詞をさらに「行為的な叙法副詞」、「認識的な叙法副詞」、「条件的な叙法副詞」、「下位叙法副詞」の四種類に分けている。行為的な叙法副詞の副詞全体における位置付けは以下の図1のようにまとめることができる。

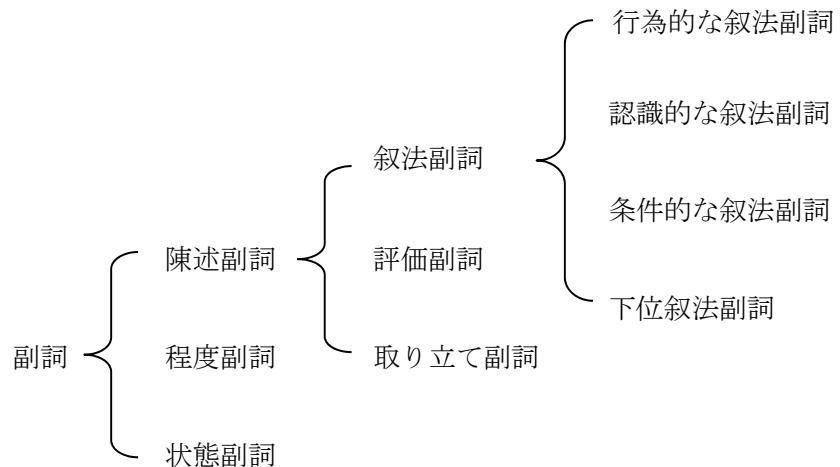


図1 副詞体系における行為的な叙法副詞の位置付け

森山・仁田・工藤（2000）では、行為的な叙法副詞の代表例を次のように列挙している（下線は筆者によるものである）。

行為的な叙法

(a) 基本叙法

(1) 依頼—— どうぞ どうか なにとぞ なにぶん／頼むから

(2) 勧誘・申し出 etc.—— さあ まあ なんなら(なんでしたら)

(b) 副次叙法

(3) 願望・当為 etc.—— ぜひ せめて いっそ できれば なんとか

なるべく できるだけ どうしても 当然 断じて

cf. 意志—— あくまで(も) すすんで ひたすら いちばん etc.

意図—— わざと わざわざ ことさら あえて etc.

以上の分類から分かるように、「せめて」は行為的な叙法副詞に属している。そして、願望や当為などの述語の陳述的タイプと呼応して用いられる。渡辺（2001）は、「せめて」を「せめて Q (Quantity) ぐらいは希望したい」とモデル化し、Qは必ずしも数量を伴うわけではなく、「話者が自分の希望を引き下げるぎりぎりの譲歩の限界点」を示す言葉であると述べている。そして、「せめて」は「順接仮定」、「願望」、「肯定」、「意志」、「命令」などの述語の陳述的タイプと呼応するとしている。一方で、統計的な立場から、「せめて」の意味と用法を考察するのは、仲渡（2021）が挙げられる。ただ、用例数が少ない(100例)ため、必ずしも、「せめて」の全体像を的確に把握しているとは言い難い。

筆者の用例収集の過程において、次のような例文が見られた。

(1) せめて名前だけでも聞いておくべきだったと、いまさらながら残念でならなかつた。

草鹿外吉『灰色の海』

(2) せめて淑子の意思を確かめる方法があれば、早く結論が出せたかもしぬなかつた。

清水一行『逆転の歯車』

上記の例(1)と(2)は、「せめて」の「反事実」用法である。張北林(2021)では、「もっと」、「もう少し」、「せめて」などの副詞の「反事実」用法について指摘している。さらに、「もっと」を「反事実」の「触発語」と名付けている。ただ、「せめて」については、一言触れるだけに止まり、詳細な研究はまだ行っていなかつた。

そこで、「せめて」の使用実態をきめ細かく記述するためには、統計的ないし量的把握が必要不可欠であると考える。より多くの用例を収集・分析することによって、「せめて」の全体像、とりわけ「せめて」の反事実用法の使用実態が浮かび上がつてくると考えている。

2. データ概要

今回の調査は、『現代日本語書き言葉均衡コーパス 中納言版』¹を用い、「せめて」をキーワードに検索を行つた。検索対象とするレジスターを全て選択することにしている(出版・新聞・出版・雑誌、出版・書籍・図書館・書籍、特定目的・白書、特定目的・ベストセラー、特定目的・知恵袋、特定目的・ブログ、特定目的・法律、特定目的・国会会議録、特定目的・広報紙、特定目的・教科書、特定目的・韻文)。コアと非コアを両方選択する。

その結果、1693件の結果が検出された。その中から、無作為に400例を抽出した。400例のうち、ノイズは2例あり²、「せめてもの」は36例ある。実用日本語表現辞典³によると、「せめてもの」は名詞を修飾し、「まったく十分ではないができる限りを尽くす」、または、「まったく十分ではないがこれはこれで良しとするべき」といった意味合いを加える表現であるとしている。

本稿は、2例のノイズと36例の「せめてもの」を研究対象外にする。残りの362例を今回の研究対象とする。筆者は、目視検査でこの362件の「せめて」の用例(前後の文脈も参考にしながら)について意味確認を行つた。その結果、反事実を表す「せめて」の用例は90例あることが分かつた。各種用例の占める割合は以下の図1が示している通りである。

¹<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>

²例: …元はふたたび四千四百せきの軍船でせめてきたが、…。(漆原智良『教科書にてくる最重要人物185人』)

例: くまんばちが…くまんばちが、せめてきます!(生越嘉治『5-6年生の劇の本』)

³<https://www.weblio.jp/>

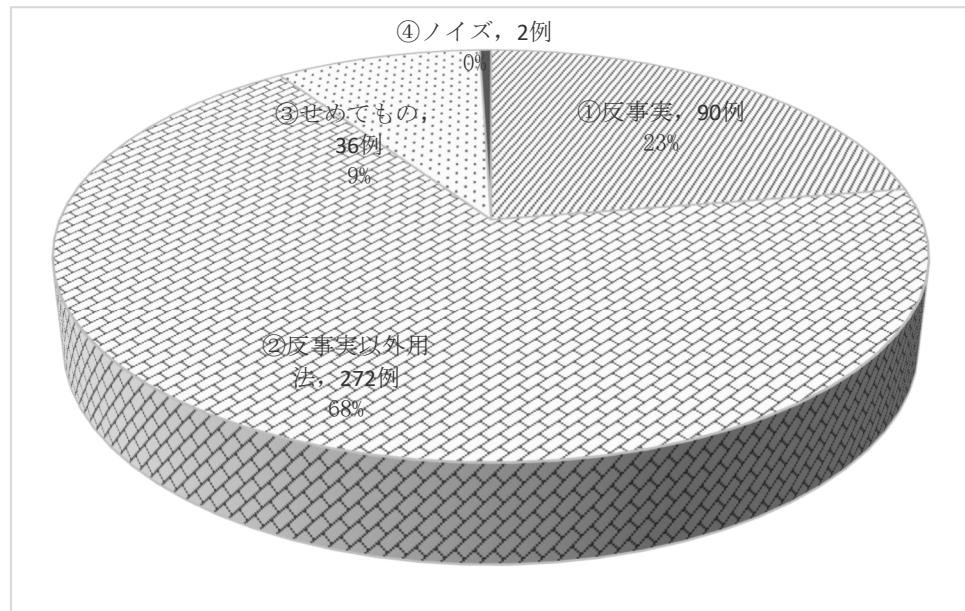


図2 各種用例の割合

3. 反事実を表す「せめて」

張北林 (2021:24) では、「もっと」が表す話し手の心のあり方については、「現状への不満の表明である…、このような現状への不満から何とか現状を変えようという心理に移行し、事態の程度を部分的に変更した設定を作り上げる働きをしている。このような程度の変更によって、現実世界に存在しない虚構的な反事実仮想の意味合いが付与される。」のように指摘している。

本稿で扱う副詞「せめて」も似たような機能を果たしていると考えられる。ただ、異なるところは、「もっと」は高程度の方向へなされることが多いのに対して、「せめて」は低程度の方向へなされることが多い点である。話者が自分の譲歩の限界点まで希望を引き下げるによって、現実とは異なる仮想的な事態が想定されるのである。

90件の「せめて」の反事実用法(図2を参照する)をさらに細かく分類すると、単文は38例、複文40例(従属節に現れるのは22例、主節に現れるのは18例)、多重複文10例、その他2例(一語文など)ある。各構文パターンの件数と割合は次の図が示しているようになる。

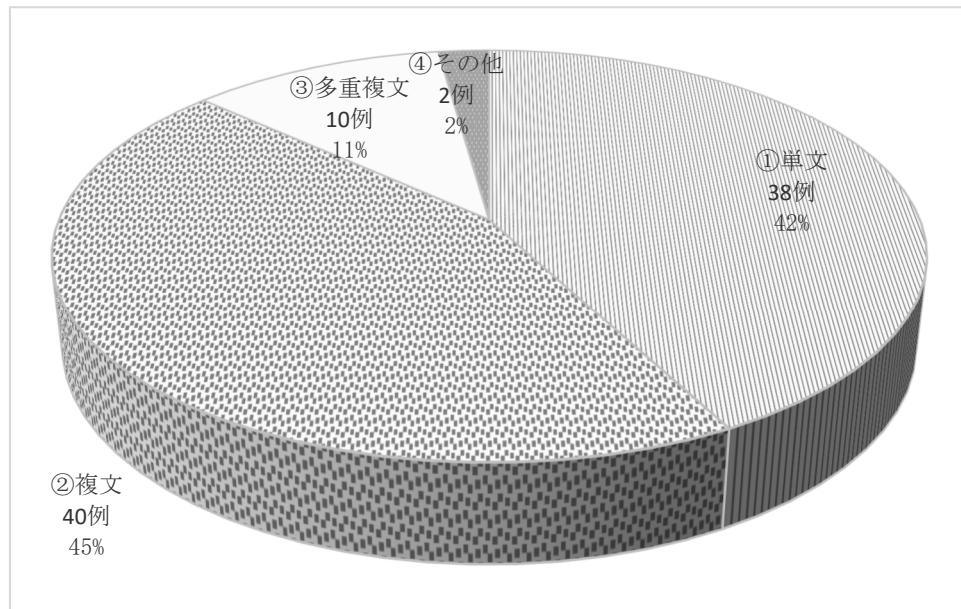


図3 各種構文パターンの割合

3.1. 単文

38件の「せめて」の単文反事実用法(図3を参照する)を見てみると、積極的に一定の述語形式(願望や当為など)と呼応することが分かる。その中で、最も多いのは「たい／たかった」、「ばよかったです／たらよかったです」、「べきだ／べきだった」などである。次はこのような用例である。

(3) せめてアドリアン・モーリスだけでも、彼女の傍につけておきたかったのだ。

若林真紀『この愛にできること』

(4) せめて、ファルターにはエビの味がするようにでもしといてくれればよかったです。

大野芳『山本五十六自決セリ』

(5) せめて、真田先生と二人だけで、車に乗ったとき、真実を喋つておくべきだった。

内館牧子『小粋な失恋』

3.2. 複文

複文における「せめて」の反事実用法は40件ある。そのうち、従属節に用いられるのは22例、主節に用いられるのは18例である。次の例(6)、(7)と(8)は従属節に現れる用例である。

(6) せめて引っ越し前に来てくれればもっと早く書類もそろえられた。

ゲイ・タリーズ『名もなき人々の街』

- (7) せめてもう半年の生命をもらえたら、未解決の研究の一部が完成するのに。
星野孝『がんはやっぱりストレスが原因だった』
- (8) こんなとき、せめて内海さんが生きてらっしゃると、何か一言、ピカ一さんをやりこめることを言って下さるのでしょうに。
坂口安吾『不連続殺人事件』

従属節に用いられる「せめて」の用例を細かく分析すると、上記の例 (6) ~ (8) のように、「ば」、「たら」、「と」などの述語形式と積極的に呼応する傾向が見られるのである。「せめて引っ越し前に来てくれれば…」、「せめてもう半年の生命をもらえた…」、「せめて内海さんが生きてらっしゃると…」はいずれ現実とは異なる仮想的な事柄を仮定し、その帰結を想像してみる反事実的な用法である。

森山・仁田・工藤（2000:191）では、条件的な叙法副詞（図1を参照すること）は原則として、複文の従属節の述語と呼応するものであるとしている。前述したように、「せめて」は従属節の条件的な述語形式と積極的に呼応している。その為、「せめて」は条件的な叙法副詞の特徴も兼ねていると言えるだろう。このことから、「せめて」は行為的な叙法副詞と条件的な叙法副詞の両方に跨っていると考えられる。換言すれば、「せめて」は同時に二重の除法性を持っていると言えるのではないだろうか。

次の例 (9) と (10) は主節に用いられる「せめて」の用例である。

- (9) 鋸はあとで出番があるとはいえ、せめて包丁でも買ってくれればよかったです。
萬年甫『動物の脳採集記』
- (10) でもあの子は二人の子供なんだから、せめて育児くらい協力してくれてもいいんじやない?
佐保美恵子『マリーの選択』

主節に用いられる「せめて」の用例を見てみると、「ばよかったです」、「てもいい／てもよかったです」、「べき」、「てほしい」などの主節の陳述的タイプと呼応することが分かる。

3.3. 多重複文

次の例 (11) と (12) は多重複文における「せめて」の反事実用法である。

- (11) せめて音でも聞こえたら、何か見当がつくのだが、この世界には音というものもないとみえて、死に絶えたように静まり返っている。
江戸川乱歩『大暗室』
- (12) 私が行けなくとも、せめて孫たちが勢揃いして拍手と花束を捧げるべきだったのに、皆同じように無関心で、誰一人海上に出掛けなかつた。
桐島洋子『刻のしづく』

單文にせよ、複文にせよ、多重複文にせよ、「せめて」の反事実用法には「せめて…だけでも／だけで／だけは」、「せめて…でも」、「せめて…ぐらい／ぐらいは」、「せめて…もう少し」などの構文形式がよく見られる。これらの構文形式の中の「だけでも／だけで／だけは」、「でも」、「ぐらい／ぐらいは」は最低限の確保を希望する様子を表す。即ち本当はもっと多くを望みたいところなのだが、最小限で我慢せざるを得ないという慨嘆のニュアンスがこもると考えられる。

3.4. 「もっと」との比較から見る「せめて」

張北林（2021）では、「もっと」を「反事実仮想の触発語」と呼んでいる。そして、「もっと」の反事実用法は全用例の21%を占めていると指摘している。第2節のデータが示しているように、「せめて」の反事実用法は全用例の24.86%（90÷362／ノイズなどを除く）を占めていることが分かる。このことから、「せめて」の反事実用法の割合は「もっと」を上回ることが分かった。従って、「せめて」の反事実性の度合いは「もっと」よりやや高いと言えるのではないだろうか。

第3節の冒頭で述べたように、「もっと」は高程度の方向へなされることが多いのに対して、「せめて」は低程度の方向へなされることが多い点である。今回収集した用例の中には、両者が同じ用例に同時現れるケースもある。次はこのような用例である。

- (13) もっともっと、せめて弟の苦しみの半分でも受けさせなきや、俺の腹の虫がおさまらねえ。
齊藤英一朗『天界に幸多からんことを』

「もっと」は程度副詞であるため、現存の程度を十分なものとして容認できず、苦しみの度合いを一層強めたいという心理を表す。その一方、「せめて」は陳述副詞に属している（図1を参照すること）ため、条件形式「なきや」と呼応して、仮想的な事態を想定するのである。

4. 反事実以外の用法

「せめて」の反事実以外の用法には、「願望」、「意志」、「命令」などの述語形式と呼応する用例が数多く見られる。渡辺（2001）では、「せめて」は「（順接確定）×せめて娘が生きていてくれるから」、「（逆接仮定）×せめて娘が生きていてくれても」、「（逆接確定）×せめて娘が生きていてくれるが」、「（様態）×せめて 50キロまでやせそうだ」、「（否定）×せめて 1日3回歯を磨かない」、「（過去）×せめて 50キロまでやせました」、「（推量）×せめて半年は住むだろう」、「（疑問）×せめて半年で手を打ってくれますか」などの述語形式と呼応できないとしている。

ところが、今回収集したデータの中では、次の「せめて～くれても」（例14）、「せめて～だろう」（例15）、「せめて～そう（様態）」（例16）などのような用例が見られる。

(14) せめて名前ぐらいおしえてくれてもいいではないか。

森村誠一『黒い神座』

(15) せめてこのぐらいは…バチは当らないだろう。(推量)

粉川宏『コシヒカリを創った男』

(16) せめて、扉のロックくらい待ってくれてもよさそうなものを…。(様態)

渡辺淳一『渡辺淳一全集』

5. おわりに

本稿は、副詞「せめて」の反事実用法を中心に考察を行なってきた。その結果、「せめて」の反事実用法は全用例の 24.86%を占めていることが明らかになった。そして、反事実の触発語である「もっと」の反事実用法率をやや上回ることが分かった。また、「せめて」は行為的な叙法副詞と条件的な叙法副詞の両方に跨っており、二重の叙法性を持っていることが明白になった。

参考文献

- [1]有田節子. 日本語条件文と時制節性. 東京:くろしお出版, 2007.
- [2]張北林·李光赫. 「テモ」の再分類と日中対照研究. 汉日语言对比研究论丛(3), 2012:89-106.
- [3]張北林·李光赫. “総括”と“類同”から見たテモ讓歩文のモの作用域. 応用言語学研究論集(7), 2013:40-48.
- [4]張北林·李光赫. 基于理论与实证的日汉让步句对比研究. 汉日语言对比研究论丛(5), 2014:39-56.
- [5]張北林·趙海城. 関数検定から見たテモ文の日中対照研究. 明星大学人文学部研究紀要(50), 2014:33-44.
- [6]張北林·李光赫·趙海城. テモ讓歩文の文法化と主觀化. 明星大学人文学部研究紀要(51), 2015:89-99.
- [7]張北林. 逆条件を表すトシテモに関する実証的研究. 東アジア言語文化研究(1), 2019:31-40.
- [8]張北林. ニュースタイトルにおける逆接表現—「モ」を中心に—. 東アジア言語文化研究(2), 2020:21-30.
- [9]張北林. 现代日语让步范畴的认知研究. 北京: 外语教学与研究出版社, 2020.
- [10]張北林. テモ让步句的心理空间开启方式及认知层级研究. 东北亚外语研究(1), 2021:51-57.
- [11]張北林. 日本語における反事実仮想の表現方法—メイン手段と補助手段との相互作用—. 東アジア言語文化研究(3), 2021:21-30.
- [12]仲渡理恵子. 副詞「せめて」の意味と用法. 三重大学国際交流センター紀要(16), 2021:17-32.
- [13]日本語記述文法研究会. 現代日本語文法⑥複文. 東京:くろしお出版, 2008.
- [14]日本語記述文法研究会. 現代日本語文法④モダリティ. 東京:くろしお出版, 2009.
- [15]森山卓郎·仁田義雄·工藤浩. 日本語の文法 3 モダリティ. 東京:岩波書店, 2000.
- [16]渡辺実. さすが! 日本語. ちくま新書, 2001.

付記: 本稿は教育部人文社会科学研究规划基金項目 (課題番号: 19YJA740078)、中央高校基本科研業務費重点項目 (課題番号: DUT19RW213)、遼寧省社会科学规划基金項目 (課題番号: L15BYY029) の部分的な成果である。

日本語の原因・理由文の日中対応モデル構築

湯 明昱 (大連理工大学)

TANG Mingyu

The model construction about Japanese- Chinese contrast study of the cause- reason sentence expressed by kara and node

要旨

在汉语中，表达因果关系时除了接续词“因为、所以”外，“就、由于”等接续词也经常出现，然而这些因果接续词与日语的カラ、ノデ在对译时并不是一一对应的，这给汉语母语日语学习者和日语母语汉语学习者带来了很多困难。本稿从汉语因果接续词的视点出发，分析这些因果接续词与日语カラ、ノデ因果复句的对译倾向发现，“因为、所以、就、由于”等接续词的使用频率相对较高，其中“因为”较多的用于カラ句的汉译，而“由于”较多的由于ノデ句的汉译。

キーワード： 因果複文、日中対訳、接続辞、モデル構築

目次

- 1 はじめに
- 2 先行研究
- 3 対訳例調査
- 4 カラ・ノデが表す原因・理由文の日中対応モデル
- 5 まとめ

1 はじめに

日本語のカラ・ノデ原因・理由文と中国語の因果複文の対訳例を比較すると、カラ・ノデは“因为、所以”のほか、“就，才，只好”などで表している場合も少なくない。本稿では、中国語の有標複文を中心に、カラ・ノデ原因・理由文を中訳する場合、一体どのような対応関係があるのか、どのような対訳傾向があるのか、などの問題を明らかにし、その対訳モデルの構築を目指す。

2 先行研究

蓮沼など（2001）では、カラ・ノデで表す原因・理由文を①事態の原因、②過去の因果、③行為の理由、④判断の根拠、⑤発話・態度の根拠の5種類に分けている。また、前田（2009）では、原因・理由文を、i 原因・理由、ii 判断根拠、iii 可能条件提示（つまり、原因・理由を表すと言い難いカラ文）の三種類に分類している。

以上の先行研究を踏まえて、本稿では蓮沼など（2001）の分類方法にしたがって、因果関係を表すカラ・ノデの意味用法を次の二種類に分けている。

i 事態・行為の原因・理由（本稿ではカラ I・ノデ I と呼ぶ）

ii 判断・発話・態度の根拠（本稿ではカラII・ノデIIと呼ぶ）

そのうち、カラI・ノデIは更に「事態の原因」（原因）と「行為の理由」（理由）に分けています。カラII・ノデIIは更に「判断の根拠」（判断）と「発話・態度の根拠」（態度）に分けています。

2.1 原因・理由を表すカラI・ノデI

「事態の原因」は事実と分かっている事態の前後節が原因-結果の関係（因果関係）をもつことを表しています（1）。

（1）夕べお酒をたくさん飲んだから/ので、今朝は頭が痛い。 蓮沼など（2001）

原因を表すカラI・ノデIの前節と後節はどちらも客観的な事態を述べています。中国語でも、事態の原因を表す場合、前後節が表している事態は客観的な状態であり、前節が原因節で、後節が結果節になる。

「行為の理由」はなぜそのような行為をするかに対する理由の説明である（2）。

（2）少し熱があるから/でお風呂に入るのはやめておこう。蓮沼など（2001）

理由を表すカラI・ノデIの後節には、意志的動詞が出ることが多い。

2.2 判断と態度を表すカラII・ノデII

「判断の根拠」は、なぜそのような判断をするのかに対する根拠を説明する（3）。

（3）顔色が悪いから/ので、どこか体に悪いところがあるのかもしれない。

蓮沼など（2001）

判断を表すカラII・ノデIIの後節には普通、「（の）だろう・（の）かもしれない・にちがいない・はずだ・ようだ・らしい・そうだ」など話し手の判断を表す表現が現れる。つまり、前節の事態による、なんらかの判断を下すことを表す用法である。

「発言・態度の根拠」は、なぜそのような発言をしたり、そのような態度をとったりするのかに対する根拠を説明する（4）。

（4）ほかのお客さんの迷惑になりますから/ので、携帯電話のご使用はご遠慮ください。 蓮沼など（2001）

態度を表すカラII・ノデIIは、後節に命令・依頼・勧誘・質問などの働きかけ表現が来る場合と、意志・希望などを表す表現が来る場合がある。

2.3 中国語の因果複文

邢福義（2001）、張斌（2010）は、中国語の因果複文を「説明性因果複文」と

「推論性因果複文」の2種類に分けています。カラ I・ノデ I 文は、意的中国語の「説明性因果複文」に対応すると思われる。「説明性因果複文」の代表的な表現として“因为 p, 所以 q”が挙げられる。それに対して、カラ II・ノデ II 文は、意的中国語の「推論性因果複文」に対応すると思われる。その代表的な表現としては“因为 p, 所以 q”“由于 p, q”“p, 就 q”などが挙げられる。

中国語の因果複文を表す接続辞には、“因为”系が代表とする前標と“所以”系と“就”系が代表とする後標がある。前標と後標はそれぞれ異なる役割をする。李晋霞, 王忠玲(2013)では“因为”と“所以”的文法的意味と機能の相違について次のようにまとめている。“所以”は前後節の因果関係を顕在化する標識であり、“因为”は原因(原因・理由節)を顕在化する役割をする。つまり、

“因为”を用いないと、原因がはっきりしなかったり、因果関係が不明瞭になつたりするが、原因を顕在化する“因为”を用いることで、読み手の論理的思考の構築を助ける役割をする。従って、因果関係の顕在度が高いほど(“因为”を用いないで)“所以”だけで表す傾向があり、因果関係の顕在度が低いほど“因为”を多用する傾向がある。

3 対訳例調査

本稿では21編の日本の小説¹とその中国語訳についてカラ・ノデの対訳例を調査した。本来ならば中国語の因果類関連詞文(有標の因果複文)が日本語でどう翻訳されているかを調査すべきである。しかし、現代中国語(特に口語文)の複文では接続辞を用いないで表す(無標複文)のが一般的であるため、ここでは日本語のカラ・ノデとそれに対応する中国語形式を統計してみることにする²。つまり、中国語(中国語訳者)から見た日本語のカラ・ノデ文は一体どんなものか、あるいはカラ・ノデのような原因・理由文を中国人がどのような中国語で表すかを浮彫りにする。また、中国語複文では接続辞が必須ではなく、無標複文で

¹ 1. 大岡昇平『野火』、尚侠等译《野火》 2. 井伏鱒二『黒い雨』、柯毅文、颜景镐译《黑雨》 3. 太宰治『斜陽』、张嘉林译《斜阳》 4. 村上春樹『ノルウェイの森』、林少华译《挪威的森林》 5. 村上春樹『羊をめぐる冒險』、林少华译《寻羊冒险记》 6. 村上春樹『ダンス・ダンス・ダンス』、林少华译《舞! 舞! 舞!》 7. 村上春樹『国境の南、太陽の西』、林少华译《国境以南、太阳以西》 8. 村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』、林少华译《世界尽头与冷酷仙境》 9. 村上春樹『1Q84 BOOK1』、施小炜译《1Q84 BOOK1》 10. 村上春樹『1Q84 BOOK2』、施小炜译《1Q84 BOOK2》 11. 村上春樹『1Q84 BOOK3』、施小炜译《1Q84 BOOK3》 12. 赤川次郎『三毛猫ホームズの登山列車』、叶蕙译《三色猫登山列车》 13. 赤川次郎『三毛猫ホームズのびっくり箱』、叶蕙译《三色猫奇异箱》 14. 赤川次郎『三毛猫ホームズのクリスマス』、叶蕙译《三色猫的圣诞节》 15. 赤川次郎『三毛猫ホームズの駆落ち』、叶蕙译《三色猫之私奔》 16. 赤川次郎『三毛猫ホームズの恐怖館』、叶蕙译《三色猫恐怖馆》 17. 赤川次郎『三毛猫ホームズの推理』、叶蕙译《三色猫推理》 18. 赤川次郎『三毛猫ホームズの幽霊クラブ』、叶蕙译《三色猫幽灵俱乐部》 19. 赤川次郎『三毛猫ホームズの追跡』、叶蕙译《三色猫追踪》 20. 赤川次郎『三毛猫ホームズの怪談』、叶蕙译《三色猫怪谈》 21. 赤川次郎『三毛猫ホームズの感傷旅行』、叶蕙译《三色猫伤感旅行》

²原文: 在现代汉语口语中, 不出现小句标记是普遍现象, 故汉语不能只根据其显性标记“因为”等来断定一定篇章中有多少因果复句。当“因为”“所以”等因果标记没有出现时, 仍有可能是因果复句, 然而这样的因果复句到底有多少, 实际上很难统计。因此, 只从“因为”“所以”等标记来统计汉语因果复句数量的做法不符合汉语这种主从小句标记可选择性出现类语言的类型特点。高在兰(2013)

表す場合が一般的であるが、そのほとんどが前後の文脈によって前後節の意味関係を表し、特徴的な標識がないとも言えよう。そのため、今回の研究ではまず中国語の複文の有標複文のみを対象にカラ・ノデと対照することにする。

3.1 カラ文との対応関係

原因・理由を表すカラの例は全部で 940 例(カラ I:550 例、カラ II:390 例)ある(5)。

(5) カラ I (550 例) :

有標訳文 256 例 : 46.5%、無標訳文 294 例 : 53.5%。

カラ II (390 例) :

有標訳文 147 例 : 37.7%、無標訳文 243 例 : 62.3%。

カラ I と対訳する接続辞形式は概ね次の(6)のようにまとめることができ

る。

(6) 表 1 カラ I 文に対応する中国語有標訳文の接続表現³

	因 为	由 于	因 为	所 以	因 此	才	+	就	+	于 是	于 是	+	只 好	既 然	其 他	合 計
原因	34	18	22	18	13	3	3	0	1	0	1	0	0	3	116	
理由	7	5	7	24	12	5	7	42	8	4	7	6	5	1	140	
合計	<u>41</u>	23	29	<u>42</u>	25	8	10	<u>42</u>	9	4	8	6	5	4	256	

以上から分かるように、文中のカラ I の対訳例の多くは“所以”(42 例)、“就”(42 例)と“因为”(41 例)の三種類に集中している。つまり、これら三形式がカラ I 文と意味的に最も近いと言えるだろう。

カラ II と対訳する接続辞形式は概ね次の(7)のようにまとめられる。

(7) 表 2 カラ II 文に対応する中国語有標訳文の接続表現

	因 为	由 于	因 为	所 以	因 此	才	+	就	+	反 正	既 然	其 他	合 計
判断	24	8	11	15	11	2	10	7	5	0	4	6	103
態度	10	0	5	13	1	0	0	10	1	1	1	2	44
合計	<u>34</u>	8	<u>16</u>	<u>28</u>	12	2	10	<u>17</u>	6	1	5	8	147

(7)から分かるように、カラ II の用例の殆どの対訳例形式で「判断の根拠」が多い傾向が見られる。カラ II は「判断」を表す傾向が強いことが言えるだろう。文中のカラ II の対訳の多くは典型的な接続表現を用いる“因为”(34 例)、

³ +才は“(因为) p, (所以) 才 q”の略記；就是“p, 就 q; p, 便 q”の略記；+就是“(因为) p, (所以) 就 q”の略記；+只好是“因为 p, 只好 (只能) q”の略記；既然は“既然 p, 那么 (那) q”の略記である。

“所以”（28例）の二種類に集中している。そのほかに、“就”（17例），“因为所以”（16例）などの対訳例も少ないとは言えない。

3.2 ノデ文との対応関係

原因・理由を表すノデの例は全部で1100例（ノデI:939例、ノデII:161例）ある（8）。

（8）ノデI（939例）：

有標訳文514例：54.7%、無標訳文425例：45.3%

ノデII（161例）：

有標訳文72例：44.7%、無標訳文89例：55.3%

ノデIと対訳する接続辞形式は概ね次の（9）のようにまとめることができる。

（9） 表3 ノデI文に対応する中国語有標訳文の接続表現

	因 为	由 于	因 为	所 以	因 此	才	+	就	+	于 是 就	于 是	只 好	+	只 好	其 他	合 計
原因	20	38	31	34	14	3	2	9	8	1	1	2	0	6	169	
理由	22	15	18	51	20	7	4	85	25	42	3	37	9	7	345	
合計	42	53	49	85	34	10	6	94	33	43	4	39	9	13	514	

（9）から分かるように、文中のノデIの対訳例の多くは“就”（94例）と“所以”（85例）の二種類に集中している。つまり、この二形式で表す因果複文がノデI文と意味的に最も近いことを示している。また、“由于”（53例），“于是就”（43例），“因为”（42例）に対訳する例も少なくない。

ノデIIと対訳する接続辞形式は概ね次の（10）のようにまとめられる。

（10） 表4 カラII文に対応する中国語有標訳文の接続表現

	因 为	由 于	因 为	所 以	因 此	才	+	就	+	于 是	只 好	其 他	合 計
判断	8	10	7	12	5	6	3	2	3	1	3	3	60
態度	3	0	2	3	0	0	2	0	0	2	0	0	12
合計	11	10	9	15	5	6	5	2	3	3	3	3	72

上記から分かるように、ノデIIの用例の殆どの対訳例形式で「判断の根拠」が多い傾向が見られる。ノデIIは「判断」を表す傾向が強いことが言えるだろう。文中のノデIIの対訳の多くは典型的な接続表現を用いる“所以”（15例），“因为”（11例），“由于”（10例），“因为所以”（9例）の四種類に集中している。

3.3 まとめ

本節では、カラ・ノデで表す因果複文と対応する中国語の接続表現及びそれぞれの対訳傾向をまとめてみた。そして、カラ・ノデ文は、中国語の因果複文を

表す代表的形式“因为”、“所以”のほかに“由于”、“就”、“才”など接続表現とも共起しやすいことを明らかにした。またカラとノデの違いによって、その対訳傾向も多少の差異を持っていることがわかった。

4 カラ・ノデが表す原因・理由文の中対応モデル

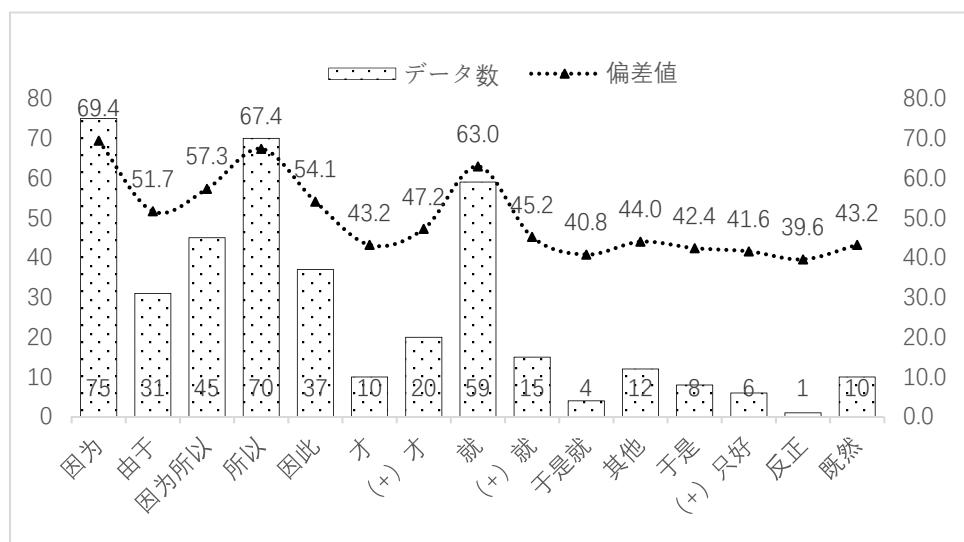
本節では、カラ・ノデが表す原因・理由文と対応する中国語の各種の対訳形式の偏差値を計算する。偏差値が50を超える中国語の対訳形式と日本語のカラ・ノデとの対訳傾向をまとめ、日本語のカラ・ノデ原因・理由文と中国語の因果複文を対訳する時の対訳モデルの構築を目指す。

まず、カラ原因・理由文における中国語の対訳形式の偏差値を次の(11、12)で示す。

(11) 表5 カラ文における中国語に對訳する接続表現の分布状況

対訳形式	データ数	偏差値	対訳形式	データ数	偏差値
因为	75	69.4	+就	15	45.2
由于	31	51.7	于是就	4	40.8
因为所以	45	57.3	于是	8	42.4
所以	70	67.4	+只好	6	41.6
因此	37	54.1	反正	1	39.6
才	10	43.2	既然	10	43.2
+才	20	47.2	其他	12	44.0
就	59	63.0			
合计	403	平均値	26.9	標準偏差	24.8

(12) 図1 偏差値から見るカラ文の対訳傾向



以上から分かるように、カラ文に對応する主な中国語の対訳形式には“因为”(69.4)、“所以”(67.4)、“就”(63.0)、“因为所以”(57.3)、“因此”(54.1)と

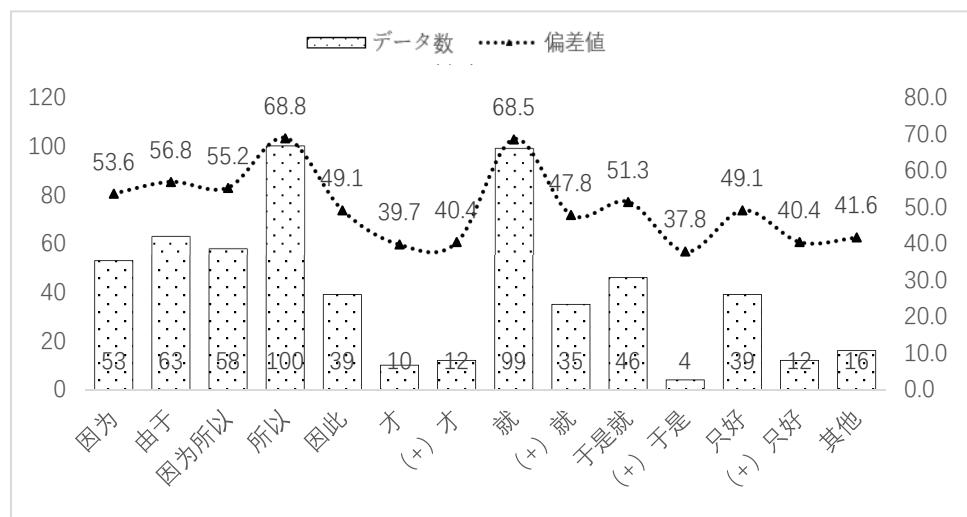
“由于”(51.7)などがある。

次に、ノデ原因・理由文における中国語の対訳形式の偏差値を次の(13、14)で示す。

(13) 表6 ノデ文における中国語に対訳する接続表現の分布状況

対訳形式	データ数	偏差値	対訳形式	データ数	偏差値
因为	53	53.6	就	99	68.5
由于	63	56.8	+就	35	47.8
因为所以	58	55.2	于是就	46	51.3
所以	100	68.8	+于是	4	37.8
因此	39	49.1	只好	39	49.1
才	10	39.7	+只好	12	40.4
+才	12	40.4	其他	16	41.6
合計	586	平均値	41.9	標準偏差	31.0

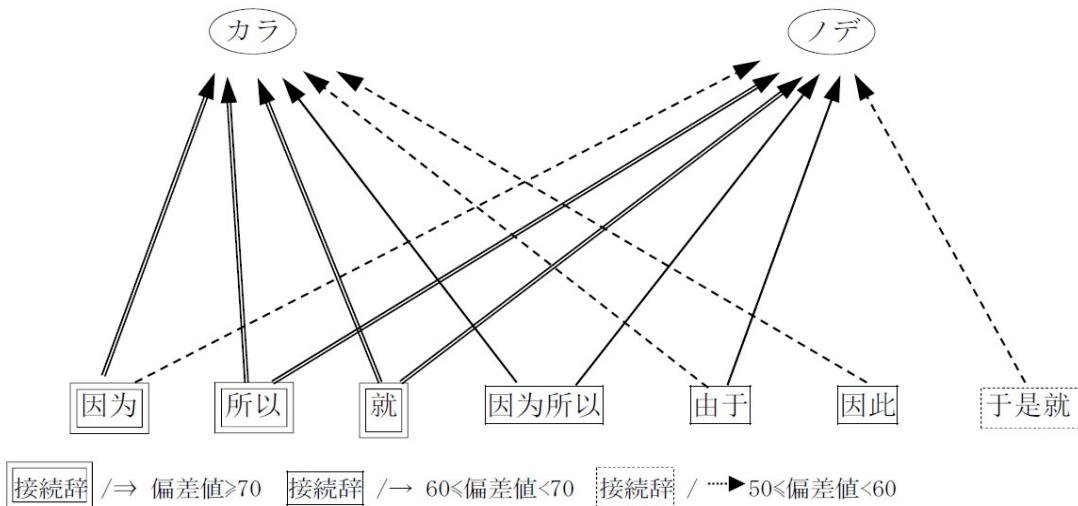
(14) 図2 偏差値から見るノデ文の対訳傾向



上記から分かるように、ノデ文に対応する主な中国語の対訳形式には“所以”(68.8)、“就”(68.5)、“由于”(56.8)、“因为所以”(55.2)、“因为”(53.6)と“于是就”(51.3)などがある。

以上の数値から、カラ・ノデで表す原因・理由文の中対応傾向は次のようにまとめられる。

(15) 図3 中国語の接続表現から見るカラ・ノデ文の対応モデル



5まとめ

本稿では、カラ・ノデで表す日本語の原因・理由文と対訳する中国語の接続表現をまとめた。そして、それぞれの対訳形式の対訳傾向を分析しながら、偏差値を利用して、接続表現の視点から見る対訳モデルを構築してみた。

以上の分析から分かるように：

i “因为”、“所以”と“就”はカラ因果複文と対応し、対訳によく用いられる形式であるが、そのうちの“所以”と“就”はノデ因果複文とも対応し、対訳によく用いられる。

つまり、同じ因果関係を表していても、“因为”はノデ因果複文に馴染まないと言えるだろう。

ii より書き言葉的で、因果関係より事態の前後の順序に焦点を置く“由于”は、カラ因果複文よりノデ因果複文を対訳する傾向がある。

つまり、ノデはカラより書き言葉的な表現であり、因果関係のほか、前後節の事態の起こる順序に焦点を置く傾向があると言えるだろう。

iii “因此”は、前節の原因を提示しながら後節の結果を表す接続辞であり、カラ因果複文と対訳する傾向がある。一方、“于是就”的“于是”は因果関係のほか、前後節の継起関係をも表す接続辞であり、ノデ因果複文と対訳する傾向がある。

つまり、ノデ因果複文は因果関係のほか、前後節の事態の継起関係も表すと言えるだろう。

本稿で構築した対訳モデルは、中国語の接続表現の立場から見る対訳傾向だけであり、日本語の原因・理由文の意味用法、即ち「原因」、「理由」、「判断」、「態度」の立場から見た対訳傾向を今後の課題にしたい。また、今回の研究では、有標複文のみを対象にしたが、無標複文との対応関係についてはまだ分析していないかったため、それもまた今後の課題にしたい。

参考文献

日本語文献

- 有田節子(1999)「プロトタイプから見た日本語の条件文」『言語研究』115
- 石川慎一郎(2012)『ベーシックコーパス言語学』ひつじ書房
- 井上優(2003)「文接続の比較対照—日本語と中国語」『言語(月刊)』32-3
- 今尾ゆき子(1991)「カラ、ノデ、タメ—その選択条件をめぐって—」『日本語学』10-12
- 岩崎卓(1993)「ノデ節、カラ節のテンスについて—従属節事態後節型のル/デ/ルカラ—」『待兼山論叢 日本学篇』27 大阪大学文学会
- 岩崎卓(1994)「ノデ節、カラ節のテンスについて」『国語学』179
- 上林洋二(1992)「理由を表す接続詞補稿:『から』と『ので』」『東海大学紀要留学生教育センター』12
- 上林洋二(1994)「条件表現各論—カラ/ノデ—」『日本語学』13-9
- 永野賢(1952)「『から』と『ので』とはどう違うか」『国語と国文学』29(2)
- 永野賢(1988)「再説『から』と『ので』はどう違うか—趙順文への反批判をふまえて—」『日本語学』7-12
- 日本語記述文法研究会(2003)『現代日本語文法4 第8部モダリティ』くろしお出版
- 日本語記述文法研究会(2008)『現代日本語文法6 第11部複文』くろしお出版
- 蓮沼昭子・有田節子・前田直子(2001)『日本語文法セルフマスター シリーズ7 条件表現』くろしお出版
- 前田直子(2000)「現代日本語における原因・理由文の3分類」『ひつじ研究叢書(言語編)日本語 意味と文法の風景—国広哲弥教授古稀記念論文集—』ひつじ書房
- 前田直子(2009)『日本語の複文 条件文と原因・理由文の記述的研究』くろしお出版
- 森山卓郎(2013)「因果関係の複文と意思的制御」『国文学研究』170
- 矢島正浩(2014)「条件表現」『日本語文法誌研究2』ひつじ書房
- 李光赫(2011)『日中対照から見る条件表現の諸相』風詠社
- 李光赫・鄒善軍・湯明星(2015)『日中対照から見る原因・理由文の諸相』風詠社
- ### 中国語文献
- 陈立民(2005)〈也说“就”和“才”〉《当代语言学》2005(1)
- 丁声树・吕叔湘・李荣等(1961)《中国语文丛书: 现代汉语语法讲话》商务印书馆
- 董佳(2012)〈汉语因果复句的原型表达〉《陕西师范大学学报(哲学社会科学版)》2012(3)
- 方玉清(2001)《实用汉语语法(修订本)》北京大学出版社
- 高在兰(2013)〈前、后置“因为”的隐现及功能差异〉《汉语学报》(2)
- 郭继懋(2006)〈“于是”和“所以”的异同〉《汉语学报》2006(4)
- 李晋霞(2001)〈论“由于”与“因为”的差异〉《世界汉语教学》(4)
- 李晋霞・刘云(2004)〈“由于”与“既然”的主观性差异〉《中国语文》2004(2)

- 李晋霞·王忠玲(2013)〈论“因为”“所以”单用时的选择倾向与使用差异〉《语言研究》(1)
- 刘楚群(2002)〈“因为”和“由于”差异初探〉《安徽教育学院学报》Vol 20 No.1
- 刘代阳(2014)〈连词“于是”的语法意义分析〉《语文学刊》2014 (16)
- 吕叔湘·朱德熙(1978)《语法修辞讲话》中国青年出版社
- 吕叔湘(2008)《现代汉语八百词》商务印书馆
- 吕叔湘(2014)《中华现代学术名著丛书: 中国文法要略》商务印书馆
- 王维贤·张学成·卢曼云(1994)《现代汉语复句新解》华东师范大学出版社
- 邢福义(1985)《复句与关系词语》黑龙江人民出版社
- 邢福义(1995)《语法问题思索集》北京语言学院出版社
- 邢福义(2001)《汉语复句研究》商务印书馆
- 邢福义(2002)〈“由于”句的语义偏向辨〉《中国语文》2002 (4)
- 姚双云(2008)《复句关系标记的搭配研究》华中师范大学出版社
- 姚双云(2009)〈口语中“所以”的语义弱化与功能扩展〉《汉语学报》2009 (3)
- 张斌(2010)《现代汉语描写语法》商务印书馆

中国語を母語とする日本語学習者における「テ」と原因・理由を表す接続語の混用に関する考察*

廖 琳（湖南科技大学、広島大学）
LIAO Lin

A Study on the Mixture of “Te-form” and Conjunctions Representing Cause and Reason by Chinese-Speaking Learners of Japanese

摘要 本文以『YUK タグ付き中国語母語話者日本語学習者作文コーパス』Ver. 10 中检索到的数据为对象，对以汉语为母语的日语学习者的表原因的「テ」及其他接续词的混用进行了考察，结果表明：①「*テ→ノデ、カラ、タメニ」中既有单纯因主从句因果关系理解偏差而产生的误用，又有除因果关系外违背了“意志性動詞”，“モダリティ”等統語規則产生的误用，而「*ノデ、カラ→テ」的误用则集中于主从句的因果关系的理解偏差。②误用产生的原因主要跟学习者对「テ」「ノデ」「カラ」「タメニ」中所蕴含的因果关系的必然性程度的理解与母语者的认知存在偏差相关，除此之外「テ」的滥用及语法的相似性也是原因之一。

キーワード：「テ」 混用 因果関係 統語制約

目次

0. はじめに
1. 研究方法
2. 「テ」と他の接続語における混用の実態
3. 原因・理由を表す「テ」の成立条件
4. 学習者の「テ」の使い方
5. 使い方の違いの要因
6. おわりに

0. はじめに

原因・理由を表す「テ」には統語制約¹⁾が多く、誤用が生じやすいとしばしば指摘されている（鈴木 1976、吉田 1994 など）。誤用を日本語母語話者の表現習慣に合わない用法（于等 2017:3）であるという見方に従い、『YUK タグ付き中国語母語話者日本語学習者作文コーパス』Ver.10（以下、『YUK コーパス』）を見ると、「テ」と他の原因・理由を表す接続語（以下、接続語）との間には次のような混用の誤用が認められる。

* 本稿は、2018 年度湖南省社科基金外语科研联合项目（課題番号:18WLH14）の助成を受けて行った研究成果の一部である。

¹⁾ 本稿においての統語制約とは、モダリティ及び動詞の意志性制約のことを指す。統語制約についての詳細は鈴木（1976）、于（1998）を参照されたい。

- (1) 韓国で大学に通っても専攻は日本語と*考えていて→考えていたのであえて決定をした。
- (2) 十何年間も一緒に生活してきた両親と*離れて→離れるので、最初は一人で寂しいのは当然のことだ。
- (3) 自分はきれいではないばかりにその結果になってしまったと*思うから→思って、残念でしかたがありませんでした。
- (4) 先週、バイトのとき、仕事中の日本人が*サボったので→サボって店長に注意されたのを始めてみた。

(1)は文末に意志動詞が使用されているため、誤用と判断されている。(2)と(3)は統語制約を守っているが、因果関係の度合いの違いから誤用と判断されている²⁾。(4)は前後件の間に因果関係が認められないので、誤用と判断されている。これらの例は、誤用発生が単なる統語制約のみならず、他にも要因があることを示している。

これまでの先行研究は、主として、「テ」と他の接続語との使い分けに注目しており、中国語を母語とする日本語学習者（以下、学習者）による誤用例を対象としたものはわずかしかない。「テ」と他の接続語との使い分けを論じたものとしては、鈴木（1976）と于（1998）がある。鈴木（1976）は統語的使用条件に焦点を当て「テ」「ノデ」「カラ」の異同を論じ、于（1998）は、「テ」、「ノデ」、「カラ」、「タメニ」の統語的及び意味関係の相違点を考察している。学習者による誤用を論じたものとしては吉田（1994）があり、日本語教育への応用と言う立場から、原因・理由の「テ」の用法の誤用を論じている。他方で、いかなる誤用傾向が見られるのか、その誤用が生じる要因が何であるのかといった点はこれまで検討されていない。

本稿の目的は、『YUK コーパス』から抽出した「テ」と他の接続語の混用の誤用例を分析し、誤用の傾向と要因を明らかにすることにある。第1節では、研究方法について述べる。第2節では、「テ」と他の接続語における混用の実態について述べる。第3節では、先行研究に従い原因・理由を表す「テ」の成立条件を述べる。第4節では、学習者の「テ」の使い方を考察する。第5節では、学習者の使い方が日本語母語話者の使い方となぜ異なるのか、その要因を考察する。そして、第6節では本稿で明らかになったことをまとめる。

1. 研究方法

1.1 研究対象

本稿の研究対象は原因・理由を表す「テ」と、それとの間に混用が認められる他の接続語「ノデ、カラ、タメニ」である。この接続語には、市川（1997）によると、「テ、ノデ、カラ、タメニ」が該当する。

²⁾ 因果関係の度合いについての詳細は吉田（1994）、滝井（1998）を参照されたい。

1.2 使用コーパス

『YUK コーパス』を利用する。このコーパスは関西学院大学の于康研究室により開発された大型タグ付きコーパスである。中国の大学 60 校で日本語を第一外国語として履修している学生、及び院生の日本語作文や論文などが日本語母語話者によって添削されている。

2. 「テ」と他の接続語における混用の実態

『YUK コーパス』から抽出した「テ」と接続語の混用は、大きく二種類に分けられる。

「*テ→Y」:「テ」以外を使用するほうが適切にも関わらず、「テ」を使用することで生じた誤用。

「*X→テ」:「テ」を使用するほうが適切にも関わらず、「テ」以外を使用することで生じた誤用。

これら二種類の誤用は『YUK コーパス』に 93 例認められ、X あるいは Y に該当するのは「テ、ノデ、カラ、タメニ」のいずれかである。「*テ→Y」については「*テ→ノデ、カラ、タメニ」が 61 例、「*X→テ」については「*ノデ、カラ、タメニ→テ」が 32 例認められる。誤用の数とその割合を表すと、図 1 のようになる。

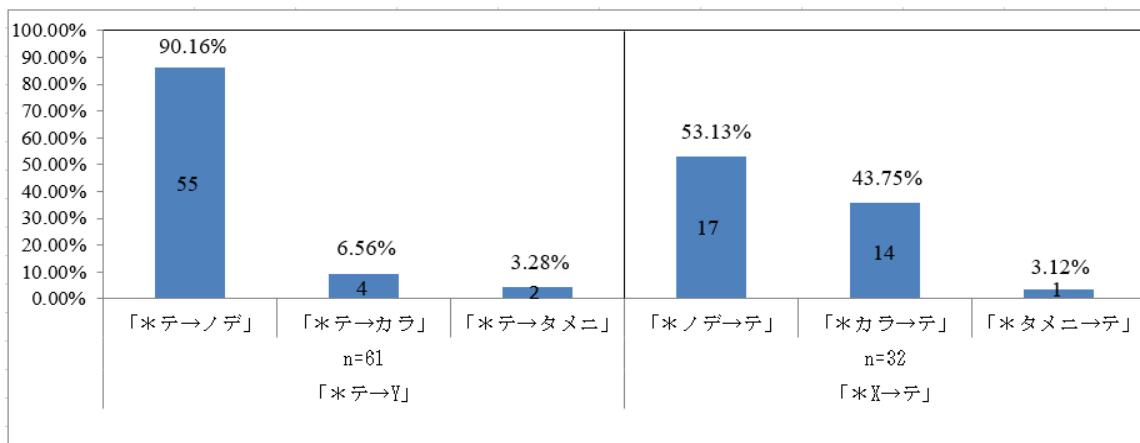


図 1: 混用の誤用形態 (n=93)

図 1 を見ると、「*テ→ノデ、カラ、タメニ」の混用は「*テ→ノデ」が 55 例 (90.16%) で最も多く、「*ノデ、カラ、タメニ→テ」の混用は「*ノデ→テ」と「*カラ→テ」がほぼ同数で、それぞれ 17 例 (53.13%) と 14 例 (43.75%) である。学習者は、「*テ→Y」については「*テ→ノデ」、「*X→テ」については「*ノデ→テ」と「*カラ→テ」の誤用を生じさせやすいと言える。

本稿では「テ」の誤用の全体像を明らかにするため、「*テ→Y」については「*テ→ノデ、カラ、タメニ」三つのパターンすべてを一括りにして論じる。そして、「*X→テ」については相対的に誤用が発生しやすい「*ノデ、カラ→テ」の二つのパターンを論じる。異なるアプローチを用いるのは、「*テ→ノデ、カラ、タメニ」において学習者が誤用したのは「テ」、「*ノデ、カラ→テ」において学習者が誤用したのは「ノデ、カラ」だからである。

3. 原因・理由を表す「テ」の成立条件

原因・理由を表す「テ」について、先行研究では主に統語制約に関する「動詞の意志性制約」と「モダリティ制約」、前後件の意味関係に関する「因果関係の度合い」といった三つの観点から論じられている。

「動詞の意志性制約」については、吉田（1994）、市川（1997）が論じている。吉田（1994）は「テ」に原因・理由という役割を課すために、後項の動詞は意志を示す文末で結ぶことはできないという制約を述べている。市川（1997）は「テ」が理由を表すためには、前件が無意志表現であれ意志表現であれ、後件は無意志表現でないと非文法的な文ができてしまうと述べている。

「モダリティ制約」については、望月（1990）と加藤（2005）が論じている。望月（1990）は、文末のモダリティの表現には、「テ」はふさわしくないと述べている。加藤（2005）は、基本的には「テ」接続の後件に、話す人の意志、気持ちを表す文と相手への働きかけのある文は来ないと論じている。

「因果関係の度合い」については、吉田（1994）と滝井（1998）が論じている。吉田（1994）は、「テ」は原因・理由の機能を課すためには、前後事態が因果性が強いなどの諸制約が必要であると述べている。滝井（1998）は「ノデ」、「カラ」を用いれば、必然性が薄くても前件を後件の理由として提示できるが、「テ」となると、必然性が高くなれば「テ」の接続文は自然文とはならないと指摘している。

原因・理由を表す「テ」の成立条件をまとめると、①「動詞の意志性制約」：後件には意志的動詞が現れにくい、②「モダリティ制約」：後件にはモダリティが現れにくい、③「因果関係の度合い」：前後件の原因・理由と見做される必然性の程度が高い、といった三点が指摘できる。「因果関係の度合い」については、池上（2010:111-112）を援用し、原因と結果の結びつきに必然性があるものを「必然的因果関係」と呼び、その結びつきの必然性が薄く、偶発的な因果関係を「契機的因果関係」と呼ぶ³⁾。

4. 学習者の「テ」の使い方

4.1 「*テ→ノデ、カラ、タメニ」

4.1.1 「*テ→ノデ、カラ、タメニ」のスケッチ

「*テ→ノデ、カラ、タメニ」は学習者が使った「テ」ではなく、「ノデ、カラ、タメニ」のほうが自然なため、誤用とされた例である。学習者がどの状況の下で「テ」を使っていいのか、スケッチする。(5)～(7)を見よう。これらの例の前後件の「因果関係の度合い」

³⁾ 「テ」については、森田（1989:54）が「自ずとこうなる、こうせざるを得ない」という成り行き任せの態度であり、文末に強い意思や態度は来ないと述べている。また、張（1997:129）は、「テ」で繋がれた因果関係は直結型因果関係（①働きかけとそれを受けたもの（身体）の変化。②刺激とそれを受けた心理的、生理的状態の生起。③指令とそれを受けた行為。④心理状態とそれによって引き起こされた行為）でなければならないと述べている。更に、滝井（1998）は、「テ」の後件を感情表現、（不）可能表現、迷惑受け身にほぼ限り、また、「～すみません」などの挨拶の表現の場合は、「テ」が使われると述べている。

はいずれも「契機的因果関係」であるため、原因・理由を表す「テ」を使うと誤用とされている。

- (5) 2ヶ月間の休みが*あって→あるので、それを機会にアルバイトを探そう。
- (6) 今日は雨が*降っていて→降っているから、野球は中止になる。
- (7) 試験が*あって→あるために、遊ぶ時間が取れなくなっているだろう。

(5) の場合、「休みがある」という状況から、「アルバイトを探そう」という意志願望を受動的に導き出すのは難しい。(6) の場合、「雨が降っている」は「野球は中止になる」を導き出す一つの原因にはなりうるが、必然的な原因とするには根拠が薄い。(7) の場合、「試験がある」ことは「遊ぶ時間が取れなくなる」ことの理由として認められるとはいえ、必然性には欠けるであろう。しかも原因・理由を表す「テ」の成立条件を見ると、(6) とは異なり、(5) の「探そう」は「動詞の意志性制約」と「モダリティ制約」にも違反し、(7) の「だろう」は「モダリティ制約」に違反している。

このように「*テ→ノデ、カラ、タメニ」については、学習者が使った「テ」に因果関係の必然性が薄い「契機的因果関係」が読み取れないことが誤用とされる要因である。それと同時に、そこには「テ」の統語制約である「動詞の意志性制約」と「モダリティ制約」とが場合によっては誤用に関与している。

4.1.2 「*テ→ノデ、カラ、タメニ」における学習者の誤用パターン

「*テ→ノデ、カラ、タメニ」の61例は、原因・理由を表す「テ」の成立条件のどこに違反するかにより、誤用パターンは「契機的因果関係」、「契機的因果関係+動詞の意志性制約」、「契機的因果関係+モダリティ制約」、「契機的因果関係+動詞の意志性制約+モダリティ制約」という四つに分けることができる。その詳細を示すと、表1のようになる。

表1: 「*テ→ノデ、カラ、タメニ」における誤用のパターン (n=61)

契機的因果関係	契機的因果関係 + 動詞の意志性制約	契機的因果関係 + モダリティ制約	契機的因果関係 + 動詞の意志性制約+モダリティ制約
5 (8.19%)	7 (11.48%)	18 (29.51%)	31 (50.82%)

表1に示した通り、「契機的因果関係」が5例(8.19%)、「契機的因果関係+動詞の意志性制約」が7例(11.48%)、「契機的因果関係+モダリティ制約」が18例(29.51%)、「契機的因果関係+動詞の意志性制約+モダリティ制約」が31例(50.82%)認められる。(5)は「契機的因果関係+動詞の意志性制約+モダリティ制約」、(6)は「契機的因果関係」、(7)は「契機的因果関係+モダリティ制約」の例であるが、その他の例としては(8)～(15)のようなものがある。

「契機的因果関係」

- (8) 「海賊王」に対して私はおおいに触発され、*感動して→感動したので、好きだ。

- (9) 人間は誰でも自分の人生のために、設計すべきだと思う。そろそろ大学を*卒業して→卒業するので、私の人生はこれからだ。

「契機的因果関係+動詞の意志性制約」

- (10) 私はもうすぐ三年生に*なって→なるので、思わずこの前の二年を振り返った。
 (11) その前にいろいろ準備を*しておいて→しておいたので、自信を持っていました。

「契機的因果関係+モダリティ制約」

- (12) 今日は雨が*降っていて→降っているから、野球は中止になるだろう。
 (13) 事故が*起こって→起こったために、電車が遅れているかもしれない。

「契機的因果関係+動詞の意志性制約+モダリティ制約」

- (14) 熱が*出て→出たので、会社を休みたい。
 (15) その時、日本の経済などもはつきり分からないと*思って→思ったので、また次年度に経済を一緒に教えていただきます。

これらの例から「*テ→ノデ、カラ、タメニ」には、①学習者が使う「テ」は、日本語母語話者から前後件の「契機的因果関係」を適切に捉えていないと見なされるため、誤用とされる、②その際、「契機的因果関係」のみならず、統語制約に関わる「動詞の意志性制約」と「モダリティ制約」のいずれか一方、あるいは両者が関与していると見なされて誤用とされる例が9割以上を占める、といったことが言える。

4.2 「*ノデ、カラ→テ」

4.2.1 「*ノデ、カラ→テ」のスケッチ

「*ノデ、カラ→テ」は学習者が使った「ノデ、カラ」ではなく、「テ」のほうが自然なため、誤用とされた例である。学習者がどのような状況の下で「ノデ、カラ」を使っているのか、スケッチしておく。(16)～(19)にその例を挙げておく。

- (16) 先生は日本語を教えて*くださったので→くださって、ありがとうございます。
 (17) 久しぶりに家に*帰ったから→帰って、よく眠れた。
 (18) その後、*老化したので→老朽化して、とうとう壊れてしまいました。
 (19) 日本金融体制は、東西の体制を融合*したから→して、生まれたものである。

(16)と(17)は、前後件の「因果関係の度合い」の違いによって誤用とされている例である。前後件の因果関係から「必然的因果関係」を表す「テ」が適切であるが、「契機的因果関係」を表す「ノデ」、「カラ」が使われているため誤用とされている。(16)は、「教えてくださる」から「ありがとう」という感謝の気持ちが自然に湧いてくるため、「ノデ」

の使用は不適切となる。(17) は、「久しぶりに家に帰った」が「よく眠れる」という生理状態を当然の結果としてもたらすことが容易に理解できるため、「カラ」は不適切である。

(18) と (19) は、前後件は「時間的継起関係」であるが、学習者によって因果関係として捉えられている誤用である。(18) は、前件の「老化した」から後件の「壊れた」が継起的に発生したと解釈してはじめて自然になる。(19) の前後件の関係も (18) と同様である。(18) と (19) のように、前後件の事象の間には、単に時間的先後関係が発生するだけであるため、「ノデ」あるいは「カラ」の使用は不適切となる。

「*ノデ、カラ→テ」は、このように二種類の誤用パターンがある。(16) と (17) のような誤用パターンを「因果関係の度合い（「契機的因果関係→必然的因果関係」）による誤用」（以下、「契機的因果関係→必然的因果関係」）、(18) と (19) のような誤用パターンを、「因果・時間継起関係間の誤用」（以下、「因果関係→時間継起関係」）と呼ぶ。

4.2.2 「*ノデ、カラ→テ」における学習者の誤用パターン

「*ノデ、カラ→テ」には二種類の誤用パターン、「契機的因果関係→必然的因果関係」と「因果関係→時間継起関係」があるが、「*ノデ→テ」と「*カラ→テ」とで異なった傾向が見られる。詳細を示すと、表 2 のようになる。

表 2: 「*ノデ、カラ→テ」における学習者の捉え方 (n=31)

	「契機的因果関係→必然的因果関係」	「因果関係→時間継起関係」
「*ノデ→テ」 (17)	15	2
「*カラ→テ」 (14)	3	11

表 2 から分かるように、「*ノデ→テ」の 17 例のうち、「契機的因果関係→必然的因果関係」は 15 例、「因果関係→時間継起関係」は 2 例ある。前者の例を (20) と (21) に、後者の例を (22) に挙げておく。また、「*カラ→テ」は 14 例のうち、「因果関係→時間継起関係」は 11 例、「契機的因果関係→必然的因果関係」は 3 例ある。前者の例を (23) と (24) に、後者の例を (25) に挙げておく。

「*ノデ→テ」

- (20) なぜかと言うと、アルミについての通訳だったので、専門用語のほか、理系の知識も色々<*教えてくれたので→教えてくれて>、助かった。
 (21) 久しぶりにあなたに<*会えたので→会えて>、嬉しかった。
 (22) 慕寒の軽やかでしっとりとした歌声を<*聞くので→聞いて>、彼に注目しました。

(20) は、「色々教えてくれる」から必然的に「助かった」という感情の発生が導かれている。(21) では「久しぶりに会えた」から「嬉しかった」という感情が自然に湧いている。そのため、「ノデ」を使うと、(20) では助けがないと大変な事態になっていたといったような言外の意味が暗示されるため、前後のつながりが悪く、誤用と判断されている。(22) は、「歌声を聞く」という事態と「彼に注目する」という事態が時間的に前後関係にあるた

めに、「ノデ」は誤用となる。

「*カラ→テ」

- (23) ちょうど隣の部屋の人が荷物を取りに来てくださいと速達員に電話を*かけたから→かけて、自分の荷物も一緒に下に運んでくださいと速達員にお願いしました。
- (24) 飼っている犬と*遊んでいるから→遊んで、疲れた犬を抱える。
- (25) 自分はきれいではないばかりに、その結果になってしまったと*思うから→思つて、残念でしかたがありませんでした。

(23) は、前件の「電話をかけて」から、後件の「お願いする」ことは可能である、(24) は、「犬と遊ぶ」ということに続いて、「犬を抱える」ということが起こる。両方とも継起的に発生するため、「カラ」の使用は不適切となる。(25) は、「その結果になってしまった」という状況が生じ、当然の結果として「残念でしかたがありませんでした」という心理状態が生まれたことを表す文であるため、「カラ」の使用は不適切になる。

以上から、「*ノデ→テ」と「*ノデ→テ」の間で異なる傾向が見られた。整理すると、①学習者は日本語母語話者が前後文の因果関係を「必然的因果関係」と見なすときでも、「ノデ」を使用する、②学習者は日本語母語話者が前後文に「時間的継起性」があると見なすときでも、「カラ」を使用する、といったことが言える。

4.3 まとめ

日本語母語話者と学習者の捉え方の違いを考察してきたが、対の関係が見いだせる。まとめると、図2のようになる。(母は日本語母語話者を示し、学は学習者を表す。)

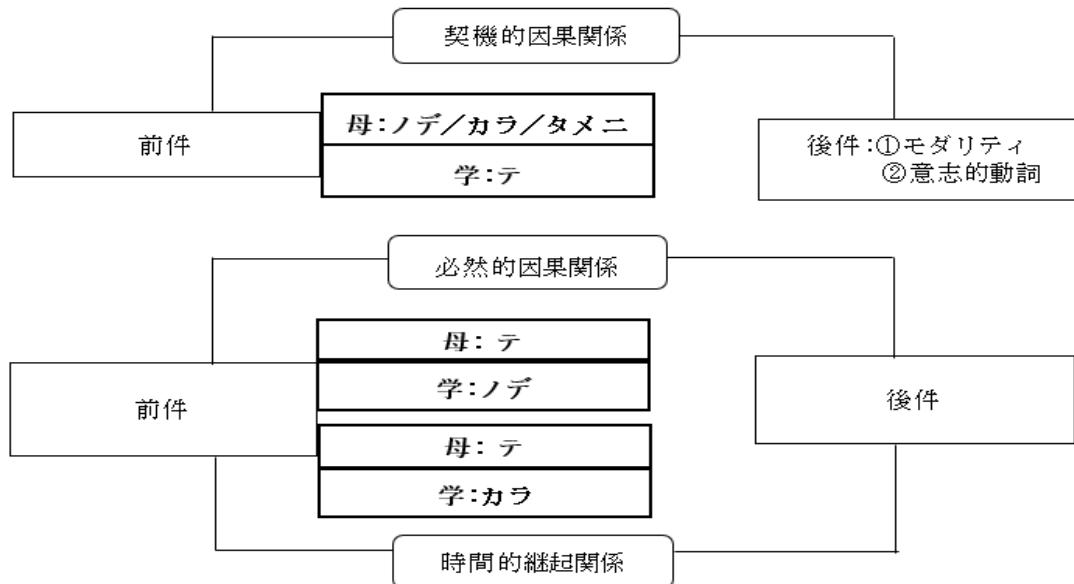


図2:日本語母語話者と学習者における使い方の違い

5. 使い方の違いの要因

5.1 「*テ→ノデ、カラ、タメニ」

日本語母語話者が「ノデ、カラ、タメニ」を使うときに、学習者が「テ」を使う理由は何であろうか。二つの点を指摘するにとどめておく。

一つは、学習者が原因・理由を表す「テ」を「契機因果関係」を表すときにも使えるとして使用し、また守るべき統語制約もよく把握せず、誤用を生じさせているというものである。「テ」の機能のうち最も制約が複雑なのは原因・理由を表すものである（吉田 1994:92）。

「テ」を使用してしまうもう一つの理由としては、学習者が因果関係を捉えることができず、前後件を繋げるためだけに、日本語で最も使用しやすい「テ」を使用している可能性が考えられる。つまり、因果関係の読みを意味の繋がりに委ねる場合に、学習者は「ノデ」などの接続語を使用せず、「テ」を用いてしまう可能性が考えられる。

5.2 「*ノデ、カラ→テ」

5.2.1 「*ノデ→テ」

「*ノデ→テ」の場合、(20) と (21) を見ると、後件はそれぞれ「助かった」と「嬉しかった」であり、いずれも人の感情を表している。「*ノデ→テ」において、このように後件に人の感情が現れる誤用は 17 例のうち 11 例を数える。この点に、学習者が「テ」ではなく、「ノデ」を使用している鍵があるのでないだろうか。「ノデ」は、典型的な原因を表す接続語として元来「契機的因果関係」を表す。そのため、学習者は「ノデ」によって自然に感情が導き出される「必然的因果関係」も表すことができると見なし、使用しているのでなかろうか。「ノデ」を使うことで、学習者にとって形式と意味の繋がりがより鮮明になっているものと思われる。上述の吉田（1994）は「合格*したので→して、よかつた」のような誤用例を挙げ、後項が話し手の感情を直接示す場合、「ノデ」で代用すると理屈っぽくなり、直接的な感情が伝わってこないと述べている。

5.2.2 「*カラ→テ」

「*カラ→テ」の場合、前後件に継起関係があるときに「カラ」を使用している。その鍵は「カラ」という形式にあるのであろう。「カラ」には、格助詞としての「カラ」と「接続助詞」としての「カラ」がある。格助詞の「カラ」は、物事の出自、すなわち時間的、空間的、因果的な起点を表し、接続助詞の「カラ」は古くは格助詞「カラ」と同じものであったが、後に接続助詞として分化してきたものと言われている（鈴木 1976:44-45）。学習者は「カラ」が「時間的継起」を表すと誤認してしまい、「テ」を使うべきところに「カラ」を使用してしまったことが考えられる。

6. おわりに

『YUK コーパス』から抽出したデータをもとに、「*テ→ノデ/カラ/タメニ」と「*ノデ/カラ→テ」における混用について考察した。その結果、次のことが明らかになった。

- ①混用の誤用パターンとして、「*テ→ノデ、カラ、タメニ」については「*テ→ノデ」、「*ノデ、カラ、タメニ→テ」については「*ノデ→テ」、「*カラ→テ」が生じやすい。
- ②「*テ→ノデ、カラ、タメニ」については、学習者が使う「テ」は、日本語母語話者から前後件の「契機的因果関係」を適切に捉えていないと見なされるため、誤用とされる。その際、「契機的因果関係」のみならず、統語規則に関わる「動詞の意志性制約」と「モダリティ制約」のいずれか一方、あるいは両者が関与していると見なされ誤用とされる例が9割以上を占める。

「テ」を使用する理由としては二つのことが考えられる。一つは、原因・理由を表す「テ」を前後件の因果性の薄い「契機因果関係」を表すものとして使用し、また守るべき制限をよく把握できず、誤用を生じさせるというものである。もう一つは、学習者が因果関係を捉えることができず、前後件を繋げるためだけに、日本語で最も使用しやすい「テ」を使用している可能性である。

- ③「*ノデ→テ」については、学習者は日本語母語話者が前後文の因果関係を「必然的因果関係」と見なすときでも、「ノデ」を使用している。要因としては、「ノデ」を自然的に感情が導き出される「必然的因果関係」を表すことができるものとして使用していることが考えられる。「*カラ→テ」については、学習者は日本語母語話者が前後文に「時間的継起性」があると見なすときでも、「カラ」を使用している。このときの要因としては、学習者が語形の類似性で「カラ」が時間的関係を表現できると誤認識し、「テ」を使うべきところに「カラ」を使用してしまうと考えられる。

参考文献

- 池上素子 (2010) 「因果関係を表す『結果』の用法」『日本語教育』144、109-119.
- 市川保子 (1997) 『日本語誤用例文小辞典』、凡人社.
- 于日平 (1998) 『原因・理由・目的表現の相関性についての研究:「タメニ」「ノデ」「カラ」「ヨウニ」を中心に表現の相関性についての研究』、筑波大学文芸・言語研究科博士論文.
- 加藤由紀子 (2005) 「原因・理由を表すテ形接続に関する一考察」『岐阜大学留学生センター紀要』3、13-24.
- 鈴木忍 (1976) 「原因・理由を表す助詞の異同」『日本語学校論集』3、43-65.
- 滝井洋子 (1998) 「原因・理由の『て』形接続についての一考察」『日本語・日本文化』24、81-93.
- 張麟声 (1997) 「原因・理由を表す『して』の使用実態について-『ので』との比較を通して-」『日本語教育』96、121-131.
- 望月通子 (1990) 「条件づけをめぐって-『理由』の『シテ』と『カラ』-」『日本学報』9、33-49.
- 森田良行 (1989) 『日本語の類義表現』、創拓社.
- 吉田妙子 (1994) 「台湾人学習者における『て』形接続の誤用例分析-『原因・理由』の用法の誤用を焦点として」『日本語教育』84、92-103.
- 于康 林璋 于一乐等 (2017) 《日语格助词的偏误研究(上)》、浙江工商大学出版社.

ノニ複文における日中対訳の実証的研究

—KH Coder を用いた分析と考察—

鄒 善軍・李 光赫（大連理工大学）

ZOU Shanjun · LI Guanghe

A Case Study on Methods of Translating “noni” Sentences

From Japanese to Chinese based on KH Coder

要旨

本文梳理了日语中ノニ复句的分类和特征，运用 KH Coder 软件进行统计学的分析，计算出日语和其汉译形式关联度的强弱，从而把握在日语翻译成汉语时候的准确译法。本文把ノニ复句的五种构造和十种汉译形式通过软件计算，发现它们之间存在有极强关联度的对组，也有很强关联度的对组，其结果对于日语教学和日汉互译研究都有一定的意义。

キーワード：日中対訳 関数検定 KH Coder 関連度

目次

1. はじめに
2. 先行研究
3. 研究方法
4. ノニ複文における意味分類とその中国語対応形式
5. データ分析
6. まとめ

1. はじめに

複文は言語研究の重要な領域だと言える。複文における日中対照研究も近年しばしば見られる。それらの研究は主に中国語対応形式や対訳傾向及びその文法的特徴などを中心に行なわれてきた。複文における日中対照研究が盛んに行われているものの、逆接を表すノニ複文における日中対照研究はまだ十分なされていない。李光赫ら（2014）ではノニ複文とそれに対応する中国語訳に関する対照研究を行ったが、データの数や研究方法などの制限があり、再検討する必要がある。それゆえ、本研究では、先行研究を踏まえた上で、KH Coder を利用してノニ複文を再考察したい。まずは日本の文学作品とその中国語訳を材料にして作成したコーパスに基づき、日中対訳例のデータを集めて整理してみた。更にノニ複文における意味分類、中国語対応形式とその対訳傾向について記述的研究を行った。

2. 先行研究

ノニ文の意味用法分類について、蓮沼昭子ら（2001）では、「意味的に対立する出来事を結

びつける、あるいは、予想とは異なる結果が起こったことを表す」と述べている。そして、ノニ複文を因果関係の不成立（対比的関係を表す場合も含む）と予想外（外れた結果を省略して意外感を述べる用法とノニの文末用法も含む）といった二種類に分けている。

また、日本語記述文法研究会（2008）は、ノニ複文について、以下のように述べた。①ノニは予測される因果関係が成立しなかったという事実を表す。例えば、「薬を飲んだのに、熱は下がらなかった」。②ノニの従属節に予想そのものが現れ、主節にそれが実現しなかったことを表す場合もある。例えば、「きっと先生に会えると思ったのに、会えなかった」。③反事実条件文の文末に用いられる用法と意外感や残念な気持ち、不満を直接に表すものもある。

前田直子（2009）では、ノニ複文は、従来、原因・理由複文と対照して、「逆」の意味を表すと述べた。ノニ複文とした「薬を飲んだので、治った」は「薬を飲んだのに、治らなかった」とまさに「逆」の意味になっている。また、「薬を飲んだのに、治らなかった」は、「薬を飲めば、治るだろう」と言う条件的な判断・予測を裏に持ち、かつ事実として「薬を飲んだ」結果、その予測が外れて「治らなかった」と言う現実の事態が生じたことを表している。このようにノニ複文は条件複文あるいは原因・理由複文との対照から見ると①逆原因・理由文、②非並列・対照、③予想外、④不本意な事態を生み出した状況といった四種類に分けられている。その他、後件が省略される文と終助詞的用法としてのノニの非従属的な用法もある。

日中対照研究においては李光赫、張北林、林樂青など（2014）があげられる。李光赫、張北林、林樂青など（2014）ではノニ複文とそれに対応する中国語形式について考察した。前田直子（2009）の分類を踏まえ、ノニ複文を八つに分類した。また、ノニ複文と中国語の“（虽然）p, 但（是）q”、“而/然而”、“却”および“可（但）”との対応関係についても考察した。さらに、コーパスを利用し、Tスコア、MIスコアなどの統計指標を取り入れ、両言語間の逆接条件を表す表現形式の対応形式を究明した。しかし、年代が古いため、データの数も少なく、研究方法も遅れていたので、最新のデータを集め、最新の研究方法を取り入れ、再度の検討をする必要がある。

本研究では、最新のデータを集め、KHCoder を用いて、ノニ複文を対象にノニ複文とその中国語対応の傾向から、日中対照記述的研究を行う。

3. 研究方法

本研究では自作の「日中文学作品対訳コーパス」を利用し、日本語のノニ複文が中国語でどのように翻訳されているかを分析する。「日中文学作品対訳コーパス」でノニ複文を検索したところ、多数の使用例がヒットした。ただし「日本語を勉強するのに役に立つ」のような「の+に」や「そうすればよかったのに…」のような文末用法の「のに」などは対象外にしている。本研究ではノニ複文を 1042 例収集した。それから、日本語の例文をノニ複文の各意味用法によって分類し、KHCoder を用いて、各意味用法とそれに対応している中国語形式、対訳傾向などを論じる。

ノニ複文の意味用法における分類方法は様々である。蓮沼昭子ら（2001）では、ノニの典型的な用法を大きく因果関係不成立と予想外と二分類に分けたあとで、因果関係の不成立の下位分類として1. 因果関係不成立、2. 対比的関係に、予想外の用法をその下位分類として1. 予想外、2. 外れた結果を省略して意外感、3. ノニの文末用法を表す用法に分けている。つまり、第一分類の因果関係不成立の用法においては「向うがなにも思っていないのに、こちらだけ思ったところでどうなるわけでもない」は大分類としては因果関係の不成立を表すことには間違いない。しかし、その下位分類からすると「向う」と「こちら」の対比関係にあるのが明らかなので本論では「因果関係」と「対比関係」に分けて分類する。また、第二分類の予想外の用法においても、「いつもお世話になっているのに、ありがとうございます」のような「外れた結果を省略して意外感を表す」用法は、その下位分類からすると同じく予想外・意外感を表すとしても「外れた結果を省略」する用法なので、本論では「予想外」と「省略」に分けて分類する。「省略」は二通りに分けられる。ここでいう「省略」はノニで終わるという省略ではない。予想外とはそもそも予想されたものと違う結果が出ることになるが、「省略」の場合は、予想外の結果が省略され、「ありがとうございます」のような話し手の感情や評価などのものがでてくることになる。もう一つの「省略」はノニで終わる文末用法である。ノニの文末用法は後ろの部分が予測できないし、それに本研究では複文を対象に日中対照を行うので、ノニの文末用法を考察対象外にしている。

本研究ではノニ複文をI 予想外、II 対比、III 外れた結果を省略して意外感を表す用法、IV 因果関係の不成立といった4分類にしている。

上述した分類法に基づき、コーパスから収集したノニ複文とその中国語の対応例を分類し、図や表にまとめた後、KHCoder を用いて分析する。そして、関数検定の視点からノニ複文の各意味用法の文法的特徴やその中国語訳との関連度について実証的研究を行う。

4. ノニ複文における意味分類とその中国語対応形式

4.1 因果関係の不成立

因果関係が成立しなかったというのは、ノニの最も典型的な用法である。例えば因果関係から見れば、下記の（1a）では「たいした運動ではない」ということから、「汗ばまないだろう」という予想を立てたが、実際には「汗ばんでいた」という予想が外れた場合に用いられる。蓮沼昭子ら（2001）では、ノニは予想が外れたことによって話し手が「おかしい、変だ、困る」といった違和感や「予想外だ、期待外れだ」といった意外感を感じていることを表すので、そのような意味を持たない単に逆接的な事態を結ぶ場合には用いないと述べた。また、ノニ複文は二つの確定した事実が予測に反するものである場合に用いられるため、後件に命令、依頼、勧誘、希望、意志、推量といった表現は現れない（日本語記述文法研究会2003）。

（1）a. たいした運動ではないのに、背中が軽く汗ばんでいた。

貴志祐介『青の炎』

- b. 运动量虽不算大，但背上已微微渗出汗来。 李育娟译《青之炎》
- (2)a. アルプスの夜は冷えるのに、全身びっしょりと汗をかいていた。 森村誠一『密閉山脈』
- b. 虽然阿尔卑斯山的夜晚十分寒冷，可她却吓出了一身汗。 冯朝阳，王晓民译《迷人的山顶》

この場合のノニ複文はいつも“却”、“但/但是”、“可”などの中国語形式に対応している。(1b)と(2b)は“却”、“但/但是”的例である。因果関係の不成立を表す日本語の例に対応している中国語訳には、“却”、“但/但是”、“可”的ほかに、“而”、“还”、“竟然”などの形式も見られる。

4.2 対比

蓮沼昭子ら(2001)では、ノニは前件と後件が対比的関係にあることを表す場合があると述べている。さらに単に対比的な関係を表すだけではなく、前件と後件が食い違っていて違和感や意外感を話し手が感じているというニュアンスが含まれると指摘した。

前田直子(2009)では対照される前件と後件の中の要素は通常「は」でマークされ、様々に及ぶと指摘した。さらに、その対照される要素をガ格名詞句の対照、ヲ格名詞句の対照、ニ格名詞句の対照、時間の対照、空間の対照、状況の対照、見かけと現実の対照などにまとめた。例えば(3a)の前件と後件に、対照される要素になっているのは「上方」と「基部」、すなわち空間の対照である。それに対して、(4a)は状況の対照である。

- (3)a. 谷のはるか上方に風のうなりが聞こえているのに、その基部が真空のような静寂にあるのは、無気味であった。 森村誠一『恐怖の骨格』
- b. 还可以听到峡谷上方的剧烈风声，但这里却一丝风都没有了，所以显得那么恐怖。 杨军译《恐怖之谷》
- (4)a. 私にとって彼は見知った人間なのに、彼にとって私はただの客なのだ。 乙一『暗黒童話』
- b. 对我来说他明明是个很熟悉的人，但是对他而言，我不过是一名客人。 龚婉如译《暗黑童話》

この場合のノニ複文はいつも“却”、“而”、“但/但是”などの中国語形式に対応している。(3b)と(4b)は“但/但是”的例である。因果関係の不成立を表す日本語の例に対応している中国語訳には、“却”、“而”、“但/但是”的ほかに、“可”、“就”、“没想到”などの形式も見られる。

4.3 予想外

蓮沼昭子ら（2001）では、ノニ複文は、前件に表された予想が当たらなかったということを示す場合があると述べた。さらにこの場合、予想外の結果は、悪い結果である場合が多いが、良い結果が現れる場合もあると指摘した。予想外を表すノニ複文の前件が希望、予測、予想あるいは意図そのものを表す。つまり後件で表されているのは、前件の希望・予測・意図を裏切った事態であるので、普通原因・理由文には戻せないのである。

また、予想外を表すノニ複文は、例文のように、いつも「つもりだったのに」、「想像していなかったのに」、「信じていたのに」、「と思ったのに/と思っていたのに」などの慣用的表現で現れる。

- (5)a. これは恋愛においても同様で、あの女性を口説きたい、あの子に接近したいと思い、あれこれ具体的な方法まで考えているのに、実際は、思っているだけで終ってしまう。

渡辺淳一『欲情の作法』

- b. 恋愛中同样如此。想接近那个女生，想对那个女生表白，心里这样盘算着，甚至计划好了具体的方式，但最终还是只停留在假想而已。 陆求实译《欲情课》

- (6)a. なかなか可愛くきまったくから久しぶりに会って驚かそうと思ったのに、気がつきもないなんて、それはあまりじゃないですか？ 村上春樹『ノルウェイの森』

- b. 我自以为十分可爱，加之久未见面，本想吓你一跳，然而你根本无动于衷，这岂不太让人过意不去？ 林少华译《挪威的森林》

予想外を表すノニ複文はよく中国語の“却”、“但/但是”、“可/可是”に対応しているが、また“还”、“而”、“就”に訳される場合も見られる。

4.4 省略用法

ノニ複文において、前件で予想される事態が起こらなかった場合、はずれた結果を省略して、予想の通りにならなかったことに対する意外感を、後件で直接に述べる用法がある（蓮沼昭子ら（2001））。本研究ではその用法を省略用法と呼ぶ。また、前田直子（2009）では、基本的に後件は前件と対照的な事態であるため、後件が省略されたり、あるいは省略されて別の文へ短絡的に結びつけられてしまうと指摘した。

その短絡とは、後件に現れた話し手の感情や評価などのものである。例えば「今人手不足なのに」の結果は省略されていて、後件は直接話者が「信じられない！」という評価を下している。

省略用法のノニ複文は中国語に訳す場合、ほとんど（7b）（8b）のように無標形式に訳されている。たまに“可”、“就”に訳されているものもあるが、非常に稀な例だと考えられる。

(7)a. えー、またバッклですかあ。今人手不足なのに、信じられない！ だから店、ガタガタなんですねっ。パック飲料ぜんぜん出てないじゃないですか、朝ピークなのに！
村田沙耶香『コンビニ人間』

b. 什么？又翹班啦？明知道现在人手不足，简直不敢相信！难怪别人说这家店快倒了嘛。
软包装饮料根本就没摆上架呀，现在可是早高峰啊！ 王華懋译《便利店人間》

(8)a. 一俺と大して歳が違わないのに、気の毒だな。 東野圭吾『天使の耳』
b. 一和我的年齡也差不了多少啊，真是可怜。 羊恩嬌译《天使之耳》

また、省略された後件が現れずに、文がノニで終了し、ノニが終助詞的に働いている場合がある（前田直子（2009））。例えば「あ～あ、せっかくここまでがんばったのに」（蓮沼昭子ら（2001））は、ノニの文末用法である。本研究では複文を対象に日中対照を行うため、ノニの文末用法を考察対象外にしている。

5. データ分析

5.1 データのまとめ

現代小説から抽出したノニ複文 1042 例の中国語訳のパターンを整理し、それらの表現の意味と形式が類似したものを一つのグループにし、全部で 10 のグループに分けた。ノニ複文の 4 分類とその 10 グループの中国語表現の対応関係及びそのデータをまとめると表 1 のようになる。

表 1 ノニ複文日中対応関係とその用例数

	① 但	② 而	③ 还	④ 结果	⑤ 竟然	⑥ 就	⑦ 可	⑧ 却	⑨ 没 想 到	⑩ 其 它	合計
I 予想外	72	23	31	6	11	13	53	153	10	224	596
II 対比	46	50	1	1	1	4	36	57	3	97	296
III 省略	0	0	0	0	1	3	3	2	0	48	57
IV 不成立	20	2	5	0	2	1	7	16	0	40	93
合計	138	75	37	7	15	21	99	228	13	409	1042

表 1 の中国語の分類は意味と形式が類似したものを一つのグループにして得られたものである。その意味形式の分類により、ノニ複文の中国語訳を 10 種類（文末参考）に分類した。

接続詞が完全にない場合や“明暎”などの副詞と共に起する接続詞のない場合は“⑩其它”に入れる。例えば、(9)、(10) のようである。

(9) a.なんの根拠もないのに、よくないことが起こりそうだと心に感ずる。

(渡辺淳一『麻酔』)

b.毫无根据来由地感知到将有不好 的事情发生。 (邓青《麻酔》)

(10) a.何の証拠もないのに、どうしてそんなことがいえるんだ。

(東野圭吾『どちらかが彼女を殺した』)

b.明明甚么证据都没有, 你凭甚么这么说! (袁斌译《谁杀了她》)

5.2 ノニ複文と対応する中国語表現

本稿における共起ネットワーク分析は 1042 例のノニ複文とそれに対応する中国語訳を 1042 ペアの日中対訳例を用いて分析する。例えば、(11) は日中対訳のペアであるが、日本語の原文とその中国語の訳文を一つの文章と見なした場合、前件が日本語の原文、後件が中国語の訳文である。即ち前件は中心語が現れた文、後件は共起語が現れた文になる。そうなると前件である日本語の原文 (11a) がノニ複文の意味分類として [I 予想外] であり、後件である (11b) が中国語訳パターン “①但是” である。つまり、この日中対訳ペアの (11) を中心語であるノニの用法とした [I 予想外] と中国語の “①但是” が共起した文と見なすことができる (12)。

(11) a.満点だと信じて疑わなかったのに、高校入学以来初めて、八割を切っていた。

(貴志祐介『青の炎』)

b.他毫不怀疑自己会考满分的, 但是, 这分数却打破他进高中以来最低记录的八十分。

(李育娟译《青之炎》)

(12) (11a) 前件 [I 予想外]、 (11b) 後件 “①但是”。

(中心語)

(共起語)

こういった考え方(日本語意味分類が中心語で、中国語訳パターンが共起語である)で 1042 ペアの日中対訳例の対訳関係を統計したものが前掲の表 1 である。

本稿の主要目的は日中対訳関係のグループ分けである。それで中心語(日本語の意味分類)と共起語(中国語訳パターン)の立場から表 1 のデータを用いて共起ネットワーク分析をした。つまり、下記の図 1¹はノニ複文の対訳データを共起ネットワーク分析したものである。

¹ ○円の大きさ=その言葉が登場した回数を表す。大きいほどたくさん出現しています。

○円の色が同じもの同士=結び付いている言葉を自動検出して分類したものです。

○同じ色同士=サブグラフ、実線=同じサブグラフ、破線=異なるサブグラフで結ばれている。

つまり、同じ色同士が実線で結ばれて一つのグループを作っている。違うグループと関連がある場合は破線で表示される。

○結果の解釈=大きく分けて日本語の意味分類四つとそれに対応する中国語訳がはつきりわかる。

図1. ノニ複文日中対訳例の共起ネットワーク図

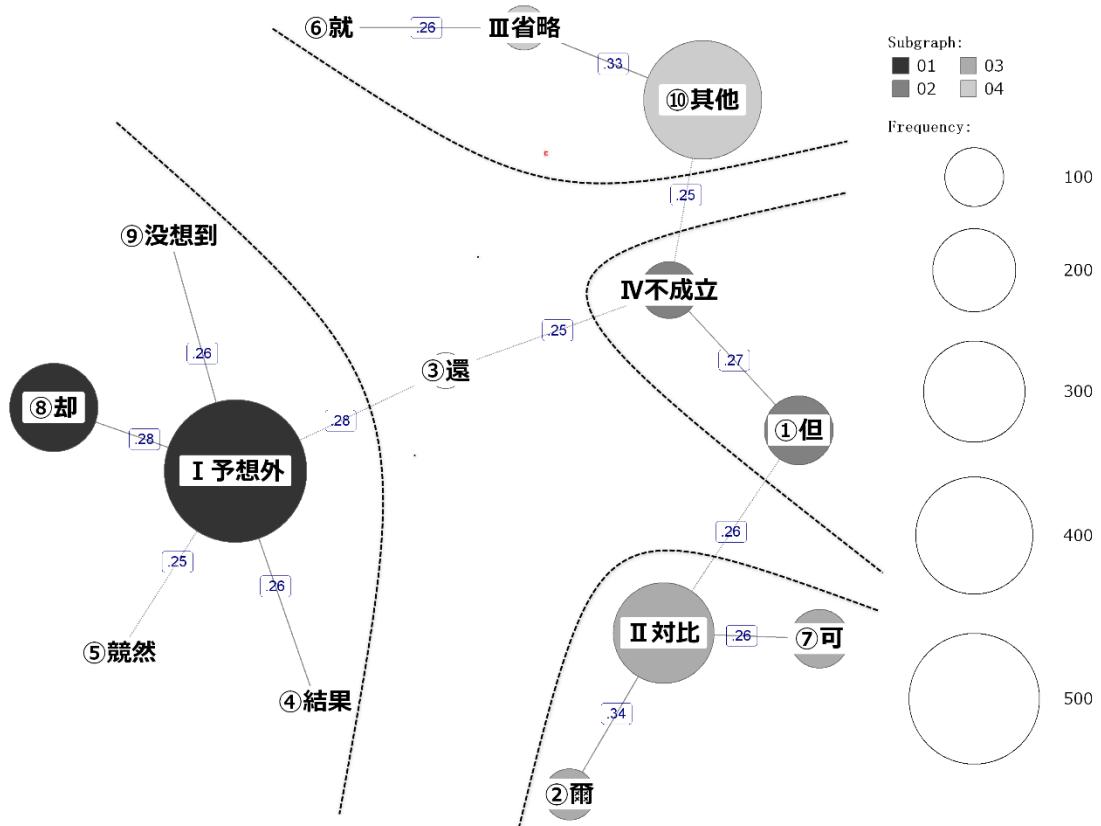


図1はノニ複文の対訳データを、KH Coder の共起ネットワーク分析で Euclid (ユーリッド)を用いて作った図である。ノニ複文の意味用法を4分類しているが、共起ネットワーク分析した結果は、四つのグループに分けられている。更に関連度が特に高いもののみをプロットし、線で結んだものである。ここで、重要なのは、線で結ばれているかどうかである。比較的強くお互いに結びついている部分を自動的に検出してグループ分けを行い、その結果を色分けによって示している。ゆえに、共起関連度が高いものは線で結ばれている。実線で結ばれているものは同じ色で同一グループになっている。KH Coder の開発者は係数の基準として、「0.1以上は関連度があり、0.2以上は強い関連度があり、0.3以上はとても強い関連度がある」と定義している。

図1から下記のような結果がわかる。

No. 1: 「I 予想外」は「⑧却 (0.28)」、「⑨没想到 (0.26)」、「④結果 (0.26)」、「⑤竟然 (0.26)」と同じ組になっているが、みんな係数は 0.2 以上であるため、強い関連度を持っている。また、バブルの大きさ (596 例) から見ても、「I 予想外」の用法はノニ複文の最もよく使われている用法であると言えよう。

No. 2: 「II 対比」は「②爾 (0.34)」、「⑦可 (0.26)」と同じ組になっている。その中、「⑦

可 (0.26)」は強い関連度を持っているが、「②而 (0.34)」はとても強い関連度を持っている。「②而 (0.34)」は「II対比」の基本的な用法であると言えよう。

No. 3 : 「III省略」は「⑩其它 (0.33)」、「⑥就 (0.26)」と同じ組になっている。「⑩其它 (0.33)」にはほとんど接続詞が完全にない場合や“明確”などの副詞と共に起する接続詞のない場合がある。この場合の例が多い(409例)が、接続詞がないので、議論しないようにしている。「⑥就 (0.26)」は「III省略」の代表的な用法であると言えよう。

No. 4 : 「IV不成立」は「①但 (0.27)」、「⑩其它 (0.25)」と同じ組になっている。No. 3と同じ理由で、「⑩其它 (0.25)」は議論しないようにしている。「①但 (0.27)」とは強い関連度を持っているため、「①但 (0.27)」は「IV不成立」の代表的な用法であると言えよう。

蓮沼昭子ら(2001)では「ノニはもっとも典型的な例では、因果関係が成立しなかったことを表す」と指摘した。図1から見ても、「IV因果関係の不成立」は、他の「I予想外」、「II対比」、「III省略」とどちらとも繋がっていることが分かる。また、本研究でアップした図1は白黒の図であるが、カラーの図を見ても、「IV因果関係の不成立」がもっとも濃いと分かる。言い換えれば、「IV因果関係の不成立」はノニ複文の最も中枢的な使い方であると言えよう。

6. まとめ

本稿は、4種類のノニ複文と10種類の中国語訳との対応関係を記述したものである。KH Coderを用いて分析した結果、ノニ複文とその対応している中国語訳と強い関連度のあるペアを明らかにした。そのうち、同じ組でとても関連度が強いのは「II対比」と「②而」のペアである。従来、“而/然而”は中国語の複文研究の中で、逆接的関係を表す接続詞として認識されてきたが、厳明麗(2009)では、“而/然而”は逆接的関係ではなく、対比的関係を表す接続詞であると指摘された。本研究の結果から見てもそれが明らかになっている。そのほか、「予想外」は“却”、“没想到”、“結果”、“竟然”と強い関連度を持っている。「不成立」は“但”と強い関連度を持っている。「省略」は“就”と強い関連度を持っている。

また、「IV因果関係の不成立」は、ほかの用法とどちらとも繋がっていることからも、カラーの図の濃淡から見ても、「IV因果関係の不成立」はノニ複文の最も中枢的な使い方であることがわかる。

ノニ複文の中国語訳を 10 種類 :

“①但” の場合：“尽管…但” “明明…但却” “明明…但” “虽然…但” “虽然…但是” “纵使…但” “虽…但” などの形式も入っている。

“②而” の場合：“本想…然而” “然而” “明明…反而” “明明…然而” “などの形式も入っている。

“③还” の場合：“还是” “尽管…也” “尽管…还” “明明…还” “明明…还是” “明明…还要” “即使…也” “就算…也” “即使…依然” などの形式も入っている。

“④结果” の場合：“其实” の形式も入っている。

“⑤竟然” の場合：“居然” “竟” などの形式も入っている。

“⑥就” の場合：“明明…就会” “便” などの形式も入っている。

“⑦可” の場合：“不过” “可是” “虽然…可是” “可…却” “明明…可” “明明…可是” “虽说…可是” などの形式も入っている。

“⑧却” の場合：“明明…却” “明知…却” “却还” “虽然…却” “虽说…却” “即使…却” “则” “尽管…却” “无非…却” “虽然” などの形式も入っている。

“⑨没想到” の場合：“谁知” “不料” “偏偏” “偏” “谁料” などの形式も入っている。

“⑩其它” の場合：接続詞が完全にない場合や“明明” などの副詞と共に起する接続詞のない場合がある。

参考文献

庵功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘 (2001). 『中上級を教える人のための日本語文法 ハンドブック』.スリーエーネットワーク.

グループ・ジャマシイ(2001).『教師と学習者のための日本語文型辞典』.くろしお出版.

清水由貴子(2012).『コーパスを利用した現代日本語における反復構文の記述的研究』.博士学位論文.名古屋大学.

日本語記述文法研究会編(2008)『現代日本語文法 6 (第 11 部複文)』.くろしお出版.

蓮沼昭子・有田節子・前田直子(2001)『条件表現』.日本東京:くろしお出版.

前田直子(2009).『日本語の複文—条件文と原因・理由文の記述的研究』.くろしお出版.

李光赫・鄒善軍・湯明昱 (2015) 『日中対照から見る原因・理由文の諸相』.日本大阪:風詠社.

李光赫, 张北林, 林乐青等(2014).『复句日汉对比实证研究』.世界图书出版社.

严丽明.表示对比的连词“而” (2009)暨南大学华文学院学报,89-94.

付記：本研究は中国国家社会科学基金の研究課題『日漢条件句目標語型和源語型翻訳共性研究』（18BYY230）、第十一批外国語教育基金の重点課題『基於擴展意義單位模型的中日韓同形近義詞的搭配特点和語義韻對比研究』（ZGWYJYJJ11Z036）段階成果である

中国語の反事実構文とその日本語訳研究

李 光赫・劉 志穎

LI Guanghe · LIU Zhiying

A Study on Chinese counterfactual Syntax and Japanese translation tendency

要旨

在汉语中，假定句式与反事实句式使用频率都很高，但两者却极其相似。随着计量语言学的兴起，基于语料库的日汉对比研究逐渐兴盛，但其中汉译日研究却相对较少。本文从 80 篇汉语小说中抽取了 1187 例具有汉语反事实句标识的句子，并结合其日文译文共 2374 例对译例作为统计对象，使用共现网络分析分析的考察了汉语语义分类、汉语反事实标识、汉语后项出现副词、日语表达之间的共现关系这四者的对应关系。其结果相较于以往的日汉对比研究所构建的汉日翻译模型更加完善。

キーワード：反事実仮定、中日対訳、共起ネットワーク分析、ユークリッド距離

目次

0. はじめに
1. 従来の研究
2. コーパスの構築とデータの処理
3. 共起ネットワーク分析
5. 結論

はじめに

中国語では反事実文は一般的に“如果”といった一般仮定文の標識、“如果+不是”といった仮定接続詞+否定詞標識、“否则”などの否定性接続詞、などによって構成されると指摘されている。しかし、実際の考察から見れば、以上の分類は多くの場合では一般的な仮定を表している（1-4）。

- (1) 要是我女儿出了事，我跟你没完。（莫言《蛙》）
- (2) 如果不来，到编辑部的事就算结束了，也用不着再去人家那儿受难堪。（贾平凹《废都》）
- (3) 夏捷说：我也不图在你这儿宴排场，等你以后发达了，只要不忘了我就是。便对楼下孟云房喊。（贾平凹《废都》）

- (4) 要不是有人惊叫一声，让王四躲开的话，可就出人命了。（余华《活着》）

従来の中国語反事実構文に関する研究は主に三つの種類に分類されて研究されてきたが、そのまとめられた標識は一般の仮定の標識と混用していて、区別しにくいのである。一部の研究者は「应该」「早」といった副詞が反事実標識と共に起する傾向があると指摘しているが、その分類はなお不明な点が見られる。また、対訳の面からみれば、日本語から中国語への翻訳傾向への研究が多いが、中国語の反事実文はいかにして翻訳されているかの研究はそれほど多くない。

そのため、本文は従来の研究を踏まえて、中国語反事実仮定文の標識を再確認し、日本語との翻訳傾向を究明することにした。

1. 従来の研究

1.1 中国語の反事実文の定義について

反事実用法の代表的な研究は邢福義 2001^[1] 李萌（2013^[2]）などがあげられる。中国語の反事実文の定義について、邢福義 2001^[1] は反事実文を条件複文に属すると定義している。李萌（2013^[2]）では反事実文の語義的分類によって①前件は明らかに偽り、後件は反事実解読が得られる場合（5-8）と、②後件は明らかな偽り、前件は反事実解読が得られる場合（9-12）に分けている。

- (5) 如果能回到年轻的时候，我一定坚持锻炼身体，也不至于现在后悔。
 (6) 他的儿子很争气，如果他地下有知，也会没有遗憾的。
 (7) 如果曹雪芹没有渊博的知识，《红楼梦》这样传之久远的鸿篇巨制是不可能出现乃至深入人心的。
 (8) 如果没有爱迪生一次又一次地在失败后坚持的精神，也就没有现在与我们生活息息相关的电灯了。

1.2 中国語反事実文の主な標識

中国語反事実文は“如果”、“要（是）”“若（是）”、“假使组词（仮定助詞）（的话）”（9-10）といった一般仮定文の標識と、“如果+不是”，“要+不（是）（因为）”，“若+不（是）（因为）”（11-12）といった仮定接続詞+否定詞標識と、“否则”、“要不”、“不然”、“要不然”（13-14）などの否定性接続詞などで構成されている。（邢福義 2001^[1]、李晋霞 2018^[3]、李芳芳・張灝 2020^[4]）

- (9) 她原是可以救活的，如果及时送到医院的话。（向明《一曲遥寄》）
 (10) 货要是到了，我早就通知你了。（袁毓林例）
 (11) 白娘子要不是游湖遇雨，怎能碰见许仙？（刘绍棠《小荷才露尖尖角》）

- (12) 若不是因为李昕是一个胆小的姑娘，蒋合营肯定不会应声。（萧克凡《堡垒漂浮》）
- (13) 可惜师伯那时不在，否则令狐大哥也不会身受重伤了。（金庸《笑傲江湖》）
- (14) 她和沙马耳虎因为化了装，不然，进城难出城也难。（宇心《雾中鼓声》）

しかし、李晋霞（2018^[5]）では反事実文は「要不是」の唯一の用法ではないことを証明した。「要不是」は反事実のほかに直接陳述条件文（直陈条件句）（15）、選択関係文（选择关系句）（16）、仮設逆接文（假转条件句）（17）を表すことが可能である。

- (15) 张普景说：“好好好，不跟你吵。但是，我的女儿不能叫张原则，这简直是对我的进一步挖苦。你要不是来捣蛋的，就动动脑筋取个像样的。”（《历史的天空》）
- (16) 这要不是大悲剧就是大笑话。（《爱，是不能忘记的》）
- (17) 再说这里的活儿，真比拔麦子脱土坯，也不是太累。但一定得心善。要不是做不长这活儿的。（《预约死亡》）

さらに、李芳芳・張灝（2020^[4]）では“如果早 a, b”は“早”は時間副詞であり、“如果早”の後には一般的に“知道、了解、意识、发现”といった認知動詞を接続することも指摘されている（18）。また例文（19）のように“如果”がない場合でも反事実解読が成立する。朱慶祥（2019^[5]）は“应该 Ø(的)“という標識が具体的対象を指すときは過去反事実（20）と現在反事実（21）を表すことができるとまとめた。

- (18) 如果早知道你会有今天的成绩，当年不该对你太狠了。（李芳芳・張灝 2020）
- (19) 早知道你会有今天的成绩，当初不该对你太狠了。
- (20) 你应该孝敬父母的，你当时怎么会对你父母出言不逊？（朱慶祥 2019）
- (21) 你应该孝敬父母的，现在怎么能做出这种事！

以上から見れば、反事実の標識は一般的仮定の標識と混用していて、その相違点が区別しにくいのである。「应该」などの副詞は反事実標識と共に起する傾向もまだ不明な点が多くある。

1.3 従来の対訳研究について

ここ数年間、計量言語学とコーパス言語学の発展に従い、定量学的に統計学的に日中対訳研究を行う学者が多くなってきた。李光赫・趙海城（2018^[6]）は共起ネットワーク分析、コレスポンデンス分析を用いて、タラ条件文の反事実用法の翻訳傾向を研究した。また劉志穎・李光赫（2021^[7]）は共起ネットワーク分析を用いてバ条件文の反事実用法の翻訳傾向を研究した。つまり、日本語から中国語へという翻訳方向の研究は多いが、中国語からの定量学的研究は管見の限りそれほど多くない。片方の研究では対訳には不十分である。

そのため、本文の目的はおもに中国語意味分類・中国語反事実標識・副詞・日本語表現の共起関係を究明することである。

2. コーパスの構築とデータの処理

2.1 中国語反事実文標識と副詞の対応状況

	反事実仮定	仮定	総計
A 如果類	216	755	971
B 如果不類	62	21	83
C 否定類	46	87	133
総計	324	863	1187

〈表 1〉 中国語反事実文標識の意味分類状況

本文では中国語の反事実標識とそれに対応する日本語訳の対応関係を研究するために、近年中国語のベストセラー80 冊とその日本語訳本を選択してコーパスを作成した。中国語原文小説とその日本語訳本から、従来の研究を踏まえて一般仮定文の標識、仮定接続詞＋否定詞標識と否定性接続詞という分類をキーワードにして中国語のデータを抽出し、タグ付けをした。そして 80 編の中国語の小説から中国語反事実文標識のある文を 1187 例抽出し、その訳文と併せて合計 2374 例の対訳例を統計対象にした。まず、中国語の分類は従来の研究のように三分類にした。詳しくは以下の通りである。

A 如果類仮定文の標識：如果（就）、要是（就）、假如（就）、如（就）、若（就）、倘若（就）、假如など。

B 仮定接続詞＋否定詞標識：如果不是（就）、如果不（就）、要是不（就）、要不是（就）、假如不是（就）、若不是（就）など。

C 否定性接続詞：否則、除非、要不然、要不などがある

以下は便宜上、A 如果類、B 如果不類、C 否定類と略称する。その 1187 例の中で、反事実文は 324 例、仮定は 863 例である。A 如果類、B 如果不類、C 否定類の分布状況は表 1 である。

また、反事実標識と共に起している副詞をまとめると、表 2 のようになる。その分類基準は以下のようである。

I 無（別に副詞がない場合）：(22) 要是这样，我不干了。（贾平凹《废都》）

II 還：(23) 公社大门口要是不改，接下来還得出神经病，还得出大事。（莫言《蛙》）

III 該：(24) 要是有那样一根虎须，该有多么好啊！（莫言《檀香刑》）

IV 就：(25) 如果晚上不和嫂子睡，那就真是戒了！（贾平凹《废都》）

V 肯定：「一定」「肯定」などを含む (33) 如果不是我从小胆大，肯定会被她吓个半死。（莫言《四十一炮》）

VI 早：(26) 要不是她小时候得了那场病，说媒的早把我家门槛踏平了。（余华《活着》）

VII便 : (27) 如果啮合不到一起便不能运转。(张贤亮《男人的一半是女人》)

VIII才 : (28) 要是将来忘记把喜糖寄给我, 我才要好好捶你!。(戴厚英《人啊, 人》)

一つの文で複数の副詞が現れた場合は、前の副詞を選択する

(29) 如果没有地下的枯草垫着, 知县的头颅, 早就成了血葫芦。(莫言《檀香刑》)

以上のように、中国語の反事実標識文と共に起する副詞を整理すると、表2になる。

	A 如果類	B 如果不類	C 否定類	総計
I 無	511	54	99	664
II 還	18	2	1	21
III 該	13	0	0	13
IV 就	375	18	31	424
V 肯定	34	2	2	38
VI 早	13	7	0	20
VII 便	5	0	0	5
VIII 才	2	0	0	2
総計	971	83	133	1187

〈表2〉中国語反事実文標識と副詞の対応状況

2.2 中国語反事実文標識と日本語訳の対応状況

訳文にある日本語表現を考察した上で、表3のように15種類に分類した。その中で、¹⁵そのほかは日本語訳では仮定文ではなく、「から」、「まで」、「限り」に訳された文を指す。中国語標識と日本語表現の対応関係は表3の通りである。

	A 如果類	B 如果不是類	C 否定類	総計
①と	20	2	3	25
②ないと	7	0	20	27
③ていると	4	0	0	4
④たら	375	16	13	404
⑤なかつたら	44	32	10	86
⑥ていたら	52	1	2	55
⑦ていなかつたら	6	3	0	9

〈表3〉中国語反事実文標識と日本語訳の対応状況

	A 如果類	B 如果不是類	C 否定類	総計
⑧なら	196	5	11	212
⑨ないなら	4	1	2	7
⑩ているなら	5	0	0	5
⑪ば	131	5	11	147
⑫なければ	33	9	37	79
⑬ていれば	10	0	0	10
⑭ていなければ	4	4	0	8
⑮そのほか	80	5	24	109
総計	971	83	133	1187

〈表3-続〉中国語反事実文標識と日本語訳の対応状況

3. 共起ネットワーク分析

3.1 中国語意味分類・標識・副詞の共起関係

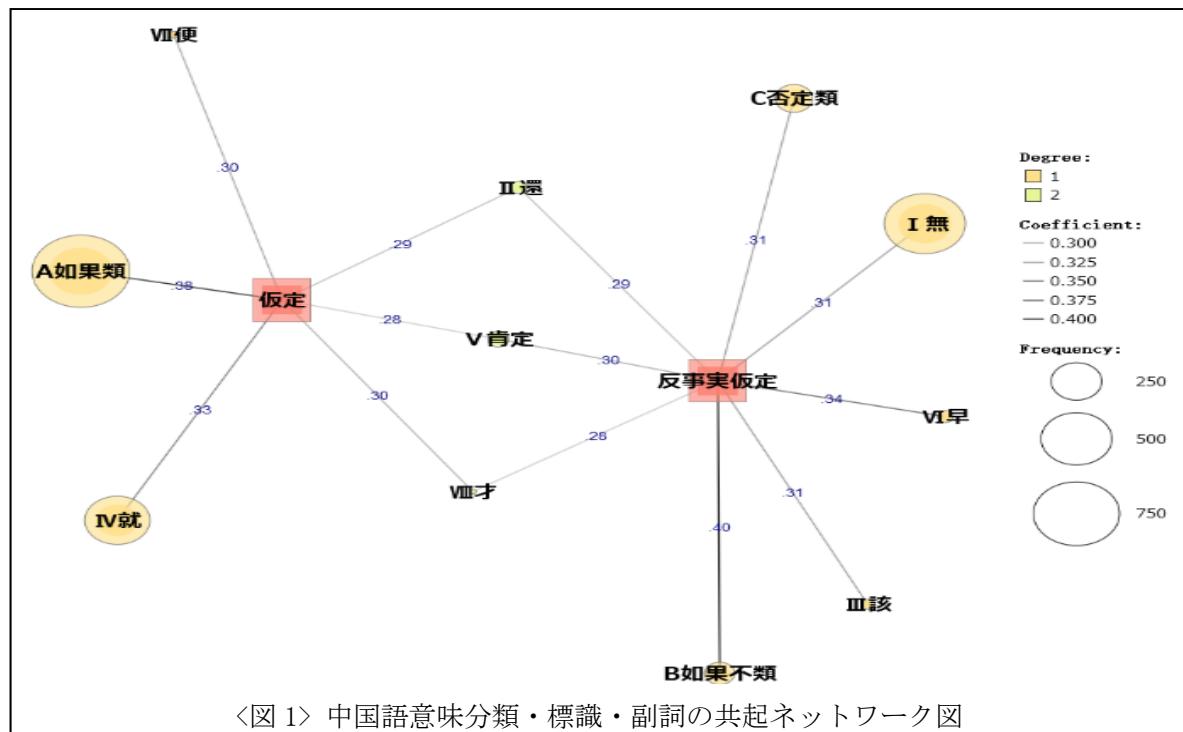
本節は従来の研究に基づいて、1. 中国語意味分類（仮定と反事実仮定）2. 中国語反事実標識（A 如果類、B 如果不類、C 否定類）3. 共起する副詞という三者の対応関係を考察することにした。表1、表2を利用してKH coderの共起ネットワーク分析を通じて、図1のように、三者の対訳関係図を作成した。図1はユークリッド距離によって描かれ、四角形と円形から成り立っているものである。四角形は中国語意味分類（仮定と反事実仮定）を表し、黄色円形は一つの四角形のみと連結していて、薄黄色円形は二つの四角形と連結している。線によって円形と四角形が結ばれている。線の濃さは共起関連度の強さを表す。線の上の係数は一般的に、0.1以上は関連度があるとされている。図の内容をまとめた中国語反事実標識は副詞との共起傾向は表4のようである。表4から見れば、A 如果類は実際に主に仮定を表し、その後節にIV就、VII便がついている傾向が顕著である。それに対し、反事実仮定はおもにB 如果不類、C 否定類によって表され、その後節にVI早、III該、I無がついていることが明らかになった。いずれも使える「V肯定、II還、VIII才」の反事実性の高さはV肯定、II還、VIII才の順番である。

意味	標識	副詞
グループ1 仮定	A 如果類 (0.38)	IV就 (0.33)
		VII便 (0.30) VIII才 (0.30)
		II還 (0.29)
		V肯定 (0.28)

〈表4-続〉中国語意味分類・標識・副詞の共起傾向

意味	標識	副詞
グループ 2 反事実仮定	B 如果不類 (0.40)	VI 早 (0.34)
	C 否定類 (0.31)	III 該 (0.31) I 無 (0.31)
		V 肯定 (0.30)
		II 還 (0.29)
		VIII 才 (0.28)

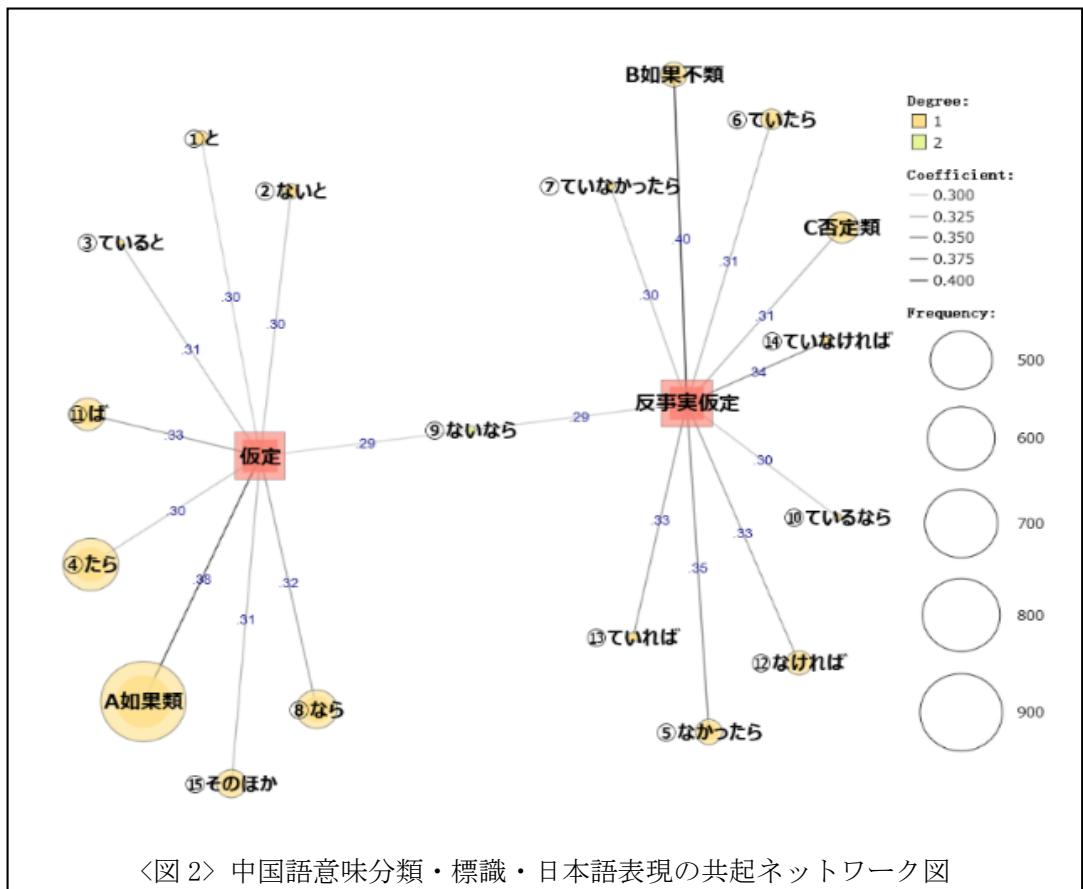
〈表 4〉 中国語意味分類・標識・副詞の共起傾向



3.2 中国語意味分類・標識・日本語表現の共起関係

上述のように、表 1、表 3 を利用して 1. 中国語意味分類・2. 標識・3. 日本語表現の共起関係は KH coder 共起ネットワーク分析によって以下の図 2 に作成される。図の内容をまとめた中国語反事実標識は副詞との共起傾向は表 5 の通りである。

表 5 から見れば、中国語の仮定を日本語に訳す場合、⑪ばなどで表す傾向があるといえる。中国語の反事実に対応する日本語は表 5 のように⑤なかつたらなどである。ここから、日本語反事実仮定を表す場合、前件にはテイル・ティタ形が出現する可能性が高いことがわかる。それに肯定形より否定形が反事実仮定に成り立つ傾向がある。一方、テイルト、ナイトであっても反事実仮定にはなりにくい。⑨ないならは仮定も反事実仮定の両方も使用可能である。



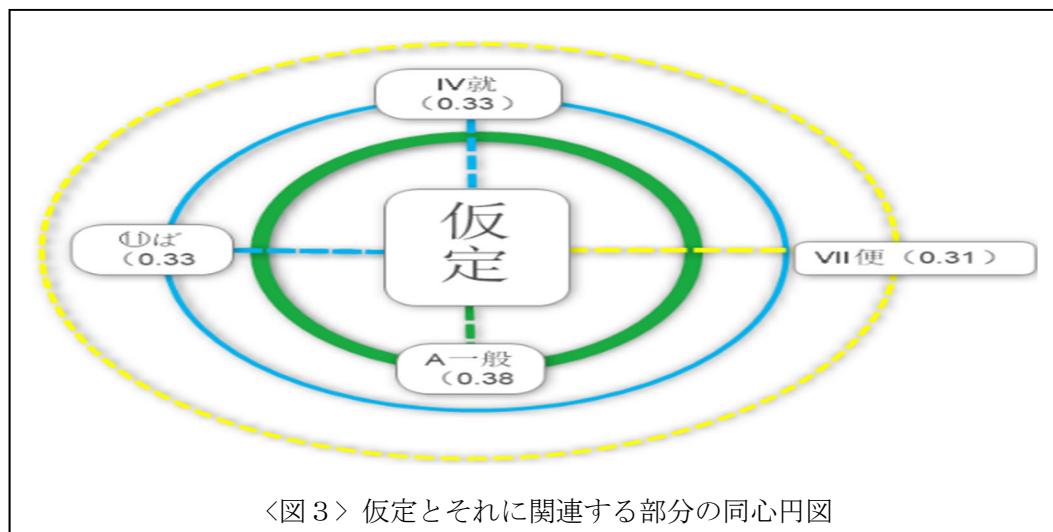
〈図2〉中国語意味分類・標識・日本語表現の共起ネットワーク図

意味	標識	日本語表現
グループ1 仮定	A 如果類	⑪ば(0.33) (0.38)
		⑧なら(0.32) ⑯そのほか(0.31) ③ていると(0.31) ④たら(0.30) ②ないと(0.30) ①と(0.30) ⑨ないなら(0.29)
グループ2	B 如果不類	⑤なかったら(0.35)
反事実仮定	(0.40)	⑭ていなければ(0.34)
	C 否定類	⑫なければ(0.33) ⑬ていれば(0.33) ⑥ていたら(0.31)
	(0.31)	⑩ているなら(0.30) ⑦ていなかつたら(0.30) ⑨ないなら(0.29)

3.3 中国語意味分類・中国語反事実標識・副詞・日本語表現の共起関係

前述したように、本論文の共起ネットワーク図はユークリッド距離に基づいて描画された図形である。2次元におけるユークリッド距離は2点間の真実的な距離を表す。方程式は: $\rho = \sqrt{(x_2 - x_1)^2 + (y_2 - y_1)^2}$ である。距離が短いほど類似度または関連度が高くなる。

したがって、共起ネットワーク図の中の係数は、それらの間の関連性の強さを表し、両者間の距離を表すものではないが、距離の同じほうが係数は同じである。考え方を変えてみて、公式の中の座標 (x_1, y_1) を原点として考えると、距離は $\rho = \sqrt{x_2^2 + y_2^2}$ となった。いわば原点から ρ を半径に円を描くと、 (x_2, y_2) は円上の任意の点に現われることが可能である。そのため、本稿では「仮定」を原点とし、「仮定」につながる中国語反事実標識の分類は A 如果類 (0.38)、副詞は IV 就 (0.33)、VII 便 (0.31) であり、日本語の表現⑪ば (0.33) などである。わかりやすく説明できるようにただ一類を例として選択した。ユーリッド距離の定理に従って、「仮定」との両者間の距離が小から大までは A 如果類 (0.38)、IV 就 (0.33)、⑪ば (0.33)、VII 便 (0.31) そのデータをビジュアル化にして描画すると図 3 が得られる。図 3 のように、「仮定」が原点位置に置かれており、原点から離れた順番は：A 如果類 (0.38)、IV 就 (0.33)、⑪ば (0.33)、VII 便 (0.31)。同じ円にあるものは「仮定」と等しい関連関係があるとはいえる。また近い円の間も「仮定」に対して似ているといえる。この理論に基づいて四者の対応関係は以下の表 6 のようにまとめられる。



原点より近ければ近いほど関係性が高いと意味しているので、「仮定」は、A 如果類 (0.38)+IV 就 (0.33) +⑪ば (0.33) である。「反事実仮定」のその一つ目は B 如果不類 (0.40) +VI 早 (0.34) +⑤なかつたら (0.35) であり、二つ目は C 否定類 (0.31)+VI 早 (0.34) +⑤なかつたら (0.35) である。

意味	標識	副詞	日本語表現
仮定	A 如果 類 (0.38)	IV 就、IV 就 (0.33) VII 便、VII 便、VII 便、VII 便 (0.30) II 還 (0.29) V 肯定 (0.28)	⑪ば (0.33) ⑧なら (0.32) ⑯そのほか、③ていると (0.31) ④たら、②ないと、①と (0.30) ⑨ないなら (0.29)

表 6 中国語意味分類・中国語反事実標識・副詞・日本語表現の間の共起関係

意味	標識	副詞	日本語表現
反事	B 如果不類	VI早 (0.34)	⑤なかったら(0.35)
実仮	(0.40)	III該 (0.31) I 無 (0.31)	⑭ていなければ(0.34)
定		V 肯定 (0.30)	⑫なければ、⑬ていれば(0.33)
	C 否定類	II還 (0.29)	⑥ていたら(0.31)
	(0.31)	VIII才 (0.28)	⑩ているなら、⑦ていなかったら(0.30) ⑨ないなら(0.29)

〈表 6〉 中国語意味分類・中国語反事実標識・副詞・日本語表現の間の共起関係

4. 結論

本文は從来の研究を踏まえて、中国語意味分類・中国語反事実標識・副詞・日本語表現の共起関係という四者の関係を考察した。結論として以下のようなものをまとめた。

1. 中国語反事実標識と意味分類の対応関係結論：

一般仮定文の標識は仮定を表す傾向がある。仮定接続詞+否定詞標識、否定性接続詞は反事実を表す傾向がある。

2. 中国語反事実標識と共に起する副詞結論：

仮定の後にIV就、VII便がつく傾向が顕著的である。反事実仮定の後にVI早、III該、I 無がつく。VIII才、II還、V 肯定はいずれも接続できる。

3. 中国語反事実標識と日本語表現の対応関係：

(1) 中国語は仮定を表すA如果類を使い、それに対応する日本語は⑪ば、⑧ならなどで訳す傾向がある。(2) 反事実仮定の日本語訳は⑤なかったら、⑭ていなければなどである。

4. 四者の対応関係

「仮定」の最強構成は、A如果類(0.38)+IV就 (0.33) +⑪ば(0.33)。「反事実仮定」の最強構成はB如果不類(0.40) +VI早 (0.34) +⑤なかったら(0.35)、二つ目はC否定類(0.31) +VI早 (0.34) +⑤なかったら(0.35)である。

参考文献

- [1] 邢福义. 汉语复句研究[M]. 北京:商务印书馆, 2001.
- [2] 李萌. 现代汉语反事实假设句研究[D]. 河南大学, 2013.
- [3] 李晋霞. “要不是”违实句探析[J]. 励耘语言学刊, 2018(02):58-76
- [4] 李芳芳, 张滟. 基于构式语法的汉语违实条件句研究[J]. 齐齐哈尔大学学报(哲学社会科学版), 2020(05):119-121.
- [5] 朱庆祥. 也论“应该?”句式违实性及相关问题[J]. 中国语文, 2019(01):61-73+127.
- [6] 李光赫, 趙海城. 関数検定から見るタラ条件文の中国語訳ストラテジー研究, 明星国際コミュニケーション研究(10), 2018: 15-28.
- [7] 刘志穎, 李光赫, 从定量学的角度分析日本文学作品的汉译倾向——以バ条件句为中心, 现代语言学, 2021, 9(3), 701-710.

「仮定」・「反事実」を表すタラ条件文の中日対訳考察

—共起ネットワーク分析を用いて—

劉志穎（大連理工大学）

LIU Zhiying

A study on the Translation of conditional sentences expressing

"hypothesis" and "counterfact" between China and Japan

- Using co-occurrence network analysis -

要旨

假定句式与反事实句式是タラ条件句的代表性用法。以往基于语料库的日汉对译研究多集中在日语语义分类和汉语表达之间的对应关系之上，而较少考虑日语后项对于句式以及汉语后项对于句式的影响。本文从200篇日语小说及其中译文中提取了上述表示“假定”和“反事实假定”的タラ条件句577例，以其形式不同进行分类，使用共现网络分析的方式，明确了语义分类、形式分类、后项中的时态、体和汉语表达这四者之间的对应关系。其结论有如下：1. タラ条件句在表示假设和反事实假定时，对应的形式不同。2. タラ条件句的后果中的时态・体与语义分类有较强的关系。3. 汉语表现与日语语义分类相关，有明显的使用倾向。4. 根据欧式距离，考察了表示假设和反事实假设的关联度最强的构成。

キーワード：反事実仮定；中日対訳；共起ネットワーク分析；ユークリッド距離

目次

0. はじめに
1. 従来の研究
2. タラ条件文意味分類
3. 意味分類との対応関係
4. 共起ネットワーク分析
5. 結論

はじめに

タラ条件文は日常生活では最も使用されている文法の一つである。しかし日本語と中国語は異なる言語なので、文法的に意味的に対応することがかなり難しいものとされている。例文1、2のように、日本語のタラは同じく「仮定」の意味を表しているが、その訳し方は異なっている。それぞれ「的话」、「如, 就」に訳されている。

(1) 回収しておかないと、発見されて J A C E S の製品だと知れたら、まずいどころじゃないですよ。/不打算收回来了么？被人发现了是 J A C E S 的制品的话会很麻烦吧？

(田中芳樹『薬師寺涼子の怪奇事件簿』08/祁心《药师寺凉子的怪奇事件簿》)

(2) それだけ渡したら、帰すようです/如给钱，他们就放人。

(渡辺淳一『シャトウ q ルージュ』/之乎《红城堡》)

(3) 手榴弾が用いられていたら、警察や自衛隊の被害はずっと大きなものになっていたはずだから。/如果动手榴弹，警察和自卫队的损失肯定会大得多。警察们开始甚至连防弹背心都没准备。

(村上春樹『1Q84』/林少華『1Q84』)

また、タラ条件文は複文に属している。複文は従属節と主節という二つの部分がある。タラの部分は従属節といい、その後の部分は主節という。主節では、テンス・アスペクト表現といった文法表現と共に起する形がある。例文1、2のように仮定条件文の後件には非過去形がある。つまり、タラ条件文の意味分類と後件にあるテンス・アスペクトとは関連関係があるといえる。しかし、従来の研究では、「p ていたら、q た」の形は反事実を表す傾向があると指摘されている（例文3）日本語における仮定文と反事実は後件にあるテンス・アスペクトと一定の共起関係があるが、一概に「p ていたら、q た」だけで反事実の構成をまとめることはできない。さらに従来の日中対訳では、前件の意味分類と中国語との対応関係を裏付けているに過ぎなく、後件にある表現を考慮していないのである。

さらにタラ条件文はタラ、ナカッタラ、ティタラ、ティナカッタラという四種類があり、その後件のテンス・アスペクト表現において出現できる形は q ル / q タ、q テイル / q テイタである。以上から見ればタラの四種類は、仮定と反事実という異なる文法意味を表す場合、後件に出現する形式も異なると思われる。そのため、本稿はタラ条件文の意味分類、タラ条件文の形式分類、タラ条件文の後件にあるテンス・アスペクト分類、また中国語訳の間の関係を定量学的に考察し、従来の対訳研究よりさらに正確な対訳モデルを求める。

1. 従来の研究

1.1 タラ条件文の意味分類

タラ条件文は日常生活で最もよく使われている形式であり、その研究の代表的なものは蓮沼など（2001^[1]）と日本語記述文法研究会（2008^[2]）などがあげられる。

蓮沼など（2001）ではタラ条件文を A. 仮定状況の設定、B. 行為成立の状況設定、C. 前件事実文、D. 反事実文、E. 発見の状況、F. きっかけという六分類にしている。また日本語記述文法研究会（2008）ではタラ条件文を①仮定条件文、②反事実条件文、③反復条件文、④事実条件文という四つに分類している。その中で①仮定条件文を「従属節も主節もまだ起こっていない事態である条件文」と定義し、②反事実条件を「従属節・主節とともに反事実の事態であり、予測された因果関係が実現しなかったことを表す」と定義した。その上で、その下位分類として「過去の反事実」と「現在の反事実」に分けている。「仮定」と「反事実」はタラ条件文の典型的な用法とされている。

1.2 反事実に関する研究

蓮沼など（2001^[3]）では「現在の事実に反するもの、過去の事実に反するもの、過去の事実に反して現在・未来への影響が生じる可能性がある」という三種類に分けられている。

また、李光赫など（2014^[3]）でも蓮沼など（2001^[3]）と同じく、以下の三種類に分けている。①現在の状況に反する仮定文（反現在）の構文は「p（状態動詞）、q（qル形）」であり、前件には「ある、いる、である、でない」などの状態系動詞が現れる場合が多い（例文4）。②過去の事実に反する仮定文（反過去）の構文は「p（ティル形）、q（qル形）」であり、後件には過去を表すqタ形が現れ、「逆の条件であったら期待に合致

する結果が得られないだろう」という予測を表すため文末には「(た) はずだ、(た) かもしれない、(た) だろう、(た) のに」といった表現がよく使われている(例文5)。③過去の事実に反する条件で現在・未来に起こる可能性を表す文(反未来)の構文は「p(ティル形)、q(qティル/qティタ形)」であり、Pティル形の後件(q)には基本形のqル形も過去形のqタ形も使える。現在・未来に起こる可能性があるため、文末には「はずだ、かもしれない、だろう、ところだ(った)」といった表現がよく使われる(例文6)。

- (4) この壁がなかったら、部屋がもっと有効に使えるだろうに。(蓮沼など 2001:15)
- (5) もっと注意して運転していたら、こんなひどい事故は起こさなかった。(蓮沼など 2001:16)
- (6) 君が休講を知らせてくれなかったら、明日大学に行っているよ。(蓮沼など 2001:16)

1.3 テイタラの関連研究

従来の研究ではティタラのみの研究が少ない。李光赫など(2014^[3])では「pティタラ・ティレバ、qタ」の形式は反事実を表す傾向があると指摘している。また馬赫(2020^[4])ではティ(レバ/タラ)などを反事実、仮設、聞き手から情報、事実仮定といった四つの意味に分類したうえで、その中のpティタラに対してI反事実的用法、II仮説的用法、III pが事実文、IV一般条件文、V発現に分類した。

1.4 タラ条件文の対訳研究

中国語に翻訳された日本語の小説に基づく研究について、代表的なものは李光赫などの研究があげられる。李光赫など(2014)では順接条件節に属するタラ・バ現在の状況に反する仮定「p(状態動詞)、q(qル形)」は一般的に“(要是/如果)p(的话), 就q了”で訳すが、前件pが否定形の場合は“要不是p, 就q”か“如果不是p, 就q”で表す。また過去の事実に反する仮定「p(ティル形)、q(qタ形)」は普通“(要是/如果)p(的话), 就q了”で訳し、過去の事実に反する条件は現在・未来に起こる可能性を表す「p(ティル形)、q(qティル/qティタ形)」は“(要是/如果)p(的话), 就q了/ (要不是/如果不是)p(的话), 就q了”で翻訳すると指摘している。

- (4) この壁がなかったら部屋がもっと有効に使えるだろうに。/要不是有墙壁, 房间就会更大。(蓮沼など 2001:15/李光赫訳 2014:57)
- (5) もっと注意して運転していたら、こんなひどい事故は起こさなかった。/要是能再留神一点, 就不会发生这样严重的事故了。(蓮沼など 2001:15/李光赫訳 2014:58)
- (6) 君が休講を知らせてくれなかったら明日大学に行っているよ。/要不是你告诉我听课明天我就去学校了。(蓮沼など 2001:15/李光赫訳 2014:59)
- (7) このひとが教えてくれなかったら、日干しになってるところだったぞ」岡が指すほどに視線をやると、先ほど見かけた母親と娘がいた。/“要不是这人告诉我, 你可就变成鱼干了哟。”多田看向老岡手指的方向, 那是刚才看见的母亲和女儿。(三浦しをん『まほろ駅前番外地』/李建雲訳《真幌站前番外地》)

また李光赫、鄒善軍(2021^[5])、李光赫、趙海城(2018^[6])ではタラの意味分類を再確認し、日本語小説及び中国語訳文に基いてそれぞれT、MIスコア、共起ネットワーク分析とコレスピンドンス分析を利用した。そして仮定のタラが主に「如果+的话」「一旦

（就）」「如果（就）」との関連関係が強く、反事実のタラが主に「如果+不」「要不是」「否则」という翻訳傾向があることを計量学的に証明した。

以上の研究から見れば、タラ条件文は仮定と反事実仮定という二つの用法があるとされている。しかし、それらの意味分類は後件にあるテンス・アスペクトとの関係がまだ不明な点がある。また日本語複文前後の標識と中国語標識の対訳関係も不明な点が多くあるので、本研究は従来の内容を踏まえて以上の二つの方向を考察することにした。

2. タラ条件文意味前件と後件の分類

本文はタラ条件文における仮定と反事実仮定の用法の相違を究明するために、従来の研究を踏まえてタラ条件文の仮定と反事実用法を抽出して考察することにした。その抽出基準は以下のようである。

2.1 タラ条件文前件意味分類

2.1.1 予想表現(仮定)

「仮定」は「仮定状況設定」のことで、前件が後件成立の条件で、 p という状況を仮定した場合に起こりうる結果を q で表す用法である。

(8) 何かの弾みで南方衆が真実を知ったとしたら、どのような行動に出るか判りませんでしょう。/倘若真相为南方众知悉，不难想见一族恐有加害公房卿之虞。

（京極夏彦『後巷説百物語』/劉名揚訳《後巷说百物语》）

2.2.2 反事実文（反事実）

前件が現在の状況や過去の事実と明らかに違う場合、それに応じて異なる結果をもたらす文である。

(9) そやなかつたら、あないなことにはなりまへんわい。いやしかし——あれでは申し開きが出来まへんやろ/要不, 哪可能会发生这种奇事? 只是, 这光景还真是不可解呀。

（京極夏彦『後巷説百物語』/劉名揚訳《後巷说百物语》）

2.2 後件にあるテンス・アスペクトの分類

本研究は従来の研究を踏まえて、後件にあるテンス・アスペクトを q ル、 q タ、 q テイル、 q テイタ、 q 無しという五分類にした。その分類基準は以下のようになる。

q ル形には非過去形としての動詞、形容詞、形容動詞、名詞などの肯定形および否定形が含まれている（10、11）。例 12、13 は q タ形の場合である。 q テイル形は動詞のみであり（14、15）、例 16、17 は q テイタ形の場合である。紙幅のために後件が省略された場合は「 q 無し」と記する（18、19）。

(10) 彼女の情夫だと知ったら、彼でも激怒するだろうか? と思った。

（吉田修一『パーク・ライフ』）

(11) レストランでランチをするお金があつたら、ビビの二日分の缶詰を買える。

（森絵都『風に舞いあがるビニールシート』）

- (12) 知ってたら、もっと緊張したよ。 (恩田陸『蜜蜂と遠雷』)
- (13) そうでなかつたら、あれほど広く読まれることはなかつた。 (東野圭吾『悪意』)
- (14) ロベルは病気療養さえなかつたら、もう閣下になつてゐるさ。 (田中芳樹『銀河英雄伝説』10落日篇)
- (15) 以前だったら、彼女たちはそういう華やかさを羨うらやんでいるのだろうととりあわづ、さつさと引き上げていただろうが、小夜子はその場から立ち去ることができずにいた。 (角田光代『対岸の彼女』)
- (16) ふつうだったら、絶対に無視していただろう。 (東野圭吾『ナミヤ雑貨店の奇跡』)
- (17) 以前のナーチャンだったら、ばしばしスパイクを決めてたのに。 (乙一『暗いところで待ち合わせ』)
- (18) おまえがもっとちゃんとしたら、と貞幸がぼやけば、あなたに甲斐性がないからこうなつたんでしょう、と紀美子はいい返した。 (東野圭吾『ナミヤ雑貨店の奇跡』)
- (19) 自分が天才だったら、と何度思ったことか。 (恩田陸『蜜蜂と遠雷』)

3. 意味分類との対応関係

本文では200編の日本語小説またその中訳文で中対訳コーパスを作成した。その小説は近年の芥川賞・直木賞作品とベストセラーの本などであり、東野圭吾、森村誠一、貴志祐介といった作家の作品が含まれている。

上述通りに「仮定」と「反事實仮定」を表すタラ条件文577例を抽出し、形式からIタラ、IIナカッタラ、IIIティタラ、IVティナカッタラに四分類した。意味分類の「仮定」・「反事實仮定」と合計八種類になった。577例の対応関係は表1のようである。

	I たら	II なかつたら	III ていたら	IV ていなかつたら	総計
反事實仮定	142	42	84	2	270
仮定	306	1	0	0	307
総計	448	43	84	2	577

<表1>形式と意味分類の対応関係表

	I タラ	II ナカッタラ	III ティタラ	IV ティナカッタラ	総計
q タ	73	17	45	1	136
q ティタ	22	12	24	1	59
q テイル	2	3	0	0	5
q ル	345	10	15	0	370
q 無し	6	1	0	0	7
総計	448	43	84	2	577

<表2>形式とテンス・アスペクトの対応関係表

表1からわかるように仮定は307例で、反事實より37例多い。また、Iタラが圧倒的に多い。それらはテンス・アスペクトとの20組の対応関係は表2の通りである。さらに日本に対する中国語訳の表現をまとめて、表3のように20種類をまとめた。

“①如果(無)”のように括弧に書いてあるのは、中国語後件にある出現する副詞である。その副詞分類基準は以下のようである。

無(別に副詞がない場合) : (18) 如果没有所谓“生命的意义”，即使是很短的时间，她都无法忍受。(森村誠一『新幹線殺人事件』/譚必嘉《新幹線謀殺案》)

還 : (20) “我若知道還不讲出来吗？”凉子的语气激动起来。

(赤川次郎『追跡』/趙秀娟《追踪》)

該：(21) 因为倘若是自己非负责不可的事，应该只有这个房间。

(山本兼一『利休にたすねよ』/张智渊《利休之死》)

就：(22) 如果能在大赛上获奖，就给自己买一架钢琴，他还记得吗？

(恩田陸『蜜蜂と遠雷』/楊明綺《蜜蜂與遠雷》)

肯定：「一定」「肯定」などを含む

(23) 那是当然，如果媒体知道了少女的特异功能，一定会蜂拥而至的。

(東野圭吾『予知夢』/呂灵芝《预知梦》)

早：(24) 如果这栋房子没有装设隔音设备，附近邻居早就在门外大加抗议了吧。

(東野圭吾『ダイイング・アイ』/匡匡《濒死之眼》)

或許：「没准」「也许」などを含む

(25) 如果被我们总经理知道是野田先生开的车，没准儿又得挨一顿臭骂。

(森繪都『風に舞いあかるヒニーq ルシート』/竺家榮《随风飘舞的塑料布》)

	I タラ	II ナカッタラ	III テイタラ	IV テイナカッタラ	総計
①如果(無)	105	5	29	1	140
②如果(還)	10	0	0	0	10
③如果(該)	27	0	4	0	31
④如果(就)	89	1	18	0	108
⑤如果(肯定)	73	1	15	0	89
⑥如果(早)	4	1	3	0	8
⑦如果(或許)	53	0	9	0	62
⑧如果+不(無)	1	6	0	1	8
⑨如果+不(還)	0	1	0	0	1
⑩如果+不(該)	0	2	0	0	2
⑪如果+不(就)	2	7	0	0	9
⑫如果+不(肯定)	1	4	0	0	5
⑬如果+不(早)	0	2	0	0	2
⑭如果+不(或許)	1	7	0	0	8
⑮否則	3	5	0	0	8
⑯后	25	0	1	0	26
⑰時(候)	5	0	1	0	6
⑱只要	7	1	1	0	9
⑲(一)就	26	0	3	0	29
⑳一旦(就)	16	0	0	0	16
総計	448	43	84	2	577

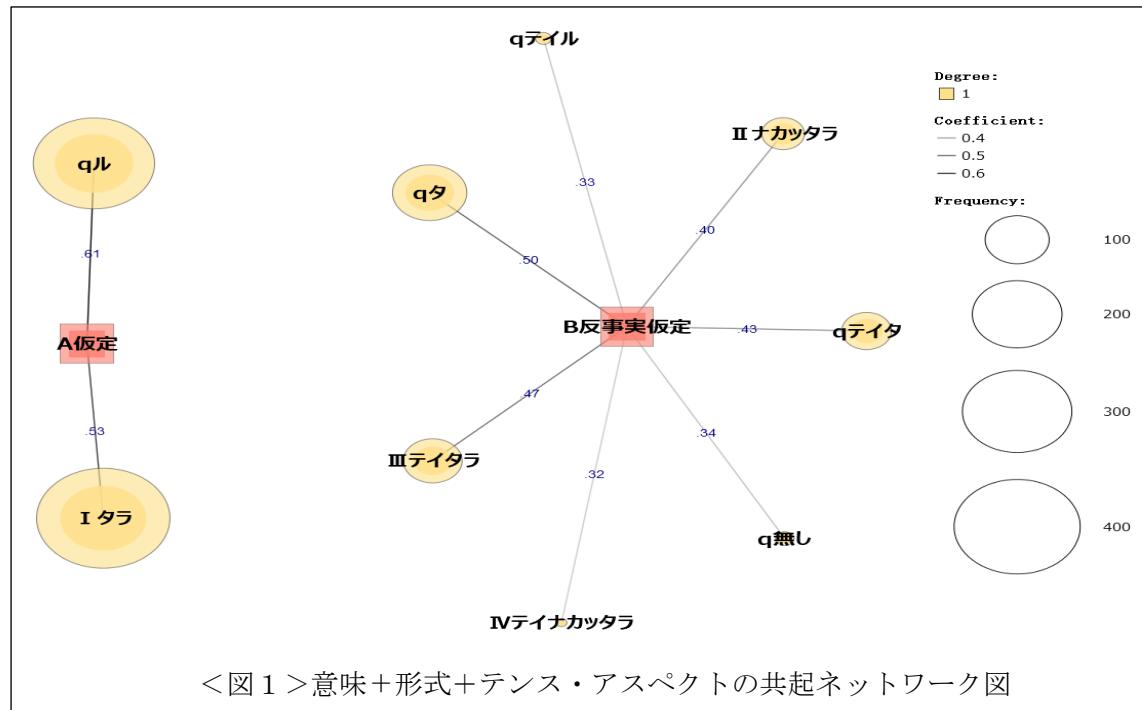
<表 3-続> 形式と中国語訳の対応関係

4. 共起ネットワーク分析

4.1 タラ条件文内部の共起分析

本節は従来の研究に基づき、1. タラ意味分類、2. タラ前件の形式分類、3. 後件にあるテンス・アスペクトという三者の対応関係を考察した。表 1、表 2 を利用して共起ネットワーク分析を通じて、図 1 の通りに三者の対訳関係図を作成した。図はユークリッド

距離によって四角形と円形から描画されたものである。四角形はタラ意味分類であり、円形は形式分類とあるテンス・アスペクトである。線の濃さは共起関連度の強さを説明している。その上に書いてある係数は一般的に 0.1 以上が関連度があるとされている。図 1 の内容をまとめると表 4 のようである。



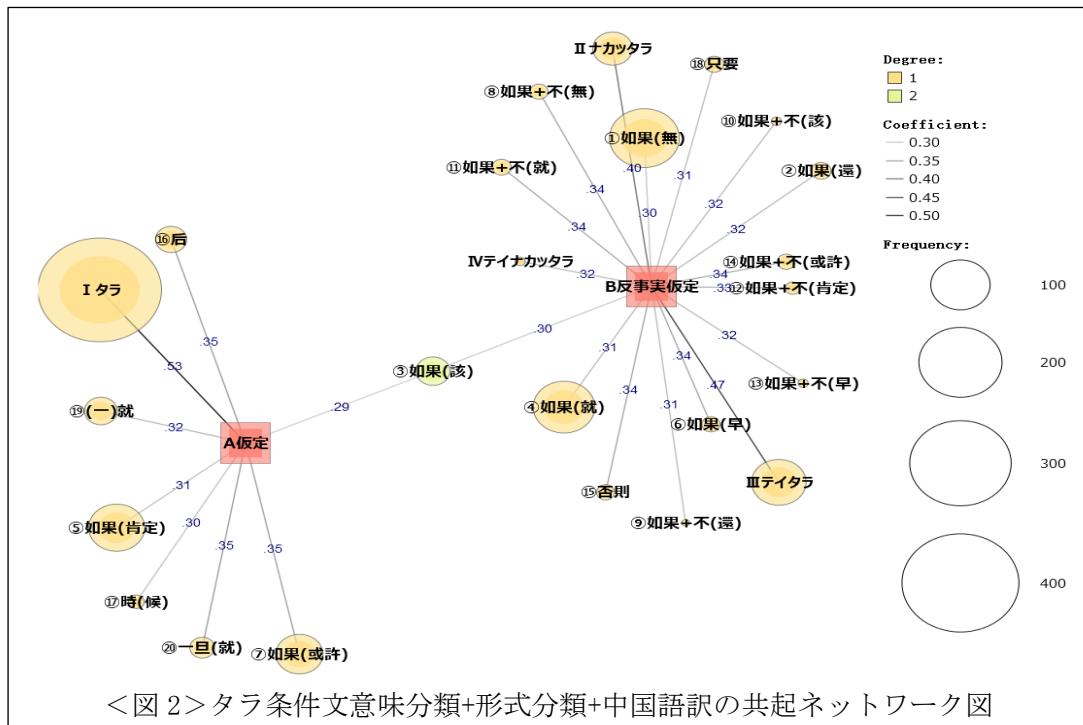
意味分類	形式分類	テンス・アスペクト
グループ 1A 仮定	I タラ (0.53)	q ル (0.61)
グループ 2B 反事実仮定	III テイタラ (0.47)	q タ (0.50)
	II ナカッタラ (0.40)	q テイタ (0.43)
	IV テイナカッタラ (0.32)	q 無し (0.34)

表4から見れば、Iタラは主に仮定を表し、その後に一般的qルを使う傾向がある。反事實仮定はおもにIIIティタラ、IIナカッタラ、IVティナカッタラで表す、その後にqタ、qティタ、q無しを使う傾向がある。

4.2 タラ条件文と中国語訳共起分析

4.1 のように表 1、表 3 を利用して共起ネットワーク分析を通じて図 2 のように作成した。図 2 の内容をまとめた中国語反事実標識は副詞と共に傾向は表 5 のようである。その中、円形は二種類がある、黄色円形は一つの四角形と結ぶものであり、薄黄色円形は二つの円形と結ぶものである。表 5 から見れば仮定を表す場合 I タラという形式を使用する傾向があるといえる。それに関連度のある中国語訳は⑦如果(或許) (0.35)などである。タラ条件文は反事実仮定を表す場合はⅢティタラ (0.47) などという形式を使用する傾向がある。その訳し方は表 5 のようにおもに④如果(就) (0.34)などがある。

以上からわかるのは、日本語反事実仮定を表すときテイナカッタラ、ティタラといった前件には q テイル・ q テイタ形が出現する可能性が高い。また肯定形よりナカッタラ、ティナカッタラといった否定形が反事実仮定に成り立つ傾向がある。



意味	形式	中国語表現
グループ 1A 仮定	I たら (0. 53)	⑦如果(或許) ⑩一旦(就) ⑯后(0. 35)
		⑯(一)就(0. 32)
		⑤如果(肯定)(0. 31)
		⑯時(候)(0. 30)
		②如果(該)(0. 29)
グループ 2B 反事実仮定	III ていたら (0. 47)	④如果(就) ⑧如果+不(無) ⑥如果(早) ⑪如果+ 不(就) ⑯否則 ⑭如果+不(或許) (0. 34)
	II なかつた ら (0. 40)	⑫如果+不(肯定)(0. 33)
	IV ていなか ったら (0. 32)	②如果(還) ⑩如果+不(該) ⑬如果+不 (早) (0. 32)
		④如果(就) ⑨如果+不(還) ⑯只要(0. 31)
		①如果(無) ③如果(該)(0. 30)

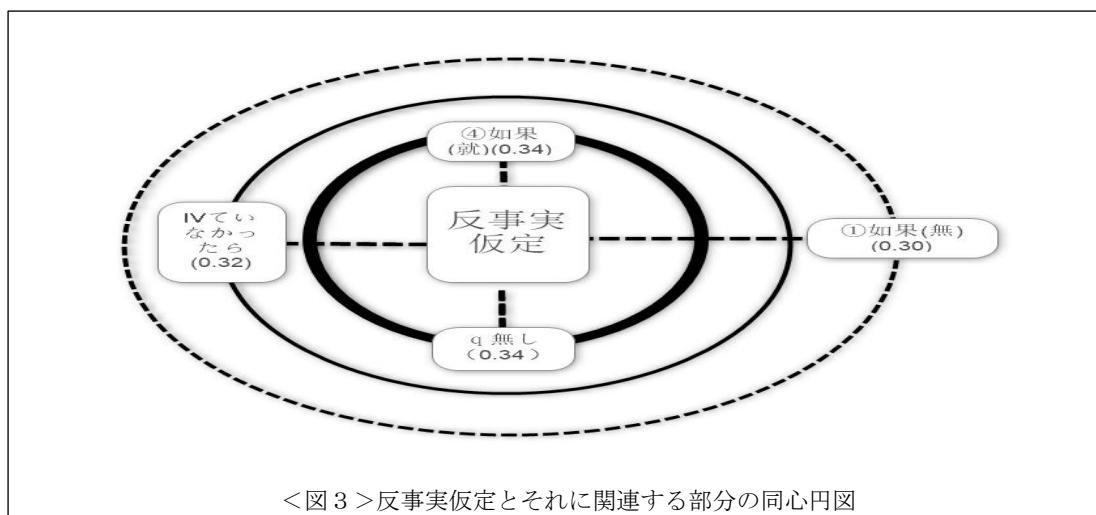
4.3 共起傾向

本論文の共起ネットワーク図はユークリッド距離に基づいて描画された図形である。二
次元におけるユークリッド距離は 2 点間の真実的な距離を表す。距離が短いほど類似度
または関連度が高くなる。

二次元におけるユークリッド距離の方程式は $\rho = \sqrt{(x_2 - x_1)^2 + (y_2 - y_1)^2}$ である。そのため、図に書かれている係数は高ければ高いほどその関連度が高いので、係数は距離との関係を反比例の関係である。 (x_1, y_1) を原点いわゆる $(0, 0)$ と見なすと、その距離は

$\rho = \sqrt{x_2^2 + y_2^2}$ となった。原点から ρ を半径に円を描くと、 (x_2, y_2) は円上の任意の点

に現われることになる。



意味分類	形式分類	テンス・アスペクト	中国語訳
			⑯(一)就(0.32) ⑤如果(肯定)(0.31) ⑰時(候)(0.30) ②如果(該)(0.29) ⑦如果(或許) ⑯一旦(就) ⑯后(0.35) ⑯(一)就(0.32) ④如果(就) ⑧如果+不(無) ⑥如果(早) ⑪如果+不(就) ⑮否則 ⑭如果+不(或許)(0.34)
グループ2 反事実仮定	III ついいたら (0.47) II なかつたら (0.40) IV ついなかつたら (0.32)	q タ (0.50) q テイタ (0.43) q 無し (0.34)	⑫如果+不(肯定)(0.33) ②如果(還) ⑩如果+不(該) ⑬如果+不(早)(0.32) ④如果(就) ⑨如果+不(還) ⑮只要(0.31) ①如果(無) ③如果(該)(0.30)

本稿では反事実仮定を原点とし、反事実仮定につながる形式分類はIVティナカッタラ(0.32)；テンス・アスペクトはq無し(0.34)；中国語表現は④如果(就)(0.34)、①如果(無)(0.30)などである。わかりやすく説明できるように、図形を簡単にして中国語表現をただ一類に選択した。その円形を描画すると図3のようである。反事実仮定が原点位置にあり、原点から離れたものは係数が大きさと関係している。原点に近いのは距離が短くて係数が大きいのである。距離の短いからの順番は：④如果(就)(0.34)・q無し(0.34)；IVティナカッタラ(0.32)、①如果(無)(0.30)である。図形は円上のある点から原点までの関係を示すだけでなく、円と円の間の関係も示している。近い円の間も「反事実仮定」に対して似ているとはいえる。係数が同じであることは係数が近いことは相互に借用できるとはいえる。係数が高ければ高いほど、原点との関連度が強い。以上の規則に従って、

表 6 をまとめた。

意味分類	形式分類	テンス・アスペクト	中国語訳
グループ 1 仮定 (0.53)	I たら (0.53)	q ル (0.61)	⑦如果(或許) ⑯一旦(就) ⑯后 (0.35) ⑯(一)就(0.32) ⑤如果(肯定) (0.31) ⑯時(候) (0.30) ②如果(該) (0.29) ⑦如果(或許) ⑯一旦(就) ⑯后 (0.35) ⑯(一)就(0.32)

<表 6 > タラ条件文意味分類+形式分類+テンス・アスペクト+中国語訳の共起傾向

5. おわりに

本文では 200 編の日本語小説とその中訳文から「仮定」と「反事実仮定」を表すタラ条件文 577 例を抽出し、意味分類、形式分類、後件にあるテンス・アスペクトと中国語表現という四者間の対応関係を明らかにした。反事実を表す場合は III テイタラ、II ナカッタラなどで表す傾向が強い。それに対して普通の仮定を表す場合はやはり I タラである。否定形とテイル形は反事実仮定を表す傾向が強い。またタラ条件文の仮定文は一般的に I タラによって表され、後ろに q ルを使う傾向がある。反事実仮定 III テイタラなどで、その後に q タ、q テイタ、q 無しを使う傾向がある。そして仮定を表す I タラに関連度のある中国語訳は⑦如果(或許)などである。反事実仮定を表す III テイタラ、II ナカッタラ、IV テイナカッタラという形式の訳し方はおもに④如果(就)、⑧如果+不(無)、などである。最後にユーリッド距離によっての最強関連成分。仮定を表す場合: I タラ+q ル+⑦如果(或許)など。反事実仮定を表す場合: (1) III テイタラ+q タ+⑧如果+不(無)など、(2) II ナカッタラ+q テイタ+⑧如果+不(無)など、(3) IV テイナカッタラ+q 無し+⑭如果+不(或許)など。

参考文献

- [1] 蓮沼昭子・有田節子・前田直子. 条件表現(日本語文法セルフマスター シリーズ 7) [M]. 東京: くろしお出版, 2001.
- [2] 日本語記述文法研究会. 『現代日本語文法 6 第 11 部複文』 [M]. 東京: くろしお出版社, 2008.
- [3] 李光赫, 张北林, 林乐青, 王楠. 复句日汉对比实证研究 [M]. 广州: 世界图书出版公司, 2014.
- [4] 马赫. 日中翻译关联度定量研究 [D]. 大连理工学, 2020. DOI: 10.26991/d.cnki.gd11u.2020.000040.
- [5] 李光赫、邹善军, 函数检验诠释下的日译汉策略研究——以タラ条件句翻译类型为例, 东北亚外语研究, 东北亚外语研究, 2021.9, 第 3 期, p81-89.
- [6] 李光赫, 赵海城, 関数検定から見るタラ条件文の中国語訳ストラテジー研究, 明星国際コミュニケーション研究 (10), 2018 : 15-28.

中国語と日本語の慣用句における「茄子」のイメージの対照研究

徐秀姿（上海海事大学）・徐暢（上海对外经贸大学）

XU Xiuzi · XU Chang

A Contrastive Study of the Image of 'Nasu (Eggplant)' in Chinese and Japanese Idioms

要旨：茄子作为常见的蔬菜和食物，在中文与日语中都有关于“茄子（「なす」）”的惯用语。本论文首先搜集了含“茄子（「なす」）”的谚语、歇后语，从“茄子（「なす」）”的描写角度、意义用法、意象这三个角度进行了分析。从描写角度看，中文有关于收获、言语活动的惯用语，日语中则没有。在意义用法方面，中文的“茄子”相关惯用语中形容人、事物、动作的较多，而日语中描述生活经验和智慧的较多。在意象方面，中文中有不少带有“奇怪”、“软”等负面意象的惯用语，而日语中表示吉利、不浪费等正面意向的惯用语较多。

キーワード：なす；茄子；ことわざ；かけことば；慣用句

目次

0. 調査の概要

1. 慣用句における茄子の捉えられ方
2. 「茄子」に関わる慣用句の意味用法
3. 「茄子」に関する慣用句のイメージ
4. まとめと今後の課題

0. 調査の概要

本論文はまず“茄子”と「茄子」に関わるかけことばやことわざを調べてみた。具体的には、中国語では、『汉语谚语歇后语俗语分类大词典』（『中国語ことわざ・かけことば・俗語分類大辞典』）で、“茄子”に関わることわざやかけことばを調べると 25 件あった。一方、日本語では「茄子」・「なす」・「なすび」のバラエティーがあるので、『故事ことわざ辞典』、『植物故事ことわざ』、『和食ことわざ事典』、『現代に生きる故事ことわざ辞典』、『日中ことわざ辞典』、『小学館 ことわざを知る辞典』、オンライン辞典『Weblio 類語辞書』、『コトバの意味辞典』、『ことわざ辞典 online』で調べ、この三つの言葉が含まれるかけことばやことわざを 14 件得た。

これらのかけことばやことわざにおける茄子の捉えられ方、意味用法を分析し、中国語と日本語の「なす」に関するイメージの異同を説明する。便宜上、かけことばやことわざを特に区別せずにいう場合は「慣用句」を使うことがあるのを断つておく。

1. 慣用句における茄子の捉えられ方

茄子は日常生活でよく見られる植物として、外形や色、植栽、生長、収穫などの面を持っている。またよく食べられる野菜として、食用の面もある。中国語と日本語の慣用句には茄子のこれらの面が捉えられているものが多い。他に、言語活動に関する慣用句や、語呂合わせによって構成された慣用句もある。

1.1 茄子が野菜として捉えられた慣用句

茄子が野菜として外形や色、植栽、生長、収穫、食用などの面での特徴を捉えられた慣用句をまとめると、表1のようになる。

表1 茄子が野菜として捉えられた慣用

	中国語	日本語
外形や色	辣椒棵上结茄子——红得发紫（注）	茄子の巾着口あかぬ
	胸脯上挂茄子——多心	茄子と男は黒いのがよい
	脊梁骨上长茄子 / 脊梁上背茄子——生了外心	
植栽	辣椒一行，茄子一垄——有条不紊、井井有条、井然有序	茄子は友露受けねば千なる
		茄子苗と女は余らぬ
生長	高粱秆上结茄子——无奇不有、不可思议	瓜の蔓に茄子は生らぬ
	辣椒棵上结茄子——红得发紫	瓜の蔓には茄子はならぬ
	茄子棵上结黄瓜——杂种、变种	
	茄子树上结大椒——怪种	
	茄子上面生苦瓜——杂种	
	茄子开黄花——变了种	
	脊梁骨上长茄子 / 脊梁上背茄子——生了外心	
収穫	半夜摘茄子——有一个是一个	
	半夜摸茄子——也不分个老嫩	
	揪下茄子拔了秧——连根收拾	
	霜打茄子——软不拉耷、蔫啦	
食用	饭锅上的茄子——软货	秋茄子は嫁に食わすな
	酱缸里的茄子——拣软的捏	秋茄子嫁に食わせて七里追う
	茄子炒胡瓜 / 茄子炒南瓜——不分青红皂白	ナスや梅干しは人の食いかけを食うな
	吃了烧茄子——多心	

注：“辣椒棵上结茄子——红得发紫”は色を捉えている一方、茄子の結ぶ場所も取り上げ、“脊梁骨上长茄子 / 脊梁上背茄子——生了外心”は茄子の形を心臓に例えて言うので、それぞれ「外形や色」と「生長」の二か所に分類している。

表1を見れば、中国語では茄子の外形や色に関する慣用句は三つあります。“辣椒棵上结茄子——红得发紫”は赤いトウガラシの上で紫の茄子が結んでいる場面を描き、紫に見えるほど赤いという意味を表し、人気絶頂の人のことを指す。“胸脯上挂茄子——多心”、“脊梁骨上长茄子 / 脊梁上背茄子——生了外心”は心の変わりやすい人、移り気な人、多情な人のことを指す。

一方、日本語では二つある。「茄子の巾着口あかぬ」は茄子は「巾着の形をしているが口のあけようがない。だんまりで口の重い(口数が少ない)人のことをいう」(近藤 1997:68)。そして、「茄子と男は黒いのがよい」は、茄子は「黒光りくらいのものが新鮮でよい。男も色が黒いほうが、いかにも健康的でよい」ということである(永山 2014:115)。

茄子の植栽に関わる慣用句は中国語では一件、日本語では二件ある。中国語の“辣椒一行、茄子一塗——有条不紊、井井有条、井然有序”は、トウガラシと茄子が畑の畝で整然と栽培されている様子を表し、秩序立っていて少しの乱れもない様子を表現している。

一方、日本語の「茄子は友露受けねば千なる」は「茄子は密植しなければ、収穫の多いものであるため、肥料を多量に必要とするから、密植を戒める」という意味である(鈴木 1969:698)。「茄子苗と女は余らぬ」は「茄子の苗は仮植をくり返すため苗は多く用意するほどよい。女は世間に多いが、いくら多くても皆それぞれ夫を持って余り物にはならない」という意味である(鈴木 1969:698)。この二つの慣用句は茄子の生長の特徴を表し、農家の知恵が含まれている植栽方法を表現している。

中国語では茄子の生長過程に関わるかけことばが多い。“高粱秆上结茄子——无奇不有、不可思議”などは茄子が異常な場所に生えることを表し、不思議である、変であるという意味を表している。“茄子棵上结黄瓜——杂种、变种”などは、茄子に違う植物が生えていてこと、あるいは茄子に紫ではなく、黄色い花が咲いていることを想像し、変種、全く違うものになってしまうという意味を表している。“脊梁骨上长茄子/脊梁上背茄子——生了外心”は茄子の生える場所を人間の身体部位に変えて、多情な人のことを指している。

一方、日本語では「瓜の蔓には茄子はならぬ」ということわざがある。中国語のかけことばが表している不思議である、変であるというイメージと違い、「一つの原因からは、それ相応の結果しか生まれない」ということ。また、平凡な親からは、非凡な子どもは生まれないということのたとえ」である(ことわざ辞典 online)。

中国語には茄子の収穫に関わるかけことばもある。例えば、“半夜摘茄子——有一个是一个”、“半夜摸茄子——也不分个老嫩”は、人が真っ暗な夜中で茄子狩りをする様子を表し、物事にこだわりがない、あるいはどうでもいいという意味を表現している。また、“揪下茄子拔了秧——连根收拾”は、茄子を摘む時、その茎も丸ごと引き抜くことで、物事を徹底的に処理することを比喩している。一方、日本語には収穫に関わる慣用句がない。

茄子は古くから人々の食卓に現れている野菜であるため、中国語にも日本語にも茄子の食用に関わる慣用句がある。例えば、“饭锅上的茄子——软货”は、料理した茄子が柔らかくなるという特徴を捉え、軟弱な人のことを比喩するのに使われる。“茄子炒胡瓜 / 茄子炒南瓜——不分青红皂白”は、茄子を“胡瓜”(キュウリの旧称)、あるいはカボチャと一緒に炒めて作った料理のことである。そして、変わっている組み合わせ、物事が乱雑な状態になっている様子、あるいは善悪の見境いがない人のことを表している。

食用に関しては、日本語では、「秋茄子は嫁に食わすな」ということわざがよく知られている。永山(2014:110)によると、その解釈には昔から諸説があるが、大ざっぱには姑の

嫁いびり説、嫁の身を案じる心配説と「秋なすはネズミに食わすな」という三つの説に分類できる。これと似たように「秋茄子嫁に食わせて七里追う」ということわざもあり（鈴木1969:6）、「ナスや梅干しは人の食いかけを食うな」という俗信もあるようだ。

1.2 言語活動に関する慣用句

表2にまとめられているように、中国語では、言語活動を表している「茄子」のかけことばがあり、おしゃべりをする、雑談をすることを指す。一方、日本語には言語活動に関する茄子の慣用句はない。

表2 言語活動に関する慣用句

	中国語	日本語
言語活動	茄子地里说黄瓜——想啥说啥; 爱说啥说啥	
	茄子地里道黄瓜——爱说啥说啥	
	数冬瓜道茄子——唠唠叨叨、没完没了	

1.3 語呂合わせによって構成された慣用句

表3 語呂合わせによって構成された慣用句

	中国語	日本語
語呂合わせ	秋茄子——子（籽）多	一富士、二鷹、三茄子
	一篮茄子一篮豇豆——两难（籃）	

表3にあるように、中国語にも日本語にも茄子の語呂合わせによって構成された慣用句がある。“秋茄子——子（籽）多”的“籽多”は、秋の茄子は種が多いという特徴を表しているが、“籽”（種）と“子”（子供）は語呂合わせになり、子供が多くなるようにという意味を表している。

一方、日本語では、「一富士、二鷹、三茄子」ということわざがある。初夢に見ると縁起がいいとされるものを順に並べたことばで、日本でよく知られている。その由来や発祥には諸説あるが、その中の一つの説では、「茄子」は「成す」と語呂合わせになり、「富士は高大、鷹はつかみ取る、茄子は成すの意」であると説明されている（コトバンク）。

1.4 その他

表4 その他

	中国語	日本語
その他	茄子也让三分老	茄子を踏んで蛙と思う
	茄棵上吊不死人	

外形や色、植栽、生長、収穫、食用、言語活動、語呂合わせのどれにも入れられないものを「その他」に分類すると、表4になる。中国語の“茄子也让三分老”は、高齢者には敬意をもって接するべきだという意味をもっている（汉语谚语歇后语俗语分类大词典编写

組（以下「編写組」と略する）1987:696）。“茄子上吊不死人”は、気にするほど重要な事ではないので、落ち込んだりする必要がないという意味を表している（編写組 1987:621）。

日本語の「茄子を踏んで蛙と思う」は「疑心暗鬼」と同じ意味で、何もかも疑わしく思う人のことを指す。夜間に外出した男が茄子を踏んで「ぐい」と音がしたのを聞き、蛙を踏み殺したと勘違いした。その夜、夢の中で大量の蛙に責め苛まれるが、翌朝外に出て確認してみると蛙と思ったものは実は茄子だったと知ったという逸話に由来しているという説がある（コトバの意味辞典）。

2. 「茄子」に関わる慣用句の意味用法

用法	中国語	意味	日本語	意味
人を形容する	脊梁骨上长茄子 / 脊梁上背茄子——生了外心	心の変わりや すい人	茄子の巾着口あかぬ	口数が少ない人
	胸脯上挂茄子——多心		茄子を踏んで蛙と思う	疑心暗鬼の人
	吃了烧茄子——多心	軟弱な人		
	饭锅上的茄子——软货			
	霜打茄子——软不拉耷、蔫啦			
	秋茄子——子（籽）多	子供が多い人		
	辣椒棵上结茄子——红得发紫	人気絶頂の人		
物事を形容する	茄子棵上结黄瓜——杂种、变种	異常な様子		
	茄子树上结大椒——怪种			
	茄子上面生苦瓜——杂种			
	茄子开黄花——变了种			
	高粱秆上结茄子——无奇不有、不可思议			
	辣椒一行，茄子一垄——有条不紊、井井有条、井然有序	整然とした様子		
	茄子地里说黄瓜——想啥说啥	思うままに話 しをする		
行為を表す	茄子地里道黄瓜——爱说啥说啥			
	揪下茄子拔了秧——连根收拾	物事を徹底的に処理する		
	奈何不得冬瓜，只把茄子磨——欺软怕硬	弱い者をいじ める		
	酱缸里的茄子——拣软的捏			
	数冬瓜道茄子——唠唠叨叨、形容说话罗唆，没完没了	おしゃべりを する		
	茄子炒胡瓜 / 茄子炒南瓜——不分青红皂白	善悪の見境い がない		

表5 「茄子」に関わる慣用句の意味用法

表 5 「茄子」に関わる慣用句の意味用法（続き）

用法	中国語	意味	日本語	意味
行為を表す	茄子地里说黄瓜——想啥说啥	思うままに話 しをする		
	茄子地里道黄瓜——爱说啥说 啥			
	揪下茄子拔了秧——连根收拾	物事を徹底的 に処理する		
	奈何不得冬瓜, 只把茄子磨—— 一欺软怕硬	弱い者をいじ める		
	酱缸里的茄子——拣软的捏			
	数冬瓜道茄子——唠唠叨叨、 形容说话罗唆, 没完没了	おしゃべりを する		
	茄子炒胡瓜 / 茄子炒南瓜—— 不分青红皂白	善悪の見境い がない		
生活の 知恵や 戒めを 表す	茄子也让三分老	高齢者には敬 意をもって接 するべき	茄子は友露受けねば千 なる	栽培の経験
	茄棵上吊不死人	気にするほど 重要な事では ない	茄子苗と女は余らぬ	女は余り物にはな らない
			瓜の蔓に茄子は生らぬ	一つの原因から は、それ相応の結 果しか生まれない
			瓜の蔓には茄子はなら ぬ	
			茄子と男は黒いのがよ い	男は色が黒くて丈 夫なほうがよい
			秋茄子は嫁に食わすな	嫁いびり
			秋茄子嫁に食わせて七 里追う	
			茄子と年寄りの意見に は無駄がない	親の意見はすべて 役に立つものだ
			親の意見と茄子の花は 千に一つも無駄はない	
			茄子の花と親の意見は 千に一つも仇はない	
			なすの花と親の意見 は、千にひとつも仇が ない	
民間の 俗信を 表す			一富士、二鷹、三茄子	
			ナスや梅干しは人の食 いかけを食うな	
その他	半夜摘茄子——有一个是一个			
	半夜摸茄子——也不分个老嫩			

意味用法から見れば、「茄子」に関わる慣用句は表 5 のように人を形容する、物事を形容する、行為を表す、生活の知恵や戒めを表す、民間の俗信を表すに分類できる。

2.1 人を形容する

中国語のかけことばで、人を形容するものはまた四つの種類に分類することができる。“胸脯上挂茄子——多心”などは心の変わりやすい人のことを指す。“霜打茄子——软不拉耷、蔫啦”などは軟弱な人のことを指す。“秋茄子——子（籽）多”は子供が多い人のことを指す。“辣椒棵上结茄子——红得发紫”は人気絶頂の人のことを指す。

一方、日本語の「茄子の巾着口あかぬ」はだんまりで口数が少ない人のことをいう。また、「茄子を踏んで蛙と思う」は疑心暗鬼になる人のことを指す（コトバの意味辞典）。

2.2 物事を形容する

中国語には物事を形容するかけことばも少なくない。“茄子棵上结黄瓜——杂种、变种”などは異常な物事あるいは不思議な物事を指す。“辣椒一行，茄子一垄——有条不紊”は物事の整然とした様子を指す。それに対し、日本語には物事を形容する慣用句はあまりない。

2.3 行為を表す

中国語には、行為を表すかけことばもある。“茄子地里道黄瓜——爱说啥说啥”などは人が思うままに話をすることを表し、“揪下茄子拔了秧——连根收拾”は、物事を徹底的に処理することを指す。“奈何不得冬瓜，只把茄子磨——欺软怕硬”などは弱い者をいじめ、強い者にはぺこぺこすることを指す。“数冬瓜道茄子——唠唠叨叨”はだらだらといつ果てるともなくしゃべり続けることを指す。“茄子炒胡瓜——不分青红皂白”は善悪の見境いがないことを指す。一方、日本語には行為を表す慣用句はあまりない。

2.4 生活の知恵や戒めを表す

ことわざは生活の知恵に満ちており、子孫や後世の人を戒める働きがある言葉である。中国語にも日本語にも生活の知恵や戒めを表す慣用句がある。

中国語では、“茄子也让三分老”は、高齢者には敬意をもって接するべきだという意味をもっている（编写组 1987:696）。また、“茄子棵上吊不死人”という俗語もある。

一方、日本語では「茄子は友露受けねば千なる」は栽培の経験を語り、「茄子苗と女は余らぬ」は民間の考え方を表している（鈴木 1969:698）。「瓜の蔓に茄子は生らぬ」「茄子と男は黒いのがよい」「秋茄子は嫁に食わすな」「茄子と年寄りの意見には無駄がない」などはそれぞれ生活の知恵や戒めを表している。

2.5 民間の俗信

日本語では、民間の俗信のことわざがある。「一富士、二鷹、三茄子」は初夢に見ると縁

起がいいもの、つまり富士山、鷹、茄子を並べている。また、「ナスや梅干しは人の食いかけを食うな」という俗信もある。

3. 「茄子」に関する慣用句のイメージ

言語表現は語・句・文のすべての段階でゲシュルトとしての性質を持っていて、ゲシュルトとして知覚されている（辻 2003：70；84–87）。第2章で「茄子」に関する慣用句における「茄子」の捉えられ方や意味用法を考察してきたが、慣用句を全体的に見て、プラスなのか、マイナスなのか、それともニュートラルなのかのイメージに違いがある。この視点から中国語と日本語の「茄子」に関する慣用句をまとめると、表6になる。

表6 「茄子」に関する慣用句のイメージ

	中国語	日本語
プラス	辣椒一行，茄子一垄——有条不紊、井井有条、井然有序	一富士、二鷹、三茄子
	茄子也让三分老	茄子と年寄りの意見には無駄がない
		親の意見と茄子の花は千に一つも無駄はない
		なすの花と親の意見は、千にひとつも仇がない
マイナス	茄子棵上结黄瓜——杂种、变种	茄子を踏んで蛙と思う
	茄子树上结大椒——怪种	
	茄子上面生苦瓜——杂种	
	高粱秆上结茄子——无奇不有、不可思议	
	茄子开黄花——变了种	
	茄子炒胡瓜 / 茄子炒南瓜——不分青红皂白	
	霜打茄子——软不拉登、蔫啦	
	饭锅上的茄子——软货	
	酱缸里的茄子——拣软的捏	
	奈何不得冬瓜，只把茄子磨——欺软怕硬	
	脊梁骨上长茄子 / 脊梁上背茄子——生了外心	
	胸脯上挂茄子——多心	
	吃了烧茄子——多心	
	数冬瓜道茄子——唠唠叨叨、形容说话罗唆，没完没了	
ニュートラル	茄棵上吊不死人	茄子苗と女は余らぬ
	秋茄子——子（籽）多	茄子は友露受けねば千なる
	一篮茄子一篮豇豆——两难（篮）	瓜の蔓に茄子は生らぬ
	辣椒棵上结茄子——红得发紫	瓜の蔓には茄子はならぬ
	揪下茄子拔了秧——连根收拾	茄子の巾着口あかぬ
	茄子地里说黄瓜——想啥说啥；爱说啥说啥	茄子と男は黒いのがよい
	茄子地里道黄瓜——爱说啥说啥	ナスや梅干しは人の食いかけを食うな
	半夜摘茄子——有一个是一个	秋茄子は嫁に食わすな
	半夜摸茄子——也不分个老嫩	秋茄子嫁に食わせて七里追う

3.1 プラスのイメージ

中国語では、プラスのイメージを持っている慣用句には“辣椒一行，茄子一垄——有条不紊、井井有条、井然有序”と“茄子也让三分老”がある。前者は整然としたものや状態を表し、後者は高齢者には敬意をもって接するべきだという意味である。

中国語に比べ、日本語ではプラスのイメージの慣用句が多い。「一富士、二鷹、三茄子」は縁起がいいものを表し、「茄子と年寄りの意見には無駄がない」などは、茄子の花は美味しい果実になるので、無駄がないことを表している。

3.2 マイナスのイメージ

中国語では茄子のマイナスのイメージを表現している慣用句が多く、幾つか共通している意味がある。まず中国語のかけことばでは、茄子は軟弱という特徴が強い。例えば、“霜打茄子——软不拉耷、蔫啦”は、晚秋夜間温度が低くて畠の植物についていた水分が薄い霜となり、茄子は寒さに耐えきれず外側にしづが寄ってしまう。したがって、霜降り茄子は精神的に落ち込んでいる、元気がない人のことを表す。“饭锅上的茄子——软货”なども茄子の軟弱の特徴を強調したもので、人の元気のない様子、あるいは弱い様子を表現している。

次は不思議である、変であるという意味である。“高粱秆上结茄子——无奇不有”などは茄子が異常な場所に生えることを表現し、不思議である、変であるという意味を表す。

また、“胸脯上挂茄子——多心”などは茄子の生える場所を人の身体部位に変えて、心の変わりやすい人、移り気な人、多情な人のことを指している。

一方、日本語では「茄子を踏んで蛙と思う」は疑心暗鬼を指しマイナスイメージである。

3.3 ニュートラルのイメージ

プラスにも、マイナスにも分類できない慣用句がある。例えば、“茄子地里道黄瓜——爱说啥说啥”と「茄子は友露受けねば千なる」である。これらの慣用句は主に生活の知恵や栽培の経験を語り、ニュートラルのイメージを表している。

4. まとめと今後の課題

茄子は人々の生活に密着している。中国語と日本語の「茄子」に関する慣用句は共通しているところもあれば、違っているところも多い。茄子の捉えられ方から見れば、中国語にも日本語にも、茄子の外形や色、植栽、生長、食用の面を捉える慣用句や、語呂合わせによって構成された慣用句がある。一方、中国語には収穫に関わる慣用句と言語活動に関する慣用句があるのに対して、日本語にはない。また、生長に関わる慣用句は中国語のほうが日本語より少し多い。

意味用法から見れば、中国語には人、物事、あるいは行為を形容する慣用句が多いが、日本語では、生活の知恵や戒めを表す慣用句が多い。それに、中国語にも日本語にも、同じ意味を表すのには複数の話し方のある慣用句がある。例えば、異常な様子を表すのには、中国語には“茄子棵上结黄瓜——杂种、变种”など五つの話し方がある。これと同じよう

に、日本語には、親の意見はすべて役に立つものだということを表すのには「茄子と年寄りの意見には無駄がない」など四つの話し方がある。その他、日本語には民間の俗信を表すことわざもある。

「茄子」に関する慣用句のイメージから見れば、中国語では、茄子は変である、軟弱であるイメージが含まれ、プラスよりマイナスのイメージのほうが強い。それに対し、日本語では、茄子は縁起のいいものとされたり、無駄のないものとされたりして、プラスのイメージのほうが強いのである。中国人と日本人の「茄子」に対するイメージにはかなり違いがある。

本論文では、中国語と日本語の「茄子」に関わる慣用句を考察したが、これからさらに研究を進めるべき点が多くある。例えば、「茄子」の捉えられ方や意味用法、そしてイメージの違いにはどんな歴史的、文化的な原因があるのはまだ明らかにされていない。また、本論文では「茄子」に関する慣用句のイメージについての考察は主に辞書での説明にもとづいているが、中国人と日本人は実際にどんなイメージを抱いているのかも、アンケート調査やインタビュー調査を通して検証する必要がある。これらを今後の研究課題としておく。

参考文献

- [1]Weblio 類語辞書. <https://thesaurus.weblio.jp>, 2021-08
- [2]金丸邦三. 日中ことわざ辞典[M]. 東京都：同学社, 2000 : 44
- [3]コトバの意味辞典. <https://word-dictionary.jp>, 2021-08
- [4]コトバンク. <https://kotobank.jp>, 2021-08
- [5]ことわざ辞典 online. <https://kotowaza.jitenon.jp>, 2021-08
- [6]近藤浩文. 植物故事ことわざ[M]. 大阪市：保育社, 1997:68-69
- [7]鈴木栄三, 広田栄太郎. 故事ことわざ辞典[M]. 東京都：東京堂出版, 1969 : 6, 698
- [8]辻幸夫. 認知言語学入門[M]. 東京都：大修館書店, 2003 : 70 ; 84-87
- [9]永山久夫. 和食ことわざ事典[M]. 東京都：東京堂出版, 2014 : 110, 115
- [10]《汉语谚语歇后语俗语分类大词典》编写组. 汉语谚语歇后语俗语分类大词典[M]. 呼和浩特：内蒙古人民出版社, 1987 : 621, 696

日中流行語に見られる形態素化現象に関する対照分析

——「ちょい」と“微”を中心に——

張黎（大連外国语大学）¹⁾

Zhang · Li

A Contrastive Study of morpheme in Japanese and Chinese

catchwords——A case study of "ちょい" and "微"——

要旨

本研究在梳理前人研究的基础上，提出基于语法变异理论，从对比语言学的视角研究日语流行语“ちょい”和汉语流行语“微”的必要性。运用语法变异理论探讨了“ちょい”和“微”的形态素化现象，并在语义范畴和句法范畴层面，从对比语言学的视角厘清了“ちょい”和“微”的对应与非对应关系，从而透视两者的语法特征，以及在语言学习过程中的词语运用规律。本研究不仅有助于语言学研究，也有助于语言教育学研究。

キーワード：流行語 形態素化 文法的バリエーション カテゴリー 対応・非対応関係

目次

- はじめに
- 先行研究の再検討
- 流行語としての「ちょい」の形態素化現象の概観
- 流行語における形態素化現象としての“微”的意味・用法の概観
- 対照分析
- まとめ

1. はじめに

流行語は言語変化の表現形式の一つである。そのため、その意味・機能によって文法的バリエーションを考察することは言語学一般の面ではもとより、対照言語学の面でも重要である。日本語の品詞と中国語の品詞に関する対照研究は数多くなされているが、流行語の形態素化現象に見られる文法的バリエーションに関する対照研究はまだないようである。

コーパス²⁾の考察を通じて、日本語の流行語としての「ちょい」も中国語の流行語とし

¹⁾本研究は「2021年度辽宁省教育厅基本科研项目（青年项目 LJKQR2021053）、2021年度大连外国语大学校级科研项目（青年项目 2021XJQN37）」の中間成果である。

²⁾本研究で使用される用例は中国語の《中国青年报》《人民网》などの新聞や雑誌から抽出した400以上の実用例、及び日本の『毎日新聞』『週刊ポスト』などの新聞や雑誌から得られた300以上の実用例である。

ての“微”ももともとのカテゴリーを離脱し、形態素の意味・機能を担っていることを明らかにした。さらに、形態素化現象としての「ちょい」は形態素化現象としての“微”と対応する部分もあることを突き止めた。しかし、両者がどんな場合に対応し、どんな場合に対応しないかについての研究は、管見する限りまったくなされていない。

そのため、本研究では、形態素化現象に焦点を当てて、文法的バリエーションの観点から日本語の流行語としての「ちょい」と中国語の流行語としての“微”的特徴や意味的特徴を照らし合わせ、どの部分が共通し、どの部分が相違しているかを明らかにし、日本語と中国語に関する対照研究のためのルールを確立したい。

2. 先行研究の再検討

日本語の「ちょい」は一般的に俗語として認められるとはいえ、言語表現の一つとして研究の意義があると思われる。2005年度の流行語としての「ちょい」はもともと副詞としてとらえるべき語である。副詞の特徴については、構文の角度から「副詞は一般に主語や述語のような主要成分としてはたらくことがなく、もっぱら主となるものはたらきを助ける修飾語としてはたらく、というような副次的な職能に限定されているのである……形態上独立しているものであるが、その後にさらに格助詞のようなものが来ることができない。」(戦慶勝 2003:107-108)と指摘されている。

言うまでもなく、以上のような見解は副詞の構文的特徴をある程度反映している。しかし、戦慶勝(2003:107-108)の分析は副詞の伝統的な意味・機能にしかあてはまらないため、流行語としての「ちょい」の新たな意味・機能をとらえる上で充分とは言えない。

確かに、例(1)に示すように、「ちょい」は修飾語として動詞の「がんばってみる」を修飾し、副次的な副詞の機能を担い、独立している。この点においては、戦慶勝(2003:107-108)の観点と一致していると言える。しかし、例(2)の「ちょい」は流行語であり、例(1)の意味・用法と異なっているように思われる。

(1)そして青春期の夢に再び出会うと、人は、人生もうちょいがんばってみるか、という気持ちになってくる。(『毎日新聞』2013年9月26日)

(2)効果音素材を無料配布しているサイト「ちょい音」へようこそ!(『ちょい音』2009年11月3日)(欢迎来到免费分享“效果音”素材的网站“(微/小/*稍微)声音”。)

例(1)の「ちょい」は副詞として独立して用いられているのに対して、例(2)の「ちょい」は名詞の「音」を伴い、形態素としてとらえられる。そのような「ちょい」は戦慶勝(2003:107-108)の記述とは異なっていることと認めなければならない。例(2)の「ちょい」と例(1)の「ちょい」は異なる役割を果たしているので、例(2)の「ちょい」が完全に副詞の意味・機能を持っているとは言い切れない。つまり、「ちょい」が流行語として新たな意味的特徴や統語的特徴を有するかどうかについては再考する余地がある。そして、副詞としての「ちょい」の意味・用法の全容を解明しようとすれば、文法的バリエーションの可能性を含めて包括的に記述することが必要不可欠なのである。

さらに、「ちょい」にあたる中国語の表現について、『日中辞典』（第二版:1426）では、「稍微」のように説明されている。しかし、例(2)の「ちょい」の意味特徴は通常の副詞とは、ずれているのである。そのため、この場合の「ちょい」にあたる中国語の表現は、必ずしも『日中辞典』（第二版:1426）の解釈にあてはまるわけではない³⁾。

一方、中国語の“微”については、《现代汉语词典》（第七版:1358）では形容詞、動詞、副詞、助数詞、数量詞として位置付けられている。しかし、そのような品詞の意味・機能だけでは、下記の例(3)のような現象については、十分に説明することができない。

(3)建設規模越大的地方,绝大多数应是微建设。(《中国青年报》2016年4月7日) (建設規模が大きいところはほとんどが(小さな/*ちょい)建設であるべきです。)

2013年度の流行語としての“微”は二音節の名詞（“建設”）を伴うことによって、形容詞、動詞や副詞などのカテゴリーを逸脱し、形態素のような意味・機能を持つようになったと言える。また、例(2)(3)の訳文に示すように、例(2)の「ちょい」は“微”と対応するが、例(3)の“微”は「ちょい」と対応しないということがわかる。そうなると、対照言語学の立場から見れば、流行語としての「ちょい」と“微”的対応・非対応関係について、実例を通じて説明することは、日本語と中国語に見られる形態素化現象の照らし合わせ、及びその原因を究明する上で現実な意味を有するものと思われる。

以下では、まず文法的バリエーションの観点から、日本語における流行語の「ちょい」と中国語における流行語の“微”がどのように形態素化現象を増やしているかについて概観する。そうしたうえで、統語カテゴリーと意味カテゴリーの理論枠組みに基づいて、対照言語学の立場から「ちょい」と“微”的対応・非対応関係について述べる。

3. 流行語としての「ちょい」の形態素化現象の概観

川口(2014)では、「ことばのバリエーション」は「ことばのゆれ」の定義とほぼ一致し、「多様性」という意味を持ち、「広義のバリエーション」としてとらえられている。本研究では、川口(2014)の研究を踏まえ、いわゆる「文法的バリエーション」については、「規範から逸脱し、形態的バリエーション、意味的バリエーションや統語的バリエーションをもたらす言語現象」のように定義する。また、本研究では、いわゆる形態素化現象は語彙がもとの意味を保っていながら、従来になかった形態素の役割を果たし、統語カテゴリーと意味カテゴリーとのインタラクティブな関係によって文法的バリエーションを増やしている現象である。

「ちょい」については、もともと大阪弁として「物事の程度や動きがわずかである」という副詞の意味を含み、「ちょっと」「少し」で解釈することができる(『日本語大辞典』:1265)。しかし、2005年度の流行語としての「ちょい」は他の語と共に起しているので、副詞のカテ

³⁾ 「ちょい」と“微”に関する対応関係の訳文も中国語と日本語には用例があるかどうかことによって訳す。訳文の判断は複数(10名)のネイティブの方に協力していただいた。判断が曖昧になった場合は8名以上の適格判断を以って自然な表現として見なした。

ゴリーを逸脱している。形態上の独立性を失い、従来なかった「ちょい+～」という語彙機能を帯びるようになり、文法的バリエーション現象を増やすようになっている。「ちょい」の文法的特徴について言えば、「細かくてかすかでわずかなこと」「量、規模や時間に係わる短くて小さいこと」「物の体積や面積などに関わる小さいこと」「人や事物に関する属性、様態や状態」「人や事物に対する評価」という五つの意味を表す場合⁴⁾、さらに一部の名詞・名詞フレーズ、動詞連用形や形容詞の語幹が後続する場合に分布している。

(4)中国の習近平主席、5カ月前の無表情からちょい笑顔に　日中首脳会談(『毎日新聞』2015年4月23日)

(4)中国の習近平主席、5カ月前の無表情から微笑顔に　日中首脳会談

(5)ちょい旅で行きたい！(『毎日新聞』2019年1月30日)

(5')小旅行で行きたい！

(6)ちょい短め丈のバランスは春コートのインに有効(『毎日新聞』2019年3月12日)

(6')ほんの少し(だけ)の/ちょっとした短め丈のバランスは春コートのインに有効

統語的特徴に注目すれば、例(4)(5)(6)の「ちょい」は名詞・名詞フレーズと共に起しているため、単語と複合語の形態素の一つとしてとらえられる。具体的に言えば、「ちょい」は例(4)(5)の「ちょい笑顔に」「ちょい旅で」のように状況語として用いられる。例(6)の「ちょい」は名詞フレーズの「短め丈」を伴い、格助詞の「の」とともに連体修飾関係を結んでいる。角度を意味的特徴に転じて見れば、例(4)(5)(6)における「ちょい」はそれぞれ「細かくてかすかでわずかなこと」「時間に係わる短小」「物事の型や体積に関わる小」という意味カテゴリーに属する事柄を表している。また例(4)の「ちょい笑顔」は「微笑顔」のように「微」で置き換えることが可能であり、例(5)の「ちょい旅」は「小旅行」のように「小」で置き換えることが可能である。さらに、例(6)の「ちょい短め丈」は「ほんの少し(だけ)の/ちょっとした短め丈」のように「ちょっとした」で置き換えることが可能である⁵⁾。

一方、動詞連用形が後続する「ちょい」は、「量、規模などの程度に係わる小さいこと」、「人や事物に関する属性、様態や状態」という二つの意味カテゴリーに属する事柄を表す。このような見解は次の例(7)(8)は例(7)(8)のように置き換えたり、翻訳したりすることができるによって裏付けられる。

(7)既報以外の資料なしというスニークプレビューちょい見せだ。(『毎日新聞』2019年2月12日)

(7)既報以外の資料なしというスニークプレビューちょっと/少し見せるということだ。

(8)会見では記者から結果に関する厳しい質問が連続するなど、ザッケローニ監督が「ちょい怒り」モードになる場面も見られた。(『毎日新聞』2013年11月7日)

(8)会見では記者から結果に関する厳しい質問が連続するなど、ザッケローニ監督が「ちょっと/少し怒ること」モードになる場面も見られた。

⁴⁾ 五つの意味分類の出典は収集した大量の用例によって意味カテゴリーの類別を判断したのである。

⁵⁾ 「ちょい」と他の語の書き換えの可否について日本語に用例があるかどうかことによって判断する。

例(7)(8)に示すように、「ちょい」はそれぞれ動詞連用形の「見せ」「怒り」と一緒になり、名詞フレーズを構成することができる。統語的特徴から見れば、「ちょい」を含む名詞フレーズは例(7)のように名詞述語文の述語として機能することができ、例(8)における「ちょい」は連体修飾語としてとらえられる。

さらに、収集した用例を観察して見たところ、「ちょい」は形容詞の語幹を伴う場合の意味特徴について、プラスの意味を表す場合とマイナスの意味を表す場合のように分けて考えられる。これは以下の例(9)と例(9')、例(10)と例(10')によって裏付けられる。

- (9) 「ウサギ vs カメ」はウサギ派がちょい有利? (『毎日新聞』2019年4月16日)
- (9') 「ウサギ vs カメ」はウサギ派がちょっと/少し有利?
- (10) グロはちょいワルだったのだ。 (『毎日新聞』2019年3月21日)
- (10') グロはちょっと/少しワルかったのだ。

例(9)(10)における「ちょい」は形態素としてそれぞれナ形容詞の「有利」、イ形容詞の語幹の「ワル」と一緒になって名詞フレーズを構成している。意味的には、「有利」「ワル」は「人や事物に対する評価」というプラスの意味とマイナスの意味を表す形容詞である。例(9')(10')に示すように、「ちょい有利」「ちょいワル」はそれぞれ「ちょっと／少し有利」「ちょっと／少しワルい」のように解釈することができる。

のことから、「ちょい」はもとの副詞のカテゴリーを脱して形態素のような役割を果たすようになったと言える。例(4)(5)(6)(7)(8)(9)(10)に示すように、「ちょい」の形態素化現象は統語的バリエーションや意味的バリエーションをもたらしていると認められる。

4. 流行語における形態素化現象としての“微”的意味・用法の概観

“微”は使用範囲が拡大されるとともに、“微+～”というパターンが流行してきた。しかし、“微+～”における“微”は形容詞、動詞や副詞としての意味・機能を失い、ほかの語との共起を通じて、欠かせない形態素としての役割を果たすようになっている。“微”はもともと形容詞として“微量”(「数量が少ない」)“微型”(「型が小さい」)“微風”(「微風」)などのような“微+名词”というパターンで用いられ、「数量が少なく、スケールが小さい」という意味を表しているものである。そのような“微”は“微+名词”という形で用いられているとはいっても、单音節の名詞を伴って表現されるのが普通であった。しかし、流行語としての“微”は二音節の名詞を伴うのが一般的なパターンであり、異なる意味的特徴を持っている。また、収集したコーパスによって、“微”は二音節の動詞(“微振动”)、形容詞(“微腐败”)を伴うことが可能であるにもかかわらず、中国語では形態的特徴がないで、その動詞(“振动”)、形容詞(“腐败”)は名詞化現象として用いられていると言える。

- (11) 在实验里, 只有 10% 的人能察觉到这一微表情。(《中青在线》2018年3月15日)(実験では、10%の人しかこのちょい表情に気づくことができない。)
- (12) 大一的暑假, 数学系的牛乾坤找到王泽奇, 希望跟他合作拍微电影。(《中国青年报》2018年6月11日)(大学一年生の夏休み、数学部の牛乾坤は王沢奇を探し出して、

彼と協力してちょい／小映画を撮影したかった。)

(13) 微创新成就小家电业的未来。(《中国青年报》2013年1月17日)(小さなイノベーションは家庭電器業の未来を実現する。)

統語的特徴から見れば、“微十二音節の名詞”は例(11)の“微表情”のように“这一”に後続することによって、連体修飾関係のヘッドとして機能する可能であり、例(12)の“微电影”のように目的語的な機能を担うことが可能である。また、例(13)における“微创新”は文頭に現れ、主語のような統語機能を果たしている。意味的特徴に目を転じて見れば、コンテクストによって、流行語としての“微”は「細かくてかすかでわずかなこと」、「量、規模や時間に係わる短くて小さいこと」や「範囲や形式などが小さいが、内容や効果などが細かくて深いこと」という三つの意味を含意している。例(11)(12)(13)における“微表情”“微电影”“微创新”はそれぞれ「ちょい表情」「時間が短いちょい／小映画」「小さなイノベーション」という意味を表している。このことから、例(11)(12)(13)における“微”はそれぞれ“表情”“电影”“创新”と一緒に一つのまとめた概念を含んでいると見られる。

このことは“微”が形態素としての“小”と同じ意味・用法を持つことによって裏付けられる。コーパスから抽出した実例を観察したところ、“微”は“小”に後続して“小微+～”のように形態素として使われることを突き止めた。

(14) 小微公益为困难青少年护航……(《中国青年报》2018年7月20日)(小さな公益は、困っている青少年保護のために…)

例(14)の“微”は形容詞の“小”に後続し、“小微+N”的ような構造をなしている。これは『中日辞書』(第三版:1618)にある“小小孩儿”“小小说”“小小鸡儿”“小小偷儿”という“小小+N”的構文的特徴と同じであると認められる。『中日辞書』では“小小+N”という“小+N”における“小”を形態素として解釈している。それによって、“小微公益”という“微+N”における“微”は一つの形態素として認めなければならない。

また、言及することに値するのは、「物の体積や面積などに関わる小さいこと」という意味と関連付ける文環境においては、“小”は直接的に被修飾語の前に位置することが許容され、“微”は排除されるようである。その場合は、“微型”と“小”は互いに置き換えることが可能である。それについて、5では詳しく論じる。

このことからも“微”はもとの文法カテゴリーを脱して形態素の意味・機能を有するようになったと言える。“微”的な形態素化現象は文法的バリエーションをもたらしていると認められるのである。

5. 対照分析

言語間の表現形式の対応・非対応関係は決して無秩序に存在しているわけではない。この節では中日対訳コーパスにおける実例への調査に基づいて、対照言語学の立場から「ちょい」の意味・用法と“微”的な意味・用法について、それぞれ中国語の表現と日本語の表現と関連付けて対照分析を行う。具体的に統語カテゴリーや意味カテゴリーに焦点を当て、

「ちょい」と“微”との対応・非対応関係を浮き彫りにしたい。

統語的特徴について言えば、「ちょい」は形態素として被修飾語の前に位置しなければならないのと同様に、中国語の“微”も必ず被修飾語の前に位置し、形態素として用いられるのである。それによって文法的バリエーションを増やしているのである。この点においては共通性が見られる。また、意味的特徴に焦点を当て、「細かくてかすかでわずかなこと」と「量、規模や時間に係わる短くて小さいこと」という二つの意味カテゴリーにおいては、「ちょい」と“微”は対応の関係を持っているのである。

(15)袖のちょい盛りで、無地のコーデに華やかさをプラス。(『毎日新聞』2019年1月28日)(袖子上の(微/小)点缀給素色的款式增添了华丽感。)

(16)彼は「ワインやビールの用意もあるのでちょい飲みでの利用など」と話す。(『毎日新聞』2019年3月22日)(他说:“本店还准备了用来(微/小)酌的红酒和啤酒。”)

例(15)(16)における「ちょい」は動詞連用形の「盛り」「飲み」を伴い、形態素としてとらえられる。例(15)の「ちょい盛り」は「ちょっとわざかに盛ること」という意味を含み、例(16)の「ちょい飲み」は「量、規模や時間に係わる短くて小さいこと」のような意味を表すものである。それらの訳文に示すように、例(15)(16)における「ちょい」にあたる中国語は形態素としての“微”と対応するだけではなく、“小”も対応している。このことはさらに下記の例(17)a(18)aと(17)b(18)bによって裏付けられる。

(17)a. 梵高笔下, 星空, 明月夺目耀眼, 人间的点点油灯光顶多算作微点缀。(《国际先驱导报》2014年2月20日)(ゴッホが書いた星空や明月はとても眩いので、世の中の微々たる明かりはせいぜいちょい盛りに過ぎない。)

b. 创业只是大学生活中的一个小点缀。(《中国青年报》2014年5月12日)(創業はただ大学生活のちょい盛りに過ぎない。)

(18)a. 酒——作为一种可饮用的香水, 微酌一口, 数十秒中鼻腔中可收获不同的芬芳。(《人民网》2013年12月23日)(酒は飲用可能な香水として、ちょい飲みで数十秒で鼻腔の中で異なる香りを得ることができる)

b. 小酌一杯, 对身体真有好处! (《39健康网》2018年7月18日)(ちょい飲みは本当に体にいいよ!)

例(17)a(18)aと(17)b(18)bに示すように、中国語では「細かくてかすかでわずかなこと」と「量、規模や時間に係わる短くて小さいこと」を表す場合は、“微”“小”が用いられるのが普通である。このことから、「細かくてかすかでわずかなこと」と「量、規模や時間に係わる短くて小さいこと」という意味カテゴリーに属する場合は、形態素化現象としての「ちょい」は形態素化現象としての“微”とほぼ共通していると言える。

以上は共通点を見てきたが、以下では相違点を取り上げる。語構成的には、「ちょい十名詞・名詞フレーズ/動詞連用形/形容詞の語幹」というパターンで文法的バリエーションを増やしている。「ちょい」の雑多な形式と対照的に、“微”では多くの場合において“微+名詞・名詞フレーズ”だけが形態素化現象として機能するとことに気付かされる。

また、意味的には、「ちょい」と“微”は非対応の関係を持つことも見られる。まず、「物の体積や面積などに関する小さいこと」という意味カテゴリーに属する事柄を考察する。

(19) 使っていて便利なのが、本体側面にあるラバー製のちょい掛けフックだ。(『毎日新聞』2018年12月29日) (方便的是机身侧面带有橡胶制的小/*微挂钩。)

例(19)に示すように、文中の「ちょい」は“小”で訳せば何らの問題がない。しかし、例(19)における「ちょい」は形態素としての“微”で訳すと不適切な表現になってしまうのである。“微”と非対応の関係にある原因は「ちょい」の要素の意味と関係することに起因している。ただし、例(19)における「ちょい」は“微”で訳すのなら、その後に形態素としての“型”を入れなければならない。

(19') 方便的是(吸尘器) 机身侧面带有橡胶制的微(型)挂钩。

例(19')に示すように、“型”的使用によって、「物の体積や面積などに関する小さい」という意味を表すことになる。このような見解はさらに次の例(20)によって裏付けられる。

(20) 再加上诸如(小/微型/*微)挂钩这样的细节处理，都让吉利的用户体会到了一种宾至如归的愉悦感。(《人民网》2018年6月5日) (またちょいフックのような細かい部分のデザインがユーザーにアットホームな気持ちを与える。)

例(20)に示すように、「物の体積や面積などに関する小」という意味カテゴリーに属する事柄は“微”ではなく、“小”“微型”で言い表す。これも4で論じた“微”がどんな場合に“小”で置き換えることができないかという仮説の適切性を実証するものである。

次に、「人や事物に関する属性、様態や状態」、および「人や事物に対する評価」のような意味を表す場合においては、「ちょい」と“微”“小”との非対応関係を見る。

(21) セッション開始前から小雨がぱらつき、路面はちょい濡れの状態となった。(『毎日新聞』2018年12月6日) (会议开始前下起了小雨，地面(有点/*微/*小)湿漉漉的。)

例(21)の「ちょい濡れ」のような構造における「ちょい」は事物に関する属性や様態を表すものとしてとらえられる。このような「ちょい」は中国語の“微”“小”で訳すことができない。しかし、副詞としての“有点”で訳すと、何らの問題がない。

さらに、統語的特徴から見れば、“有点”は被修飾語の前に位置しているので、「ちょい」と対応の関係にある。しかし、「ちょい」は形態素としてとらえられるのに対して、“有点”は形態素ではなく、副詞として認められるため、品詞上で両者が非対応の関係にある。

そのほか、「人や事物に対する評価」という意味を表す場合は、述語のポジションに話し手の事態に対する把握の仕方や価値判断を表す言葉が現れることが多い。

(22) ファッションはカッコよすぎても憎たらしいんで、ちょいダサぐらいまでがかわいいんですね。(『毎日新聞』2019年3月25日) (时装如果过于“酷”的话就会遭人讨厌，(稍微俗气一点/*微俗气/*小俗气)反而会显得可爱。)

例(22)に示すように、「～がかわいいんですね」は話し手の事態に対する把握の仕方や価値判断を表すものであると認められる。そのような「ちょい」にあたる中国語の表現

として、“微”“小”は排除されるようである。つまり、評価の意味カテゴリーに属する事柄を表す場合は、「ちょい」と“微”“小”的間に、はっきりとした相違点があると見られる。そのような「ちょい」にあたる中国語の表現は“一点”的ようなものであり、“(稍微)……一点”的ような文型である。構文機能の角度から言えば、「ちょい」は“稍微”で訳すと、補語の“一点”を伴う必要がある。また、「ちょい」は形態素として前置修飾語として機能することができるのに対して、“一点”は被修飾語の後に位置し、“稍微……一点”的ような形で被修飾語の前後をまたがって修飾の機能を果たすのである。さらに、“一点”“稍微”は副詞であるため、品詞的には形態素としての「ちょい」とは対応しない。

今度は角度を変えて、“微”と「ちょい」との非対応関係に焦点を当てて対照分析を行う。「範囲や形式などが小さいが、内容や効果などが細かくて深いこと」という意味を表す“微”は形容動詞の「小さな」と対応するが、「ちょい」とは対応しない。このような見解は例(23)の原文と訳文の比較によって支持される。

(23) 古城公益行等形式多样的联系活动, 帮助青年解决了一些实际困难, 送去了实实在在的微服务。(《中国青年报》2017年10月22日) (「古城公益行」などの様々な連携活動は、青年を助けていくつかの実際に起こった困難を解決し、(小さな/*ちょい)サービスをおくってくれた。)

例(23)における“微”は“服务”と共に、「範囲や形式などが小さいが、内容や効果などが細かくて深いこと」という意味を表している。例(23)の訳文に示すように、そのような“微”は日本語の「小さな」で訳して何ら問題がないが、「ちょい」で訳せば非文になってしまうのである。このことは例(24)によって裏付けられる。

(24) 細かい(小さな/*ちょい)サービス作らないほうがいいですよ。(《毎日新聞》2019年3月18日) (最好不要弄这种(微/小)服务。)

例(24)に示すように、日本語の「サービス」は形容動詞の「小さな」によって修飾されるが、「ちょい」とは意味関係を結ぶことができない。このことから、例(23)の“微”は日本語の「小さな」と対応関係にあり、「ちょい」と非対応関係にあると認められる。

さらに、中国語の流行語としての“微”は、形容詞としての“小”と一緒にになって使われることがあり、“小微～”という形で用いることが可能である。それと対照的に、日本語の「ちょい」は「小」と一緒にになって使われることがない。

(25) 这几十万虽然不多, 但对成长中的小微企业弥足珍贵。(《中国青年报》2019年4月5日) (この数十万元はそんなに多くないが、成長中の(小さな/*小ちょい)企業にとっては非常に大切なことだ。)

例(25)の訳文に示すように、“小微企业”は日本語の「小さな企業」で訳すのが普通であり、形態素化現象としての「ちょい」は「小ちょい～」のような働きをしないことが明らかである。このように、“微”と「ちょい」との対応・非対応関係について考える場合、どんな統語カテゴリーや意味カテゴリーに属するかが重要なポイントである。

6. まとめ

以上、文法的バリエーションの観点から流行語としての「ちょい」と“微”的形態素化現象を考察した。さらに、統語カテゴリーと意味カテゴリーに基づいて、対照言語学の観点から「ちょい」と“微”との対応・非対応関係を明らかにした。以上の対照分析の結果は改めて次のようにまとめられる。

- ① 「ちょい」と“微”は形態素として被修飾語の前に位置しなければならない。しかし、“小微～”というパターンが許容されるが、「小ちょい～」は許容されない。
- ② 「細かくてかすかでわずかなこと」と「量、規模や時間に係わる短くて小さいこと」という意味を表す場合、「ちょい」と“微”は対応の関係にある。
- ③ 「物の体積や面積などに係わる小さいこと」という意味カテゴリーに属する事柄を表す「ちょい」は“小”と対応し、“微”とは対応しない。さらに、「人や事物に関する属性、様態や状態」と「人や事物に対する評価」という意味を表す場合は、「ちょい」に当たる中国語の表現は“微”“小”ではなく、“有点”“稍微……一点”的ようなものである。一方、“微”は「範囲や形式などが小さいが、内容や効果などが細かくて深いこと」を表す場合は、「小さな」と対応し、「ちょい」とは対応しない。このような相違点は日本語と中国語の対照研究に影響を与える可能性がある。このような研究は言語学的意義のみならず、言語教育学的意義もある。

参考文献

- 川口良(2014)『丁寧体否定形のバリエーションに関する研究』、くろしお出版.
- 梅棹忠夫・金田一春彦など(1989)『日本語大辞典』、講談社.
- 戦慶勝(2003)『中国語の姿・日本語の姿』、高城書房.
- 張黎(2017)「中国語における流行語の意味的バリエーションについて」『鹿児島国際大学大学院学術論集』第9集、鹿児島国際大学大学院：43-55.
- 張黎(2018)「流行語に見られる文法的バリエーションに関する考察」『鹿児島国際大学大学院学術論集』第10集、鹿児島国際大学大学院：13-21.
- 『中日辞書』(2016) (第三版)、小学館.
- 仁田義雄(2010)『語彙論的統語論の観点から』、ひつじ書房.
- 『日中辞典』(2002) (第二版)、小学館.
- 益岡隆志(2013)『日本語構文意味論』、くろしお出版.
- 森田良行(1991)『語彙とその意味』、東京株式会社アルク.
- 米川明彦(2013)「日本語の攻防【語彙】若者語・流行語の戦い」『日本語学』第32巻第3号、明治書院：84-91.
- 曹起(2012)《新时期汉语语言变异研究》、中国社会科学出版社.
- 徐朝晖(2013)《当代流行语研究》、暨南大学出版社.
- 中国社会科学院语言研究所(2016)《现代汉语词典》(第七版)、商务印书馆.

オンラインリソースを活用した自律学習のニューメディア環境の一考察

崔秀霞^{1,2} 永井由佳里^{*2}

Xiuxia Cui^{1,2} Yukari Nagai^{*2}

大連工業大学外国語学院¹ 北陸先端科学技術大学院大学先端科学研究所²

A Study of New Media Environment for Autonomous Learning Using Online Resources

Abstract. With the development of new media technology, language learning has been different from the past. Autonomous learning using various Japanese online resources is becoming popular. This paper investigates the actual use situation of Japanese online resources of Japanese learners in Chinese universities. And, the Japanese online resource environment utilized for the autonomous learning of the student of the result superior is examined. Trying to design a learning environment for autonomous learning.

Keywords. Japanese Learning, Online Japanese Resources, Learning Environment for Autonomous Learning

1 はじめに

近年、インターネットの普及により必要な情報を簡単に手に入れられるようになっている。日本のアニメ、ゲーム、映画などのオンラインリソースは海外でも手軽に視聴できるようになり、そして世界的に大きな影響をもたらしている。中国も例外ではなく、多くの若者は日本のアニメ、ゲーム、映画などが好きだというきっかけで日本語を勉強し始めたとよく聞く。特に現在、中国で流行っているBilibili、人人ビデオ、WeChat、Youtube、Twitter、Weiboなどニュー視聴ツールの発達により、日本語学習リソースはより豊かになり、日本語学習環境に大きな変化をもたらした。日本語オンラインリソースを活用したこのニューメディア環境は中国にいる日本語学習者に大きな影響をもたらした。しかし、日本語学習者は、具体的にどのようにオンラインリソースを活用して日本語を自律学習しているだろうか。オンラインリソースをどう活用すれば、より効率的な学習効果をもたらせるか。その実態を明らかにし、オンラインリソースを活用した自律学習を促す学習環境をデザインすることが本研究の目的である。

2 先行研究

2018年に、国際交流基金の海外日本語教育に関する調査では、学習者数については、中国が上位、一番という順位は以前から変わらず、1,004,625人である。また教師数(20,220人)は前回2015年の調査と同様に1位である。更に、2018年度の調査において、世界の日本語教育機関が高等教育に在籍する学習者の学習目的・理由として挙げた項目のうち、最も回答が多かったのは「マンガ・アニメ・J-POP等への興味」(76.7%)であり、2015年の調査は73.8%であった。2012年は54.0%であった⁽¹⁾。日本国内での大規模な調査としては、日本にいる留学生1160人を対象にした調査がある。結果として、日本に興味を持ったきっかけの90%がサブカルチャーであり、その内の75.5%が漫画やアニ

メに興味があり、27%が映画（ドラマ）に興味があるという結果が報告されている⁽²⁾。熊野（2010）は海外で日本語を学ぶアニメ・マンガ好きの世界中のさまざまな国の日本語学習者74名を対象に聞き取り調査した。学習者に人気のアニメ・マンガ、学習者のアニメ・マンガとの接し方、学習者とアニメ・マンガの日本語、ニーズについて明らかにした⁽³⁾。以上のように多くの研究は、日本のマンガ・アニメ、そして映画などのメディアに対する興味が日本語学習者の学習動機となっていることを究明した。それから、杉山・田中（2008）はアニメやマンガに興味を持つ学習者を対象とし、特に口頭表現能力の向上を目指したアウトプットに重点をおいた授業実践について報告した⁽⁴⁾。矢崎（2009）の『アニメで日本語』の授業実践には「構成主義のアプローチ」及び「客観主義のアプローチ」の要素も取り入れた⁽⁵⁾。川崎（2011）の研究では、学習者は、アニメソングの歌詞の意味を理解したいという動機から、好きなアニメソングの意味を理解するための自律的な日本語学習を研究した。そして、日本語学習はあくまでも目的のための手段であると述べた⁽⁶⁾。

自律学習(自主学習)をことばの意味として解説すれば、学習者が自分で自分の学習の理由あるいは目的と内容、方法に関して選択を行い、その選択に基づいた計画を実行し、結果を評価すること、といえる⁽⁷⁾。中国にいる日本語専攻の学生におけるアニメを含んでBilibiliやWeChatなどのニューメディアツールを活用した自律日本語学習の実態に関する調査は、まだ見られなかったので、本稿はこの面について調査を行った。

3 調査概要

3.1 調査目的

- (1) 今時の日本語専攻学習者が日本語メディアに対する態度と意識を明らかにする；
- (2) 日本語専攻学習者が教室外における日本語メディアを利用する自律学習の実態を明らかにする；
- (3) 教師が新しい自律学習実態に応じて日本語教育環境をデザインする場合への示唆を提案する。

3.2 調査方法

3.2.1 アンケート調査1

2020年1月10日～2月10日にかけて、調査方法として作成した電子調査票はWeChatを通じて日本語専攻の在校生に配布し、また同様にWeChatを通じて回収した。回収できた調査票は135名のものである。調査対象の内訳は表1に示す。

表1 調査対象の内訳

	一年生 (名)	二年生 (名)	三年生 (名)	四年生 (名)	総計 (名)
男性	1	5	5	3	14
女性	27	25	34	35	117
総計	28	30	39	38	135

3.2.2 アンケート調査2

2021年1月に、アンケート調査1の調査対象の135名学生の中、期末試験の日本語専門

授業の総合成績が80点以上の59名の学生を対象にし、アンケート調査2を行った。具体的に使っている日本語メディアのツール及びそこでの内容について詳しく調査した。

4 調査結果に関する考察

4.1 アンケート調査1に関する考察

アンケート調査1は15項目を設け、学生が日本語メディアに対する態度・意識、日本語メディアを視聴する時間、頻度、好みなど、そして日本語学習に対する役割について調査した⁽⁸⁾。以下、注目したい点について具体的に考察して行く。

4.1.1 調査対象が日本語メディアに対する態度と意識に関する考察

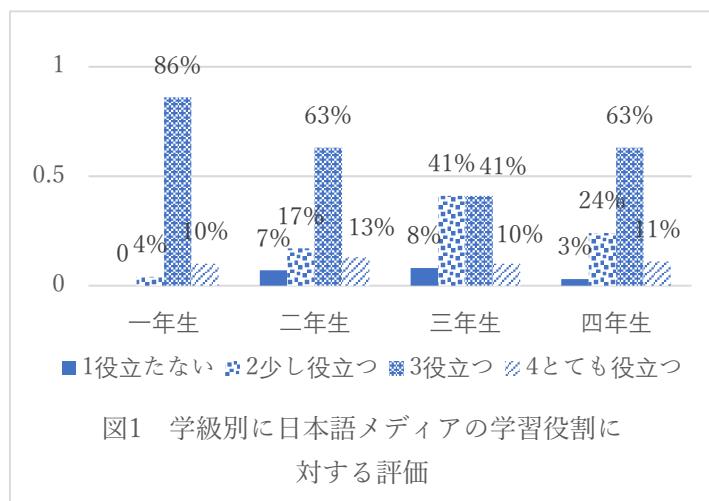
(1) 59%の調査対象は「1 日本の番組（映画、アニメ、ゲーム）が好きだから」日本語専攻を選んだ

第1問の「どうして日本専攻を選びましたか。」に対する回答は「1 日本の番組（映画、アニメ、ゲーム）が好きだから」を選んだ学生数が調査対象の59%を占めており、日本のサブカルチャーが好きで、日本語を専攻として学ぶという現象は現実に起こっていることが分かった。

(2) 調査対象が日本語メディアの学習役割に対する評価の考察

第7問では「日本語の番組を見るることは、あなたの日本語学習に役立ちますか。 1 役たない 2 少し役立つ 3 役立つ 4 とても役立つ どの面の学習に役立ちますか（書いてください）」である。

図1のように学級別に集計結果を見た。一年生では「1 役立たない」と考える人がいなかつたのは特徴的で、「3 役立つ」と考える人も一番多かった。「3 役立つ」と考える態度は一年生から三年生まで段々と弱くなり、四年生は少し高まったが、一年生程度にはならなかつた。この点について、筆者の日本語教師の経験から以下のように考えられる。一年生は日本語の勉強をし始めた段階では、単語や文型を覚えることが主な学習目標である。日本語メディアの視聴を通じて単語を覚えたり、簡単な文型を覚えたりすることができるので、学習に確かに役立つ。しかし、学年が進むにつれ学習目標が段々複雑になり、長文及び文章の理解や作文などの学習には日本語の番組の視聴はあまり役に立たなくなる。この点は、筆者が日本語学習者としても実感がある。番組を利用して日本語学習を指導する際には、この点に注意して学生にアドバイスしたほうが良いであろう。理性的な態度を取り、日本語の番組の視聴が過度にならないように心がけるべきだと考える。また、「4 とても役立つ」を選択した学生は四つの学年には同じような



割合となっていることから、どの学級にも日本語メディアのファンがいることが分かった。

(3) 調査対象全員の日本語メディアを見る役割の性質についての考察

第七問では、学生に自分の日本語学習に役立ったことを書いてもらった。学生が書いた情報を整理すると、上位三位の結果は以下のようになる。第一位 聴解練習に役立つ（49人）；第二位 単語記憶に役立つ（25人）；第三位 会話練習に役立つ（23人）である。つまり、日本語メディアを視聴することの学習への働きは、聴解練習>単語記憶>会話練習である。

更に、「第八問 日本語のメディアを見て、あなたの日本語学習のどの面において役立つと思いますか。 1 語彙 2 発音 3 日本文化 4 日本社会」に対する答えを集計すると、四項目の選択数は大きな差はなかったが、比較的、日本文化、発音の学習に役立つと認めている学生が多いことが分かった。中国で日本語を学習する際の一番大きな問題点は、学習環境の問題である。つまり、日本を知らない、日本人との交流の機会が少ない、ネイティブの日本語を聞けない、そして日本語を使うチャンスがないということである。日本語の番組を視聴することで、日本の方が分かるし、ネイティブの日本語に馴染むことができるし、テレビやビデオのストーリーの中で日本文化が体験できる。まさに、中国語の環境の中でも、日本語番組を見ることにより、日本語の環境を作ることができると言える。

4.1.2 調査対象が日本語メディアを利用する実態に関する考察

(1) 日本語メディアを視聴する頻度に関する考察

第二問の「日本のテレビやビデオ番組を見ますか」の回答について、全員のデータを見ると、「3たまに見る」を選択した学生が一番多く、全員の56%を占めた。「4ほとんど見ない」を選択した学生は20人で、15%を占めた。

更に、学級別にデータを集計して、日本語メディアを視聴する頻度について詳しく見てみる。学級別に集計した結果以下の図2に表す。

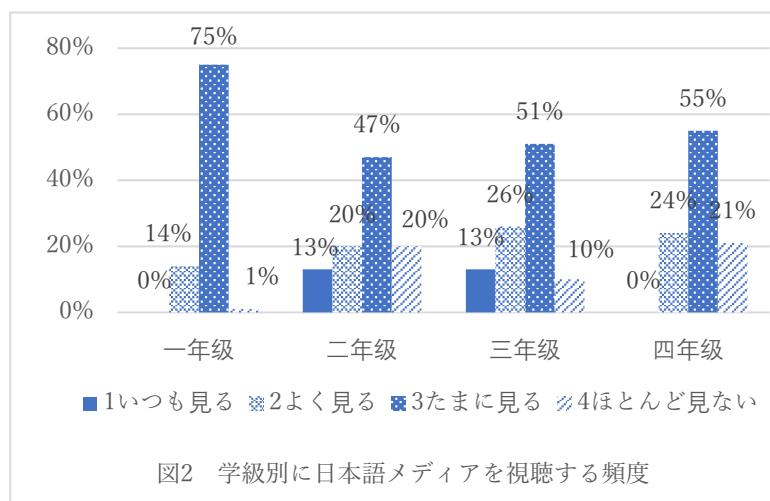


図2の通りに、一年生と四年生のデータの中に、「1いつも見る」を選んだ学生は同じく0人で、二年生と三年生は同じく13%の割合があった。偶然かもしれないが、二年生と三年生は日本語番組に熱中していることが分かった。一年生と四年生になぜ「1いつも見る」を選ばなかったかにつ

いて聞いてみた。その結果、一年生では①自分の日本語はまだ下手で、日本語の番組を見て

も分からぬ；②日本語の番組を見ることに慣れていない；③日本語の授業内容を覚えるだけでも難しいなどの理由があった。四年生では①二年生三年生の時によく視聴していたので、日本語番組に対する情熱がなくなった；②卒業論文と就職活動で忙しくて視聴する時間がなかったという理由が殆どである。

（2）調査対象全員の日本語番組の好みについての考察

「第四問 どんな番組が好きですか。1 アニメ 2 バラエティ一番組 3 お笑い番組
4 ドラマ なぜ？（書いてください： ）」に対する学生の答えデータを集計し、学生達が日本語メディアに対する好みについて見た。

「1 アニメ」を選択した学生は一番多く、65名(46%)になっている。「2 バラエティ一番組」(23%)と「4 ドラマ」(19%)と答えた人数も多かったが、「1 アニメ」の人数の半分となっている。「3 お笑い番組」(12%)を選んだ人数は一番少なかった。お笑い番組は言葉の理解だけではなく、言葉の裏の意味を把握できないとその面白さが分からない。学生達にとって、お笑い番組は未だ理解しにくいことが窺える。学生たちは日本のメディアに対する好みでは【アニメ>ドラマ>バラエティ一番組>お笑い番組】という順位である。

更に、学生達に好きな日本語の番組について、好きな理由を書いてもらった。

「1 アニメ」が好きな上位の理由では、「①ストーリーが面白くて有意義なもので、魅力的だ；②画面デザインが素敵で見たい；③精良な制作で素晴らしい；④アニメを見て日本語が勉強できる。」などの答えがあった。

「2 バラエティ一番組」が好きな上位の理由では、「①内容が面白く、リラックスできる；②内容に真実みがあり日本を知ることができる；③聴解の勉強になると評価し；④日本文化の勉強になる。」などの答えがあった。

「3 お笑い番組」が好きな理由が少なく、「①面白くてリラックスできる；②日本語の聴解の勉強になる。」などの答えがあった。

「4 ドラマ」が好きな上位の理由では、「①哲学的なものもあり、有意義なものだ；②日本を知り日本文化を理解できる；③日本語の聴解の勉強になる。」などの答えがあった。

以上の内容をまとめると、学生達は第一に、内容の面白さ、有意義さ、哲学性、リラックスできることを重視して日本語メディアを視聴していたことが分かり、第二は、日本語が勉強できるという理由で日本語メディアを視聴していたことが分かった。

（3）調査対象の日本語メディアに対する注目点に関する考察

更に、「第十二問 何によって番組を選んでいますか。1 流行っている 2 評判がいい
3 内容に興味がある 4 登場人物（キャラクター）に興味がある。」については、64%の学生達の答えは「3 内容に興味がある」により、視聴する番組を選んでいる。「第十三問 番組の中で何に一番興味がありますか。1 登場人物の顔 2 服装 3 撮影したシーン 4 ストーリー」の答えの71%は番組の「4 ストーリー」に集中していることが分かった。

内容重視、ストーリー重視であれば、日本文化、日本社会について学習することができるが、一方では、学生の多くは、リラックスをするために、日本語の番組を視聴している

ことが窺える。このようなリラックスを目的とした日本語の番組の視聴は、日本語学習への働きが弱いと考えるので、教師側は、日本語の番組を見る目的が、日本語学習の助けになるよう番組を推薦するなど、呼びかけ、導いていく必要がある。

4.2 アンケート調査2に関する考察

成績上位の学生が、どのようなメディアツールを利用して、日本語オンラインリソースを活用して、自律学習をしているかについてアンケート調査2を行った。調査項目では、

1. 何の日本語オンラインリソースを利用して日本語に接触しますか？書いてください。
2. レジャーには、何の日本語オンラインリソースを利用しますか？何を見ますか？書いてください。
3. 何の日本語オンラインリソースがあなたの日本語学習に役立つと思いますか？書いてください。
4. 何の日本語オンラインリソースが好きですか？どうして？書いてください。」である。

調査票を学生達に WeChat で送り、自由に記述してもらった。学生達の答えを整理して KHCoder を用いてデータを分析し、以下の2点を考察した。

- (1) 日本語メディア利用に関する共起ネットワークを見た。
- (2) 学生達に言及する頻度が高い用語リストをまとめた。

4.2.1 成績上位の学習者の日本語メディア利用に関する共起ネットワーク

成績上位の学

生達の自由記述

データを
KHCoder を用い
て共起ネットワ
ーク図を作成し
た。図3のよ
うに示す。共起ネ
ットワーク、図
の中にある円の
大きさは、語の
出現頻度が多い
ことを示す。円
と円を結ぶ線の
太さは、関連性
の強さを示す。

結び付きの強い

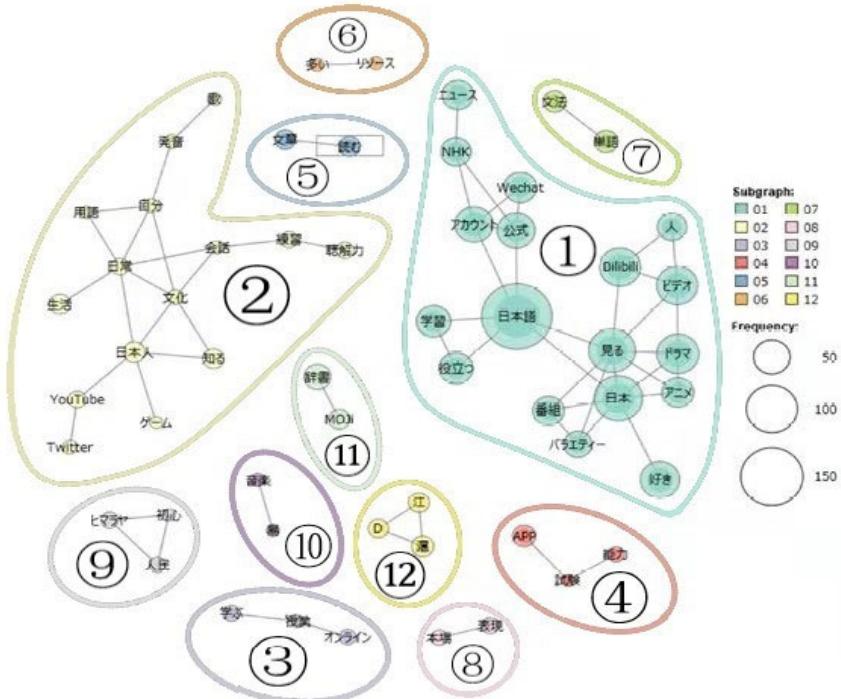


図3 日本語メディア利用の共起ネットワーク

部分ごとに、色分け表示している（白黒印刷で見にくいため、線でグループ分けした。）。

図3で示すように、結び付きの強い部分ごとに、12のグループになっている。そして全てが日本語学習に関連している。その中で、一番大きいグループはグループ1で、グループ2は二番目に大きい。「日本語」はネットワーク内で、最大の円であり、一番中心となって

いることが明らかである。

まず、グループ1について考えよう。グループ1の中のすべての円で表す語は、強く結びついている。「日本語」と接している「WeChat」「公式」「アカウント」のグループと「NHK」「ニュース」グループは「日本語」の「学習」に「役立つ」ことを表している。二番目に大きな円は「日本」で、三番目に大きい円は「見る」である。「Bilibili」や「人人ビデオ」で「日本」の「ドラマ」、「アニメ」や「バラエティー」「番組」を見るのは「日本」が学生達の「好き」なことであり、それは「日本語」の「学習」に「役立つ」に繋がると示している。「Bilibili」、「ビデオ」、「ドラマ」の利用頻度は比較的に高いと言える。

グループ2では、「日本人」の円が中心となっている。「YouTube」や「Twitter」を利用したり、「ゲーム」したりすることによって「日本人」の「日常」的な「生活」や「日本人」の「文化」を「知る」ことになる。そして、「自分」の「会話」能力、「聴解力」の「練習」になると読み取れる。日本語の「歌」を聞くことは「発音」の練習になることも読み取れる。

グループ3では「オンライン」「授業」で日本語を「学ぶ」現象を表している。

グループ4では「App」で「日本語能力」「試験」の学習をすることが読み取れる。

グループ5では「文章」を「読む」ことが、学生達の学習する手段の一つであると読み取れる。

グループ6では日本語オンライン「リソース」が「多い」ことを表している。

グループ7では「文法」と「単語」の学習は繋がっていることを表している。

グループ8では「本場」の「日本語表現」は学生達が求めていたことが分かった。

グループ9では「ヒマラヤ」App、「人民網日本語版」のWeChat公式アカウント、「初心者日本語連盟」のWeChat公式アカウントは、輪になって学生達の日本語学習に役に立っている。

グループ10では「網易雲音楽」は学生達によく使われているのが分かった。

グループ11とグループ12では「MOJi 辞書」と「滬江小D」は学生達の単語学習によく使われ、学生達に評価されていることが分かった。

しかし、この共起図から、グループ1とグループ2以外の10個のグループは遊離している状況である。グループ1、グループ2との関連性が弱いことを読み取り、更に究明する必要があることを提示している。

4.2.2 成績上位の学習者は言及する頻度が高い用語リストに関する分析

成績上位の学生達の記述データを整理し、KHCoderを用いて出現頻度が高い単語リストを上げた。順位30番までの多出語を表2のように示す。

表2のように、「日本語」が一位、「日本」が二位であることは「日本語」と「日本」が学習の中心であることを強調している。ここでも、学生達は「Bilibili」で「ドラマ」や「ビデオ」を見るのが「好き」であると提示している。「WeChat」「公式」「アカウント」での「学習」も多く言及された。「アニメ」を見たり、「NHK」「ニュース」を聞いたり、「バラエティ

一番組」を見たりすることもよく言及された。「MOJi」辞書や「滝江小D」を使って単語を勉強すること、日本人ブロガーの「ブログ」を読むことなどは成績上位の学生達のオンライン日本語メディアの利用像である。すなわち、成績上位の学生達は教室外において自主的に表2 のように多種多様なオンライン日本語リソースを利用して日本語に接触して勉強している。

表2 出現頻度高い単語リスト								
順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	日本語	195	11	役立つ	43	21	単語	20
2	日本	90	12	WeChat	40	22	APP	19
3	見る	84	13	アニメ	38	23	文法	19
4	ドラマ	68	14	ニュース	37	24	Weibo	18
5	Bilibili	64	15	番組	37	25	日本人	17
6	ビデオ	64	16	NHK	34	26	MOJi	16
7	好き	58	17	人人	32	27	ブロガー	16
8	アカウント	55	18	バラエティー	29	28	生活	16
9	公式	54	19	勉強	28	29	読む	16
10	学習	44	20	辞書	26	30	滝江小D	16

5 結論

5.1 アンケート調査1の結論

(1) 今の日本語専攻の大学生には、日本のサブカルチャーが好きで日本語専攻を選んだ傾向があると言える。日本のサブカルチャーが好きだという動機付けは、日本語学習に有利で、よい学習になる可能性に繋がる。

(2) 日本語の番組を視聴する頻度については、学級別に特徴がある。二年生と三年生は日本語の番組に熱中していることが分かった。一年生は日本語能力の制限から日本語の番組に慣れていない傾向が見られる。四年生の興味、態度はやや冷静になっていることが分かった。

(3) 日本語の番組を視聴し、学習するという、日本語学習への役割については、学級別に違いがある。全体から見ると、学級が高くなると役割の効果が弱くなる傾向が見られる。また、日本語を学習するという意識を持ちながら日本語の番組を視聴するのは、聴解、単語、会話の勉強に役立つことが認められた。その役割の大きさは「聴解練習>単語記憶>会話練習」である。

(4) 日本語の番組の視聴では、学生の多くは内容重視、ストーリー重視の傾向があるが、娯楽のために日本語の番組を視聴していることが窺える。日本文化、日本社会についての勉強にはなるが、日本語の番組を視聴することにより、効果的に日本語学習に繋がる方法を教師側から呼びかける必要がある。

5.2 アンケート調査2の結論

- (1) Bilibili や人人ビデオで日本のドラマ、アニメ、バラエティー番組を見るのは学生達が好きであり、日本語学習に役立つ。
- (2) WeChat 公式アカウントで文章を読むことや、NHK ニュースを聞くことは日本語学習に役立つ。
- (3) YouTube や Twitter を利用したり、ゲームをしたりすることによって日本人の日常的な生活や日本人の文化を知ることになり、そして、自分の会話能力、聴解力の練習にもなる。また、日本語の歌を聞くことも発音の練習になる。
- (4) オンライン日本語メディアの利用ツールでは、「Bilibili」、人人ビデオ、WeChat、APP、Weibo、MOJI 辞書、YouTube、Twitter の順である。

5.3 教師が日本語教育環境をデザインする場合への示唆

(1) 調査により、日本語オンラインリソースの視聴は、日本語学習に良い影響を与えるという実態を明らかにした。しかし、現役日本語教師の立場から、いくつかの問題点があると考える：a. 学生達は日本語番組に対して情熱があるが、その情熱を学習動機としてうまく言語習得に活かしていない；b. 学生の多くは娯楽のために日本語メディアを視聴し、言語習得にもたらすプラス効果は僅かである；c. 日本語メディアを視聴して効果的に日本語習得できるマニュアルがあまりに少ない；d. 教師側から適切な指導が必要である。

(2) 現在、日本では地上デジタル放送により字幕機なしに字幕付き番組を見られるようになっており、初級者の日本語学習のために良い環境が整った。しかし、中国では学生達が普段、接するのは日本語字幕が付いていないものなので、学習に良い効果を与えるとは言えない。なぜなら、中国人日本語学習者にとって、日本語漢字の発音は難しいからである。聞くだけで分からぬ言葉でも、見ると意味が理解できるものが多い。そして、日本語字幕を見ることは、日本語を理解することに非常に役立つ。

初級学習者には、日本語字幕付き番組を視聴することをお薦めする。理解しやすいし、良い勉強になるからである。最初は、分からぬ単語や文が多いに違いない。しかし、一々調べていたら前へ進めない。だんだんと日本語レベルが上がるに連れ、分からなかつた単語や文があれば辞書で調べたり、人に聞いたりするという学習行為をしなければ上達できなくなる。分かるまで何回も同じ内容を聞くこと、分からなかつた内容は辞書で調べて理解すること、番組のセリフを覚えることなどは、確かに日本語学習に役に立つ。

(3) 日本語オンラインリソースを視聴することにより、ネイティブな日本語に馴染むことや、テレビやビデオのストーリーの中で、日本文化を体験できることは、学習者の日本語学習に有効な働きを果たしている。日本語教師としては、この実態を十分に認識し、教室の学習もこのような実態に合わせるべきである。教師は、学生の教室外学習に対して、以下のような指導をした方が良いと考える：a. 日本語メディアを視聴することは、日本語学習に有益だが、教室内の学習と教室外の学習のバランスに注意する必要がある。学校の学習任務を保証できた上で、教室外の自主学習をさせる；b. 授業と連動しながら、ど

のような日本語オンラインリソースを視聴したほうが良いかを学生にアドバイスする；c. 学生達の好みを把握し、授業中も同じような話題を話し、学生達の共感を引き出すことにより、授業の効果を高める；d. オンライン日本語リソースは、質のばらつきが存在することを学生に提示し、教師が学生達の疑問に応じて、そのリソースの誤りを正し、必要な知識を補う；e. 学生達のオンライン学習に関する交流の場を設け、オンライン学習の効率な方法を導き出す。

(4) どの学生も独立した個体であり、日本語学習に対するニーズと好みにも一定の違いがある。そのため、実際に日本語教育を展開する際には、教師は、学生が自由に自分が好きなオンラインリソースを選択して学習できるように励む。教師は学生本位の原則に従い、学生が求める学習ニーズと好みに応じ、学生に対して、いくつかの日本語オンラインリソース日本語学習資源を薦め、学生の自律学習を応援しなければならない。

6 今後の課題

以上は、中国にいる日本語学習者的一部がオンライン日本語リソースを利用して日本語学習する実態に関する調査研究のまとめである。今後、ケーススタディを通じて、さらにオンライン日本語リソースを利用し、日本語学習が成功した学習者の学習ストラテジーを詳しく研究する必要があると考える。実践的にニューメディア時代における効果的な日本語学習環境をデザインする。

参考文献：

1. 2018 年度 日本語教育機関調査（国際交流基金）
2. 月刊日本語, 2008 年 5 月号
3. 熊野七絵 (2010), 「日本語学習者とアニメ・マンガ～聞き取り調査結果から見える現状と ニーズ～」, 『広島大学留学生センター紀要』第 20 号, 別刷
4. 杉山ますよ・田中敦子 (2008), 「アニメ・マンガを用いた多様な授業の試み」, 『日本語教育方法研究会誌』vol. 15, No. 1
5. 矢崎満夫 (2009), 「アニメを素材とした日本語学習活動『アニメで日本語』の開発－「アニマシオン」でのティーチング・ストラテジーに注目して」, 『静岡大学国際交流センター紀要』第 3 号, 27-42
6. 川崎タルつぶら (2011), 「アニメファンから日本語学習者へ」『日本語教育方法研究会誌』Vol. 18 No. 1
7. 青木直子 (2001), 「教師の役割」, 『日本語教育学を学ぶ人のために』青木直子他編, 世界思想社
8. 尾崎明人, 「学習の場のインタアクション」, 『新版日本語教育事典』P768-769
9. Cui, X., Honda, H., Nagai, Y. The Application of Japanese Electronic Media in Japanese Learning, E3S Web of Conferences, 2021, 251, 03089
10. 村山隆・大島崇行, 「個に応じた学び」を保障する学習デザインが 英語の音読技能の向上に与える効果について, 日本教育工学会論文誌, 44(4), 453-468, 2021

中国語を母語とする日本語学習者における条件表現「ば」の誤用に関する一考察

杜 紅陽(広島大学)

DU Hongyang

An Analysis of the Misuses Conditional Expression ‘Ba’ by Chinese Japanese Learners

要旨

条件表現「ば」に関する習得研究は、主に文法性判断テストやアンケート調査によってなされている。しかし、日本語学習者が「ば」を習得する過程において、どのような誤用がなぜ発生するのかについては十分に明らかにされていない。本研究は、中国語を母語とする日本語学習者を対象に、彼らの作文に見られる誤用パターンの「*バ→ト」「*バ→テ」「*バ→テモ」「*トスレバ→Y」を中心に、誤用の実態と要因を分析した。

キーワード：条件表現「ば」、誤用、中国語を母語とする日本語学習者、作文コーパス

目次：

0. はじめに
1. 資料
2. 誤用の概観
3. 「*バ→ト」「*バ→テ」「*バ→テモ」の実態と要因考察
4. 「*トスレバ→Y」の実態と要因考察
5. まとめ

0. はじめに

日本語条件表現の代表的な形式として、「と」「ば」「たら」「なら」の4形式が挙げられる。4形式の中で、「ば」は、文末モダリティ制約や時間的順序制約などを受けるため、習得しにくい学習項目とされている。学習者における条件表現「ば」の誤用傾向について、市川(1997:375–376)は、正しく「ば形」が作れないことのほかに、「前件と後件に法則的な事態間の依存関係がある」ことや、「前件が非状態性の動詞をとる場合、前件と後件の時間的前後関係がある」ことに違反したとき誤用が起こると述べている。また、中国語を母語とする日本語学習者を対象とした研究としては、ソルヴァン(2006)、堀(2007)、郭毓芳(2007)、郭聖琳(2017)などが挙げられる。それらの先行研究を見ると、「ば」の習得問題は主に、アンケート調査や文法性判断テスト¹⁾の結果に基づき議論がなされている。残された

¹⁾ 文法性判断テストは、調査文を被験者に提示し、それらの調査分が正文か、非文かの判定を(主に○×式

一つの課題として、中国語を母語とする日本語学習者が、実際に「ば」を使用するとき、どのような誤用をなぜ生じたのかというものがある。本稿は、中国語を母語とする日本語学習者が書いた作文に認められた条件表現「ば」の誤用を観察し、誤用の実態と要因を明らかにすることを目的とする。

1. 資料

本稿は、『YUK タグ付き中国語母語話者日本語学習者作文コーパス』Ver.12(以下、『YUK 作文コーパス』と略称する)を用い、そこから抽出された条件表現「ば」の誤用例を分析と考察の対象とする²⁾。『YUK 作文コーパス』において、誤用の種類は、「*X→Y(混用)」「*X→○(過剰使用)」「*○→X(不使用)」に分けられる。本稿では、「*X→Y」(X = 「ば」形式)、つまり、学習者が誤って「ば」を使用した誤用を中心とする。また、前田(2009)で述べられた「条件的用法」と「非条件的用法」の分類に基づき、「ば」の誤用は条件的用法の誤用と非条件的用法の誤用に分けられる。非条件的用法は、条件表現形式を持っているが、条件的用法とは大いに異なるため、本稿では条件的用法の誤用のみ(121 例)を扱う。誤用例の標識として、「<__>」は誤用の箇所、「*」は誤用であること、「→」は訂正された結果を示す。

2. 誤用の概観

図1は、誤用パターンとそれぞれの誤用数、割合を示しているものである。図1から分かるように、誤用パターンの中で、頻度が最も多いのは「*バ→ト」であり、「*バ→テ」と「*バ→テモ」がそれに続く。そして、「*バ→ノハ」「*バ→タラ」「*バ→ナラ」は、いずれも5%程度となる。また、「ば」形式を持つ複合辞「とすれば」の誤用は14例見られる。このように、中国語を母語とする日本語学習者における「ば」の誤用には、「ば」と「と」「て」「ても」との混用及び「とすれば」の誤用が多いことが分かる。紙幅の便宜上、以下、まず、「*バ→ト」「*バ→テ」「*バ→テモ」について分析と考察を行い、それから、「*トスレバ→Y」について分析と考察を行う。

で)求める調査方法である。

²⁾『YUK 作文コーパス』は、関西学院大学于康研究室が開発した文字数約660万、誤用タグ数(延べ誤用数)22万の大型作文コーパスである。そこに収集された中国語を母語とする日本語学習者の作文は、2名の日本語母語話者(日本語教育経験者または日本語教師)によって、正誤判断やタグの付与がなされる(日本語誤用と日本語教育学会ホームページ:<http://yukang.org/index1.html>, 2022年4月7日参照)。

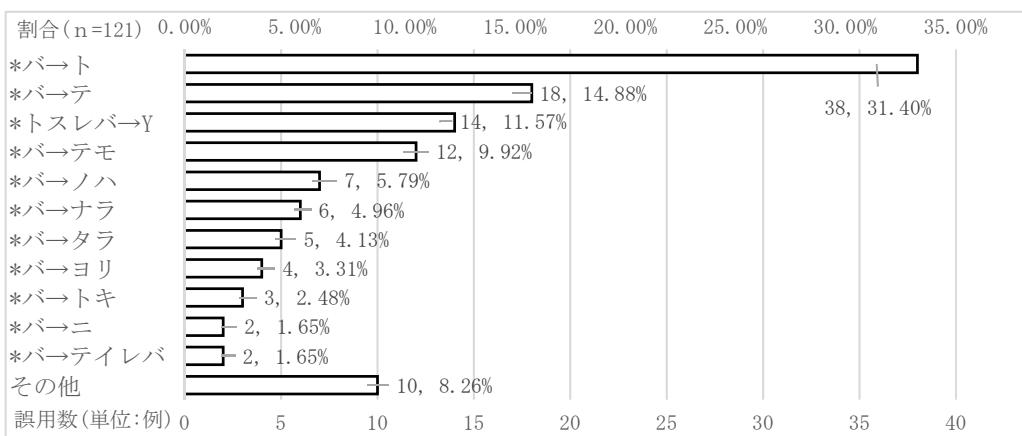


図1 誤用パターン

3. 「*バ→ト」「*バ→テ」「*バ→テモ」の実態と要因考察

3.1 「*バ→ト」

3.1.1 「*バ→ト」の詳細

「*バ→ト」は、条件表現「と」³⁾に訂正されたものであり、今回の調査では38例確認されている。(1)～(4)は、「*バ→ト」の誤用例である。

- (1)入手した中日両国の諺を<*見れば→見ると>、「虎」という動物の諺の意味について、中日両国はほぼ同じで、強くて、凶暴な点が共通している。
- (2)電車での地図で確認<*すれば→すると>、自分のミスに気付いた。
- (3)普段ゆっくりと流れる小川は今も薄い氷になっていた。もっと上へ<*登れば→登る>、白い雪が深く積もっていた。
- (4)なぜなら、日本のドラマを<*みれば→みると>、なんかくらい気持ちになるからだ。
- (1)は、中日両国の諺に共通点があるという結果を導き出す文であり、「と」が適切である。(2)は、過去一回の出来事における動作の連続を表すため、「ば」は不適切である。
- (3)は、前件は動作で、後件は前件による状態の発見であるため、「と」が適切である。
- (4)は、後件に望ましくない出来事を表すため、「ば」条件文としては許容しにくい⁴⁾。
- 「*バ→ト」で注目に値するのは、前件に動作が表され、それによる結論・結果が後件に表されるという誤用の特徴である。(1)のほかにも、(5)と(6)のようなものもある。
- (5)表4を<*見れば→見ると>、「ABAB型」の擬態語の訳し方は豊富で数が多い。
- (6)形態を結びつけて原語とのズレの実態について考察してきたが、ズレを形成する原

³⁾条件表現(順接条件)に関わる文の典型的なタイプとして、①仮定、②一般、③事実、④原因という4つのタイプが取り上げられる(鈴木 2009:70)。条件表現の範囲を①②に限定する研究もあれば、蓮沼他(2001)などのように①②③にする研究もある。本稿は後者の立場をとる。

⁴⁾(4)のような誤用に関して、市川(2010:615)は、「『ば』は後件に実現化する事柄としてプラス評価の表現をとる傾向があるので、『ば』は不適切になってくる」と述べている。

因について分析して $\langle *みれば \rightarrow みると \rangle$ 、英語知識の不足といえよう。

3.1.2 「*バ→ト」の要因考察

既に述べたように、「ば」と「と」の混用は著しい。(2)(3)を除いた「*バ→ト」の誤用は、全て一般条件を表す。一般条件を表すとき、「ば」と「と」は、いずれも「自然の法則・社会の法則など、一般的に成り立つ因果関係によって結ばれることを表すのに使用される」(蓮沼他 2001: 26)。(7)と(8)のように、「ば」と「と」は、類似的な意味・用法があるため、しばしば置き換えられる。

(7)ここを押せば、水が出る。

(8)ここを押すと、水が出る。

一方、「ば」と「と」は、一般条件を表すとき、類似的と言っても、まったく同様なわけではない。松下(1930:290-293)は、「ば」は理論的・分説的、「と」は実際的・単説的であると、一般条件⁵⁾を表す「ば」と「と」の違いについて論じているが、前田(2009:71)は、その見方を「やや抽象的であろう」と指摘している。さらに(1)(5)(6)を見ると、それらの誤用例は、レポートや論文に現れたものであろうが、理論的・分説的か実際的・単説的かの違いでは説明しにくいところがある。したがって、日本語学習者にとって、理論的・分説的か実際的・単説的かを基準に、「ば」と「と」を区別するのは非常に難しいと思われる。さらに、前件に基づき得た結果・結論が後件に表される誤用が多いことから、「ば」と「と」における焦点の位置の相違も誤用の産出に関わると考えられる。リグス(2013)は、「ば」と「と」における焦点の位置の相違を表1のようにまとめている。

表1 「ば」と「と」における焦点の位置の相違(リグス(2013)より引用、一部抜粋・調整)

条件形式	焦点の位置	前件/後件の焦点度
ば	前件	とても高い/非常に低い
と	後件	非常に低い/とても高い

表1から分かるように、「ば」は前件の焦点度がとても高いのに対し、「と」は後件の焦点度がとても高いという焦点の位置に相違がある。例として(7)と(8)を見ると、(7)は「ここを押す」という動作に、(8)は「水が出る」という結果に焦点を当てると考えられる。一方、3.1.1に挙げた誤用例のように、結果・結論が後件に表される場合、焦点は後件に置かれるのが一般的であり、「と」を使うのが適切となる。このように、一般条件を表すとき、「ば」と「と」には類似的な意味・用法があることに加え、焦点が置かれる位置の相違に考えが及ばないことが要因であると考えられる。

⁵⁾松下(1930)は、「當然假定」という用語を使用している。

3.2 「*バ→テ」

3.2.1 「*バ→テ」の詳細

「*バ→テ」は、テ形、あるいは中止形に訂正された誤用である。(9)～(12)に「*バ→テ」の例を示す。

(9) 最後に、夫婦二人が同時に仕事を<*すれば→して>、家庭の世話をする人がなければ、問題が出てくる。

(10) 汶川の大地震の時、皆が気持ちを一つに<*すれば→して>、大きな力となった。

(11) 周知のように、ピラミッド型は非常に安定した立体で、底面に安定力が<*あれば→あり>、全体が倒れる可能性はまったくない。

(12) 今でも、時々<*思い出せば→思い出して>、早く家に帰ればよかったのにと自分を責め始めます。これは私の今までで一番悔しく、辛かったことである。

(9)は、条件表現を二重使用している⁶⁾。(10)は、過去一回の出来事であるため、「ば」は許容されにくい。(11)は、前件は後件の成り立つ条件ではなく、事実上の原因・理由を表すため、「ば」は不適切である。(12)は、継起的な「きっかけ→結果」を表す。この場合は、「て」が適切である。「*バ→テ」を見ると、条件表現を二重使用しているものを除き、それ以外のものは、全て前件が事実的である。

3.2.2 「*バ→テ」の要因考察

「*バ→テ」は、「て」の「原因・理由」用法、「順序」用法(森田 2002)との混用であり、いずれも何らかの事実的因果関係が加わったものである。日本語の条件文には「前件が事実的になると、原因・理由文に近づく」(前田 2009:32)という傾向があるため、日本語学習者にとって条件か原因・理由の選択は難しくなる。例えば、(11)の条件節より前の部分を削除した場合、(11'a)になるが、それを(11'b)のような原因・理由文に言い換えても、不自然なところはない。

(11') a: 底面に安定力があれば、倒れない。 b: 底面に安定力があるから、倒れない。

同じように、中国語の「復句」も、明確な標識がない場合、前件が事実的になると、原因・理由文か条件文かを判断するのが難しい。例えば、(13)のようなものが挙げられる。

(13) a: 他去, 我也去。 b: 彼が行けば、私も行く。 c: 彼が行くから、私も行く。

(13a)は、パーティーに誘われたときに発話するものとする。具体的な発話背景が分から

⁶⁾ 蓮沼他(2001:21)は、二つ以上の条件をつなげる場合を次のように提示している。

X1 テ X2 バ・タラ Y

「*バ→テ」の中で、条件表現を二重使用しているものは4例である。

ない限り、原因・理由文と条件文とどちらが相応しいかが明確にならない。(13a)を日本語で表現する場合、(13b)のような条件文も、(13c)のような原因・理由文も可能である。

また、(12)のように、思考行動や発話行動などの意志的動作による継起的な「きっかけ→結果」を表す誤用が9例見られる。それらの誤用を中国語で表現する場合、「～的话」で言うことができる。(14)の「時々思い出せば」は中国語で言うと、「有时回想起来」でも「有时回想起来的话」でも可能である。(14)も、「12」と同じような一例である。

(14) 一人称の多様化なども今の習得状況を考察する上で意義がありますが、日本語教育文法から＊考えれば→考えて、一番接触しやすい省略ということに決めました。

中国語の「～的话」は、「如果」「要是」といった仮定を表す関連語句と共に起すことが多い、日本語の条件表現に対応する形式的な標識として捉えられやすい。したがって、中国語を母語とする日本語学習者は、中国語の「～的话」という表現に影響されて、継起的な「きっかけ→結果」を表すとき、「ば」を使用していると考えられる。

以上の考察をまとめると、中国語を母語とする日本語学習者は、前件が事実的になるとき、原因・理由文と条件文の区別が難しくなることに加え、中国語の影響も受けるため、「ば」と「て」を混用すると考えられる。

3.3 「*バ→テモ」

3.3.1 「*バ→テモ」の詳細

「*バ→テモ」は、「ても」を代表とする逆接条件表現に訂正されたものを指す。その中で、「ても」に訂正されたのは11例、「意向形+が」に訂正されたのは1例である。(15)～(17)は、「*バ→テモ」の誤用例である。

(15) 光陰矢のごとし、確かに、四年間の大学生活はあつという間に過ぎ去っていく。入学式の日、今＊思えば→思っても、ありありと目に浮かぶ。

(16) 人の職業、品性、貧富などは外部の原因で変わることがあります。だから、どんな人になりたいかと聞かれ＊ば→ても、明確な答えはまだありません。

(17) いい会社に就職して、自分でお金を稼いで自分を養えばいいのではないでしょうか。自分のお金だから、どう＊使えば→使おうが自分の自由です。

(15)は、「4年もたったので、入学式の日のことははつきり覚えられないだろう」という「暗黙の前提」(坂原 1985)が働くが、「ありありと目に浮かぶ」は、その「暗黙の前提」を否定することになるため、「ば」ではなく、「ても」が適切である。(16)は、「聞かれれば、普通分かるだろう」という「暗黙の前提」を否定する文であることと、「ば」形式が正しく作られていないことが問題となる。(17)は、「ても」に訂正することも可能である。

3.3.2 「*バ→テモ」の要因考察

「ても」は、「ば」などによって表される条件文の否定として捉えられることが多いが、前田(1993)は、(18)のように「テモ文を用いても順接の条件文でも、かなり近い意味を表す場合がある」ことを指摘し、堀内(2002)は、条件文と逆接条件文(譲歩文)の曖昧性について論じている。

(18)a: そんなこと言われても、困る。

b: そんなこと言われたら、困る。

(前田 1993:151)

一方、中国語の複文(复句)には、条件複文(条件复句)、仮定複文(假定复句)、譲歩複文(让步复句)などがある。譲歩複文(让步复句)は、「ある事実を認めて譲歩し、正句が反対の角度から逆の意味を述べるような文」(劉月華他 1991:738)であり、日本語の「ても」を代表とする逆接条件文に対応するものである。しかし、研究者によって譲歩複文の位置づけは異なる。仮定複文の下位分類とする研究もあれば(鳥井 2004、王麗英 2010 など)、仮定複文と条件複文と同じように主従複文の下位分類に位置付ける研究(劉月華他 1991、王亞新 2011 など)もある。このように、中国語における複文の分類が多岐にわたっていることから、仮定複文と条件複文には曖昧なところがあり、そこに明確な一線を引くことができないと言えよう。また、一般に使用される仮定複文の関連語句「如果…就」は日本語に訳する場合、全く「ても」では表現できないわけではない。(19)は、その例である。

(19)a: 如果他吃一碗配有黄瓜丝的面条汤、不到两个小时就可以走完腹内全部路程排泄出来… 《活动变人形》

b: キュウリの千切りをいれた汁ソバを食べても、二時間もまたずに腹部内の全行程を通って排泄されてしまい、… 『応報』 (新田(2021)より引用)

(19a)は、「面条汤」を食べると早いうちに消化してしまうことを、順接の関係を表す「如果…就」で表現している。ところが、その順接の関係は、(19b)において「ても」に訳されている。このような訳文ができたのは、文脈に基づいた訳者の判断ではあるが、中国語と日本語における表現形式が不対応で、このようになったことも否定できない。特に、(16)のように、中国語で表現すれば、「如果被问到想成为什么样的人、(我)没有明确的答案」という順接の関係で表すことは可能であるが、日本語で表現すると逆接の関係になる。また、(17)は、中国語の「不管…都」などで表現できるが、このような表現は、条件複文の下位分類に位置付けられる「無条件複文」(劉月華他 1991)であるため、中国語では順接の関係として捉えられやすい。

以上、「バ→テモ」の要因を考察してみた。考察の内容をまとめると、日本語の条件文

と逆接条件文にも、中国語の仮定複文・条件複文と讓歩複文にも曖昧性があることと、中国語と日本語における表現形式の不対応が誤用の要因であると考えられる。

4. 「*トスレバ→Y」の実態と要因考察

4.1 「*トスレバ→Y」の詳細

「*トスレバ→Y」は、複合辞「とすれば」の誤用である。(20)～(21)は、「*トスレバ→Y」の例である。

(20) 私たちはだいたい飛行機か高速鉄道のどちらか、自分の好きな方で帰るだらうと思
います。飛行機で帰る<*とすれば→ほうが>、少し便利だと思います。

(21) 大学に入ると、一人暮らし始まって、寂しさを感じた。親のそばにいられる<*と
すれば→ことは>、非常に幸せだと言えるだらう。

(20)は、「飛行機で帰る」ときの便利さを述べるものであり、「高速道路よりは」という意味合いが込められている。(21)は、「親のそばにいられる」ことは、「非常に幸せだ」の主語となるべきであろう。

4.2 「*トスレバ→Y」要因考察

「*トスレバ→Y」は、訂正方法は多様であるが、いずれも仮定を表す。さらに、これらの誤用例から、仮定した事態を別の事態と比較しているという意味が読み取れる。(20)は、「飛行機で帰る」とと「高速道路で帰る」とと、(21)は、「一人暮らし」と「親のそばにいる」ことを比較している。「*トスレバ→Y」の特徴をまとめると、ある事態Xを述べるとき、(A)及びそれとは対照的な関係にある(B)を想定し、「(A)とすれば」という表現を使用することで(A)を取り立て、後件に(A)に対する評価・結論などの(A')を述べることになる。図で表すと、次のようになる。

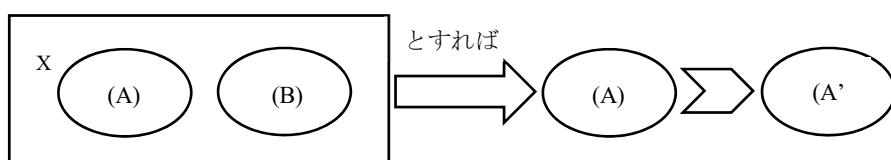


図2 「*トスレバ→Y」の誤用特徴

江田(1998)は「とすれば」「としたら」「とすると」の用法を「仮定条件」「確定条件」「非現実の仮定」「定義」「前提」「対比」「立場」に分けている⁷⁾。江田(1998:27)によ

⁷⁾ 江田(1998)が挙げている「とすれば」「としたら」「とすると」各用法の例文は次のようにある。

仮定条件：もし税収が…10%減ったとすると、…事業費の方は軒並み減額ということになりますね。(堺屋太一「民族の秋」)。確定条件：尾行者はこの男たちとも…縁のない男だ。とすれば、冬村はまるっきり実態のない犯人を追っているのではないということになる。(西村寿行「蒼き海の伝説」)。非現実の仮

ると、「仮定条件」用法は「ある事柄を真であると認めずに、『もしその立場をとるなら』として、それに対する話者の判断を述べる」「あくまでも、『もしその立場をとるなら』と、仮定に対して一步距離をおいている」となる。こうしてみると、中国語を母語とする日本語学習者は、「とすれば」を仮定条件として使用するとき、その意味を誤認識していることが分かる。

また、誤用例から読み取った比較の意味に最も近い「とすれば」の用法は「対比」である。江田(1998:29)が挙げている「対比」の例は(22)のようなものである。

(22) ジェニイに選挙の興奮がいつまでも…残っているとすれば、海野は…へんに冷静になっていた。(深田祐介「革命商人」)

(22)は「ジェニイ」と「海野」を対比している。この「対比」の例は、(A)の実現を仮定するのではなく、「もし(A)がこうである場合、対照的に(B)は…」という意味である。こうしてみると、中国語を母語とする日本語学習者は、「とすれば」の「仮定条件」用法を誤認識し、そこに「対比」の意味を含めていることが誤用の要因であると考えられる。

5.まとめ

本稿は、中国語を母語とする日本語学習者を対象とし、『YUK 作文コーパス』から抽出された「ば」の誤用を観察した結果、「ば」と「と」「て」「ても」との混用、「とすれば」の誤用が多いことが明らかになった。さらに、「*バ→ト」「*バ→テ」「*バ→テモ」を中心に、誤用の要因を考察してみた。考察の結果を表2に示す。

表2 誤用要因のまとめ

誤用パターン	要因
「*バ→ト」	①一般条件を表すとき、「ば」と「と」に類似的な意味・用法がある ②焦点が置かれる位置の相違に考えが及ばず、「ば」を使用している
「*バ→テ」	①前件が事実的になる条件文が原因・理由文に近い ②中国語の影響
「*バ→テモ」	①条件文と逆接条件文、条件複文・仮定複文と讓歩複文の曖昧性 ②日本語と中国語における表現形式の不対応
「*トスレバ→Y」	「とすれば」の「仮定条件」用法を誤認識し、そこに「対比」の意味を含めている

定：もし脅迫されていたのだとすれば、(…厄介払いができる)ほっとした気配が見えそうなものだが。(藤沢周平「ささやく河」)。前提：番頭の話が真実だとすると、長六はいつ伊豆屋を恐喝したのだろうか。(藤沢周平「ささやく河」)。定義：ブリがなりふりかまわぬ自由形の泳者としたら、このグループは優雅な古流の抜き手である。(畠正憲「ムツゴロウの動物巷談」)。対比：ジェニイに選挙の興奮がいつまでも…残っているとすれば、海野は…へんに冷静になっていた。(深田祐介「革命商人」)立場：「あのヨットは幽霊船だという噂が…流れていたんです。」「乗り手としたら、いい気持ちはしないだろう?」(西村京太郎「赤いクルーザー」)

参考文献

- 市川保子(1997)『日本語誤用例文小辞典』、凡人社.
- (2010)『日本語誤用辞典—外国人学習者の誤用から学ぶ日本語の意味用法と指導のポイント』、スリーエーネットワーク.
- 江田すみれ(1998)「条件を表す複合辞「とすると」「とすれば」「としたら」の共通性と相違点について」『日本語教育』99:24-35.
- 王麗英(2010)「中国語の複文について」『愛知淑徳大学言語コミュニケーション学会言語文化』18:1-10.
- 王亜新(2011)『中国語の構文』アルク.
- 郭聖琳(2017)『中国人日本語学習者に対する条件表現の指導について』神戸大学人文学研究科博士論文.
- 郭毓芳(2007)「台湾人日本語学習者における日本語の条件文「ト・バ・タラ・ナラ」の習得について—後件制約の使用状況から」『大阪大学言語文化学』16:53-66.
- 坂原茂(1985)『日常言語の推論』、東京大学出版会.
- 鈴木義和(2009)「条件文とは何か」『神戸大学文学部紀要 = Bulletin of the Faculty of Letters, Kobe University 36』69-94.
- ソルヴアン・ハリー(2006)「日本語学習者における条件文習得問題について」益岡隆志編『条件表現の対照 シリーズ言語対照第6巻』、くろしお出版:173-193.
- 鳥井克之(2004)「再論 中国語の複文について—新しい中国語教学文法の再構築を目指して」『関西大学外国語教育研究』8:75-97.
- 新田小雨子(2021)「小説における仮定条件複文の構文形式の日中対照研究」『聖学院大学論叢= The journal of Seigakuin University』34(1):105-117.
- 蓮沼昭子、有田節子、前田直子(2001)『日本語文法 セルフマスター・シリーズ7 条件表現』、くろしお出版.
- 堀恵子(2007)「日本語条件文の文末制約習得に及ぼす母語の影響—タイ語・英語・韓国語・中国語話者を対象とした文法性判断テストから」『麗澤大学紀要』84:101-126.
- 堀内夕子(2002)「日本語における条件文と譲歩文の曖昧性」*Kwansai review 21*、関西英語英米文学会: 183-194.
- 前田直子(1993)「逆接条件『テモ』をめぐって」益岡隆志編『日本語の条件表現』、くろしお出版:149-167.
- 前田直子(2009)『日本語の複文 条件文と原因・理由文の記述的研究』、くろしお出版.
- 松下大三郎(1930)『標準日本口語文法』、中文館書店.
- 森田良行(2002)『日本語文法の発想』ひつじ書房.
- リグス秀美(2013)「現代日本語話者の条件表現の使い分け:機能言語学的視点からの一考察」『日本語日本文学』23、創価大学日本語日本文学会:35-53.
- 劉月華、潘文娛、故麟(1991)『現代中国語文法総覧』くろしお出版.

日本語教育におけるマイクロレクチャーの役割

- コンテストの受賞作品を対象に -

林 樂青・楊 玖瀅 (大連理工大学)

LIN Leqing · YANG Jiuying

Function of Micro-Lecture in Japanese Teaching

-With Awarded Micro-lectures as Objects-

要旨

時代の移り変わりにより、日本語教育にマイクロレクチャーを応用することが可能になっている。本研究はマルチモーダル談話分析理論を用い、文化、コンテクスト、内容及び表現という四つのレベルからコンテストで受賞したマイクロレクチャー作品を考察した。そして作品の主題の豊富さ、学生参加者の協力、マルチメディアの使用、モーダル同士の関係といった側面からアドバイスを提出了した。今後、日本語教育におけるより良いマイクロレクチャーを作成するための助言を行った。

キーワード：日本語教育 マイクロレクチャー マルチモーダル談話分析

目次

1. はじめに
2. 先行研究
3. 理論の枠組み
4. 研究対象と方法
5. 考察
6. 結果

1. はじめに

時代が移り変わるにつれて旧来の授業スタイルが見直され、新しい教育形態が求められるようになった。とりわけ、社会の情報化とともに、教育の内容も多岐に変わりつつある。こういう背景における各国の教育機関はアクティブ・ラーニングという視点を取り入れた授業の改革を積極的に進めている。そして「マイクロレクチャー (Micro-lecture)」や「ムーク (MOOC=Massive Open Online Course)」といった新しい授業のやり方が続々と現れている。

中国では 2012 年頃はじめてマイクロレクチャーに関するコンテストが行われた。中国高等教育学会が主催した「中国外国语マイクロレクチャーフォーラム」は 2014 年から 2020 年まで計 6 回行われた。全国の大学と専門学校から約 2 万人の外国语教師が参加し、1 万 3 千余りの作品が投稿された。ポストコロナ時代以降、オンライン授業が主流となり、授業に

おける重要なワンポイントの知識を映像化できるため、オンライン授業にとってマイクロレクチャーの導入は欠かせない手段である。

マイクロレクチャーは映像の1種であり、複数のモーダルによって構築されていて、マルチモーダル談話分析という方法で解釈が可能だと言える（吳婷，2017）。本研究はマルチモーダル談話分析の視点から、外国語マイクロレクチャー大会における日本語の受賞作品を研究対象に、作品の特徴をまとめ、日本語教育によりよいマイクロレクチャー作品を制作するために助言したい。

2. 先行研究

マイクロレクチャーという概念は最初にアメリカのデイビッド・ペンローズ（David Penrose, 2008）が提唱した（梁楽明ら、2013）。マイクロレクチャーを「微課」に訳し、中国で最初に提出したのは胡鉄生（2011）である。2012年以降、マイクロレクチャー大会の主催とともにそれに関する研究も見られるようになった。マイクロレクチャーの紹介（羅剛淮 2012, 竜鎮 2013 など）や従来の授業との比較（張志宏, 2013）といった研究のほか、小・中・高校の教育におけるマイクロレクチャーの応用に関する研究も挙げられる（馮小林 2016, 劉培雪 2016 など）。2012年に中国教育部によって開催された「全国マイクロレクチャー大会」を対象に、作品のデザインと制作に関する研究が見られる（王永花・馬雪晨, 2015）。さらに、2015年に行われた「中国外国語マイクロレクチャー大会」に参加した作品を対象に、専門家の評価や作品の特徴などについての研究もある（馬武林・何静静, 2017）。

しかし、今までのマイクロレクチャーに関する研究は主に作品の設計や制作といった理論的な論述に集中している。マルチモーダル談話であるマイクロレクチャーについて複数の角度からの作品自体に関する研究は少ない。

マルチモーダル談話分析は選択体系機能言語学（Halliday, 1985）に基づいて Kress & van Leeuwen (1996) によって提唱された。最初、映画やポスターなどの分析に使われた。李戦子（2003）はこの方法を中国に導入し、教育にも応用されるようになった。朱永生（2008）と張徳祿（2009）は、それぞれマルチモーダル・リテラシー能力の育成やメディアの使用状況などについて検討した。授業中の教師のマルチモーダル的な行為（胥国紅, 2010）や授業中のモーダルの使用（楊森, 2019）などの研究も挙げられる。一方、マイクロレクチャー大会で受賞した作品についてモーダルの組み合わせ（吳婷, 2017）や文字と画像モーダルの関係に関する研究（張媛軍, 2021）もあり、英語分野の特別賞の作品についての研究も見られる（張媛軍, 2019）。

今までの研究はマイクロレクチャーに関する理論的な研究が多く見られたが、マイクロレクチャー大会で受賞した日本語の作品に関する研究は少ない。とりわけ、マルチモーダ

ル談話分析の視点から日本語の受賞作品に関する研究は管見の限り見当たらない。本研究は中国外国語マイクロレクチャー大会における日本語の受賞作品に、マルチモーダル談話分析の視点から1等賞から3等賞まで受賞作品それぞれの特徴を分析し、その良いところ及び不足の部分を明らかにする。

3. 理論の枠組み

本研究は張徳祿（2009）の「マルチモーダル談話分析」という理論に基づき、研究理論を構築する。張徳祿（2009）の理論では、文化、コンテクスト、内容と表現といった4つのカテゴリーに分けられている。文化は文化のコンテクストのことであり、イデオロギーとジャンルからなっている。コンテクストは状況のコンテクストを指し、活動領域（交際の内容）と、対人関係（交際の参加者）、伝達様式（交際の広がるモード）からなっている。内容は意味と形式に分けられており、前者はモーダルによる意味伝達であり、概念構成的意味、対人的意味及びテキスト形成的意味に分けられている。後者はモーダル同士の関係を指し、「相互補足関係」と「非相互補足関係」という関係からなっている。表現レベルは、モーダルがメディアによって表されているという意味である。この「メディア」はマルチモーダル談話分析の視野に入れたメディアであり、言語メディアと非言語メディアからなっている。言語メディアは言語要素（音声と文字）と言語付属要素（音量、音調、フォントとレイアウト）が含まれている。非言語メディアに身体要素（移動、模倣、ボディー、顔付き）と非身体要素（道具と環境¹⁾）がある。さらに、身体要素のボディーには身振りや手振りなど、顔付きには表情や目差しなど、道具にはPPT、AV実験室やスピーカーなどが含まれている（図1）。本研究はマイクロレクチャーを考察するために、このマルチモーダル談話分析におけるメディアをもとに、マイクロレクチャーにおけるメディアを明らかにした。具体的に、言語の音声と文字を発話とテキスト文に入れ替え、言語付属要素の音調をプロソディー²⁾に拡充した。フォントには字のサイズとカラーもそれぞれ加えた。非言語メディアの道具に属するPPTをスライドに、AV実験室をマルチメディ（画像・GIFアニメ・映像・バックミュージック・オーディオイフェクト）に、スピーカーをマイクとレーザーpointerに入れ替えた。

本研究はマイクロレクチャーの構造と主題、各モーダルの意味伝達と関係、メディアの使用状況を考察する。とりわけ、メディアの使用状況の分析から各モーダルの意味伝達と

¹ ここでの「環境」は教室で先生と学生とのコミュニケーションの空間を指す。本研究の対象は映像作品に限るため、環境を研究対象外とする。

² プロソディーは話者特有の発話速度やリズムや抑揚や強勢のことを指す（沖森『日本語概説』2016：35）。

関係を究明し、さらにマイクロレクチャーの構造と主題を明らかにするという順である。

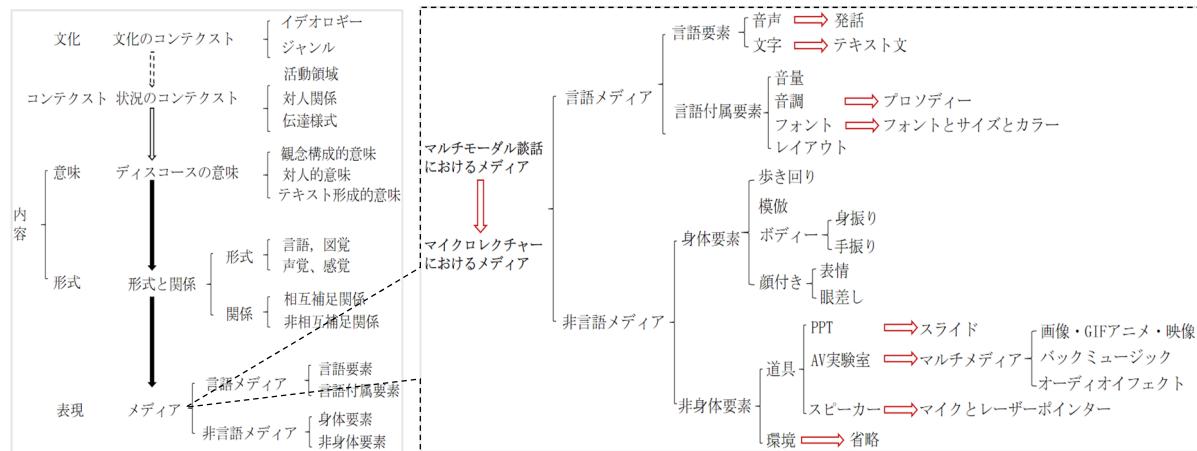


図1 マイクロレクチャーにおけるメディア理論の構築

4. 研究対象と方法

研究対象は 2014 年から 2020 年まで中国で 6 回開催された「中国外国語マイクロレクチャー大会」で受賞した作品とする³⁾。一等賞は第 4 回を除く全ての大会にあり、計 6 件の作品が受賞した。二等賞は第 3 回を除く全ての大会にあり、計 13 件の作品が受賞した。三等賞は 1 回目から 6 回目までそれぞれ受賞した作品があり、計 33 件の作品が賞を受けた(表 1)。

表1 中国外国語マイクロレクチャー大会における日本語受賞作品の明細

	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	第六回	合計
一等賞	1	1	1	0	2	1	6
二等賞	2	2	0	2	2	5	13
三等賞	1	4	2	2	6	18	33

一等賞を受賞した作品は 6 件だけであり、数量の一致性を保つため、二等賞と三等賞の作品からも抽出する必要がある。また、教師が姿を現すことはまだ客観的な基準がないので、教師の姿のあるものは排除すると、最終的に抽出された作品は計 15 件である(表 2)。

表2 研究対象の賞とタイトル

一等賞	二等賞	三等賞
「0」と「1」	名刺交換のマナー	近すぎるのでは
参勤交代	直接受身文	日本語で雑談を楽しもう
これ、それとあれ	応接室の席順マナーについて	日本の贈答文化
日本語のアクセント	謙譲文型「お/ご～する」	詩句は形あり 感情は限界なし
日本語の助数詞	「魚が死んだ」と「魚が死んでいる」	五分で学ぶ文法教室

³⁾ 第 1 回から第 5 回までの大会では 1, 2, 3 等賞と優秀賞が設けられたが、6 回目の大会では優秀賞がキャンセルされた。統計の便宜を図るため、優秀賞を受けた作品を研究対象外とする。

本研究は量的統計と質的分析を行い、文化とコンテクスト、内容、表現といったレベルにおいて受賞作品の特徴をまとめた。それに、表現レベルの分析はソフト「ELAN」⁴⁾を補助手段として行う。研究対象の分析をより分かりやすくするため、作品のメディアに注釈を作成し、文字化する。注釈作成の際にメディアに英字のコードをつけ、体系を制作する（表3）。つまり、ELANで目標メディアを視聴し、英字の記号で注釈を作る。ELANの「注釈の統計」という機能で結果をまとめた。

表3 コードの体系の詳細

言語 メディア	言語	1.発話 [SP-]			
		[SPTC]	教師の発話	[SPSD]	学生の発話
	2.テキスト文 [T]				
	言語 に伴う	3.プロソディー [P-]			
		・強勢 [PSt]			
	・発話速度[PT-]				
	[PTS]	遅い速度	[PTF]	速い速度	
	4.ハイライト[HM]				
非言語 メディア	マルチ メディア	5.マルチメディア[M-]			
		[MP]	画像	[MG]	GIF アニメ
		[MAE]	オーディオイフェクト	[MM]	音楽
		・映像[MV-]			
			[MVT]	テレビ作品の切り取り	
				[MVR]	ロールプレイングビデオ

5. 考察

文化レベルにおいては、作品の平均時間と構造を考察した。一等賞の作品の平均時間は6分57秒、二等賞の作品は7分9秒、三等賞は7分29秒であり、一等賞の作品は平均的に短いということが分かった。作品の構造については、一等賞の作品はまず「先生の挨拶」、「授業全体の説明」、「知識の解釈とまとめ」と「別れの挨拶」という順でイントロとアウトロがあり、流暢な内容の流れで展開している。二等賞の作品はイントロの部分に、つまり「先生の挨拶」と「授業全体の説明」は省略されており、いきなり「知識の解釈」からスタートし、「まとめ」と「最後の挨拶」といった三つの部分のみが共同成分である。三等賞の作品は二等賞に比べて授業の「まとめ」も省略されており、「知識の解釈」と「別れの挨拶」だけである。作品の内容から見れば、一等賞の作品は二等賞と三等賞より内容の充実のみならず、イントロとアウトロの部分もあり、構造がきちんとしていることが判明した。

コンテクストレベルにおいては、活動領域、対人関係と伝達様式を考察してみた。ここでの活動領域は作品の内容を指している。受賞作品には「基礎日本語」という課程に関する内容が最も多くあり、その次は「日本事情」である。対人関係は作品に出てくる人物のことである。受賞の作品に教師と学生という両方が出る作品が2件あり、先生と学生はコミュニケーションを行いながら授業の流れを進めるという形である。しかし、コミュニケーションの様子の区別として、『日本語のアクセント』という作品（一等賞）では、学生は授業の全過程で教師と話している（表4）。『「魚が死んだ」と「魚が死んでいる」』という作

⁴⁾ ELANは動画と音声資源に注釈を作成するための専門的ツールである。

品（二等賞）では、学生が教師に声をかけたことが2回だけである。それ以外の作品には学生の姿が映っていたが、学生からの反応はなく、授業を聞いている様子をイメージするだけであった。伝達様式として発言モードとスライドにおけるモードの組み合わせによって意味を伝達しているが、教師の発話モードは始終、貫いている。また、制作された作品をインターネットにアップデートすることは、伝達手段の1つと言えよう。

表4 『日本語のアクセント』における学生と教師との会話

挨拶		
授業全体の説明	教師：今日は日本語のアクセントについて紹介します。 学生：はい。	学生1：一休さんのほしのアクセントも意味に関わっていますね。 教師：そうですね。
導入	教師：皆さん、この動画を見たことがありますか？ 学生：はい、これは一休さんです。	学生2：先生、ほかに何か例がありますか？ 教師：では、ほかにいくつかの例をあげましょう。
知識の解釈	学生：「先生、日本語のアクセントとは何のことでしょうか、どういう特徴がありますか」 教師：これは日本語のアクセントです。 学生：アクセント。	学生1：それは恥をかきましたね。 教師：そうですね。
練習	教師：皆さん、各拍の高さを示してください。 学生：はい、分かりました。 教師：皆さん、よくできました。 学生：ありがとうございます。 教師：この五つの選択肢から、あり得るものを選んでください。 学生1：一番と5番です。 学生2：二番と五番です。	教師：この文を読んでくださいね。 学生2：にわににわにわがいる。 学生1：にわににわにわにわ…… まとめ
		教師：では、今日の宿題です。 学生：はい。 宿題
		教師：このクイズの正解を探し出しましょう。 学生：はい、分かりました。
		予告と別れの挨拶
		教師：～予習しておいてくださいね。 学生：はい、先生、ありがとうございます。

表現レベルにおいては、発話（SP）とハイライト（HM）とプロソディー（P）の使用頻度と賞の関係を考察した。マルチメディア（M）の使用頻度と賞との関係を見てみよう。発話、ハイライトとプロソディーの使用頻度は一等賞で最も多く、二等賞と三等ではそれぞれ減少しているものの、マルチメディアの使用頻度は逆となる。三等賞が最も多く、一等賞は一番少なかった。テキスト文としては、一等賞と二等賞は同じであるが、三等賞はやや多いということが分かった（図2）。

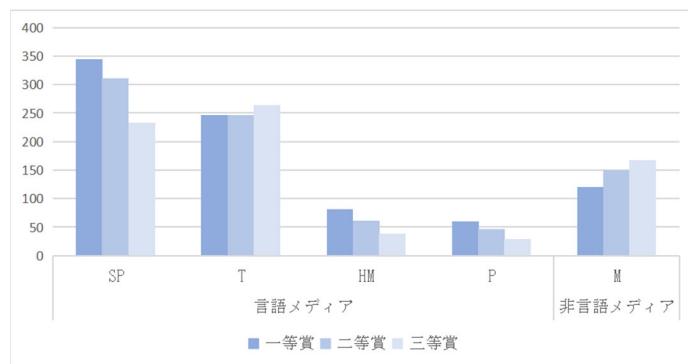


図2 表現レベルにおける各要素の使用頻度図

内容レベルでは、モーダルの意味伝達の役割について考察した。モーダルの意味伝達に属する概念構成的意味、対人的意味とテキスト形成の意味はそれぞれコンテクストレベルに属する活動領域、対人関係と伝達様式に制約されている。内容レベルではまず、モーダル諸要素の関係を考察した。マイクロレクチャーは発話の1種であり、聴覚モーダルでもある。発話はマイクロレクチャーの流れを左右する機能を持っているため、発話モーダル

は中心的地位を占めている。張徳祿・王璐（2012）により、授業のモーダルは発話とスライドにおけるモーダルの組み合わせ（文字、画像や映像など）からなっている。そして、マイクロレクチャーも同じように、発話とモーダルの組み合わせ（テキスト文、画像、GIFアニメ、映像、バックミュージック、オーディオイフェクト）からなっている。ここでモーダル諸要素の関係を考察し、表5にまとめた。

結果として、相互補足関係が一番高い割合を占めている（84.8%）。一方、非相互補足関係の割合は前者に比べてかなり低く、主に「余剰」に集中している（15.1%）。相互補足関係の中で、強化関係の割合（76.6%）は非強化関係（8.2%）を遥かに超えている。また、強化関係の中では補助関係は最も多く、全体の70.4%を占めているということが分かった。

表5 モーダル諸要素の関係と割合表

関係		モーダル	割合 (%)	合計 (%)
相互補足関係	強化関係	拡充	T, MP	4.7
		補助	T, MP, MG, MAE	70.4
		背景	MP, MM	1.5
	非強化関係	協調	T, MP, MG, MV	8.2
非相互補足関係	重複	余剰	T, MP, MG	15.1
				15.1

受賞作品におけるモーダル諸要素の関係と賞の等級との関係についても考察した。表6で示しているように、一等賞の相互補足関係の割合は最も高く、9割を占めている。二等賞と三等賞の割合はそれぞれ85.2%と78.8%となっている。つまり、相互補足関係の割合と賞の等級とはプラスの関係であり、作品におけるモーダルは発話モーダルによる意味伝達を促進する傾向があることが判明した。

表6 関係の分布と賞の等級

	相互補足関係	関係全体	割合 (%)
一等賞	332	369	90.0
二等賞	352	413	85.2
三等賞	331	420	78.8

6. 結果

本研究はコンテストにおける日本語の受賞作品を対象とし、文化レベル、コンテクストレベル、表現レベルと内容レベルからそれぞれ考察し、以下の結果をまとめた。

文化レベルから見ると、一等賞の作品は平均的に時間が最も短かったものの、イントロとアウトロがあり、内容の説明もきちんとしている。合理的かつ流暢な構造を持っていることが分かった。

コンテクストレベルにおいては、「基礎日本語」という授業の内容に集中する傾向がある。

また、一等賞の作品における対人関係は二等賞と三等賞よりも、コミュニケーションの効果があり、視聴者に臨場感を与えていていることを判明した。

表現レベルという視点から見れば、プロソディーとハイライトの使用頻度は賞の等級とプラスの関係であり、マルチメディアの場合はマイナスの関係である。しかし、テキスト文の使用頻度はそれほど変わらないことが分かった。

内容レベルにおけるモーダル諸要素の関係については、相互補足関係が主であることが判明した。それに、相互補足関係の使用頻度は賞の等級とプラスの関係である一方、非相互補足関係は賞の等級とマイナスの関係であることを明らかになった。

考察の結果から見れば、日本語のマイクロレクチャーを制作する際に、以下のことについて注意すべきである。まず、マイクロレクチャーの内容をデザインする時、イントロ（先生の挨拶や授業全体の説明など）とアウトロ（まとめや別れの挨拶など）を付けるべきである。つぎに、学生協力者の参加を映像に入れてもよいが、授業の主体である先生と協力者の学生との間にコミュニケーションを行うことがリアルな授業の雰囲気を表す有効な手段であろう。最後に、マイクロレクチャーは知識のワンポイントを解釈するということであり、先生の言語メディアが主要な地位を占めるべきであり、非言語メディアは補助の手段として過剰に使用すると逆効果となることを注意すべきである。今回の研究はコンテストの作品からごく一部の作品だけ研究対象として考察したが、もっと多くの作品の特徴を考察すべきである。これを次の課題としてさらに研究を進めていきたい。

参考文献：

- Halliday, M.A.K. *An Introduction to Functional Grammar*[M].London: Edward Arnold,1985.
- Kress, G.R & T. van Leeuwen. *Reading Images: The Grammar of Visual Design* [C].London:Routledge,1996.
- 吴婷.外语微课的多模态话语符际间性研究——以两则微课大赛视频为例[J].外语教学理论与实践,2017,(01):72-77.
- 梁乐明,曹俏俏,张宝辉.微课程设计模式研究——基于国内外微课程的对比分析[J].开放教育研究,2013,19(01):65-73.
- 胡铁生.“微课”：区域教育信息资源发展的新趋势[J].电化教育研究,2011(10):61-65.
- 罗刚淮.从“微课 微型课题 微型讲座”例谈教师的教学研究[J].学校党建与思想教育,2012(20):47-49.
- 龙镇.微课来了打破传统课堂的框框[N]. 广东科技报,2013,(05).
- 马武林,何静静.优秀外语微课特征分析——以中国外语微课大赛一等奖作品为例[J].外语电化教学,2017(02):22-26.
- 张志宏.微课:一种新型的学习资源[J].中国教育技术装备,2013(20):50-51.
- 冯小林.中小学实施翻转课堂的制约因素及对策研究[D].华东师范大学,2016.
- 刘培雪.高中化学教学中微课的设计与应用研究[D].辽宁师范大学,2016.
- 王永花,马雪晨.我国中小学微课视频的分析研究——基于第一届中国微课大赛获奖视频的分析[J].教学与管理,2015(09):103-105.
- 李战子.多模式话语的社会符号学分析[J].外语研究,2003(05):1-8+80.

- 朱永生.多元读写能力研究及其对我国教学改革的启示[J].外语研究,2008(04):10-14.
- 张德禄.多模态话语理论与媒体技术在外语教学中的应用[J].外语教学,2009,30(04):15-20.
- 胥国红.教师课堂上的“言”与“行”——对一堂大学英语精读课的多模态话语分析[J].北京科技大学学报(社会科学版),2010,26(04):7-11.
- 杨淼.多模态话语分析在大学英语翻转课堂混合式教学中的应用[J].西部素质教育,2019,5(06):119-120.
- 张媛军.外语微课中多模态话语的符际间性研究[J].科教导刊,2021(22):137-139.
- 张媛军.外语微课的多模态意义解析——以第四届中国外语微课大赛特等奖作品为例[J].智库时代,2019(45):180-182.
- 张德禄.多模态话语分析综合理论框架探索[J].中国外语,2009,6(01):24-30.
- 张德禄,王璐.多模态话语模态的协同及在外语教学中的体现[J].外语学刊,2010(02):97-102.
- 卜彩丽.ADDIE 模型在微课程设计中的应用模式研究[J].教学与管理,2014(24):90-93.

本研究は、大連理工大学 2021 年研究生教学改革与研究基金項目（「《日语语言学》课程思政建设探索与实践」JG_2021025），大連市社科院プロジェクト（「中国共产党对日战犯处理中教育的作用与影响」2021dlsky007）の研究成果の一部である。

「やさしい日本語」版多発災害情報マニュアルの語彙特徴

孫 蓮花・薛 静博 (大連理工大学)

SUN Lianhua · XUE Jingbo

Lexical features of the "Easy Japanese" version of the frequent occurrence disasters

information manual

要旨

本文从易读性角度出发, 围绕词义、表记、词性和难易度, 考察了“简明日语”版频发灾害信息手册的词汇特征, 结果发现: (1) 手册中灾害词汇类型丰富多样, 各类灾害词汇的分布情况与灾害的种类和特性密切相关; (2) 平假名的大量使用和汉字的使用限制, 有利于提高在日外国人对灾害信息的理解度, 片假名和罗马字较少, 主要用于无法替换的专业术语和常用外来词以及关联各县防灾减灾的网址和邮箱, 对在日外国人的灾害信息理解度影响较小; (3) 名词的多用有利于在日外国人短期迅速掌握大量避难信息; (4) N4 和 N5 词汇的多用有利于在日外国人理解灾害信息, N1、N2/N3 词汇主要集中在无法替换的灾害专业术语, 因此有必要对其补充易于理解的解释说明。

キーワード: 「やさしい日本語」 災害情報 語彙特徴

目次

- はじめに
- 先行研究
- 調査概要
- 調査結果分析と考察
 - 意味
 - 文字表記
 - 品詞
 - 難易度
- おわりに

1. はじめに

自然災害が多発する日本では、緊急時言語サービスの一環としての「やさしい日本語」についての豊富な研究成果が蓄積されてきた。自然災害は瞬時性と予測不可能性があり、二次災害を引き起こしやすい。そこで、「やさしい日本語」の災害情報マニュアルを適所に配備すれば、発災直後であっても、外国人に対して避難誘導のための情報提供が可能となる(佐藤 2005)。そして、日本全国 47 都道府県の自治体や在日外国人支援団体で、「や

さしい日本語」が活用されるようになった。

「やさしい日本語」とは、災害の時「外国人にもわかりやすく、また情報を提供する日本人にも使いやすいように、作成された簡潔な日本語」である（佐藤 2007）。「やさしい日本語」には12項目の作成基本ルールがある。そのうち、語彙関連ルールには、「①難しいことばを避け、簡単な語を使ってください。②災害時によく使われることば、知つておいた方がよいと思われる言葉はそのまま使ってください。③片仮名・外来語はなるべく使わないでください。④ローマ字は使わないでください。⑤使用する漢字や、漢字の使用量に注意してください。すべての漢字にルビ（ふりがな）を振ってください。すべての漢字の横に（ ）をつけてふりがなを振ってください。⑥擬態語や擬音語は使わないでください。」などがある（弘前大学人文学部社会言語学研究室 2010）。このような作成ルールの基本になっているのは「わかりやすさ」である。

要するに、「やさしい日本語」は、情報内容と言語表現（語彙や文法など）のリーダビリティ（readability）が重要である。日本語学習者のレベルが初級に近づくほど語彙力が読解力に占める割合が高いことから（野口 2008）、語彙の分かりやすさが、日本語能力の低い在日外国人が防災・減災情報を理解することにおいて非常に重要な要素であると考えられる。

そこで、本稿では、日本47都道府県の自治体ホームページの「やさしい日本語」版多発災害情報マニュアルを研究対象として、リーダビリティの視点から、意味、表記、品詞などの構成及び難易度を考察し、「やさしい日本語」版多発災害情報マニュアルの語彙特徴を明らかにする。

2. 先行研究

「やさしい日本語」の語彙に関して日本では数多くの研究が行われている。そのうち、松田ら（2000）は、「やさしい日本語」の基本語彙には含まれていない専門語彙は、置き換えずにそのまま使用するが、説明表現をその語の後に付け加えるなどの工夫が必要であると指摘した。佐藤（2005）、弘前大学人文学部社会言語学研究室（2005）は、「やさしい日本語」の語彙について、同音異義語と文字表記の問題点、漢字のひらがな表記を提案し、語彙レベルを旧日本語能力試験3級または日本小学校2、3年生のレベルに規定した。その後、語彙レベルを旧日本語能力試験の3、4級（新日本語能力試験N4、N5に相当する）に再規定した（弘前大学人文学部社会言語学研究室 2013）。

一方、近年、中国国内でも、日本の「やさしい日本語」が注目され、陳林俊ら（2014）、韓涛（2019）、包聯群（2020）、王璐（2021）、姚艷玲（2021）などでは、主に「やさしい日本語」の背景、作成ルール、有効性、応用システムなどについて概観し、中国の緊急時言語サービスに対して言葉の「やさしさ」の標準を立てる必要性を指摘した。

また、日本語のリーダビリティに関しては、柴崎ら（2007）、近藤ら（2007）、Hasebe & Lee（2015）、李在鎬（2016）などでは、言語表現の難しさは、単語や文字の難しさ、構造

的複雑さや文長などに起因すると指摘した。

しかし、上述の諸先行研究からは、「やさしい日本語」作成ルールが実際に災害に応用される際に、災害の特性によってどのように異なるかについての実証研究は、ほとんど見られない。また、語彙に関しては、具体的な品詞・難易度等の構成や、どのような意味分野に属するかといったこともまだ明らかにされていない。

3. 調査概要

まず、日本 47 都道府県の県レベルの自治体ホームページの「やさしい日本語」版多発災害情報マニュアルのデータを収集し（2020 年 10 月 30 日現在）、文字化した。マニュアルの作成担当部門は主に国際交流担当部門と防災関係部門である。マニュアル内容は、地震に関する内容が一番多く、約 20 万字であり、台風・大雨に関する内容が二番目で、約 10 万字である。

次に、文字化データに基づき、リーダビリティの視点から、「日本語読解システム Reading Tutor」と「jReadability 日本語文章難易度判別システム」を使い、意味・文字表記・品詞・難易度を中心に、語彙特徴を考察する。

4. 調査結果分析と考察

4. 1. 意味

本稿では、災害情報「やさしい日本語」版における語彙の意味を大きく災害語彙と日常語彙の 2 種類に分け、佐藤（2009）の災害語彙の基準（表 1）を参考に、災害語彙の意味分類を行った。図 1 は災害語彙の意味分類比率の詳細である。

表 1 佐藤（2009）による災害語彙シソーラス

類型	例
1. 専門用語	激甚災害や耐震など
2. 災害の種類	地震、火災、津波、台風、土砂など
3. 発災の説明	震度、マグニチュードなど
4. 災害の状況、被害の程度	襲う、燃える、止まる、停電、全開など
5. 海に関わる	大波、船、潮、盛り上がるなど
6. 山に関わる	山崩れ、崖崩れなど
7. 建物に関する	家、避難所、学校、体育館、市役所など
8. 交通に関する	電車、車、道路など
9. 医療に関する	医者、看護婦、傷、点滴、怪我など
10. 生活に関する	ガス、水・火、給水車、配給など
11. 施設の設備	トイレ、風呂、水道、床・壁など
12. 感情	恐ろしい、怖い、叫ぶ、不安、寒いなど

13.災害に立ち向かう行動	防火、避難、助けるなど
14.状況の改善	弱まる、収まる、動く、直る、通れるなど

図1を見ると、まず、「やさしい日本語」版では、「災害に立ち向かう行動」と「災害の状況、被害の程度」の2種類の語彙が全体の半分以上を占めている。自然災害は短時間で突然爆発する社会危機であり、意外性が強い、発展速度が速い、破壊性が大きい、影響面が広い、コントロールが難しい、二次災害を引きやすいなどの特徴を持っている。そこで、被災者にとって、災害時に「やさしい日本語」で災害の状況、被害の程度を適時に把握し、災害に立ち向かうための効果的な避難行動を取ることが最も重要である。

次に、「災害に立ち向かう行動」、「生活に関わる」、「医療に関する」、「感情」4種類の語彙は、どの種類でも地震類語彙の比率が台風・大雨類より著しく高い。台風・大雨に比べ、地震は突発性がより強く、いつ起きるかという予測が難しく、より大きな破壊をもたらしやすい。そのため、台風・大雨よりも地震による外国人の被災状況はより深刻で、心理的な不安がもっと大きくなり、災害時に迅速で適切な避難行動と医療支援及び災害後生活上の支援がより必要になる。

最後に、「災害の状況、被害の程度」と「発災の説明」類語彙では、台風・大雨類語彙の比率が地震類より著しく高い。地震は地質災害に属し、津波などの二次災害を引き起こしやすい。一方、台風・大雨は気象災害に属し、土砂崩れや地すべりなどの地質災害を引き起こしやすく、二次災害の種類及びその修飾語が地震より多種多様であるためである。

上述のように、災害情報「やさしい日本語」版の語彙構成は、災害の種類と特性と緊密な関係がある。より良い防災・減災の効果を果たせるためには、各自治体または「やさしい日本語」で情報提供をする側は、特に災害語彙を選ぶ際に、災害の特性によって各種類の災害語彙の割合を適切に調整する必要があると考えられる。

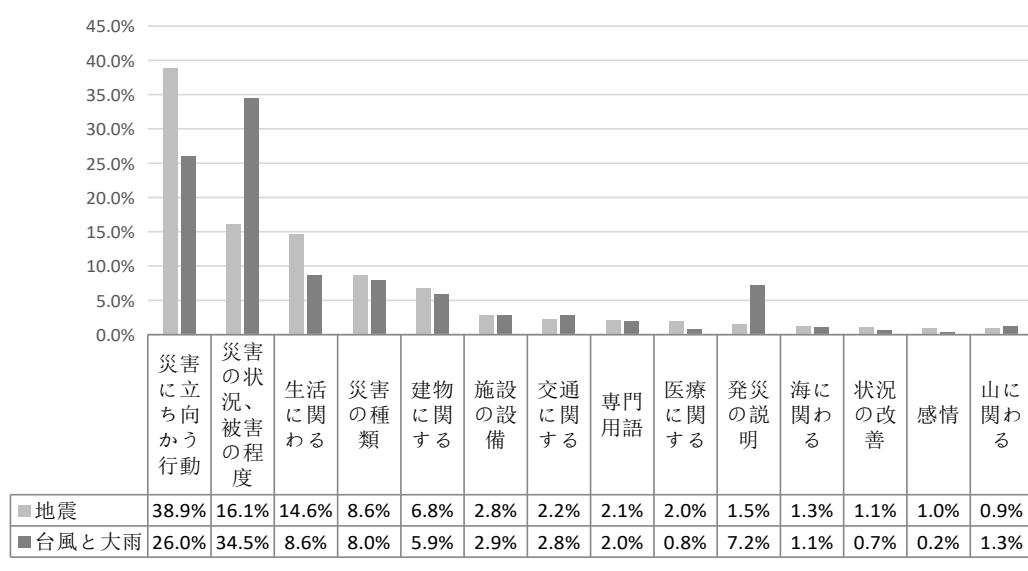


図1 災害語彙の意味分類の比率

4.2. 文字表記

本節では、「日本語読解システム Reading Tutor」を使い、日本地方自治体のホームページにおける災害情報「やさしい日本語」版の文字表記について考察を行う。

表2のように、全体から見れば、どの種類の災害でも「平仮名>漢字>片仮名>ローマ字」の順序で、ローマ字の使用が少ない。

表2 災害情報「やさしい日本語」版の文字表記の比率

災害種類	平仮名	漢字	片仮名	ローマ字	合計
地震	72%	20%	5%	3%	100%
台風・大雨	75%	20%	3%	2%	100%

まず、どの種類の災害でも平仮名使用が最も多く、全体の70%を占める。その理由は、平仮名表記の語彙と語彙の送り仮名の他に、「やさしい日本語」作成ルールには「すべての漢字にルビ(ふりがな)を振ってください」と規定されているため、振り仮名としての平仮名の数が約60%を占めており、在日外国人の防災・減災情報への理解度を上げることに繋がると考えられる。

次に、漢字をみると、漢字使用量はどの種類の災害でも、二番目で、20%を占めており、漢字使用量が適度に控えられている。

さらに、片仮名使用は、地震類では5%、台風・大雨類では3%を占めているが、それらは主に置き換えられない専門用語と日常用語の外来語であるため、外国人の理解にはあまり影響がないと考えられる。

最後に、ローマ字使用が最も少なく、主に県の防災減災関係機関のメールアドレスとリンクに使われている。「やさしい日本語」作成ルールに「ローマ字は使わないでください」と要求されているが、災害情報「やさしい日本語」版はマニュアル文の形式で作成され、地域によって内容も多様である。図2のようにローマ字で漢字と仮名にルビを付ける地方自治体もある。

いえ なか ひと つぎ 家の 中に いる人は 次のことをして ください	
❶	〇〇に 連れて 行って ください。(〇〇 ni tsurete itte kudasai)
❷	〇〇が 欲しいです。(〇〇 ga hoshii desu)
❸	〇〇が 痛いです。(〇〇 ga itai desu)

あたま
頭の 上に 気をつけて ください
ものが 上から 落ちます



机
テーブルの 下へ 入って ください
大きいものが 倒れるかもしれません



図2 ローマ字の表記例

図3 自治体ホームページの表記

その他に、「やさしい日本語」の漢字の振り仮名の表記ルールでは、漢字の後に付く（ ）

に振り仮名を加えるが、実態調査では、6つの地方自治体のホームページのみ作成ルール通り平仮名を振っている。他の32の地方自治体のホームページでは図3のように、漢字にルビを付けている。漢字の後の（ ）に振り仮名を加える表記法は、一つの語彙が同じ文字サイズの漢字と平仮名で表記されることになり、どの表記型でもよく見える。しかし、文字数が限られているホームページでは、その表記法に従うと返って一文を長くしてしまう。これは、在日外国人の防災・減災情報の重複読み取りを引き起こし、読み取る時間を増やし、在日外国人の防災・減災情報への理解度を妨げる恐れがある。逆に、漢字にルビを付ける表記法は、そのような問題がないが、振り仮名の文字サイズが小さく、非漢字文化圏外国人にとっては不便になるかもしれない。

4.3. 品詞

災害情報「やさしい日本語」版の品詞使用については、「日本語読解システム Reading Tutor」には品詞判別機能がないため、「jReadability 日本語文章難易度判別システム」を使ってデータを分析し、考察を行う。

「jReadability」の形態素解析辞書はUniDic2.2.0である。本節の品詞分類については、原則としてUniDicの品詞体系 (Yuta Hayashibe 2009)に従い、代名詞は名詞、「形状詞」は「形容動詞の語幹部分」として形容動詞と見なすが、日本語教育の分類に基づき、形容動詞を形容詞として数えた。表3は災害情報「やさしい日本語」版の自立語の品詞比率である。

表3 災害情報「やさしい日本語」版の自立語の品詞比率

災害種類	名詞	動詞	形容詞	副詞	連体詞	接続詞	感動詞	合計
地震	73.2%	17.7%	5.5%	2.3%	0.9%	0.2%	0.1%	100.0%
台風・大雨	72.1%	17.3%	7.4%	2.6%	0.4%	0.1%	0.0%	100.0%

表3を見ると、自立語の各品詞比率には大差がなく、どの種類の災害でも「名詞>動詞>形容詞>副詞>連体詞>接続詞>感動詞」の順序である。まず、名詞が圧倒的に多く、全体の70%以上を占めている。

名詞は典型的には物体・物質・人物・場所など具体的な対象を指示することに用いられる語である。情報伝達の面では、名詞が大きな比率を占めることは、文章に含まれる情報量が多いということである (李在鎬 2019)。また、文章の品詞分布について、要約的な文章では名詞率が高くなる (樺島 1988)。そして、日本語学習者の初級語彙教育にとって、動詞より語のイメージが容易な名詞のほうが習得しやすい (Ellis N. & Beaton 1993)。つまり、災害情報「やさしい日本語」版では、名詞が70%以上、初級語彙が全体名詞の半分以上を占めており、このような名詞の多用によって、日本語能力の低い在日外国人が、災害時に短時間で大量の分かりやすい災害情報を得ることができると考えられる。

次に、動詞は20%未満であり、初級語彙には、地震類が60.9%、台風・大雨類が58.4%を占めている。動詞は主に動作や状態を表し、主語や目的語などの名詞句をとる語である。

「やさしい日本語」作成ルールで要求されているように、災害時に名詞句に比べ、動詞句の多用は避難の緊急性や行動性を増やすことに繋がると考えられる。

しかし、UniDicの品詞体系マニュアルによると、名詞には、固有名詞と普通名詞の2種類があり、普通名詞のうち、他の品詞として用いられるものがある。表4の災害情報「やさしい日本語」版における各種類の名詞の比率を見ると、「名詞-普通名詞-サ変可能」のように「する」「できる」などが付いて動詞として用いられる名詞の比率は二番目である。これは、表3の20%の動詞と合わせて、避難の緊急性や行動性を増やすことや外国人が動態的に災害状況を把握して速やかに避難行動を取ることなどに役立つと考えられる。

さらに、災害情報「やさしい日本語」版には、「形容詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞」の比率が低く、地震類では9.0%を占め、台風・大雨類では10.5%を占めている。

最後に、災害情報「やさしい日本語」版には、擬音語と擬態語使用が極めて少ない。主に副詞である「ゆっくり」、「ときどき」、「イライラ」等の日常生活でもよく使われている語彙であり、「やさしい日本語」のわかりやすさにあまり影響がないと考えられる。

つまり、以上の品詞使用から見れば、日本語能力の低い外国人は、災害情報「やさしい日本語」版を通じて、防災・減災に関する災害情報を大量に獲得し、迅速に避難行動を取ることができると考えられる。

表4 普通名詞うち他の品詞として用いられる語彙の比率

普通名詞の分類	地震	台風・大雨
名詞-普通名詞-一般	54.8%	54.6%
名詞-普通名詞-サ変可能	16.9%	16.2%
名詞-普通名詞-副詞可能	10.7%	13.0%
名詞-数詞	8.9%	8.6%
名詞-普通名詞-助数詞可能	3.0%	2.9%
名詞-普通名詞-形状詞可能	2.1%	2.3%
名詞-固有名詞-地名	2.0%	1.1%
代名詞	1.1%	1.1%
名詞-固有名詞-人名	0.4%	0.1%
名詞-普通名詞-サ変形状詞可能	0.1%	0.0%
名詞-固有名詞-一般	0.1%	0.0%
合計	100.0%	100.0%

4.4. 難易度

本節では「Reading Tutor」を使い、英字、数字と記号を除き、日本地方自治体のホームページにおける災害情報「やさしい日本語」版の語彙難易度を分析した。

表5は災害情報「やさしい日本語」版の語彙難易度の比率をまとめたものである。表5を見ると、地震と台風・大雨の2種類の災害情報「やさしい日本語」版では、各語彙レベルの比率差異は小さく、N4とN5の語彙が80%ぐらいを占め、特にN5の語彙が最も多く、全体の70%ぐらいを占めている。

しかし、級外やN1、N2/N3の語彙も約20%を占めており、これは主に「余震」、「マグニチュー」、「津波」などの置き換えられない災害専門用語である。日本語レベルの低い外国人であっても、これらの災害専門用語は知っておいた方がよいと思われる言葉であるため、そのまま使っているのである。また、日本語レベルの低い外国人であっても、これらの災害専門用語を知っておかないと、彼らの避難行動を妨げ、防災・減災の効果に悪影響を及ぼす可能性がある。

表5 災害情報「やさしい日本語」版の語彙難易度の比率

災害種類	級外	N1	N2/N3	N4	N5	合計
地震	7%	5%	10%	12%	66%	100%
台風・大雨	6%	5%	9%	11%	69%	100%

5. おわりに

本稿では、意味、文字表記、品詞、難易度の面から、「やさしい日本語」版多発災害情報マニュアルの語彙特徴について考察を行った。

まず、意味からみると、災害語彙の比率は日常語彙より低いが、その種類が日常語彙よりも多く、それに各種類の災害語彙の分布が、災害の種類及びその特性と緊密な関係があることが分かった。そのため、災害の種類及びその特性によって各種類の災害語彙の割合を適切に調整したほうがいいと考えられる。

次に、文字表記からみると、平仮名使用が多く、漢字使用が少ないことは、在日外国人の防災・減災情報への理解度を上げることができる。片仮名とローマ字使用は非常に少ないが、片仮名は主に災害専門用語と日常用語の外来語に使われ、ローマ字は主に県の防災減災関係機関のメールアドレスとリンクのみに使われているため、外国人の理解にあまり影響がないと考えられる。しかし、漢字にルビを付けることが圧倒的に多く、文字サイズが小さいため、非漢字文化圏外国人にとって視覚的に不便になる恐れがあると考えられる。

更に、品詞からみると、名詞は多くの災害情報量を持つ品詞であると同時に、日本語学習者にとっても動詞より習得しやすい性質から名詞が多用されている。一方、動詞は2割未満ではあるが、動詞使用によって避難の緊急性や行動性を増やすことができる。「形容詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞」は数少ないため、外国人の理解をあまり妨げないと

考えられる。

最後に、難易度については、N4 と N5 の語彙が最も多く、全体の 8 割を占めているが、級外や N1、N2/N3 の災害専門語彙も約 20%を占めており、日本語レベルの低い外国人であっても、これらの災害専門語彙を知っておかないと、彼らの避難行動を妨げ、防災・減災の効果に影響する可能性がある。そのため、災害専門語彙のわかりやすい説明・解釈の付け加えが必要になると考えられる。

「やさしい日本語」は、災害情報を「迅速に」「正確に」「簡潔に」外国人被災者に伝えるために考案された。つまり、災害情報「やさしい日本語」版は、緊急時言語サービスに用いられる文として、在日外国人が迅速な避難行動が取れるように、意味、文字表記、品詞、難易度の面から「大量の要約された防災・減災に関する災害情報」、「理解しやすい簡潔な言語表現」の特徴を持つことが必要であると思われる。

参考文献:

- Ellis N・Beaton (1993) 「Psycholinguistic Determinants of Foreign Language Vocabulary Learning」 『Language Learning』 43 pp. 559-617
- Yoichiro Hasebe・JaeHo Lee (2015) 「Introducing a Readability Evaluation System for Japanese Language Education」 The 6th International Conference on Computer Assisted Systems for Teaching and Learning Japanese [CASTEL/J] (at University of Hawaii)
- Yuta Hayashibe (2009) 『UniDic 品詞体系』 <https://hayashibe.jp/tr/mecab/dictionary/unidic/pos>
- 樺島忠夫 (1988) 『日本語はどう変わるか——語彙と文字』 岩波書店
- 近藤陽介・佐藤理史 (2007) 「多項ナイーブベイズ分類を用いた日本語テキストの難易度判定の検討」 『言語処理学会第 13 回年次大会発表論文集』 pp. 534-537
- 佐藤和之 (2005) 「外国人のための「やさしい日本語」について考える適切な災害情報を的確に伝えるための最善策になりうるか」 『国際人流』 10 pp. 12-17
- 佐藤和之 (2007) 「「やさしい日本語」が外国人被災者の命を救う」 やさしい日本語研究会
- 佐藤和之 (2009) 「外国人被災者のための地震災害基本語彙シソーラス試案」 『「やさしい日本語」の構造社会的ニーズへの適用に向けて』 pp. 53-63
- 柴崎秀子・沢井康孝 (2007) 「国語教科書コーパスを応用した日本語リーダビリティ構築のための基礎研究」 『信学技報』 10 pp. 19-24
- 野口裕之 (2008) 『平成 17 年度日本語能力試験分析評価に関する報告書』 凡人社
- 弘前大学人文学部社会言語学研究室 (2005) 『「やさしい日本語」の有効性——本実験の際に寄せられた質問』 弘前大学人文学部社会言語学研究室

- 弘前大学人文学部社会言語学研究室 (2010) 「「やさしい日本語」にするための 12 の規則」
弘前大学人文学部社会言語学研究室
- 弘前大学人文学部社会言語学研究室 (2013) 『「やさしい日本語」作成のためのガイドライン』
弘前大学人文学部社会言語学研究室
- 松田陽子・前田理佳子・佐藤和之 (2000) 「災害時の外国人に対する情報提供のための日本語表現とその有効性に関する試論」『日本語科学』7 pp. 145-159
- 李在鎬 (2016) 「日本語教育のための文章難易度に関する研究」『早稲田日本語教育学』
21 pp. 1-16
- 李在鎬 (2019) 「BCCWJ に含まれる学校教科書コーパスの計量的分析日本語教育のためのリーダビリティと語彙レベルの分布を中心に」『計量国語学』3 pp. 147-162
- 包聯群 (2020) 「“3・11”東日本大震災应急语言服务」『语言战略研究』3 pp. 62-74
- 陳林俊・湯浜 (2014) 「日本的简化日语研究」『教育评论』9 pp. 156-158
- 韓涛 (2019) 「日本的“平易语言”政策」『中国语言生活状况报告』商务印书馆
- 王璐 (2021) 「国家建设视阈下的简易日语规划」『中国语言战略』1 pp. 57-65
- 姚艷玲 (2021) 「日本“平易语言”政策及应急语言特征研究」『日语学习与研究』5 pp. 21-28

【付記】

本研究は、2020 年度国家社会科学基金項目「日本应急语言“简明日语”结构特征及应用机制研究」（課題番号：20BYY217）の研究成果の一部である。

五山禪林における『莊子』の受容

吳春燕（廣東工業大學）

WU Chunyan

Five Mountain Zen Master's Acceptance of *Chuang-Tzu*

要旨

日本五山禪林では、『莊子』は広く流布しており、莊子に關心を持つ禪僧も多くいたため、五山文学には莊子の投影が容易に見られる。また、禪林内部及び外部環境の変動により、五山文学における莊子受容の様相も、時代が下るに従って、変化しつつあった。前期では莊子思想を受容する一面もあれば、莊子本人に傾倒し、『莊子』に文学的に親しんでいるという一面もある。中期では、莊子を思想的に受容する作品もかなりあるが、莊子の故事・典故を詩文に織り込むようになり、『莊子』を文学的に受容する傾向が愈々強くなった。後期に入ると、後期禪僧の莊子受容は莊子を思想的に受容するものが見えなくなり、莊子の表現や故事典故をわざと踏まえて詩文を創作し、莊子を純文学的に受容する傾向が顕著であった。

キーワード：五山禪林 莊子受容 雪村友梅 惟肖得巖 万里集九

目次

始めに

1. 五山禪林における『莊子』の流布
2. 莊子に關心持ちの五山禪僧
3. 五山文学の前期における莊子受容 —雪村友梅を例に—
4. 五山文学の中期における老子受容—惟肖得巖を例に—
5. 五山文学の後期における老子受容—万里集九を例に—

終わりに

はじめに

鎌倉時代初期、禪宗の伝来とともに、中国の唐宋で盛んであった「儒仏不二」、「儒釈道三教一致」の理論も日本まで伝わってきた。その後、儒道関係の書物が大量に五山禪林まで持ち込まれ、その思想内容も五山禪僧の教養体系に深く浸透した。それ故、五山文学は禪僧の手によって創作されたものでありながらも、中には儒・仏・道を三大主幹とする中国伝統文化的な要素が豊富に含まれている。しかし、今までの五山禪林及び五山文学における中国伝統文化への受容に関する研究は、殆ど佛教（禪宗）と儒学に焦点を当てられていたが、老莊をはじめとする道家文化の受容についての研究は等閑視されているようである。

本稿は五山禪林における『莊子』の流布、莊子に關心持ちの禪僧、また、五山文学の前

期、中期と後期の代表禪僧によって創作された漢詩、漢文、日記、隨筆、語録などを概観し、その中に見える莊子受容の様相について検討してみる。それによって、五山禪林における莊子受容の時代変遷を伺おうとする。

1、五山禪林における『莊子』の流布

『莊子』が確実に日本で流布していることに対する最古の記録は『日本国見在書目録』に見られる。『日本国見在書目録』（891—897 成立）は藤原佐世によって平安時代に編纂されたもので、四十家の漢籍を収録されている。『莊子』の関係書物はその第二十五の条目である「道家」に収められており、総計 22 部であり、次のようにまとめられる。

表 1：『莊子』の関係書物¹

『莊子』関係の書物	莊子後撰廿卷
莊子廿卷梁漆園吏莊周撰 後漢司馬彪注	莊子序略一卷
莊子卅三卷 郭象注	莊子序略集解卅卷
莊子義記十卷 張議撰	莊子序略要難十八卷
莊子義疏廿卷 王穆夜撰	莊子字訓一卷
莊子義疏九卷 王穆夜撰	莊子疏十卷 西華寺法師成英撰
莊子義疏五卷 賈彥咸撰	莊子音義十卷 道士方守一撰
莊子十二卷 張機撰	莊子音義二卷
莊子疏五卷統行仙集經	莊子音義三卷 徐邈撰
莊子講疏八卷	莊子音訓事義十卷 邦人の編集か
莊子私義記十卷	南華仙人莊子義類十二卷

『日本国見在書目録』の編纂時代は中世より二百年以上前の平安時代の半ばであったにもかかわらず、そこに見られる『莊子』関係書物の多くが五山禪林まで伝わっていき、当時の知識階層となった禪僧の間で広がり、読まれていたことは自然に考えられよう。

1235 年ごろに入宋、1241 年に帰朝した東福寺開山の禪僧圓爾辨圓（1202—1280）は大量の書物を持ち帰ったが、その書名は部分的に彼の法孫大道一によって『普門院經論章疏語錄儒書等目録』の中に記された。この目録によれば、主として圓爾の舶載典籍を収藏したと推定される東福寺普門院の書庫には、遅くも正平八年（1353）の頃、次のような『莊子』書物が蔵されていたという。つまり、『莊子疏』十卷と『莊子』一部である。このうち、『莊子疏』はいうまでもなく成玄英の疏である。

宋の印刷技術が中日禪僧により、日本に伝わり、日本は次第に写（鈔）本から版（刊）本の時代に入った。しかし、中世の終わりまで印刷技術がまだ普及していなかったため、五山禪林では、写（鈔）本は依然として書物伝播の重要な手段であった。これらの写（鈔）本は戦乱などの原因で大量に逸失してしまったが、現存のものに基づいて考察すれば、次のような『莊子』関係書物が確認できる。

1 王迪『日本における老莊思想の受容』国書刊行会、2001 年、105 頁。

表2：中世の『莊子』関係書物の写（鈔）本²

鎌倉中期写本	南華真經注疏 晉郭象注 唐玄英疏	大東急記念文庫
鎌倉写本	莊子（現存7巻） 晉郭象注	国立公文書館
室町時代写本	南華真經註疏	宮内庁図書寮
室町末期写本	南華真經注疏解經 33巻 唐釈玄英撰	足利学校遺跡図書館
室町末期写本	莊子講義	足利学校遺跡図書館
室町末近世初抄本	莊子處斎口義（宋）林希逸著	京都大学附属図書館

王迪の指摘しているように、鎌倉時代から室町時代までの老莊書物については、『莊子』は郭象注・玄英疏が流行していたが、南北朝から室町末期までの間に、『莊子處斎口義』が現れた。³

中国の印刷技術の伝来に恵まれ、五山禪林の出版業は愈々発展して、南北朝時代には「五山版」⁴の隆盛期を迎えた。現存している「五山版」に見られる『莊子』関係書物は、以下の4点がある。

表3：「五山版」に見られる『莊子』の関係書物⁵

南北朝刊	莊子處斎口義 宋林希逸 十冊	国立公文書館
室町初	莊子處斎口義 残本 宋林希逸撰 舊刊本 八冊	足利学校遺跡図書館
南北朝刊	莊子處斎口義 宋林希逸 十冊（卷一～四輔写）	成實堂文庫
五山版 ⁶	莊子口義 十巻 十冊 宋林希逸撰	書誌書目シリーズ

林希逸の老莊口義本の特徴については、従来の老莊学研究者は「難解な言葉を使わず、わかりやすい解釈を施している」という点で一致した意見を出している。⁷これも老莊口義本が中世禪僧に喜ばれた要因の一つだと考えられる。一方では、両口義本はその口語的な解釈を以て中世禪僧の老莊、ないし道家思想の受容に拍車をかけたといえよう。

2、莊子に関心を持つ五山禪僧

鎌倉・南北朝時代では老莊学の講義は禪林で行われていなかったので、禪僧の莊子研究と莊子受容はあくまでも個人的な行為であった。しかし、室町時代に入ると、老莊学の講義が許容され、林希逸の老莊口義本も利用されるようになったので、莊子の影響が禪林において更に広がっていたと考えられる。

莊子に関心持ちの禪僧及びその作品を明らかにするために、上田觀光の『五山文学全集』と玉村竹二の『五山文学新集』に収められている作品を禪僧ごとに検索し、その中に見える莊子の投影を検討してみた。その結果、『全集』と『新集』に記述のある61名の禪僧には、漢詩文において莊子本人のことを吟じ、或は『莊子』の表現や思想理論を用いて、禪

2 王迪『日本における老莊思想の受容』国書刊行会, 2001年, 162頁。

3 王迪『日本における老莊思想の受容』国書刊行会, 2001年, 169頁。

4 「五山版」とは、五山並びに禪宗関係者によって、鎌倉・室町間に出版された中国古典のことである。

5 王迪. 日本における老莊思想の受容[M]. 東京: 国書刊行会, 2001. 193

6 狹義の五山版とは、鎌倉・京都の五山で出版された書物のことである。

7 王迪『日本における老莊思想の受容』国書刊行会, 2001年, 173頁。

宗の教義・教理を説く禪僧、即ち、莊子と関わりのある禪僧は50名いることがわかる。

芳賀幸四郎の五山文学に関する三期説に従えば、五山文学前期（鎌倉中期～南北朝末）に属する禪僧は21名、中期（室町初期～応仁の乱）は16名、後期（応仁の乱後～室町時代末）は13名である。五山文学の各時期における老子受容について考察するために、更に、その時代変遷を垣間見るために、各時期から代表禪僧を1名ずつ考察対象として、その作品に見える莊子受容の様相について詳しく分析してみる。

3、五山文学の前期における莊子受容 ー雪村友梅を例にー

雪村友梅（1290－1346）、臨濟宗一山派。少年時代、宋僧一山一寧（2）に随侍していた。1307年に入元して、中国大陆で22年間も遊歴した。在元中、元の士大夫と盛んに交友し、江南名僧に参じ、日元関係の悪化で、間諜の疑いで下獄し、長安、四川省の岷峨に流刑となったことがある。その後、元の朝廷に寶覺真空禪師の号を特賜され、優遇された。1329年、帰国した。その後、関西の西禪寺、豊後万寿寺、鎌倉建仁寺などの住持を歴任し、天寿元年（1346）、56歳を以て示寂した。

雪村友梅の作品集としては、在元中のものを集めた『岷峨集』と、帰国後の作品を集めた『寶覺真空禪師語録』との二部がある。雪村友梅は元朝風新思潮を吸収し、日本へ持ち帰った人物として、五山文学の前期に多大な貢献をし、その淵源の一つをなしたといえる。

3.1 莊子への私淑

雪村友梅は莊子に私淑している。雪村と莊子とのかかわりに関しては、『日本高僧伝』には「雪村諱友梅、建仁寺大龍庵開山、学大才、諱莊子僧也」とある。また、雪村の法孫である大有諸慎が撰した『雪村大和尚行道記』には、

心憤口俳、吐出胸中、自然成章、經史諸子、一日皆記、在峠隘舟中、手披小本南華真經、馬上本莊子、官人馬上看過小本也、每紙一覽、拋向水中、人見而問之、師咲曰、不記胡為、聞者卷舌、

とあるように、莊子の『南華真經』は雪村の愛読書であり、雪村はその内容に大変詳しいようである。

雪村も自分の漢詩文でよく莊子のことに触れており、「南華仙子」、「莊生」、「周」などと称し、莊子の話をそのまま引用するところが多数ある。

表4：雪村友梅の莊子への言及

「乙丑春日偶作」	南華仙子師長桑、瑣視六合蜂營房、
「止堂説」	莊生云、人不鑑於流水、而鑑於止水、 又云、瞻彼闕者、虛室生白、吉祥止止、
「玉岡頌軸作」	莊生云、寓言十九、重言十七、
「覺庵」	六窓画永周忘蝶、碧篆煙消睡起初、

3.2 雪村の漢詩文に見られる莊子思想の受容

莊子思想に対して、雪村友梅は「寄郭戸曹五絶」という漢詩では「老莊幽旨自然宗、孔釈相逢道異同」といっていた。つまり、雪村の理解では、老莊思想は「自然」を根本とし

ているのである。老莊、特に莊子の「自然に従い」という思想は雪村の漢詩文創作に大きな影響を与えていている。

表 5：雪村友梅の漢詩文に見られる莊子思想の受容

	原 文	出 所
「語錄」	所以道、昭昭於心目之間、相不可觀、晃晃於色塵之内、真不可求、……輔萬機於造化、	老莊の所謂「道」にそっくり。
「中秋次韻」	携手一歛赴康健、共看鵬鵠逍遙遊、	『莊子・逍遙遊』の鯤鵬の自由逍遙を詠い、憧れる。
「三題頌軸序」	入此軒者、與物俱化、契斯理者、與道相符、	『莊子・至樂』の「物化」思想による。

雪村友梅は「語錄」の中で禪宗の「道」を説明する時、老莊の「道」に関する語句や概念を引用することが多い。老莊の所謂「道」は万物の「根源」であり、「見えず」「聞かず」「求めず」などの特性があり、禪宗の所謂「明心見性」の「性」に似ているため、よく禪宗教義の闡明に用いられるのである。

『莊子』では、自然万物は一刻も止まらずに変化・転化しているので、「化」こそ天地万物の真相であり、人間も自然万物の一つである。それなので、この止まない「化」に順応して、「化」と共に変化・転化すべきだと指摘している。それは莊子の所謂「物化」思想である。雪村は漢詩文で「入此軒者、與物俱化、契斯理者、與道相符」とい、莊子の「物化」思想への共鳴を表している。

また、莊子の「逍遙」、「忘機」、「斎物」などの思想も、たびたび雪村友梅の漢詩文に表出されている。それにより、雪村の莊子思想への深い理解と受容が窺える。

3.3 雪村の漢詩に見られる『莊子』出典

表 6：雪村友梅の漢詩に見られる『莊子』出典

	原 文	出 典
「鶴野病中」	鶴野工文等游刃、技経肯綮之未嘗、	『莊子・養生主』の「庖丁解牛」
「雪山吟留別 錦里諸友」	上林賦客氣飄搖、姑射仙人顏綽約、	『莊子・逍遙遊』の「姑射神人」
「岷山歌」	七窍謀報混沌氏、三分割拠蝸触蛮、	『莊子・應帝王』の「混沌之死」 『莊子・則陽』の「蝸牛角の上の争い」

表 6 からわかるように、雪村友梅は『莊子』の故事典故をしばしば自分の漢詩文に織り込み、『莊子』に詳しく、相当の造詣を持っているのである。これらの漢詩により、雪村友梅は莊子と思想的な共鳴を示しているのみならず、文学的にも莊子に親しんでいることがわかる。

また、雪村は『莊子』を通してだけでなく、陶淵明、李白、蘇東坡などの道風文人やその作品を通して、莊子の思想や文学を受容しているのである。

莊子本人に非常に傾倒し、『莊子』を愛読しているので、雪村の文風も莊子に似ている一面もある。莊子の豊かな想像力、自由自在な創作風格は雪村の漢詩創作にも強く影響し

ているようである。上記の漢詩文から、「時空にとらわれず、物外を超然する」というような莊子の面影が見られるのではなかろうか。

4、五山文学の中期における老子受容－惟肖得巖を例に－

惟肖得巖（1360－1437）、元国より渡日した臨濟宗松源派の老宿である明極楚俊の三世の法孫である。地方の何箇所の寺院の住持を歴任して、応永二十八年（1422）秋、五山第一の南禪寺住持に任命された。これにより、「五山之上」の長老、「紫衣大和尚」となり、即ち五山禪僧として最高の地位に登った。永享四年（1432）、足利義持が使を明に遣す。惟肖は命を受けてその国書を作り、永享六年にも、また国書を作ったという。⁸永享九年（1437）、78歳で示寂した。

惟肖得巖は耕雲明魏に就いて、『莊子』の講義を聞いたことがある。その後、師に倣つて、禪林で『莊子齋斎口義』を講じ、『莊子齋斎口義抄』十巻を著したという（師蛮 1931: 221）。ここで注目すべきなのは、惟肖が耕雲に就いて学んだのは『莊子』の郭象注であり、自ら禪林で講じたのはこの林希逸注の『莊子齋斎口義』だということである。

4.1 惟肖と『莊子齋斎口義抄』

惟肖が禪林で『莊子齋斎口義』を講読することに対して、既に江戸初期の林羅山が次のように指摘している。

本朝古來、讀老莊列者、老則用河上公、莊則用郭象、列則用張湛。而未嘗有及希逸者。近代、南禪寺沙門岩惟肖嘗聞莊子於耕雲老人明魏、而後、惟肖始讀莊子希逸口義、而來、比比皆然……（京都史蹟会編纂 1918: 187）

即ち、日本では古来、『老子』については河上公註、『莊子』については郭象註が用いられていたが、五山南禪寺の僧侶惟肖得巖に至って、始めて林希逸口義が用いられるようになったのである。

林希逸口義の伝来は日本の老莊研究に改革せしめる契機であれば、惟肖得巖は日本で『莊子齋斎口義』を講じる第一人として、日本の老莊研究の転換期を迎える代表人物であり、その改革に大きな貢献をささげた存在であるといつても絶対に過言ではない。

4.2 惟肖の漢文に見られる莊子思想の受容

『莊子』にかなり通曉している惟肖が、その漢文に『莊子』の面影を多く残したのは当然のことであろう。

表7：惟肖得巖の漢文における『莊子』受容

	原 文	考 察
「① 絶学字 説」	学者諷誦、講習之謂也。雖心法之妙、靡不藉此而臻。然②筌蹄之執固、兔魚之獲寡、則不善学者也。故教立學無學二十七位、猶局々乎有無之域、其跡存焉。至永嘉証道之辭曰、絶学無為閑道人。以言遺言、心學次第如此、非踰等之説。③夫輪扁斲輪、疾徐甘苦、得之	①『老子』第二十章には「絶学無憂、唯之與阿、……」とある。 ②『莊子・外物』には「筌者所以在魚、得魚而忘筌。蹄者所以在兔、得兔而忘蹄、……」とある。 ③『莊子・天道』の「輪扁斲輪」に

8 玉村竹二『五山禪僧伝記集成』講談社、1983年、21頁。

	于心、 <u>応之於手</u> 。父子之親、不得相語、 <u>④庖</u> <u>丁解牛、游刃肯綮、目无全牛</u> 。 <u>⑤庄周氏称寓</u> <u>道于技、亦知言哉</u> 。	よる。 ④『莊子・養生主』の「庖丁解牛」による。
「小雲軒記」	戊辰歲、余寓龍阜寺内、其地西南、棟樑連属、白日翕如、……何也、 <u>莊周以謂、莫大乎秋毫、莫小乎泰山。以事謂之似迂、以理觀之周言不迂、几令天下有物皆秋毫、則秋毫亦大矣、皆泰山則泰山亦小矣。唯圃平器局者、而泰山之大、秋毫之小判焉。然而物之变化、逞來無常、則大又為小、小又為大、矧雲為物也、变化無常之尤也、……</u>	この文章は『莊子・齊物論』にある「天下莫大於秋毫之末、而大山為小、莫寿於殤子、而彭祖為夭、天地與我併生、萬物與我為一」という「大と小の関係」に関する叙述を踏まえて、「小雲軒」という名の由来を詳しく説明した。

惟肖は「絶学字説」において、禅を修行する時、言葉の表現に執着するあまり、禅の真意を会得できない所謂「不善学者」のことを、『莊子・外物』の「得魚忘筌」、「得兔忘蹄」、「得意忘言」などの表現を生かして、「筌蹄之執固、兔魚之獲寡」と形容している。惟肖は莊子の「輪扁斲輪」と「庖丁解牛」の故事を引用する目的は他でもなく、当時の禅林の言葉にこだわるような「学」の雰囲気を矯正しようとするところにある。即ち、惟肖は当時の禅僧に禅宗の「道」を体得するには、言葉に拘るべきではなく、「輪扁」と「庖丁」のように心を用いて自然の道筋に従うべきだと呼びかけようとするのである。

4.3 惟肖の漢詩に見られる『莊子』出典

表8：惟肖得巖の漢詩に見られる『莊子』出典

	原 文	出 典
「物外持扇索題」	<u>夢里莊周栩栩娛、待風禦冠甚區々、</u> <u>紫金世界無何有、縉布衣裳物化軀、</u>	『莊子・齊物論』の「胡蝶の夢」
「題扇面」	雲樹畫図出、水鄉租稅寬、 罷漁何所務、沽酒日迎歡、 <u>戰伐双蝸角、功名一鼠肝、</u> 浮生無百歲、此地知人看、	『莊子・則陽』の「蝸牛角の上の争い」、 『莊子・大宗師』の「莊子將死」

惟肖の漢詩は、『莊子』に触れているものが何十首もあるが、殆ど詩会という公的な場で、友人に和を唱えるものや人の求に応じて作ったものである。そして、自分の感想や感銘によるものが少ないため、莊子思想を的確に理解・発揮するというよりも、莊子特有の言葉を用い、莊子の典故を自由に駆使する傾向を示している。紙幅の都合上、上記の何点かしか挙げられない。次に、『莊子』の有名な故事典故である「胡蝶の夢」を例として説明する。

『莊子・齊物論』の「胡蝶の夢」の説話はその奥深い哲理が禅家にとって、執着心を棄て、悟りの道を開く比喩として最適の話頭であるので、五山禅僧に親しまれている。惟肖

は例外なく自分の漢詩によくこれを典故として用いる。惟肖は「物外持扇索題」において、莊子の「物化」の思想に言及したのみならず、莊子の「無何有」の精神的な自由世界、莊子の「風と共に飛翔する」という自由自在な思想への憧れを表出している。この詩の外に、惟肖は何首かの漢詩で莊子の「胡蝶の夢」に典拠している。

5、五山文学の後期における老子受容－万里集九を例に－

万里集九（1428－？）、法諱は集九、万里はその道号で、『莊子・逍遙遊』の「鵬之徙於南冥也、水擊三千里、搏扶搖而上者九万里」から採っている。⁹生涯を通じて、詩数、1541、文の数、111篇の夥しい文学作品を残した。また、自庵名をそのまま襲名して、『梅花無尽藏』という詩文集を編纂し、自分の漢詩文をすべてその中に収めた。

5.1 万里集九と『莊子虧齋口義』

文明十年（1478）、建仁寺内の大昌院に住している天隱竜沢から万里集九あてに書簡を送り、その中に莊子に関する質疑十余件を問い合わせている。それについて、『梅花無尽藏』第一の文明十年の部に、「奉答大昌天隱和尚來書」と題する一絶がある。それに附した序文が第六の冒頭に出ている。その中には、「書尾及虧齋所注之件々、伊陽有雍伯容者、囊底秘一華老人南華之蝶翼、翁一覽之則可矣、」という一節があり、題目の下に「書中、以莊子十余件之不審見投、答一華所編李逸註抄、今在伊陽」という注が付いている。

上記の詩と詩序は万里が天隱竜沢に応答したものである。万里は序文において、天隱の莊子についての疑問には直接答えず、今、伊勢にいる雍伯容という人の所に、一華老人の編する李逸註抄があり、それをご覧になればいいと返信した。

ここでいう「李逸註抄」は、李が季の書写の誤りで、しかも季が希と音通で無意識のうちに用いられ、南宋の林希逸著の『莊子虧齋口義』の註抄であると推定されている。¹⁰万里のいう一華老人はいうまでもなく、かつてその会下で『莊子虧齋口義』の講を受けた一華建忿のことである。

万里は天隱の莊子についての疑問には答えなかった。が、このことを通して、当時の禪林では、万里が『莊子』、特に『莊子虧齋口義』に関して造詣の深い人であると考えられていることがわかる。

5.2 万里集九と「胡蝶の夢」

上記のように、「胡蝶の夢」は『莊子・齊物論』に出ていたる説話であり、趣旨が万事万物の差別を無くし、「彼我同化」の境地を作り出すところにある。その奥深い哲理が禪家にとって、執着心を棄て、悟りの道を開く比喩として最適の話頭であるので、五山禪僧に親しまれている。万里集九も例外なく、「胡蝶の夢」に関わる詩文は莊子関係の詩文の中で最も多いようである。

9 玉村竹二『五山文学新集・第六卷』思文閣、2003年、1139頁。

10 玉村竹二、五山文学新集・第六卷[M]、京都：思文閣、2003、1161

表 9：万里集九の漢詩に見られる「胡蝶の夢」

「綠蝶」	短翎何幸約宮衣、定有遊蜂次第欺、紅女房西秋入夢、遽然未脱是非糸、
「達磨贊」	一葦涙江胡蝶夢、九年面壁野狐禪、嗣香一辨被相誑、斷臂無端就雪擎、
「便面」	日々花前胡蝶飛、定応殘夢裏春衣、南樓鐘声莫吹送、耳尚易醒心易違、
「猫児双蝶図」	使牡丹無乱花後、母猫不睡午陰斜、蝶衣薄裏誰春夢、容易双飛莫触牙、

「綠蝶」という漢詩では、作者の万里が夢の中、錦に刺繡された蝶に訪れられ、その蝶になった。しかし、ふと目が覚めると、すぐ人間世界に戻り、人間社会の是非、矛盾からなかなか離脱できないという意を表しているだろう。

『梅花無尽藏』には、「胡蝶の夢」に関わる詩が十数首ある。そのうち、「綠蝶」のような莊子の「胡蝶の夢」から感銘を受けて、自分の感想を自然に流したものはわずかである。

「胡蝶の夢」をわざと詩に織り込み、読んだ後、牽強付会な感じがするものがほとんどである。表 9 により、万里の莊子受容の特徴がある程度伺えよう。

5.3、万里集九の漢詩に見られる『莊子』出典

表 10：万里集九の漢詩に見られる『莊子』出典

	原 文	出 典
「太平雀」	嘴短三年不得鳴、今朝九万試鵬程、 此声一々非凡鳥、天上亦驚天下驚、	『莊子・逍遙遊』の「鯤鵬」
「讀傳燈錄」	聞昔岷峨蘇白蓮、子孫書熟七生仙、 端門花繁須臾念、鵬背春風漸一鞭、	

万里集九の詩を読むと、『莊子』の故事・典故を織り込んでいたことがわかる。上記のほかに、『莊子』の「渾沌」、「朝三暮四」、「天地一指、万物一馬」、「隨侯之珠」、「南面王の樂」、「驪龍探珠」などの典故や語句を使用する詩文が何首かある。それぞれ、『莊子・應帝王』、『莊子・齊物論』、『莊子・讓王』、『莊子・逍遙遊』、『莊子・列御寇』によるものであるが、『莊子』を思想的に受容するものが少なく、莊子との思想共鳴を表出する作品が殆ど見られない。

詩文で莊子の語句や故事・典故を多用することにより、万里は『莊子』にかなり詳しく、莊子の思想主張もよく理解していることがわかる。しかし、作品の多くは心からの感銘によるものではなく、「詩会」という公的な場で人に和を唱えたり、畫軸や屏風などの絵に贊したりしたものである。そのため、詩文の内容は皮相浅薄な様相を呈し、創作の技法や自分の博学を衒う傾向も強く表れている。

終わりに

本稿において述べてきたことを以下にまとめておこう。

- (1) 『莊子』及びその関係書物は五山禪林で広く流布していた。
- (2) 莊子に関心を持つ五山禪僧は多くいた。

(3) 前期禪僧の莊子受容は莊子思想を受容する一面もあれば、莊子本人に傾倒し、『莊子』に文学的に親しんでいる一面もある。

(4) 中期禪僧の莊子受容は莊子を思想的に受容する作品もかなりあるが、莊子の故事・典故を詩文に織り込むように、『莊子』を文学的に受容する傾向が愈々強くなった。

(5) 後期禪僧の莊子受容は莊子を思想的に受容するものがほとんど見えなくなる。莊子の表現や故事典故をわざと踏まえて詩文を創作し、莊子を純文学的に受容する傾向が顕著であった。

五山文学における莊子受容は時代の下るにしたがって、それなりの変遷が生じたということは、上記の考察により、すでに明らかにされた。その原因について、筆者の管見では、三教一致論の禪林への深入りと禪僧の世俗化が取り上げられるが、紙幅の都合上、それを新たな課題として引き続き研究していきたい。

*本稿におけるテキストの引用は以下のものに準拠した。

上村觀光編（1973）『五山文学全集』思文閣出版社

玉村竹二編（1967）『五山文学新集』東京大学出版会

参考文献

上村觀光（1912）『五山禪僧伝』民友社

川瀬一馬（1970）『五山版の研究』日本古書籍商協会

巖靈峯（1975）『周秦漢魏諸子知見書目』正中書局

福永光司（1982）『道教と日本文化』人文書院

玉村竹二（1983）『五山禪僧伝記集成』講談社

猪口篤志（1986）『日本漢文学史』角川書店

野口鉄郎（1996）『道教と日本』雄山閣

王迪（2001）『日本における老莊思想の受容』国書刊行会

[付記] 本論文は、国家社会科学基金 2020 年度一般項目「日本古代文学の『莊子』受容史研究」（プロジェクト番号：20BWW016）の段階的な研究成果である。

阿倍仲麻呂による在唐科挙及び進士及第

——その賓貢的性格をめぐって

Abenonakamaro 's imperial Examination and Jinshi honor

Focus on the character of Binggong

張維薇（四川大学日本研究センター）

Zhang Weiwei

要旨

本稿は阿倍仲麻呂による在唐科挙に関して考察を行う。その及第した進士の性格を検討し、仲麻呂が唐で官途のスタートした頃の関連史実を明らかにしようとするものである。要するに、唐の後期の文献の中に見られる「賓貢進士」に目を向け、「賓貢」の語源に遡る。そして、「賓貢ノ制」はおよそ唐の前期より実行されてくる外国受験生向けの科挙特別政策が制度化させられたことを明らかにする。仲麻呂の進士合格した開元の間、外国籍及第者として唐朝から「賓貢進士」の名は被せられていなかった。しかし、仲麻呂が同じく唐の科挙特待政策に恵まれた者として、すでに明らかな賓貢的性格を持っていた、と考えなければならない。

キーワード：阿倍仲麻呂；科挙受験；進士；及第；賓貢

目次

はじめに

1. 外国留学生による科挙テストの資格

1.1 阿倍仲麻呂による科挙資格

1.2 仲麻呂の科挙受験及びその推薦者

2. 留学生科挙受験ブーム及び「賓貢ノ制」

2.1 留学生による科挙受験ブーム

2.2 在唐留学生と賓貢進士

3. 留学生向けの科挙特待政策

3.1 「毎自別試」

3.2 留学生科挙受験の特待現象

4. 科挙及第の難度及びその定員

4.1 「仙籍」登り：留学生による進士及第の難度

4.2 賓貢進士による定員限度

5. 仲麻呂の進士及第による「賓貢」的性格

5.1 「賓貢」の語源及び仲麻呂の在唐時期

5.2 仲麻呂による賓功進士の性格

はじめに

古代中国による科挙制は隋煬帝の大業二年(606)に始まり、清の光緒帝三十年(1904)まで、およそ1300年ほど続いた。「科挙」というと、即ち「科」を開き「士」を受け取ることを基本的な制度している。朝廷から若干の科目が設けられ、定期的に統一的な試験を行い、人材の選抜を目的とするのである。原則的には、唐籍の受験者であろうと、外国からの受験者であろうと、どちらも科挙に合格してはじめて、唐の朝廷に入り官職に就くことができる、というのが一般的なルールだとされる。

『成尋所記入宋諸師伝考』によると、「開元中有朝衡者。隶大学應挙。仕至補闕。求帰国。授檢校秘書監放還」、という(1)。また、『楊文公苑談』によると、「開元中、有朝衡者、太学應挙、仕至補闕、求帰国」(2)。以上によると、歴史上、仲麻呂が科挙試験を受け、そこから唐の朝廷に入り官途生涯をスタートしたことが認められているのがわかる。高木博がこのような指摘をしたことがある。「同じ留学生の阿倍仲麻呂は、太学館を志望して勉学し見事に入學、優秀な成績をもって卒業した。仲麻呂はさらに当時最高の国家試験、唐朝の高級官人の登竜門ともいるべき科挙の試験に挑戦し、唐土の英才たちを抜いて合格し、進士となった。」という(3)。

『新唐書』選挙制の中では、進士受験制度に関してこのように記されている。「凡進士、試実務策五道、帖一大經、經、策全通為甲第；策通四、貼過四以上為乙第」(4)。

天下の難関と喻えられた古代中国科挙テストは、一般の受験者には合格しかねる。まして一介の留学生としての仲麻呂が合格できたとは、世の人も驚かせるだろう。この時期の日本朝廷による留学生の選抜要求から見れば、留学生が唐へ渡るまでにすでにかなり漢学の修養が備わっていたことが推測される。唐で留学滞在した数年の間で、仲麻呂が見事な漢詩・漢文のレベルを身に付けてくるのも想像される。なお、唐の朝廷に入り、校書や拾遺、補闕などの職に就いた職歴から判断すれば、かなりの詩文レベルを有していることも事実である。しかし、優れた人材がぎっしり集まっている科挙テスト場において、唐籍の受験者たちと匹敵、彼らを凌ぐ能力があったとは、やはり過言だろうと考える。

このように考えると、外国受験者としての仲麻呂が受けた科挙テストは、どのような方法或いはルートによったものだったのであろうか。ようするに、唐の朝廷から留学生に実行された科挙テストは、唐籍の受験生と同じ基準によったものであろうか、という問題が提起されるのである。世界の国々からの留学生が集まり、ごく開放的な国際的環境のもとで寛容な対外政策を実行されていた唐の朝廷は、外国受験者向けの特待政策を打ち出した。それを以て留学生科挙制度を確立させ、彼らを本籍の受験者と区別して選考することも可能となる。本稿は唐の中後期留学生向けに実行された「賓貢進士」に目を向け、仲麻呂による科挙受験を「賓貢ノ制」という歴史的背景のもとで考察を行う。それによって仲麻呂の科挙テストに対して、さらに合理的な解釈や補足をしようとするものである。

1. 外国留学生による科挙資格

唐の時代、外国人が役人として官職に就くことは実に珍しくないものである。このような背景にもとで、外国人の留学生が科挙試験を受けたこともしばしば見られる。国子監で課業を履修する留学生の場合は、ほぼ科挙の資格が認められている。

1.1 阿倍仲麻呂による科挙資格

阿倍仲麻呂、並びに彼と同時に唐へ渡った留学生たちは、唐の最高教育機関の国子監に入学させられている。『唐六典』国子監太学の規制によれば、「監課、試挙、如国子博士之法。」(5) そして、同じ太学と並べて国子監「六学」の列に入っている四門学に關しても、同じく「監課、試挙、同国子博士之法。」(6) という。要するに、国子監の太学並びに四門学の入学生たちは、ただ要求されるコースを履修だけで、ほぼ科挙テストの参加資格は持っているのがわかる。このようにして、太学に受かった仲麻呂、および四門学にいた吉備真備などの留学生たちは、国子監での課業を終えた後、原則的には科挙参加の資格は認められたのだろう。

1.2 仲麻呂の科挙受験及びその推薦者

推薦者そのものが科挙受験生にとって極めて肝心な存在であった唐の社会、仲麻呂による科挙資格及び唐の朝廷への入職は、やはり推薦者と深い関係がある、と考えられる。特に唐の首脳集団と親しい関係を結んだ推薦者たちは、従来、研究者たちからの関心が集められる。そして、仲麻呂による科挙の資格を獲得したことについて、大宝年間の遣唐使に従って唐へ渡り、玄宗の在野時期より仲麻呂と親しい関係を結んだ学問僧の弁正に恵まれたのは、中日両国の学者にほぼ共通して認められる考え方である。高木博によると、仲麻呂が日本の一留学生の身でありながら唐の国立大学に入学し、進士に及第し、唐朝の官吏になるといった異例の道を踏むにいたったのは、弁正の勧めとその援助に負うところが大であったと思われる(7)。なお、森公章によって次のような指摘がなされたことがある。大宝度の次の靈亀度に留学し、唐に滞在して官人となった阿倍仲麻呂が玄宗との関係を構築することができたのも、弁正ら大宝度の留学生、滞留者らが築いていた信頼関係が作用したところがあったと考えられる(8)。

2、留学生科挙受験ブーム及び「賓貢ノ制」

唐の後期になると、外国籍受験者による及第者は「賓貢進士」と称されるようになる。『東史綱目』によると、「長慶初金雲卿始登賓貢科。」(9) 新羅留学生金雲卿が賓貢進士に登った記録により、「賓貢」は唐穆宗長慶元年(821)になってから、特に外国受験者による進士及第者を意味するようになったのは、学界に渡った共同的な認識である(10)。「賓貢」とは、唐の科挙体系による留学生のための特別に施行された制度であり、唐の周辺の国の科挙受験生を本籍学生と区別付け、彼らに優待を施す政策である。このようにすれば、唐の科挙体系による重要な構成とされる「賓貢」は、実に古代中国による科挙歴史上重要な一部である。要するに、「賓貢進士」そのものは唐の科挙受験生の中の一種類であり、唐の科挙受験生の重要な源となる。

2.1 留学生による科挙受験ブーム

唐の後期になると、東アジア諸国の留学生の間では、科挙受験のブームがかなり盛んになっていた。崔致遠が『桂苑筆耕集』の中、彼が唐僖宗中和六年（885）に上奏した奏状において、自分が家を出た少年のころ父親の戒めてくれた嘱託の言葉を思い出した、という。「臣自年事儿离家西泛，当乘桴之際，亡父誠之曰：十年不第進士，則勿謂吾兒、吾亦不有兒、往矣勤哉、无隳乃力。」（11）つまり、崔致遠の例からも当時東アジア諸国の留学生たちによる科挙受験へ夢中になった様子が見られ、賓貢進士はこのような背景のもとで生まれた留学生向けの科挙特待制度である。

2.2 在唐留学生と賓貢進士

賓貢進士たちの出身と言うと、新羅、高麗、渤海及び、わずかに唐で長期滞在していた大食、ペルシアからの者が主であった（12）。『東史綱目』によると、「自雲卿後至唐末、登科者五十八人、五代梁唐之際亦至三十二人」（13）。巖耕望氏によると、唐の科挙制度という背景のもとで、及第したものは光榮の極めたもので、外国からの留学生たちからも自然に羨ましさが生まれ、試みたくなるもの多かった。しかし、学業のほうでは彼らが唐土の受験者とは比べものにならなかった。そのために、唐の朝廷より「賓貢科」が設けられるようになったのである。「賓貢」に登った者の中には、各々の国からの受験生もいたが、やはり人数が少ない。しかし、長慶から五代まで及第した者の中、新羅からの賓貢進士は百人ほども登った、という（14）。

3、留学生向けの科挙特待政策

3.1 「毎自別試」

賓貢進士による試験また結果発表の方法については、朝鮮側の史料において若干残されている。唐で及第した新羅留学生崔致遠による『長啓』の中では、「十年観国，本望止于榜尾科第」（15）、という。要するに、賓貢進士の場合は応募者が受ける試験が別々に行われるものであり、他の進士試験の科目とは異なる時間や場所によるものである。そして、結果発表も他の進士の名前に次いでいるもので、それにより区別がつく。

謝海平氏によると、賓貢という制度は一般的な科目とは区別しているもので、いわゆる「毎自別試、附名榜尾」が特徴的である。ようするに、外国からの者は修養が唐の受験生にはなかなか及ばず、命題や採点、採否結果の発表は唐人と同列しかねる、という（16）。いわゆる「賓貢」の制が設けられているので、即ち受験者の国籍によって異なる試験問題を作るのである（17）。高明士氏は「賓貢」に関して、以下のような二つの特徴を指摘する。まず、試験が別々に行われ、採否結果は唐の及第者に次いで後に置かれるのは普通である。第二に、その理由は外国留学生による学芸のレベルは唐の学生と比べて遙かに劣るもので、わざと賓貢の制を以て彼らを優待する政策を採っている（18）。また、陳尚勝氏は、命題や採点、結果発表は皆別々に行われたのは、外国の留学生が中国籍受験者との試験競争の中で、不合格にされないようにとしたのである、という（19）。

3.2 留学生科挙受験の特待現象

外国受験生の場合は関係機関により推薦され、皇帝が尚書省に命じ彼らに単独にテス

トを行わせることになる。その後、テスト成績により翌年の春ごろにて採否結果を発表するのが一般的である。陳黯『華心』によると、「大中初年、大梁連帥範陽公得大食国人李彥升、薦于闕下、天子詔春司考其才、二年（848）以進士第名顯然。」（20）これにより、唐が外国留学生向けの科挙テストは実に単独に行い、唐が外国受験生のため特別な科挙テスト制度や方法を探っていたのがわかる。このように、賓貢進士の場合はテスト方法やルートなどの面で、やはりそれなりの特殊性が見られるのである。

崔致遠による『与礼部裴尚書状』において、唐の朝廷の外国からの科挙受験生への待遇にも触れている。「春官歷試、但務懷柔、此實修文德以來之、又乃不念旧惡之旨。」（21）また、『新羅王与唐江西高大夫湘狀』にも、中書舍人高湘がかつて「顧鷄林之士子」（22）という。要するに、新羅からの科挙受験生に肩を持って庇つたという。そして、阿倍仲麻呂の場合といったら、だいぶ同じことが見られるのだろう。杉本直治郎によれば、彼が唐の開元九年（721）にて校書の職に就いたという（23）。というのは、彼が唐の開元五年（717）にて唐へ渡つてからの三、四年間の頃、すでに太学の学業を終え、科挙に合格して唐の朝廷に職に就くようになったのである。実に、これが唐の国子監による9年の学制とは一致ではないのが明らかである。このことからも、彼が科挙試験また唐での任職にて特別に優待されていたのがわかる。彼が唐で留学していた頃、朝廷から外国留学生に特別な世話をしていたのが事実であった。

4、科挙及第の難度及びその定員

とはいえ、外国受験生が唐で進士に及第する難しさも、誰の目にも明らかである。それに加え、年ごとに人数がかなり限度があったようである。

4.1 「仙籍」登り：留学生による進士及第の難度

張喬による『送賓貢金夷吾奉使帰本国』において、「渡海登仙籍、還家備漢儀」（24）という聯がある。その時代、留学生による進士及第はいわゆる「仙籍登り」ほどだと喻えられ、そこより科挙の難しさがわかる。とともに、様々な条件が制限されていることも事実であった。関係学者によると、留学生による進士及第はいわば「天下の難関」、さらに「龍門登り」ほど喻えられている（25）。そこから、そのころ留学生にとって科挙に及第することは甚だ難しいことであり、そして唐の朝廷から賓貢進士に定員の制限がされたこともわかるのだろう。たとえ「毎試別制」という特別な政策に恵まれていても、賓貢に登り進士に及第するのは、なお困難なことであった。

4.2 賓貢進士による定員限度

一方、たとえ唐の朝廷から世話をになっている賓貢進士であっても、年ごとに定員が制限されている。『登科記』によれば、「長慶元年辛丑、賓貢一人金雲卿」（26）、という。そして、『冊府元龜』后唐明宗長興元年（930）六月にも、「仍自此賓貢、每年只放一人、仍須事芸精。」（27）このことからも、唐の後期、賓貢進士の年均定員はごく制限されているのがわかる。このように、この時期唐へ渡り留学して官職に就くという夢を抱えながら、進士に合格できなかつたため残念ながら帰国ざるを得ない留学生も少なくなかった。

仲麻呂とともに唐へ渡り、優れた才能により唐で名が挙げられた留学生の吉備真備も、もしかすると唐で科挙テストに受かっていたのではないか、と想像されるだろう。高木博氏が指摘している通り、「登科」そのものはその時期の日本留学生によって執着に求められる夢であった（28）。また、『続日本紀』による「我朝学生播名唐国者唯大臣与朝衡二人矣（29）」という記載、また『吉備大臣入唐絵巻』の解説によれば、同時期の日本留学生の中、ただ阿倍仲麻呂と吉備真備の二人だけが秀才という名が残されている、という（30）。真備が唐で高い評価を受けたことは広く知られていることから、真備は科挙テストに参加した可能性が高いと推測する。

実際、新羅や日本、渤海などの国々から唐へ渡った留学生の人数を同時期における賓貢進士に及第した者的人数と比べてみれば、遥かに超えているのがわかる。そのことから、唐で賓貢進士に受かった場合は必ず固定した比率によって、良否を問わず全部を及第させたわけではなかった。のみならず、及第者による順位までも決まっていた。許渾『送友人罷挙帰東海』の中で、このように言う。「蒼波天塹外、何島是新羅。舶主辞番遠、棋僧入漢多。海風吹白鶴、沙日晒紅螺。此去知投筆、須求利劍磨。」（31）要するに、それぞれの国から唐へ遣われた留学生の中には、課業に精通できず、落第者が少くないのがわかる。阿倍仲麻呂とともに唐へ渡った吉備真備や、大和長岡などは、もしかすると及第の条件には及ばず、あるいは定額のせいか、進士とはすれ違ってしまったのであろう。

5、阿倍仲麻呂による賓貢的性格についての推論

前述のとおり、「賓貢」が外国人受験及第者を意味するのは、唐の長慶元年（821）のことである。阿倍仲麻呂、吉備真備などが唐で留学していた頃、「賓貢」という説があったかどうかという問題は、直ちにその及第された進士の性格を物語る重要な事項となる。新羅留学生が「賓貢進士」に及第したのはすでに唐の中後期のことであり、仲麻呂が及第した開元元年とはかなり離れた時代もある。しかし、彼らの事例から、後、仲麻呂の科挙受験また及第した方法も推測できると考えてよい。したがって、次に「賓貢ノ制」による起源またその発展のルートから、唐の開元年間に及第した仲麻呂の進士の類別、また性格を考察しようとする。

一方、古代東アジアにおける様々な関連文献において、「賓貢」に関わる記載がしばしば見られる。それによって、唐の始めの頃より「賓貢」という概念は確かに存在していたことが明らかであろう。これらの記載により、「賓貢」制度における唐前期での事情、即ちこの制度の源や進展のルート、そして唐の後期での制度化との関わりがわかるのである。それにより、仲麻呂の科挙及第による賓貢的性格を推測する。

5.1 「賓貢」の語源及び仲麻呂の在唐時期

「賓貢」という言葉は最初『周礼』から出てくるもので、諸侯国から捧げられた（収めた）貢物のことを意味する。隋の時代になると、「賓貢」という言葉は科挙に用いられ始め、地方から人材を推薦する場合行われる礼儀のことを意味し、そのため「賓貢ノ礼」と称される。唐の場合は貞觀年間から留学生を招き始め、その都度、「賓貢」は周りの少数民族による政権並びに外邦から推薦された留学生のことを意味するもので、「賓庭貢士」と称される。

関連文献を検索してみると、唐が外邦からいわゆる「貢士」を受け取る実例は貞觀年間からだと分かる。崔致遠による『新羅王与唐江西高大夫湘狀』の中唐の貞觀の事情について、このように記されている。「武功既建，文德聿修，因許遠人，亦隋貢士，以此獻遼豕而無愧，逐遷鶯而有期。」（32）要するに、貞觀年間より外邦から推薦される「貢士」が留学生への別の称呼とし、すでにしばしば使われていたのだろう。そして、このような外邦より薦められた「貢士」が唐の官学生徒の中の一部として、科挙受験生による重要な出處となっている。開元七年（719）十二月にて玄宗の詔令『皇太子入学慶賜詔』によれば、「儒道惟百王之政，元良乃万国之貞。属太学舉賢、賓庭貢士，當其謁講，故行齒奠。所以宏風闡教，尚德尊師，宜有頒賜，以承光寵。」（33）ようするに、唐の開元のころ、「賓貢」そのものはすでに「外邦から薦められた留学生」という意味が入っているものだ、とわかる。そして、至德二年（757）四月八日による唐肅宗『搜訪天下賢俊制』には、このような詔令が見られる。「夫茲荐士，非止一舉，永為恒典，有即登聞。」「宜宣示中外，令知朕意。」（34）唐肅宗が玄宗の上、さらに外邦から貢士の推薦を固定した制度として定め、そこから世界中にも広めようとしたのがわかる。そして時間の経つことにつれて、唐の中後期より「貢士」の制度は、いよいよ公的な形式を通して固められるようになったのである。

いわゆる「賓庭貢士」という言葉は、即ち「賓貢」を以て外国籍の貢士を意味する最初の語源となっている。このように、唐による受験生の出身に基づく分類の付け方から考えると、その頃日本の朝廷から遣われた留学生の阿倍仲麻呂は、当然「賓庭貢士」の列に入っているに違いない。要するに、「賓貢進士」に関する直接の史料は唐の後期の文献の中に見られるが、科挙制度の重要な一部として、留学生向けの特待政策は実に仲麻呂の唐へ渡った開元年間から続いてきたのがわかる。関連文献による「賓貢進士」が外国籍進士を意味する記載は唐穆宗の長慶元年（821）になってからのことであるが、それ以前には賓貢という制度がなかったことは一概に否定しかねる。

5.2 仲麻呂による進士及第及びその「賓貢」の可能性

先述されるとおり、いわゆる「賓貢進士」が外国籍の進士及第者への特有な呼び名として認められたのは、唐の穆宗長慶元年（821）からのことであった。しかし、「賓貢」という言葉の語源から、仲麻呂が唐へ渡って留学したごろ「貢士」というような特別な科挙受験生の種類が実に存在しているのがわかる。よって、その科挙試験を受けた最初、すでに「賓貢」という性格が持つようになったのがわかる。

ただ、今まで見られる関連文献において日本留学生による「賓貢」に関わる記載には、何一つも手掛かりが見つかないのである。高明士氏が、後期に唐へ渡った日本留学生による目的は長期的滞在でなく、その代わりに請益つまり短期訪問留学が目的だったため、唐で官職に就くつもりはなかったからである、と主張する（35）。戴禾氏は、王維『送秘書晁監還日本國并序』による「名成太学、官至客卿」の聯から、「名が知られる」のは普通、進士及第のことを意味するのだと述べる（36）。郝希民氏によれば、仲麻呂は太学に入り国子監での学業を履修した後、科挙テストに合格、優秀な成績を以て進士に及第したものとし、唐で進士に登った唯一の日本留学生である（37）。楊希翼氏は、仲麻呂による

賓貢進士に及第したことはまだ明確的ではないが、しかし、その頃日本からやってきて唐で賓貢進士に受験する者は必ずいたことは確かなことと指摘する。中には、金榜に名を連ねる者もいたことも推測されるだろう。彼らが学業を終えた後、唐の朝廷によって主催された科挙テストに受験し、賓貢進士に合格するのも可能的であった、という（38）。なお、『全唐詩』、『全唐文』、『文苑英華』などの文献に収められた新羅、高麗、日本、大食などの国及び渤海、南詔、高昌など少数民族政権からの賓貢進士、即ち崔致遠、金可記、金立之、王巨仁、阿倍仲麻呂などのような留学生による漢詩は、およそ自然でなめらかで、詩情にも溢れたものため、人々に深い印象が残ると指摘する（39）。要するに、仲麻呂が崔致遠と並びに新羅などの留学生と同視し、彼らを併せて「賓貢進士」の列に入れるこ_トに_{する}のである。

終わりに

唐の開元年間の勅令による「賓庭貢士」という出身に基づく受験生の類別づけ方から、阿倍仲麻呂による科挙受験のルートや方式は、やはり唐の後期にますます制度化されてくる「賓貢進士」とほぼ同質であることが判断される。要するに、阿倍仲麻呂が進士及第したことは実に賓貢的性格を有している。なお、仲麻呂による進士の賓貢的性質からは、唐の朝廷より留学生向けの科挙制度による起源や発展、変化及びその制度化ルートが窺われる。また、その時代中国科挙制度による東アジア漢字文化サークルの中の国々に与えた影響、そして華夷秩序のもとで唐の周りの国々から人材を取り入れ、唐文化の影響力を呼びかけその文化中心として団結力をまとめる意欲も窺われる。

参考文献

- 1、仏教刊行会、『大日本仏教全書』（第115冊、遊方伝叢書第三）、『成尋所記入宋諸師伝考』、名著普及会、1980年：第2頁。
- 2、（宋）楊億、『楊文公談苑』（卷三）、鄭州、大象出版社、2019年：第9頁。
- 3、高木博、『万葉の遣唐使船』、東京、教育出版センター、1984年：第71頁。
- 4、（宋）歐陽修、宋祁『新唐書』（卷四四）、北京、中華書局、1975年：第1162頁。
- 5、（唐）李林甫、『唐六典』（国子監卷二一）、北京、中華書局、1992年：第560頁。
- 6、（唐）李林甫、『唐六典』（国子監卷二一）、北京、中華書局、1992年：第560頁。
- 7、高木博、『万葉の遣唐使船』、東京、教育出版センター、1984年：第76頁。
- 8、森公章、『遣唐使船の時代』、東京、角川学芸出版、平成二十二年：第120頁。
- 9、（朝鮮）安鼎福、『東史綱目』、周斌、『朝鮮漢文史籍叢刊』（第五卷）、成都：巴蜀書社、2017年：第160頁。
- 10、高明士、賓貢科の起源と発展、『唐史論叢』、1995年：第68-109頁。
- 11、高明士、賓貢科の起源と発展、『唐史論叢』、1995年：第68-109頁。
- 12、（朝鮮）安鼎福、『東史綱目』、周斌、『朝鮮漢文史籍叢刊』（第五卷）、成都：巴蜀書社、2017年：第160頁。
- 13、巖耕望、『新羅留唐学生と僧徒』、巖耕望編著、『唐史研究叢稿』、香港、新アジア研究所、1969年：第432頁。
- 14、（朝鮮）徐居正、『東文選』（卷八四）、ソール、韓国民族文化刊行会、1994年：第163頁。
- 15、（新羅）崔致遠、『桂苑筆耕集』、北京、中華書局、2007年：第625頁。
- 16、謝海平、『唐朝留華外国人生活考述』、台北、商務印書館、1978年：第124頁。
- 17、謝海平、『唐朝詩人与在華外国人之文字交』、台北、文史哲出版社、1981年：第118頁。
- 18、高明士、隋代の教育と貢挙、『大陸雑誌』、1984年、第69卷第4期：第174頁。

- 19、陳尚勝、『中韓交流三千年』、北京、中華書局、1997年：第19頁。
- 20、（清）董浩、『全唐文』（卷七六七）、北京、中華書局、1983年：第7986頁。
- 21、（新羅）崔致遠、『孤雲先生文集』（卷一）、成大慶『崔文昌侯全集』、ソール、韓国成均館大学出版社、1972年：第66頁。
- 22、（新羅）崔致遠、『孤雲先生文集』（卷一）、成大慶『崔文昌侯全集』、ソール、韓国成均館大学出版社、1972年：第64頁。
- 23、杉本直治郎、『阿倍仲麻呂伝研究——朝衡伝考』、東京、育芳社、1940年：第242-290頁。
- 24、（清）彭定求、『全唐詩』（卷六三八）、北京、中華書局、1960年：第7305頁。
- 25、王勇、阿倍仲麻呂の国際結婚、『帝冢山学院大学人間学部研究年報』、1999年：第15-23頁。
- 26、（宋）錢若水、『宋太宗皇帝實錄校注』（卷七八）、北京、中華書局、2012年：第730頁。
- 27、（宋）王欽若、『冊府元龜』（卷六四二、貢舉四）、南京、鳳凰出版社、2006年：第7413頁。
- 28、高木博、『万葉の遣唐使船』、東京、教育出版センター、1984年：第71頁。
- 29、菅野眞道、『続日本紀』、黒板勝美『国史大系』（二）、東京、経済雑誌社、1897年：第588頁。
- 30、小松茂美、『吉備大臣入唐絵巻』（日本の絵巻3）、東京、中央公論社、1987年：第89頁。
- 31、（清）彭定求、『全唐詩』（卷五三一）、北京、中華書局、1960年：第6072頁。
- 32、（新羅）崔致遠、『孤雲先生文集』（卷一）、成大慶『崔文昌侯全集』、ソール、韓国成均館大学出版社、1972年：第63頁。
- 33、（清）董誥、『全唐文』（卷二八）、北京、中華書局、1983年：第317頁。
- 34、（宋）宋敏求、『唐大詔令集』（卷一〇三）、上海、学林出版社、1992年：第476頁。
- 35、高明士、賓貢科的起源与發展、『唐史論叢』、1995年第4期：第68-109頁。
- 36、戴禾、唐代来長安日本人的生活、活動和學習、『陝西師範大学学報』、1985年第1期：第111-124頁。
- 37、郗政民、日本遣唐留学生事略、『西北大学学報』、1981年第4期：第67-73頁。
- 38、楊希義、唐代賓貢進士考、『中国唐史学会論文集』、1993年：第63-75頁。
- 39、楊希義、唐代賓貢進士考、『中国唐史学会論文集』、1993年：第63-75頁。

《書經》池田末利訳における明示的加訳に関する研究

金 京愛・邱 怡清 (揚州大学)

JIN·Jingai · QIU·Yiqing

A Study of Explicit Amplification in Ikeda Suetoshi's Translation of *Shangshu*

要旨

日本に伝わった中国古代典籍に対する学習は従来、基本的に「訓読」の形で行われてきたが、20世紀に入ってから現代日本語訳が現れはじめた。しかし、そういう現代語訳は「訓読」から生まれたものであり、翻訳形式・翻訳技法などの方面において、西洋諸国の外国語訳や中国近代作品を対象とする日本語訳などとは異なったものである。本稿は池田末利の訳した『書經』を研究対象として、その訳文の「通釈」（現代語訳に相当する）部分の中で「（ ）」付きの訳文に焦点をあててみた。それを整理して考察すると、一般的の「挿入注釈」に相当する少数の訳文を除き、残りのほとんどが人物情報、背景知識、語義、修辞など内容の補充であることが分かった。それは翻訳技法の一つ—「加訳」であると思う。本稿はそれを「明示的加訳」と名付け、訳者の意図に合わせて分析し、最後に「明示的加訳」とは「訓読」から「現代語訳」に変わる過渡的な現象であることを指摘した。

キーワード: 『書經』 池田末利 明示的加訳

目次:

- 1、「訓読法」と現代日本語訳
- 2、『書經』池田末利訳とその「（ ）」付き現象
- 3、池田訳の「（ ）」付き語句の整理
- 4、「明示的加訳」と訳者の目的
- 5、まとめ

1. 「訓読法」と現代日本語訳

「漢字文化圏」に属する中国、日本、朝鮮半島、ベトナムなどの国家と地域において、漢字はかつて公式文字とされて、重要な歴史的役割を果たしていた。そのため、漢籍をよりよく閲読・理解すべく、それらの国家と地域ではそれぞれの特色ある「訓読法」が誕生した。それはまさに上記の各国における漢籍の伝播過程と、後の西洋における伝播過程が大きな違いがある主な原因の一つである。

日本語の「訓読」とは、「漢文を日本語の文法に従って、語の順序を変えたりしながら直訳的に読むこと」^①であり、「一種の翻訳でもあるが、基本的には原文の文字を残してお

① 松村明:『大辞林』, 三省堂, 2006年第3版, 第763ページ。

り、所謂原文読みと翻訳の間に介在する特別な方法である^①。つまり「訓読法」の二つの基本的特徴は「漢文の語順を日本語の語順に変えること」と「原文文字を残して直訳すること」である。こういう従来の「訓読法」は昔から今まで日本が中国文化の吸收に大きな影響を与えてきた。

明治維新以降、歴史変革の流れとともに、漢籍を対象にする現代日本語訳は最後、時代の必然となった。当時の漢学者である田岡嶺雲は、「故に今日に於て漢學の研究を普及せんには、此が讀誦を容易にするを急とす。讀誦を容易にせんには、之を翻譯して時文に近き者とせんに若かず。……且つ垂髪既に四書五經の素読を受くる昔日の如くば、故らに之を翻譯するが如きは徒勞なるべしと雖ども、漢文と漸く相疎遠ならんとする今の時今の人に対しては、漢書の翻譯も決して無用にはあらず」と述べて^②、現代日本語訳の「漢学普及」に対する重要性をはっきりと指摘した。それがゆえに、20世紀初頭から、『書經』をはじめとする漢籍には、様々な現代日本語訳が続々と登場した。例えば、藤堂明保の『孟子』^③、宮崎市定の『論語』^④、吉川幸次郎の『尚書正義』^⑤など、これらの訳本は時代の流れに合わせ、訳文をより分かりやすくするために、訓読のほか、現代語訳も加えられた。

近年、漢籍の外国語訳に関する研究は学界で重視されているが、主に英語を中心とした西洋語の訳本に集中している。漢籍の日本語訳に対する研究については、従来の「訓読法」の深い影響の下、現代日本語訳本の研究が日本語学界と翻訳学界に十分に重視されていなかったため、問題の発見と検討が待たれる。

本稿は中国古代典籍の経典とされる『書經』の日本語訳を研究対象とし、日本の有名な『書經』学大家である池田末利の『書經』に関する日本語訳を分析する。1976年に出版されたこの本は「日本学者が『書經』を研究する著書の中の圧巻作^⑥」と称されるが、国内外ではまだこの本に対する専門的な研究がなく、訳介学からの考察はさらに空白である。

2. 『書經』池田末利訳とその「（ ）」付き現象

池田末利（1910 - 2000）は日本では『書經』学者であり、嘗て北京大学に留学し、北平中国大学及び外国语専門学校の先生を担当していた。大学時代から、彼は既に『書經』に大きな興味を持ち、生涯にわたって『書經』学の研究に取り組み、『書經』を系統的に研究・翻訳した。著作には『尚書通解稿』、『尚書甘誓に関する若干の問題』、『尚書洛解』、『尚書泰誓解』などがある。

1976年に池田末利の『全釈漢文大系 11・書經』が集英社で出版され、「『書經』研究を

① 金文京：『東亜漢字文化圏的翻訳——漢文訓読及其相關問題』、『漢風』2018年第1号、第88-99ページ。

② 田岡嶺雲：「老莊の和訳に就きて」、田岡嶺雲訳注：『和訳老子 和訳莊子』、東京：玄黄社1910年版、第4-5ページ。

③ 藤堂明保：『孟子』、平凡社、1972年。

④ 宮崎市定：『論語』、岩波書店、1993年。

⑤ 吉川幸次郎：『尚書正義』、岩波書店、1939年。

⑥ 劉起釤：『現代日本の『尚書』研究』、『伝統文化与現代化』1994年第2号、第82-91ページ。

集大成する大作^①と称された。それは40年の『書經』研究成果をまとめた大作で、原文・読み下し文・通釈・注・補説という5つの部分がある。原文の中では、旧漢字^②が使われ、訓点も加えられた。そして読み下し文の仮名は「歴史仮名遣い」で示した。

池田訳の「通釈」部分には、一部の語句に「（ ）」をつけるという特殊な現象が見られ、以下の通りである。

（1）我不可不监于有夏，亦不可不监于有殷。《尚书・召诰》

読み下し文：我有夏に監みざる可からず、亦有殷に監みざる可からず。

通釈：わたしたち（周）は夏国（のこと）に反省しなくてはなりません。また殷国（のこと）にも反省しなくてはなりません。

例（1）の原文と読み下し文との「我」「夏」「殷」は「通釈」部分でそれぞれ「わたしたち」「夏国」「殷国」に訳され、そしてこの3つの言葉のあと、それぞれ括弧付きの（周）（のこと）が付いている。このような読み下し文では見られない「（ ）」付きの言葉は、訳者が現代語翻訳する時に加えたものである。では、それらの「（ ）」付きの語句は一体どんな意味を表しているのか。従来の「注釈」に比べて、どのような特徴を持っているのか。それは訳者が意識しているものなのか。それとも意識していないものなのか。これらの疑問を抱いて、次の詳しい説明に目を移そうと思う。

3. 池田訳の「（ ）」付き語句の整理

池田訳の「（ ）」付きの語句を詳しく収集・整理すると、総計6615箇所が発見された。そのうち、括弧内に「=」が付いているものは312カ所で、全体の4.6%を占めたのに対して、ついていないのは計6303カ所で、95.4%を占めた。

よく考察した結果、括弧内に「=」が付いている部分は伝統的な「挿入注釈」とほぼ同じ性質であり、「=」が付いていない部分は人物情報、背景知識、言語意味、修辞などの内容に対する補完であることが分かった。以下はそれについて例を挙げて説明する。

3.1 挿入注釈

括弧内に「=」の付いている312箇所の文を考察すると、括弧の前の言葉はすべて「樂器名」や「地名」などの固有名詞であることが分かった。固有名詞を扱う時、漢字をそのまま写すのが一般的のやり方だが、『書經』の原文は難解で、古代中国の器物名や地名を多く使ったため、専門知識を持っていない日本人にとってはなじみが薄い。これらの言葉をそのまま日本の漢字に書き換えるだけでは、意味を理解することが難しい。そして「=釈義」という方法は言葉の意味を明確に理解することに効果的である。例を挙げてみる。

① 劉起釤：『現代日本の『尚書』研究』、『伝統文化与現代化』1994年第2号、第82-91ページ。

② ここにいう「旧漢字」「新漢字」は日本漢字字体の新旧のこと。

(2) 羲曰：「戛击鳴球、搏拊、琴、瑟、以咏，祖考来格。」《尚书・益稷》

読み下し文： 羲曰において鳴球を戛擊し、琴・瑟を搏拊して、以て詠ずれば、祖考來格す。

通訳：（音楽をつかさどる） 羲がここで鳴球（＝玉製の一つの磬）を（強くまた軽く）たたき鳴らし、琴瑟を打ち鳴らして、（それによって詩歌を） 歌うと、祖・父（の靈）も來り臨んだ。

(2) の「玉製の一つの磬」は「鳴球」という楽器についての説明であり、「鳴球」はよく見られる楽器ではないので、明記しないと、読者には分からなかもしれない。

(3) 冀州：既载壺口，治梁及岐。《尚书・禹貢》

読み下し文： 冀州：既に壺口を載り、梁及び岐を治む。

通訳： 冀州（＝いまの遼寧省西部、河北省西北部、山西省全部、内蒙古自治区察哈爾の南部、烏蘭察布盟の東南部）。（禹は） すでに（王畿に近い） 壺口山（＝山西省吉県西北）（の治水事業）を終わってから、梁山（＝龍門、山西省河津県西北）と岐山（＝地址不詳）とを治めた。

(3) の「＝」の内容は地名である「冀州」「壺口山」「梁山」についての説明であり、現代中国における地理的位置（位置不詳の地名も含めた）をそれぞれ表示している。あまり中国の地理知識に詳しくない日本の読者はこういう解釈を通して、地名の居る方位を知ることができ、また関連章節の意味を理解することにも役に立つ。

上述の分析から見ると、そういう括弧内に「＝」付きの文は伝統的な「挿入注釈」に相当する。古人が文章を書く時、正文を大字で、注釈を2行の小字で書くが、現代語訳には大小字の区別をつけないので、池田はそれを「＝」という形に変えた。それは「注釈」の受け継ぎだと考えられる。

3.2 人物情報の補足

調べると、「（ ）」付きの語句の一部は登場人物の情報の補足内容であり、例えば以下のようにある。

(4) 西伯既戡黎。《尚书・西伯戡黎》

読み下し文： 西伯既に黎に戡つ。

通訳： 西方の長（である周の文王）が黎国（を討って、これ）に打ち勝った。

(5) 不率大夏，矧惟外庶子、训人惟厥正人越小臣、诸节。《尚书・康诰》

読み下し文： 大夏に率はざるもの、矧惟の外庶子・訓人、惟び厥の正人と小臣・諸節が（略）。

通訳：（また）大法に循わない者、（公・卿・大夫・士の子のことをつかさどる）外庶子や（人を教訓する）訓人（の職にある者）、および庶官の長と軍事をつかさどる者や

外交使臣などが（略）。

(4) と (5) では、「周の文王」「(公・卿・大夫・士の子のことをつかさどる)」などの人物情報が補充されている。訳者は「西伯」は「周の文王」で、「外庶子」は「公・卿・大夫・士の子のことをつかさどる」官職名であることをはつきり陳べて、「訓人」などの身分情報をも補充したことで、原文に隠された人物情報をより明確にしている。

3.3 背景知識の補足

「（ ）」付きの文には、背景知識に関する補足も見られる。『書經』の歴史事件が中国の歴史と文化背景に深く関係しており、日本の読者には理解しにくいものであるため、訳者は相応の背景知識を提供した。例えば以下の通りである。

(6) 成王既伐管叔、蔡叔，以殷余民封康叔，作《康誥》、《酒誥》、《梓材》。《尚书・康誥》

読み下し文：成王既に管叔・蔡叔を伐ち、殷の餘民を以て康叔を封す。康誥・酒誥・梓材を作る。

通訳：成王がすでに管叔・蔡叔を伐（ち、これに勝）ってから、康叔を殷の余民を率いて（殷墟に）封じた。（その際周公が康叔・伯禽を戒めたことばを、のちに史官が記述して）康誥・酒誥・梓材（の三篇）を作った。

(6) では「その際周公が康叔・伯禽を戒めたことばを、のちに史官が記述して」との内容を加えて、『康誥・酒誥・梓材』の創作背景を読者に簡単に説明した。

(7) 乃命羲和，欽若昊天。《尚书・堯典》

読み下し文：乃ち羲和に命じて、欽んで昊天に若ひ（略）。

通訳：（政治の根本は暦を正解にして、農事を順調にすることにあるので）そこで羲氏と和氏とに命じ敬んで大いなる天（の運行）に従って（略）。

(7) の補足した「（政治の根本は暦を正解にして、農事を順調にすることにあるので）」という内容によって、堯帝が「羲氏」と「和氏」を命じて暦法を制定させた目的と理由がはつきり示されている。

3.4 言葉意味の補足

言葉意味の補足に関する例は次の通りである。

(8) 则惟汝众自作弗靖，非予有咎。《尚书・盘庚》

読み下し文：則ち惟れ汝が衆自ら弗靖を作せしなり。予咎有るに非ず。

通訳：（そうなるのも、けつきょくは）なんじら衆臣がみずから不善をなすからであ

る。（その結果、なんじらが刑殺されるようになっても）わたしが（なんじらを）とがめたのではない。（なんじらの自業自得だ。）

(9) 无教逸欲。《尚书・皋陶謨》

読み下し文：敢て逸欲する無かれ。

通訳：（皋陶はさらに言うに、官にある者は）けつして安逸や貪欲であってはならぬ。

（上のなすところは下の者がすぐにまねるからである。）

(8) は原文にない「（なんじらの自業自得だ。）」との内容を補足している。この文は盤庚が在席の大臣の傲慢で、安逸を貪る態度に対する不満を端的に表し、また当時の境遇を知らない日本の読者の理解に一定のヒントとなった。「自業自得」という繊細かつ大胆な表現で、原文の意味がはっきりと伝えられ、こうして日本の読者も遷都の必要性を知り、大臣が旧制を守らないことへの警告を切に感じ、原文に共鳴することができた。

(9) は「（上のなすところは下の者がすぐにまねるからである。）」という安逸をむさぼってはならない理由を加えている。上の官員たちが安逸を貪ると、下の百姓もその行為を真似るから、ひどい結果になるかもしれない。こういう文化的語義の中身について、日本の読者は言うまでもなく、たとえ中国の読者であっても、それを突き止めることが難しい。解釈と説明を通じて、読者が文中に隠された内容を理解するのに役立ち、中国文化の真髄を理解するのにも役立つ。

異なる文化には違いが存在する。それも翻訳する時、原文との情報が一致しない現象を起こす原因である。そのため、原文の情報に基づく言葉意味の補充が求められる。池田末利の訳本では、原文の意味を正確に把握・理解した上で、言葉意味の空白が補足され、訳文の論理性も高まっている。

3.5 修飾の補足

以上の補足類型を除き、訳文の文学的表現を増やした修飾の補足も述べなければならぬ。例を挙げると次のようである。

(10) 今汝聒聒，起信险肤， 《尚书・盘庚上》

読み下し文：今汝 聩 聩 として、險膚を起信す。

通訳：今なんじらは何も知らないで、（かつてに）よこしまで軽率なことばを言い触らしている。

(11) 文王不敢盘于游田，以庶邦惟正之供。 《尚书・无逸》

読み下し文：文王は敢て遊田を盤 まず、庶邦を以て、惟れ正を之れ 供す。

通訳：文王はけつして遊戯や田獵を樂しまず、（もっぱら）諸邦を率いて、政治を敬まれた。

(10) では、副詞の「かつてに」が補充され、「自分に好都合なように振る舞う」という意味となり、官員達の「独りよがりであること」を強調している。そして (11) では、副詞の「もっぱら」が補充され、「ある一つのことを主とするさま」を意味する。周公は歴史事実を引用し述べて、周の文王が遊戯や田獵を樂しまず、諸侯を率いて邦の安定に取り組んだことを強調した。修飾的補充を使って、各人物の特徴はより一層鮮明になって、訳文はより面白く文学的色彩に富むようになった。そのような補充は訳文の審美的必要に応じてなされたものだと言える。

4. 「明示的加訳」と訳者の目的

4.1 明示的加訳

上述例文に対する整理と考察を通じて、池田訳の「()」付きの内容はほとんどが背景知識(人物、歴史事件)、言葉意味、修辞などの内容の補充である。即ち『書經』の原文に隠された内容の解釈と説明であり、性質から言えば、現代翻訳ストラテジーにおける「加訳」に相当することが分かった。

加訳とは、原文の隠れた意味や文の要素などの内容を顕在化した言語で表現することである。表面的には、原文には「ない」言葉を訳文の中に添加するが、語義伝達から見ると、ありもしないことまで付け加えて誇張するものではない^①。語彙を増やしたり、フレーズを増やしたり、長文まで増やしたりすることができる。また、加訳は意訳の一種であり、言語や文化的背景の違いから、本来は隠せる言葉が一旦他の言語に変えると、時には顔を出さざるを得なくなり、いわゆる加訳となつた^②。

普通の加訳は、それ自体が訳文の一部となり、「()」という記号でわざわざ表記する必要はない。現代語訳では、括弧付きのは一般に「挿入注釈」のことを指す。当然、池田訳の中の「(=)」付き語句は「挿入注釈」に分類できるが、残りの大部分は原文の隠れた意味や文の要素を表現するもので、「加訳」と呼ぶ翻訳方法に似ている。現代翻訳学の観点から見ると、池田訳文のこのような「()」付きの内容は実は「加訳」である。

この点を分析するために、「のこと」を例にさらなる考察をしよう。「こと」は日本語の形式体言で、一般的には用言連体形の後に続き、前の用言に体言の性質を持たせ、前の用言で限られた意味、内容、状態、条件などを表す。「こと」が「体言+の」の後に續いて「体言+のこと」となって、全体は「…にかかわるもの」という意味である。

池田訳では「(のこと)」を補足した例文は 51 件あり、そのうち「()」をつけたものは 19 件、「()」をつけなかつたものは 32 件。それを考察して、両者の間に文法的な違いはないことがわかつた。以下の例を見てみる。

① 高寧、張秀華：『日漢互訳教程』，天津：南開大学出版社 2006 年，第 86 ページ。

② 高寧：『關於加訳的考察与研究（上）』，『日語知識』1996 年第 4 号，第 59 ページ。

(12) 鸣呼！小子封，恫瘞乃身，敬哉！《尚书・康诰》

読み下し文：嗚呼、小子封よ、乃の身を恫瘞して、敬まんかな。

通訳：ああ、小子封よ、なんじの身（のこと）を（常に）痛み懼れて、敬めよ。

(13) 日若稽古帝堯。《尚书・堯典》

読み下し文：日若に古の帝堯を稽ふるに。

通訳：ここにいにしえの帝堯（のことを）を考察すると、次のとおりである。

(12) と (13) では、いずれも体言の後に「（のこと）」を補足したが、(12) が「（ ）」をつけたのに対し、(13) はつけていない。しかし、両者の「のこと」の性質は同じで、文法的な違いはない。

両者に差がない以上、いずれも加訳の内容だと言える。そして、形式的な違いを際立たせるために、前者を「明示的加訳」、後者を「隠匿的加訳」と命名した。

一般的に、現代翻訳著作における加訳の処理は「隠匿的加訳」で、すなわち補充された内容と訳文が「一体」となって、「明示型加訳」の例文は比較的珍しい。しかし、このような現象は池田訳本だけのものではなく、漢籍の現代日本語訳本の中にもよく見られた。例えば、宮崎市定の『論語の新研究』^①、大島晃の『孟子』（1983）^②、倉石武四郎、湯浅幸孫、金谷治の『論語・孟子・大学・中庸』（1972）^③など、どちらも「（ ）」付きの翻訳方法を採用した。それは「明示的加訳」というものが漢籍の現代日本語訳と他の外国語訳（中国近現代作品の日本語訳も含めた）を区別したものであることを示唆している。

4.2 訳者の目的と時代性

以上をまとめると、日本の読者に原文の伝わった情報や意図を正確に理解させるために、池田氏は「通訳」の部分で「（ ）」付きの「明示的加訳」を大量に使って、『書經』原文の隠された意味と日本語に訳す際に加えなければならない文の要素を補充した。この点では、「明示的加訳」と「隠匿的加訳」の作用は同様である。ならば、どうしてわざと「通訳」部分に（ ）を付けたのかという疑問を解決するには、訳者自身のこのような「（ ）」を帶びた文に対する態度から解読できるかもしれない。

全書の解説のところ、「通訳」の「（ ）」について、「訳文の（ ）は補訳を示すが、省読しても意味は通ずるはずである^④」と池田は記している。このことから、訳文の（ ）が意図的なものであり、訳者がそれを本文の内容に対する補足とみなしていることが分かる。しかし興味深いのは「省読しても意味は通ずるはずである」という文の後半部分で、つまり訳者は「（ ）」の付いた文が省略されても全体的な効果には影響しないと考えてい

① 宮崎市定：『論語の新研究』（1974年），『宮崎市定全集』4，東京：岩波書店 1993年。

② 大島晃：『孟子』，学習研究社，1983年。

③ 倉石武四郎、湯浅幸孫、金谷治：『論語・孟子・大学・中庸』（筑摩世界文学大系），筑摩書房，1972年。

④ 池田末利：『全訳漢文大系 11 尚書』，集英社 1976年，第43ページ。

る。当時、このような翻訳方法は一般的なやり方だとされた。そのため、こういう「明示的加訳」の出現は漢籍の「訓読」から「現代日本語訳」への転換の時代背景に合わせて考えなければならないものであるかもしれない。

前述のように、漢籍が日本に伝わってから、数千年以上の間ずっと「訓読」という方式をもって学習・理解されてきた。訓読の特徴の一つはできるだけ「原文文字を残して直訳すること」であった。言葉が通じない場合を除き、一般的には、原文では文字で明確に表現されていないものが読み下し文にも出ないので、このような「（ ）付き」表現も当然ないのである。一方、読み下し文の読者は古代日本の貴族、学者、僧侶など、漢文の教養をある程度備えたエリート層であり、その人たちは幼い頃から四書五経など様々な漢籍と漢文訓読法を勉強し、漢文の文法をかなり理解していた。そのため、訓読みの中で漢文の表現習慣によって省略された部分は、彼らにとってそれほど理解しにくい内容ではなかった。しかも、古代中国の地理的位置、人物情報、歴史事件といった『書經』などの漢籍を読む時に必要な背景知識に対しても熟知していたようだ。彼らにとって、読み下し文はただ漢文原文の理解に役立つ「読む」ための道具に過ぎない。原文のある文や言葉の理解に異を唱える場合、古人の行文に従って、2行の小字で本文の大字の下に挟み込んだり、或いは本文の後に別の注釈を入れたりする。例えば、池田の訳本には「注」と「補説」という2つの節が見られ、各学説を羅列し、訳者の見解を明らかにしている。

しかしながら、こうしたエリート層向けの訓読法は20世紀に入って以来、もはや漢籍普及のニーズに応えられなくなってきた。前文で引用した田岡嶺雲の言説のように、20世紀初頭の漢学者たちは既に現代日本語訳が「漢学の普及」に重要であることを認識した。そして「普及」という目的を達成するには、訳文のわかりやすさが必要となった。宮崎市定は、いわゆる読み下し文は、まだ本当の日本語になっていないので、相当熟達した上でなければ、それを読んで聞かせられて理解できないのが普通である。そこで口語訳、あるいは現代語訳と称する翻訳が要求される^①と指摘した。従って、漢籍の思想の真髄をより深く理解してもらうためには、訓読の上で現代語訳を加えなければならない。これは現代語訳が生まれた必然性と重要性だといえる。

現代語訳が生まれたと同時に、その対象も変わった。現代日本語訳の対象はエリート層や一般民衆を含める基本的な読解力を持つすべての日本人である。漢学知識を備えていない一般民衆にとって、文法構造、意味修飾、歴史背景、事件由来などの内容を適当に補充しないと、文脈を理解することが難しい。それで、現代語訳にとって、加訳は欠かせない存在となった。

そして注目すべきことは、このような読者身分が変わった歴史背景の下でも、漢籍訳者の身分は変わらず、依然として漢学者だったことだ。例えば、本稿の考察対象である池田末利、また前述の宮崎市定など、どちらも漢学大家で訓読に精通している。本稿で述べた

① 宮崎市定：『論語の新研究』（1974年），『宮崎市定全集』4，東京：岩波書店1993年，第175ページ。

「明示的加訳」がそういう訳者にとっては一目で分かる内容である。だから、彼らは「()」の中の内容を「補釈」といい、本文と同じ地位に置かないで省略しても構わないと思っている。しかし一方、時代の流れに乗っている彼らは、漢籍を一般人にまで普及させるために、訳文を大衆化して、「加訳」を必要な手段としたのである。

従って、『書經』をはじめとする漢籍が「読み下し文」から「通釈」（＝現代日本語訳）への過程において、一方、訳者は「()」を意図的に付けることを通して、原文の字面に含まれていない内容を提示した。即ち加訳の部分である。もう一方、加訳を一種の「補釈」に位置付け、「省読しても意味は通じる」内容とし、揺らぎを見せてていると考えられる。同時に、池田訳本が示したように、一部の「(=)」付きの文が性質上伝統的な「挿入注釈」に相当する。ただ形式的には少々変えたが、これもまた「訓読法」における「注釈」の受け継ぎである。この点から理解すれば、上述の揺らぎも解明でき、「注釈」が正文ではないため、「()」付き文の省略も認められる。マクロ的な時代の枠組みからして、それは訓読から現代語訳への過渡的な現象、或いは訓読法と現代語訳との間に折衷と妥協を求めた結果だと言えるであろう。

5.まとめ

千年もの歴史を有する「訓読法」の存在によって、漢籍の現代日本語訳と西洋近現代小説及び中国小説の日本語訳との間には違いがある。このような従来の読み下し文を現代日本語に訳す際には、異なったやり方が採用され、「()」付きの翻訳方式はその表現の一つである。こういう翻訳方式は池田末利だけが使うものではなく、当時の他の日本語訳本にも見られた一般の翻訳手段である。それを分析すると、「加訳」表現の一種だと考えており、しかも明らかな標識があるので、本稿では「明示的加訳」と名付ける。そして訳者の目的に対する考察を行うことにより、「明示的加訳」というものは訓読から現代語訳への過渡的な現象、或いは訓読法と現代語訳との間に折衷と妥協を求めた結果だと言える。

また、読者身分の変化や知識構造の転換によって、漢籍の日本語訳本が次第に従来の「訓読法」から「現代語訳」に移行し、このような転換は時代の必然の産物となった。そして両者の間には深い伝承関係があるため、過渡的に見えるようになった。時代の流れに従うために、『書經』をはじめとする中国典籍の日本語訳本には「大衆化」傾向が見られ、池田末利の『書經』訳本はその典型例である。漢籍の「現代語訳」が現代日本の知識体系の構築にどれだけの役割を果たしているのかはまだ中日学界からの更なる研究と検討が要求される。

原発危機報道におけるエビデンシャルティに関する研究

劉 智俊・姚 艷玲（大連外国语大学）

LIU Zhijun · YAO Yanling

The Study on the Evidentiality in Japanese Discourse of Nuclear Crisis

要旨

本文结合批评话语分析与系统功能语言学分析了日本《朝日新闻》核能危机社论中的言据性。研究发现，(1) 该主题的社论中主要使用了感知据素，推理据素和报告据素；(2) 在概念功能方面，主要使用言语过程和心理过程的言据性表征方式。在人际功能方面，使用最多的是程度高的言据性表征方式，其次是程度中的言据性表征方式，最少的是程度低的言据性表征方式；(3) 社会层面主要涉及政治，经济和能源安全三大主题，通过据素的使用挖掘语篇制造者所要表达的真实含义。

キーワード：批判的ディスコース分析 選択体系機能言語学 エビデンシャルティ 原発危機

目次

- はじめに
- 先行研究の概観
- 研究対象と研究の手順
- エビデンシャルティの表現類型
- エビデンシャルティの機能分析
- 原発危機の社説報道に関するトピック分析
- おわりに

1. はじめに

2011年3月11日に、日本でマグニチュード9.0の大地震が発生し、福島第一原子力発電所が津波によって爆発され、原発危機が引き起こされた。福島原発危機は日本ひいては世界の原子力産業発展の転換点となり、今後のエネルギー戦略の方向性に影響を与えた。原発危機は世論の原発安全に対するパニックを引き起こし、国際社会の注目を集めている。

日本の原発危機報道に関する言語学研究は、近年、主にメディアフレーム理論に基づく内容分析と、「原発」及び関連するキーワードに対する定量分析と、批判的ディスコース分析の視点からのディスコースストラテジー分析、及びこの課題に関する共時分析に焦点

を当てている。しかし、原発危機報道に関する研究では、批判的ディスコース分析の視点から、エビデンシャリティ理論を用いたディスコース分析は見られなく、話し手である個人の立場と意図に関する考察は不十分である。

本稿では、このような新たな研究手法を用いて情報の信頼性と話し手の立場と意図を解明することを目的とする。まず、エビデンシャルの分析を行う。次に、これに基づき、エビデンシャリティの機能を分析する。最後に、文脈の中で提示されたトピックを解釈する。即ち、批判的ディスコース分析に提示されている「テキスト、言説的実践、社会的実践」という3つの次元から考察する。

エビデンシャリティを用いた言語表現を考察することによって話し手が思う情報の信頼性が解明できる。そして、原発危機報道のような政治言説において、話し手の発言に潜んでいる立場、及び聞き手に共感を与えるという意図が明らかになる。以上の考察と分析を通し、日本語のディスコース分析の中では、今までなされていない批判的ディスコース分析の視点からエビデンシャリティ研究を行い、その研究の新たな地平を提示することに意義を持つ。

2. 先行研究の概観

2.1 批判的ディスコース分析及び選択体系機能言語学

批判的ディスコース分析は、ディスコース分析を通して、テキストの中の権力関係やイデオロギー、社会的不平等などを問題とする (Fairclough 1989)。Faircloughは、「テキストとしてのディスコース」、「言説的実践としてのディスコース」、「社会的実践としてのディスコース」というディスコース分析の際の3つの次元を挙げた。「テキストとしてのディスコース」では、あるテキストにおいて語彙や文法が如何に使用されるかを分析する。

「言説的実践としてのディスコース」では、テキストが如何にディスコースの機能を実現するかという点に着目する。「社会的実践としてのディスコース」では、テキストに見られる話し手の立場とその発言する本意を考察し、その発言の社会的要因或いはそれが持つ社会的意義を批判的に分析する。

選択体系機能言語学 (SFL) は批判的ディスコース分析の「言説的実践としてのディスコース」の部分において、主にテキストの3つのメタ機能が、それぞれ「観念構成的機能」、「対人的機能」、「テキスト形成的機能」からなると主張している(Halliday 1985;山口 1986)。観念構成的機能とは経験事態のいわゆる認知的意味をとらえる機能 (過程型体系) であり、対人的機能とは相互作用者の対人的関係 (叙法、モダリティー、心情等) をとらえる機能であり、テキスト形成的機能とはテキストを結束性のある首尾一貫したテキストたらしめる機能 (主題体系、情報体系、結束体系等) であるという(Halliday 1985;山口 1986)。

2.2 エビデンシャリティ研究

エビデンシャリティ理論に貢献をした有力な研究者の中では、Chafe を言及しなければならない。Chafe (1986) は、エビデンシャリティと関わる思考要因を、知識ソース、知識獲得の仕方、知識の信頼度、言語資源や話し手の期待に合った知識状態だと考えている。Chafe の理論は非常に説得力を持っており、現在のディスコースのエビデンシャリティ研究において、よく使われている理論の一つになっている。Mushin は Chafe の観点と近く、エビデンシャリティの情報源の信頼性だけでなく、情報源に対する話し手の立場と意図にも注目すべきだと強調している。Chafe (1986) は主に「Sensory evidence」(感知エビデンシャル)、「Hypothesis」(仮設エビデンシャル)、「Induction・Deduction」(推論エビデンシャル)、「Hearsay evidence」(報告エビデンシャル)、「Belief」(信念エビデンシャル)を挙げた。Mushin (2001) は 5 つのエビデンシャリティのカテゴリー、即ち、「Personal experience」(感知エビデンシャル)、「Inferential」(推論エビデンシャル)、「Reportive」(報告エビデンシャル)、「Factual」(事実エビデンシャル)、「Imaginative」(想像エビデンシャル)を挙げた。

2.3 日本語のエビデンシャリティ研究

Aoki(1986:223-238)は初期文献の中の日本語エビデンシャリティの構成を詳しく論じた。Aoki は日本語には 4 種類のエビデンシャルがあると指摘し、その 4 つのエビデンシャルは、他人の感覚に関する推定の「がる」、事実のマークの「の/んだ」や噂を表す「そうだ」、典型的なエビデンシャル表現の「そうだ、ようだ、らしい」だと分類した。また、エビデンシャルの副詞表現、エビデンシャルとポライトネスの関係、エビデンシャルの歴史的な発展状況についても簡潔にまとめている。神尾 (1990) は evidentiality を「証拠性」と訳しているが、その「証拠性」の具体的な意味については述べておらず、「よう」、「みたい」、「そう」、「らしい」を例としてあげただけである。その他、日本語研究において日本語モダリティを対象とする研究者の一部は、そのモダリティ構造を考察する際に、「証拠性」または「証拠性判断」という言葉を使用している(日本語記述文法研究会 2003:163;益岡 2007:145)。

Ohta (1992:219-220) は日本語談話資料に見られる 38 種類のエビデンシャルをまとめ、終助詞、副詞、あいまい表現、直接/間接的な言語表現などが含まれると主張する。Gu (2014:33-34) は、「と」と、「言う」、「述べる」、「批判する」、「考える」、「思う」、「推定する」などの言説動詞と心理動詞を組み合わせることにより、エビデンシャルの意味を実現することができると指摘した。Szatrowski (2014:133) は、Chafe の分類に基づいてさらに整理し、その分類を、「日本語の試食会」場面に応用した。Szatrowski の研究は、日本語ディスコースのエビデンシャリティ研究に、関連の欧米の理論を応用する可能性を示した。

2.4 本研究の立場

日本語エビデンシャリティ研究では、「そうだ、ようだ、らしい」というモダリティ構造の内部の「証拠性」に関する研究が比較的に多い。その中で、Ohta、Gu、Szatrowski といった研究者は、日本語ディスコースの側面から、多くのエビデンシャリティの表現形式をまとめた。この場合、研究者はしばしば evidentiality をエビデンシャリティに訳し、エビデンシャリティが日本語のモダリティを含めた概念範疇であると考えられる。例えば、Chafe と Mushin は、両者とも「感知エビデンシャル」、「推論エビデンシャル」及び「報告エビデンシャル」を言及している。感知エビデンシャルの分類では、Chafe の「Sensory evidence」と Mushin 「Personal experience」のような「feel」の用例を挙げている。それは日本語テキストでは「感じる」、「～感」のような表現に相当する。その他、日本語では「不安」、「重要」のような表現も自分の感情の表れであり、「感知エビデンシャル」である。本稿では Chafe と Mushin の用例を「感知エビデンシャル」の「感知表現」にし、「不安」、「重要」のような表現を「感知エビデンシャル」の「感情表現」とする。また、推論エビデンシャルでは、Chafe は「Belief」（信念エビデンシャル）、Mushin は「Imaginative」（想像エビデンシャル）という用語を使用し、「I think」のような用例をこの分類に分けた。これは日本語における「と思う」のような、話し手ができた事件に対する推論を表す典型的な表現形式に相当する。Chafe は「Hypothesis」（仮説エビデンシャル）では「if」のような例を挙げた。本稿では、このような用例を「推論エビデンシャル」に分ける。さらに、報告エビデンシャルでは、「体験に関する表現」と Mushin の「Factual」（事実エビデンシャル）は、過去または既成の事件に対する思い出である。これを本稿では「報告エビデンシャル」に分類する。したがって、本稿は主に「感知エビデンシャル」、「推論エビデンシャル」及び「報告エビデンシャル」に分ける（表 1 を参照のこと）。このような分類に基づき、原発危機に関するディスコースを研究事例とし、批判的ディスコース分析の視点からエビデンシャリティ研究を行う。

表 1: 表現類型及び具体的な例

エビデンシャリティの分類	表現類型及び具体的な例
感知エビデンシャル	感知表現:見る、聞く、感じる、～感 など 感情表現:不安、重要、有効、心配 など
推論エビデンシャル	モダリティ表現（かもしれない/なければならないなど）、信念表現（と思う、と考えるなど）、仮定表現など
報告エビデンシャル	伝聞・引用表現:によると、によれば、の話では、（する）そうだ、という、と評価した、周知のように など 体験表現:V たことがある、N があった など

3. 研究対象と研究の手順

3.1 研究対象

本研究のコーパスは、日本原発危機に関する朝日新聞社説（蔵Ⅱビジュアル）である。「原発」と「危機」をキーワードに、時間幅を、民主党政権時代の平成23年3月11日から平成24年12月31日に発表されたテキスト（30篇）を取り上げる。そして、それぞれの情報源とエビデンシャルを考察しながら機能と内容分析を行う。また、筆者はコーパスを分析する際に、AntConc3.5.8を用いた。AntConcはコーパス検索ソフトであり、索引、単語リストの生成、語の共起関係の算出、特徴語の抽出など多くの機能を持つという点で、本研究のような言語研究に適していると思われる。

3.2 研究の手順

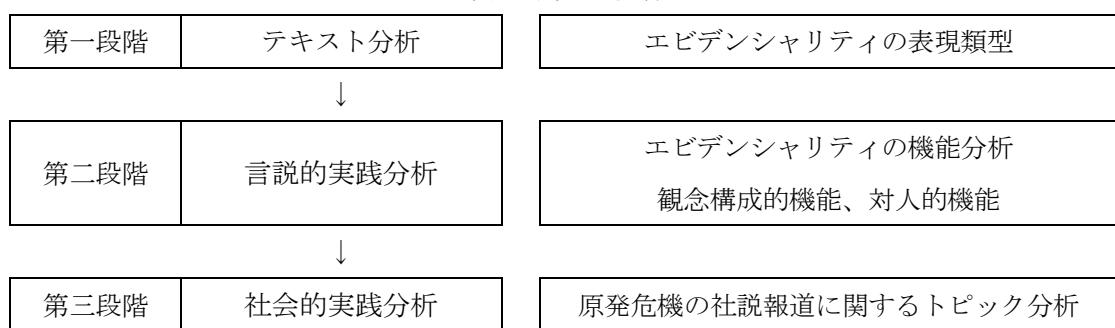
本研究では、Fairclough（1989）の「テキスト分析－言説的実践分析－社会的実践分析」の3つの次元を使用する。

まず研究の第一段階では、テキスト分析を行う（表2「エビデンシャリティの表現類型」の項目を指す）。この段階で、原発危機に関する新聞社説のエビデンシャルを絞る。日本原発危機に関する朝日新聞社説を通じて、エビデンシャリティの用例を収集し分類する。

研究の第二段階では、言説的実践分析を行う（表2「観念構成的機能」と「対人的機能」の項目を指す）。選択体系機能言語学の理論を使用し、言語形式と文脈を分析した上で、原発危機に関する新聞社説のエビデンシャリティの機能を明らかにする。

研究の第三段階では、社会的側面からの分析を行う（表2「原発危機の社説報道に関するトピック分析」の項目を指す）。原発危機の社説報道に関するトピックを明らかにした上で、社会側に注目されたトピックに対し、話し手が如何にエビデンシャルを使用し、その立場と意図を表明するかを、批判的に検討する。

表2:研究の手順



4. エビデンシャリティの表現類型

本研究では、原発危機に関する社説報道は主に3種類のエビデンシャリティの表現類型が現れ、それぞれ感知エビデンシャル（4.1）、推論エビデンシャル（4.2）及び報告エビデンシャル（4.3）である。

4.1 感知エビデンシャル

感知エビデンシャルは主に人間の五感に直接関係するエビデンシャリティの表現形式である (Chafe 1986)。感知エビデンシャルは話し手の直接的かつ意識的な感性経験の産物として表現されている。感知エビデンシャルの使用例を以下の (1) (2) (3) で見てみよう。

(1) 外務省や東京電力はばらばらに対応するのではなく、首相官邸が司令塔となって専門家の意見を聴きながら判断することが大切だ。 (11.04.01)

(2) 臨界を抑える働きがあるホウ酸水を、東電が直ちに注入したのも、そんな危機感の表れだろう。 (11.11.03)

(3) しかし、この夏の大飯原発の再稼働について、多くの国民は不安を抱いている。
(12.04.13)

(1) 「聴く」は感知エビデンシャルであり、話し手は危機処理の過程で専門家の意見を聴くことの重要性を強調している、ということがわかる。 (2) 「危機感」の使用を通して、話し手は東電が直ちにホウ酸水を注入した事件の深刻さを感じさせようとしている、ということがわかった。 (3) 話し手は国民の立場に立ち、原発再稼働に不安な感情を抱いている、ということを表している。

4.2 推論エビデンシャル

ある種の証拠に基づいて推測された、または演繹された情報の表現において、推論エビデンシャルが表される (Mushin 2001)。話し手は直接知覚によって獲得したさまざまな情報を使用して結論を出すとき、推論エビデンシャルを使用する。その推論エビデンシャルは、主にモダリティ表現、信念表現（と思う、と考える等）、仮定表現などある。推論エビデンシャルの使用例を (4) (5) で見てみよう。

(4) 「収束」という踏み込んだ表現で安全性をアピールし、風評被害の防止につなげたいという判断があったのかもしれない。 (11.12.17)

(5) 原発事故による放射能汚染の被害は、1国だけにとどまらない。一衣帯水の隣国同士であれば、なおさらである。 (11.05.23)

(4) 「かもしれない」は風評被害の防止に対する話し手の推論である。事実に自信を持たない場合に、話し手が自分の発言の正確さから責任を逃れる際にもよく使われる表現である。 (5) 「だけにとどまらない」、「ば、なおさらだ」から見ると、話し手は放射能汚染の事件進展はすでに他国、特に近隣諸国に大きな影響を及ぼしていると推論していることがわかった。

4.3 報告エビデンシャル

報告エビデンシャルは、伝達情報を挿入する形式で、情報を他人に伝えることである (Mushin 2001)。権威的な話を引用することによって、言葉のエビデンシャリティを高め、テキストの信頼性を高める効果を持つ。ここでは以下の例を見てみよう。

(6) フランスでは、原子力の規制当局の幹部が一貫して、テレビで国民に対する説明役を務めるという。 (11.03.14)

(7) 中間報告によれば、政府は「S P E E D I 情報を広報する」という発想を持ち合わせていなかった」。 (11.12.27)

(8) 3月15日未明に東京電力が「撤退」を求めた時は、首相の強い叱責が、現場放棄を食い止める結果になったと評価した。 (12.02.29)

(9) これより深刻な事故としては、運転中の原子炉が爆発して、大量の放射性物質をまき散らした1986年の旧ソ連のチェルノブイリ事故があつた。 (11.03.13)

(10) 私たちはこれまで体験したことのない規模の災害に向き合っている。 (11.03.13)

(6) 「という」の使用は「フランスでは、原子力の規制当局の幹部が一貫して、テレビで国民に対する説明役を務める」の情報源がどこかは明確にしない効果がある。 (7)

(8) 明確な情報源があり、(7)は中間報告、(8)は前述した報告書である。(9)は以前のことの回想であり、同時に日本の原発危機とは対照的である。(10)は文法的手段で、かつて私たちが今回の事件のような深刻な危機を経験したことがないことを強調している。

5. エビデンシャリティの機能分析

本節では、主に原発危機に関する社説報道のエビデンシャリティの機能を分析する。エビデンシャリティの機能に関しては Halliday は「観念構成的機能」、「対人的機能」、「テキスト形成的機能」を指摘している。この中で、本稿が取り上げた情報の信頼性の問題を解明するために、「観念構成的機能」と「対人的機能」を検討しなければならないため、本節では「観念構成的機能 (5.1)」と「対人的機能 (5.2)」を中心に考察する。

5.1 観念構成的機能

SFL は、話し手が伝えられた文脈を、観念構成的、対人的、テキスト形成的という 3 つのメタ機能に関連付ける。この節では、観念構成的機能に焦点を当てる。観念構成的機能には、それぞれ物質過程、行動過程、心理過程、発言過程、関係過程、存在過程と名付けられた 6 つのプロセスタイプがある (Halliday 2014)。Teruya (2007) は、日本語では、主に物質過程、心理過程、発言過程、関係過程という 4 つのプロセスタイプがあり、そのうち発言過程は英語よりもより広い意味範囲があると指摘した。日本語ディスコースのエビデンシャリティ研究では、報告エビデンシャルに存在的関係過程 (ある) のほか、主に発言過

程と心理過程の2種類が現れている。発言過程の参与子には発言者、発言内容があり、心理過程の参与子には感覚者、現象がある。以下の例を見てみよう。

(11) 東京電力は14日夜、少なくとも一時的に2号機の核燃料全体が水から露出したと発表した。 (11.03.15)

(12) 基準ができたからといって、電力会社は数十基の原発を次々に再稼働できると考えてはならない。 (12.04.07)

(13) 全容ははっきりしないが、1、3号機とも炉心の半分前後が冷却水からむき出しになった時間帯があると考えられる。 (11.03.15)

(11) は発言過程に属する。発言者は「東京電力」であり、発言内容は「14日夜、少なくとも一時的に2号機の核燃料全体が水から露出した」、エビデンシャルは「と発表した」である。

(12) は心理過程に属する。感覚者は「話し手（国民）」であり、現象は「基準ができたからといって、電力会社は数十基の原発を次々に再稼働できる」、エビデンシャルは「と考えてはならない（心理動詞+評価モダリティ）」である。

(13) は心理過程に属する。感覚者は「みんな」であり、現象は「全容ははっきりしないが、1、3号機とも炉心の半分前後が冷却水からむき出しになった時間帯がある」、エビデンシャルは「と考えられる」である。

(11) 権威的な話を伝えることで、情報の信頼性を高める。(12)「と考える」の使用を通し、前述した事件に対する推論は、日本語では人称を省略する際が多く、個人的な観点が公共の意志に形作られて便利を図った。(13)「と考える+受身」という表現は日本語によく見られ、「みんなよく知られている」という意味である。このように使っている理由は前述の事件を常識に見せかけることができ、受け手の支持をよりよく得ることができる。

5.2 対人的機能

対人的機能は、みな話し手の心的態度（命題内容の真偽の可能性に対する話し手の判断(modality)）を表す（山口 1986）。早川（2012）は日本語にも、蓋然性、義務性、能力すべての意味領域に相当する表現があり、それぞれのカテゴリーに複数の表現法があり、それぞれのカテゴリーに対し、高・中・低すべての程度の表現があると指摘した。

5.2では、「なければならない」、「てほしい」、「てもいい」を例として説明する。

朝日新聞社説では、「なければならない（ねば）ならない」20箇所、「てほしい」9箇所、「てもいい」2箇所で使用されている。早川（2012）は「なければならない」の義務性が高く、「てほしい」の義務性が中程度になり、「てもいい」の義務性が低いことをまとめた。朝日新聞社説では、程度の高い表現が多用されたのは、放射性物質、原発利用、原子

炉や核燃料プールなどの一連のエネルギー危機問題を早急に解決する必要性を強調しようとすることに原因があるのであろう。例えば、「事実を直視しなければならない」、「再点検しておかなければならない」、「問い合わせなければならない」などである。「てほしい」の使用の文脈は主にポジティブな表現形式を組み合わせることで、政府や東電などに期待を持っていることがわかった。例えば、「万全を期してほしい」、「力を合わせて危機を乗り越えてほしい」、「外部の知識を積極的にとり入れてほしい」などである。

6. 原発危機の社説報道に関するトピック分析

朝日新聞の原発危機に関する社説は主に3つのトピックに分けることができ（表3を参照のこと）、政治と外交の面では、危機対応にあたり、当時の政権に対する不満と不信が見られる。（14）「悲しい」と「と言う+可能表現」という感知と推論エビデンシャルを使用することで、ある程度の推論を行った結果、「悲しい日本政治の現状」を意識し、話し手の失望、不満と無力さを表す。経済と復興の面では、大地震と原発危機で日本経済は再び深刻な被害を受けた。（15）「まい」という程度の高い推論エビデンシャルの使用は、脱原発で地域経済が立て直しにくくなり、経済回復への懸念を表している。エネルギーと安全の面では、（16）「べき」という程度の高い推論エビデンシャルの使用により、話し手は国民の生命の安否が最も重要であると表明している。一方で、（政府や東電による）危機管理に対し、確固たる理屈や道理に基づいた提言をすることがわかった。総じて言えば、民主党政権時代に朝日新聞社説が持っていた主張は原発ゼロを推奨することであるが、日本の今後のエネルギー発展に本当に適しているかどうかは、深く考えるべきであろう。

表3:朝日新聞社説の社会実践事例

トピック	関連内容
政治と外交	原発危機に関わる政治的配慮、国際協力など
経済と復興	廃炉や除染、損害賠償の費用、電気料金上げ、復興ビジョンなど
エネルギーと安全	健康、被曝、放射性物質、電力不足、持続可能なエネルギーなど
主張:原発ゼロ	

（14）非常時にも政治を信用できない官僚と、緊急対応に踏み切れない政治家たち。これが悲しい日本政治の現状といえる。（12.03.12）

（15）もちろん、脱原発で交付金などを突然打ち切られては地域経済も立ちゆくまい。

（11.10.26）

（16）今回、放射性物質が外部で検出されている。まず住民の健康を守ることを最優先に考えるべきである。（11.03.13）

7. おわりに

本研究では、批判的ディスコース分析の3つの次元を使用し、朝日新聞社説の原発危機に関するエビデンシャルティの表現類型と機能、及び話し手の立場と意図を分析した。紙面の制約のため、朝日新聞社説を中心にして分析した。しかし、体裁の相違やテキスト入手先の立場の相違によって結果の差異が生じる可能性があるゆえ、資料やデータを補充する必要がある。複数の新聞社による原発危機に関する社説報道を取り上げたエビデンシャルティ研究は今後の課題とする。

参考文献

- Aoki,H. 1986. *Evidentials in Japanese*. In: Wallace Chafe and Johanna Nichols(eds.), *Evidentiality: The Linguistic Encoding of Epistemology*. Norwood, NJ: Ablex.
- Chafe, W. 1986. *Evidentiality in English conversation and academic writing*. In: Wallace Chafe and Johanna Nichols(eds.), *Evidentiality: The Linguistic Encoding of Epistemology*. Norwood, NJ: Ablex.
- Fairclough, N. 1989. *Language and Power*. London: Longman.
- Gu,X.2015. *Evidentiality, subjectivity and ideology in the Japanese history textbook*. *Discourse & Society*, 26(1): 29-51.
- Halliday, M. A. K.1985. *An Introduction to Functional Grammar*. London: Edward Arnold.
- Halliday, M. A. K.& Matthiessen, C.M.I.M. 2014. *An Introduction to Functional Grammar* (4th ed.) . London & New York: Routledge.
- Mushin, I. 2001. *Evidentiality and Epistemological Stance: Narrative Retelling*. Amsterstam:John Benjamins Publishing Company.
- Ohta,A.S.1991. *Evidentiality and politeness in Japanese*. *Issues in Applied Linguistics*, 2(2):211-238.
- Szatrowski, P. 2014. *Language and Food: Verbal and Nonverbal Experiences*. Amsterstam:John Benjamins Publishing Company.
- Teruya,K. 2007. *A Systemic Functional Grammar of Japanese*. London: Continuum.
- 神尾昭雄(1990)『情報のなわ張り理論』東京:大修館書店.
- 日本語記述文法研究会(編) (2003)『現代日本語文法4 モダリティ』東京:くろしお出版.
- 早川知江(2012)「日本語のモダリティ:「主観的」表現と「客観的」表現」『名古屋芸術大学研究紀要』33:285-301.
- 益岡隆志(2007)『日本語モダリティ探究』東京:くろしお出版.
- 山口登(1986)「選択体系文法理論〔前編〕—Hallidayの言語理論の一解釈—」『福島大学教育学部論集(人文科学)』40:67-79.

中国女子大学生のあいさつ行動についての実証的研究

—出会いにおける手振りを中心に—

李凌飛・施暉（蘇州大学）

LI Lingfei · SHI Hui

A Empirical Study of Chinese Female College Students' Greeting Behavior

With the gesture used in encounter as the focus

要旨

論文基于问卷调查，将中国日语专业大学女生一天内初次在校园偶遇关系亲密的同性朋友以及关系一般的同性朋友时使用的手部动作与非日语专业女生进行比较，得出以下主要结论：第一，无论是日语专业女生还是非日语专业女生，对关系亲密的同性朋友使用的手部动作富于多样性，而与关系一般的同性朋友打招呼时，手部动作呈现出较高的定型性。第二，日语专业女生与非日语专业女生使用的具体手部动作既有共性也有差异。

キーワード： 出会い あいさつ行動 手振り 親疎関係

目次

1. はじめに
2. 調査手順と調査内容
3. 「手振り」についての考察
4. おわりに

1. はじめに

「あいさつ」はよく耳にする言葉で、われわれが毎日行なっている言語行動である。滝浦真人（2008:114）は「あいさつ」を以下のように定義している。「あいさつとは、いうまでもなく、社会的な対人関係において、場面に応じて儀礼的に交わされる言葉（や行動）のことであり、出会いと別れのあいさつ、集団的行動の開始と終了のあいさつ、感謝と詫びのあいさつなど、日常生活のほとんどあらゆる場面で可能といつていい」となる。その定義によると、あいさつは言語的成分と非言語的成分という2つの要素からなっていることがわかる。沖久雄（1989）と于亮と蘇娜（2016:48–49）などは言語的成分を「あいさつ言語」と呼ぶのに対し、非言語的成分を「あいさつ行動」と呼ぶ。つまり、「あいさつ言語行動においては、あいさつ言葉が中心的な働きをすると同時に、参与者の音調、顔の表情、

態度、視線、姿勢、身振り、相手との距離等も随伴したり、単独で現れたりしながら、それら全てがあいさつ『言語行動』に組みこまれている」(施暉 2017a:107)。また、あいさつは人間の会話において中核的な部分ではなく、「同一の共同体 (community) にいる人または共同体を設定しようとしている人が、情報の交換を目的にせず、親和的な仲間意識を維持したり形成したりする」(肖潔 2019:238) というような機能が備わっている。

日中両国における中国人のあいさつに関する先行研究を振り返ってみれば、馬瀬良雄ら (1988)、施暉 (2010、2019、2021)、劉靜慧 (2010、2012)、曲志強 (2008)、龍又珍 (2008)、丁尚虎 (2019) といった代表的な研究のように、あいさつ言語を中心とするものは大多数である。あいさつ行動に焦点を当てる研究はあまり見られないのが現状である (施暉 2017a)。また、実証調査に基づく研究は一層少なくなり、小野寺典子 (1989)、施暉 (2017a、2017b) など少数しか挙げられない。

土屋頼子 (1998:58) によると、出会いのあいさつは「人と人が出会い、対面的コミュニケーションの開始時に交わす、儀礼的な言語行動である」とされる。「出会い」の大切さについて、ゴッフマン (2002:5) には、「人はみな、対面での出会いか間接的な出会いかの違いはあっても、ともかく社会的に他人と出会いつつ生活している」という論述がある。従って、あいさつの様々な下位分類の中でも、「出会いのあいさつ」は人間が社会生活を営む上で最も重要視すべき言語行動と考えられよう。

本論は先行研究を踏まえて、中国の女子大学生がキャンパスで友達に会ってあいさつをするという場面に視点を絞り、人間関係は如何にあいさつ行動に影響をもたらすかを検討しようとする。非言語行動を身につけるためには、主に伝承と模倣という2つの方法があるが、外国語学習者にとっては、模倣は特別重要である。それについて、ザトラウスキ (2001:7) には「もちろん、日本語非母語話者が日本人の非言語行動を身につけるのは大変難しい。しかし、意識して日本人の非言語行動を観察し、訓練を重ねれば少しづつではあっても身につけられるものなのではないだろうか」という指摘がある。日本語を専門とする中国人大学生は、授業で日本人の非言語行動に関する知識を教わる他にも、日本人教師や日本から来た留学生と交流したり、日本のテレビドラマやアニメなどを見たりしているうちに、日本人の非言語行動を多かれ少なかれ模倣しながら身につけていると予測している。従って、本論は中国人大学生を日本語専門と非日本語専門という二つのグループに分けて、比較することによって、異同点があるかないかをも確認してみたい。

2. 調査手順と調査内容

調査方法は主にアンケート用紙を用いたが、1回の予備調査、5回の本調査と3回の追及調査¹を行なった。実施は2020年10月から2021年9月にかけて、蘇州、南京と淮安に

¹ 5回の本調査は5つの異なる大学で行なわれた。実施期日は大学によって違った。また、本調査で男性と女性の人数はバランスがとれなかつたり、記入は間違いがあつたりするという問題があつたため、3回の追及調査を行なった。

ある5つの大学に在籍している中国人大学生合計215名を対象に調査を行なった。具体的な方法については、協力を承諾した大学生を教室に集め、アンケート用紙を配布し、アンケートの説明文と質問文を読み上げさせた後で、用意した選択肢の中から自分の状況に合っている回答を選んでもらう方法を採用した。また、調査の信憑性をできるだけ保障するために、アンケート用紙を回収した時に、筆者がチェックし、記入は間違ったところがあれば、修正と再確認を当人に頼んだ。調査対象の詳細は表1の通りである。日本語専門の大学生は全部3年生と4年生である。本論のアンケート調査には「日本人の非言語コミュニケーションに関する知識を授業で教わったことがあるか」という項目もある。111名の日本語専門の大学生は全部教わったと答えたのに対し、104名の非日本語専門の大学生は授業で教わらなかった。また、非日本語専門の大学生は外国語を専門としていない上に、独学で日本語を勉強した経験もなければ、日本へ行ったこともない。

表1 調査対象の内訳

	男性	女性	合計
日本語専門	56	55	111
非日本語専門	54	50	104

土屋頼子（1998:58）において、出会いのあいさつに関与すると考えられる4つの構成要素が設定されている。

- ①時間的要素 物理的時間に基づく時間帯（朝・昼・夕方・夜）
- ②場所的要素 公的場所・私的場所・外出先など
- ③対人関係的要素 目上目下・親疎・ウチソトなど
- ④状況的要素 意図的な出会い・非意図的な出会い（待ち合わせの有無）など

場面1 あなたはその日の中で初めて、大学のキャンパスで偶然に以下の人にお会ったとする。

あまり親しくない友達—話をしたことはあるが、プライベートなことまで話題にしない／しそうもない
親しい友達—プライベートなことも話せる／話せそう

本論は以上の構成要素を組み合わせて、上の場面1を作成した。沖久雄（1989）と本論の予備調査の結果では、出会いのあいさつ行動は時間帯とはほとんど関係がなかった。そのため、時間帯を場面の作成要素とせず、その日の中で初めて出会ったとした。場所的要素については、大学のキャンパスの路上に設定した。また、あいさつ相手は全部中国人同士で、人間関係を上下関係を持っていない友達とした。しかも丁尚虎（2019）を参照し、親疎によって「親しい友達」と「あまり親しくない友達」の2種に大別した。吳映妍（2009）、施暉（2017a、2017b）などによると、性別はあいさつ行動を左右する不可欠な要素である。そのため、本論はあいさつ相手をさらに「親しい同性友達」「親しい異性友達」「あまり親しくない同性友達」と「あまり親しくない異性友達」に分けた。最後、状況的要素に関しては、約束がなく、非意図的な出会いとした。

一方、調査内容は、国立国語研究所（1984）を参考に、大きく「あいさつするかどうか」「立ち止まるかどうか」「あいさつ言葉とあいさつ行動の使用傾向」「具体的なあいさつ行

動」という4項目を含んでいる。前の3つは単一選択、「具体的なあいさつ行動」は複数選択でもいいとした。あいさつ行動については、畢繼万（1999）、石井正彦と孫栄夷（2013）などを参照し、「表情」「視線」「手振り」「身振り」「身体接触」に分けて尋ねた。また、予備調査で身体方向と空間距離も調査してみたが、答えにくいと意見を返した人が多いので、本調査でその2つのあいさつ行動は削除することにした。

3. 「手振り」についての考察

本論は日本語専門の女子大学生（55名）（以下は「専門女」）と非日本語専門の女子大学生（50名）（以下は「非専門女」）が、「親しい同性の友達」（以下は「親同」）と「あまり親しくない同性の友達」（以下は「疎同」）という2種の友達に使用する手振りを分析しようとする。

表2 あいさつをするかどうか

	親同		疎同	
	する	しない	する	しない
専門女	55 (100%)		54 (98.2%)	1 (1.8%)
非専門女	50 (100%)		46 (92%)	4 (8%)

注:上の数字はその選択肢を選んだ人の数を指すが、下の数字は割合である。空欄はゼロを指す。

表2は専門女と非専門女が「親同」と「疎同」に出会った時、あいさつをする人の割合としない人の割合を示したものである。相手が「親同」である場合、専門女と非専門女が「あいさつをする」を選んだ割合は両者とも100%である。一方、「疎同」に出会うと、「あいさつをする」と答えた専門女と非専門女はそれぞれ全体の98.2%と92%となり、専門女の方の割合がやや高い。

表3 手振りについての選択表

手振り	① 走路時の手部姿勢 (歩く時の手振り)	② 举手但不过头顶 (单手) (片手を頭頂よりも下に挙げる)	③ 举手但不过头 頂 (双手) (両手を頭頂よりも下に挙げる)	④ 举手过头顶 (单手) (片手を頭頂よりも上に挙げる)	⑤ 举手过头顶 (双手) (両手を頭頂よりも上に挙げる)
	⑥ 左右挥手 (单手) (片手を左右に振る)	⑦ 左右挥手 (双手) (両手を左右に振る)	⑧ 上下招手 (手を上下に振る)	⑨ 双手交叉置于身 体前側 (両手を体の 前に組む)	⑩ 拍手 (拍手する)
	⑪ 合掌 (合掌する)	⑫ 拱手 (拱手する)	其他 (その他): ⑬ () / ⑭ ()		

表3のように、筆者はドラマ調査をもとに、調査票で「手振り」に関する選択肢を12つ用意した。もし「その他」を選べば、()に手振りを書きなさいとアンケート用紙に書いてある。12つの選択肢の内、②から⑤までは片手か両手か、頭の上あるいは下という違いがあるとしても、「手を挙げる」という点で共通である。また、⑥と⑦は手を左右に振る手振りで、片手それとも両手でやるという違いがある。丁尚虎（2019:36）はB&Lが提唱しているポライトネス理論をあいさつ研究に導入し、「あいさつ表現とポライトネス・ストラテジーとの関係を検討し、定型性と丁寧度という二つの視点からすべてのあいさつ表現を

NP 表現と PP 表現という 2 種類にわけると説いている。PP (ポジティブ・ポライトネス) 表現は相手に親近感を伝える意味合いが強く、“吃了吗 (飯食う)、路上小心 (気を付けてね)” や「手を振る」「手を挙げる」などのあいさつ言語と行動を含んでいる。PP 表現に対し、NP (ネガティブ・ポライトネス) 表現は相手との間に距離を置きながら敬う気持ちを表す意味合いもある。例えば、“你好 (こんにちは)、再见 (さようなら)”、「会釈」といったあいさつ言葉と行動は NP 表現に属している。表 3 に用意してある手振りの中、①、⑨、⑪と⑫は NP 表現に当たり、それ以外の手振りは全部 PP 表現である。また、「対人的親密さは、コミュニケーション行動の活動性の高さ—発言や視線の増加、対人距離の短縮、前傾姿勢などを強めるなど—として示される」と大坊郁夫 (2012:54) がヒントを与えているように、同じ「手を挙げる」手振りであっても、片手より両手の方、頭頂の下より頭頂の上の方が親密さが高いわけである。つまり、⑤「両手を頭頂よりも上に挙げる」→③「両手を頭頂よりも下に挙げる」→④「片手を頭頂よりも上に挙げる」→②「片手を頭頂よりも下に挙げる」のように親密さが低くなっている。同様に、⑦「両手を左右に振る」が示す親密さは⑥「片手を左右に振る」より高い。本論の調査結果は表 4 どおりである。⑪「合掌する」、⑫「拱手」及び⑬「その他」の 3 つの選択肢は、専門女であっても、非専門女であっても、一人も選ばなかつた。

表 4 各手振りの割合

	①		②		③		④		⑤	
	専	非専	専	非専	専	非専	専	非専	専	非専
親同	9 (16.4%)	5 (10%)	13 (23.6%)	10 (20%)	1 (1.8%)	1 (2%)	5 (9.1%)	13 (26%)	1 (1.8%)	6 (12%)
疎同	19 (35.2%)	15 (32.6%)	9 (16.7%)	17 (37%)				1 (2.2%)		
	⑥		⑦		⑧		⑨		⑩	
親同	25 (45.5%)	26 (52%)	8 (14.5%)	7 (14%)	2 (3.6%)	1 (2%)	1 (1.8%)			2 (4%)
疎同	29 (53.7%)	16 (34.8%)								

注:複数選択があるので、和は 100% を超えることがある。上の数字はその選択肢を選んだ人数を指すが、下の数字は割合を指す。空欄はゼロを指す。

3.1 専門女

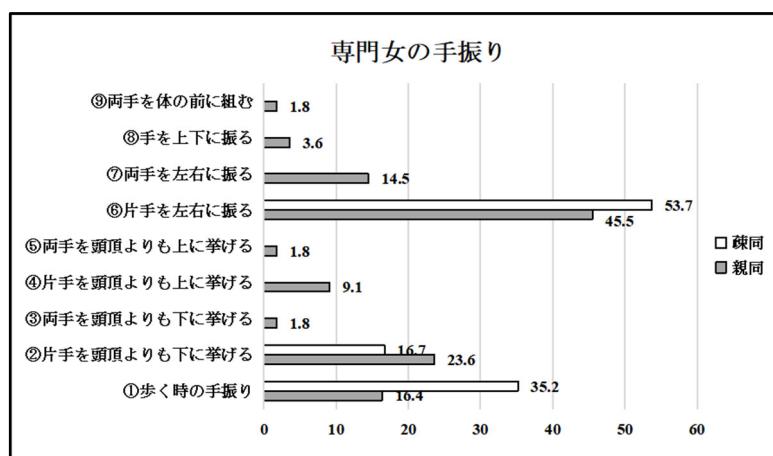


図 1 「疎同」と「親同」の比較 (専門女)

専門女が各選択肢を選んだ割合を示したのは図1である。専門女が「親同」に使用する手振りは変化に富み、12つの選択肢の中の9つも選ばれたという特徴が際立っている。その反面、あいさつ相手が「疎同」に変わるとともに、選択は3つの手振りに集中し、多様性は消えてしまい、定型性が強く見えるようになった。

「親同」に使用する9つの手振りの中、⑥「片手を左右に振る」の割合は他の手振りを圧倒的に引き離して、約半数の45.5%で最も多い。李鳳琴（2007:249）によると、その手振りは相手に自分を注意させる最も簡単な方式で、あいさつ言葉に代わり、「こんにちは」などを意味でき、中国人の日常生活に溶け込んでいる。②「片手を頭頂よりも下に挙げる」（23.6%）、①「歩く時の手振り」（16.4%）、⑦「両手を左右に振る」（14.5%）と④「片手を頭頂よりも上に挙げる」（9.1%）を選んだ人の数は⑥に次いで次々と減少している。割合が2番目に多い②「片手を頭頂よりも下に挙げる」でも⑥「片手を左右に振る」とは21.9%もの開きがある。また、割合が最も高い⑥「片手を左右に振る」とは違い、⑦は両手で左右を振る手振りであるが、その割合は1割近くにとどまり、⑥を大きく下回っていることも注意を要する。以上の手振りと比較すると、⑧「手を上下に振る」（3.6%）、③「両手を頭頂よりも下に挙げる」（1.8%）、⑤「両手を頭頂よりも上に挙げる」（1.8%）、⑨「両手を体の前に組む」（1.8%）の割合はかなり少ない水準にあるという特徴が見られる。特に③、⑤と⑨は2%未満で、使うことがあっても、非常に稀である状態を映し出している。

②～⑤はすべて手を挙げる手振りであるが、割合は、多い順に②「片手を頭頂よりも下に挙げる」（23.6%）、④「片手を頭頂よりも上に挙げる」（9.1%）、そして③「両手を頭頂よりも下に挙げる」（1.8%）と⑤「両手を頭頂よりも上に挙げる」（1.8%）となっている。この結果から、専門女が「親同」に使う「手を挙げる」について、両手より片手、頭頂の上に挙げるより下に挙げる方が多用されるという傾向をまとめることができる。

一方、あいさつ相手が「疎同」となれば、選ばれた選択肢は3つに減少する。割合は⑥「片手を左右に振る」（53.7%）、①「歩く時の手振り」（35.2%）と②「片手を頭頂よりも下に挙げる」（16.7%）の順で減っている。⑥は依然としてトップ1で、他の選択肢より絶対的な優勢がある。また、あいさつ相手が「親同」と比べれば、⑥「片手を左右に振る」の割合は8.2%増加したが、t検定の結果²（ $t(107)=-.856, p>0.1$ ）によると、有意差があるとは言えない。「親同」より①「歩く時の手振り」割合も18.8%増え、顕著な差（ $t(107)=-2.281, p<0.01$ ）が存在している。それは①「歩く時の手振り」はNP表現として、相手に距離感と疎外感を与える恐れがあり、あまり親しくない人間関係の人に使用する方がふさわしいためであろう。①「歩く時の手振り」及び⑥「片手を左右に振る」と異なり、あいさつ相手が「親同」から「疎同」に変わるために、②「片手を頭頂よりも下に挙げる」の割合は6.9%と少し減少した。ほかに、あいさつ相手が「親同」である時、「手を挙げる」類に属す

² 本論はSPSSのt検定を利用し、(1) 専門女と非専門女の間に、(2) 専門女が「親同」に使用する手振りと「疎同」に使用する手振りの間に、(3) 非専門女が「親同」に使用する手振りと「疎同」に使用する手振りの間に顕著な差があるかどうかを確認しました。

る③「両手を頭頂よりも下に挙げる」、④「片手を頭頂よりも下に挙げる」と⑤「両手を頭頂よりも上に挙げる」の割合は極めて少ないが、「疎同」との出会いにおいて、いずれもゼロになった。以上の4つの手振りを比べれば、⑦「両手を左右に振る」の減少は「親同」の14.5%からゼロになり、t検定の結果 ($t(107)=3.004, p<0.01$) では差は大きく開いている。原因については、⑦「両手を左右に振る」は⑥「片手を左右に振る」より親密さを伝える手振りで、「親同」には適当である。しかし、「疎同」にはなれなれしいというイメージを連想させ、ふさわしくなくなると考えられる。

3.2 非専門女

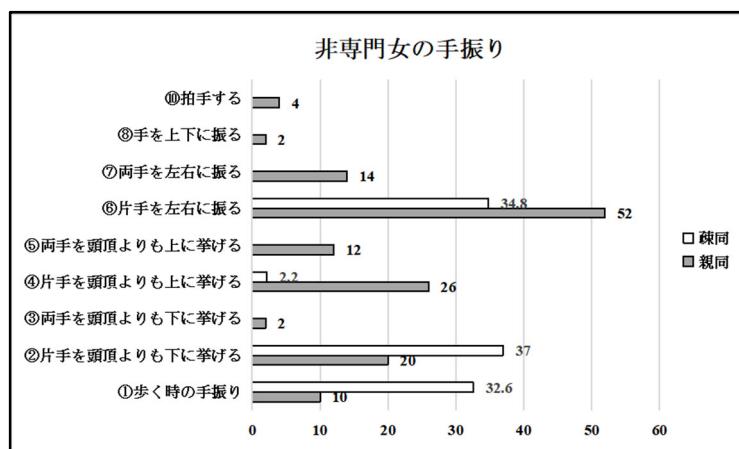


図2 「疎同」と「親同」の比較（非専門女）

上の図2が示すのは、非専門女が「親同」及び「疎同」の友達との出会いに使用する手振りの割合である。専門女と同様に、非専門女が「親同」の友達に使う手振りも多様性を見せ、9つの選択肢が選ばれている。その中、割合が1割以上あるのは6つで、⑥「片手を左右に振る」(52%)、④「片手を頭頂よりも上に挙げる」(26%)、②「片手を頭頂よりも下に挙げる」(20%)、⑦「両手を左右に振る」(14%)、⑤「両手を頭頂よりも上に挙げる」(12%)、①「歩く時の手振り」(10%)という順で減少している。特に、⑥「片手を左右に振る」の割合は過半数の52%で、トップ1として、第2位の④「片手を頭頂よりも上に挙げる」よりも2倍ほど多くある。劉静慧（2010）は「道で親しい友人に会った時のあいさつ」をテーマに中日両国でアンケート調査を実施した。中国人の大学生の特徴については、「全般に『微笑み』と『手を振る』と指摘している（劉静慧 2010:184）。本調査はその調査の結果と一致している。専門女にせよ、非専門女にせよ、あいさつ相手が「親同」である場合、⑥「片手を左右に振る」は最もよく使われる手振りであることは以上の考察で明白になった。また、「親同」に会って、⑥「片手を左右に振る」の割合が⑦「両手を左右に振る」の4倍ほどであるのも専門女と非専門女の共通点である。そして、t検定をかけた結果は、非専門女と専門女は、⑥「片手を左右に振る」($t(103)=-6.65, p>0.1$) 及び⑦「両手を左右に振る」($t(103)=0.079, p>0.1$) の選択において全く差が存在しないことを示している。

あいさつ相手が「親同」の友達である時、「手を挙げる」(②～⑤)という手振りについて

て、非専門女の中、②「片手を頭頂よりも下に挙げる」を選んだ割合が20%と最多で、③「両手を頭頂よりも下に挙げる」は2%と最少であり、専門女と似ている使用傾向が現れている。非専門女と専門女が④「片手を頭頂よりも上に挙げる」を選んだ割合はそれぞれ9.1%と26%で、専門女は大幅に非専門女を超え、両者の間に著しい差 ($t(103)=-2.333, p<0.01$) がある。つまり、両者が④「片手を頭頂よりも上に挙げる」で「親同」の友達にあいさつをするのはともにあまり見られないとはいえ、非専門女の方が行なう可能性が高い。④「片手を頭頂よりも上に挙げる」のみならず、あいさつ相手が「親同」であれば、非専門女と専門女が⑤「両手を頭頂よりも上に挙げる」においても有意差がある ($t(103)=-2.113, p<0.01$)。まとめといえば、「親同」の友達に出会う時、「手を頭頂よりも上に挙げる」という手振りについて、片手にしても両手にしても、非専門女の方がよく使い、非専門女を特徴付けている。

専門女のデーターを分析した時、⑧「手を上下に振る」で「親同」にあいさつをするのは稀で、割合は1.8%に過ぎないことを解明した。非専門女も同じ特徴があり、「親同」に⑧「手を上下に振る」を使用する割合は2%の低い程度にとどまっている。周国光と李向農(2017:189)は内省に基づき、中国人が「手を上下に振る」意味を「見面時多用招手……招手含有亲热、依恋的意味（出会う時に手を上下に振るという手振りはよく使われているが……親しみやなごりの意味合いを含む）」と説明している。本調査の結果は「多用（よく使われている）」という結論に異議を申し立てている。その原因は今後の調査で引き続き検討していく。

また、非専門女が⑩「拍手する」で「親同」の友達にあいさつをする割合は4%である。この極めて低い割合は、その手振りは幅広く使われず、ただ個人的な習慣だけであることを語っている。且つ非専門女と専門女の違いとは認められない。

非専門女が出会ったあいさつ相手は「親同」から「疎同」に変わると、選ばれた選択肢は②「片手を頭頂よりも下に挙げる」、⑥「片手を左右に振る」、①「歩く時の手振り」、④「片手を頭頂よりも挙げる」の4つに減少した。④以外の3つはすべて35%前後で、ほぼ違いがなく、専門女と異なった特徴を見せてている。施暉(2017a:111)では、「疎同」の人には出会った時、「日本人の大学生によく見られる『手をあげる』が中国人には1割以下とあまり見られないことも注目に値する」と論じた。しかし、本論では、②「片手を頭頂よりも下に挙げる」で「疎同」にあいさつをする割合は最多である。①、②、⑥は専門女も選ばれることがある。3つの選択肢についてt検定をかけると、専門女と非専門女の間に有意差があるものとして、②「片手を頭頂よりも下に挙げる」 ($t(98)=-2.345, p<0.01$) と⑥「片手を左右に振る」 ($t(98)=3.030, p<0.01$) である。その反面、①「歩く時に手振り」 ($t(98)=0.268, p>0.1$) においては有意差が見られない。また、専門女の選択について、②「片手を頭頂よりも下に挙げる」と⑥「片手を左右に振る」の間には37%の開きがあるのに対し、非専門女の場合における差は2.2%に過ぎない。換言すれば、専門女は「疎同」に面して、②「片手を頭頂よりも下に挙げる」より⑥「片手を左右に振る」という手振りを優先して

使用する意識を持っているが、非専門女からはそのような意識をはつきり洞察できない。

続いて、非専門女が「親同」に使用する手振りと「疎同」に使用する手振りの異同点を解明した上で専門女と対照してみよう。非専門女が「疎同」に出会うのを「親同」と比べると、有意差が見られるのは、①「歩く時の手振り」($t(90)=-2.592, p<0.01$)、②「片手を頭頂よりも下に挙げる」($t(90)=-1.608, p<0.01$)、④「片手を頭頂よりも上に挙げる」($t(90)=3.697, p<0.01$)、⑤「両手を頭頂よりも上に挙げる」($t(90)=2.598, p<0.01$)、⑥「手を左右に振る」($t(90)=2.831, p<0.01$)、⑦「両手を左右に振る」($t(90)=2.842, p<0.01$)などがある。専門女と比較すれば、①、④と⑦において有意差があるのは両者の共通点であるが、②、⑤と⑥から顕著な差が察知されているのは非専門女の特徴といえる。言い換えれば、非専門女は専門女と同じように、あいさつ相手が「親同」から「疎同」に変わると、親疎関係が機能しているため、親密さに欠けている①「歩く時の手振り」が著しく増加した一方、親和的な仲間意識を強化できる④「片手を頭頂よりも上に挙げる」と⑦「両手を左右に振る」は顕著に減少した。それに対し、②と⑥の選択について、専門女は②「片手を頭頂よりも下に挙げる」を「親同」に使用する割合が「疎同」をやや抜いた反面、⑥「片手を左右に振る」を「親同」に使用する割合が「疎同」を少し下回ったものの、親疎関係の影響は顕著である一面も見逃してはいけない。非専門女は異なった使用特徴を呈しているのみならず、親疎関係の影響は激しく示され、「親同」と比べれば、「疎同」に出会うに際して、⑥「片手を左右に振る」が著しく減り、②「片手を頭頂よりも下に挙げる」が顕著に増えたという特徴が認識できる。

4. おわりに

本論の考察を通じて、結論は以下のようにまとめられる。

両者の共通点について、(1) 専門女であっても、非専門女であっても、あいさつ相手との親疎関係は手振りの使用に影響を与えている。「親同」に使う手振りは多様性があるが、「疎同」に変わると、多様性が消えてしまう点において、両者は同じ傾向にある。(2) 「親同」に対しても、「疎同」に対しても、専門女と非専門女が⑥「片手を左右に振る」と②「片手を頭頂よりも下に挙げる」を多用する面において共通性がある。(3) 「親同」と「疎同」に使用する手振りの違いについては、専門女も非専門女も、①「歩く時の手振り」、④「片手を頭頂よりも上に挙げる」と⑦「両手を左右に振る」において有意差が見られる。

また、相違点も幾つか察知できる。(1) あいさつ相手が「親同」である時、専門女より、非専門女の方が④「片手を頭頂よりも上に挙げる」と⑤「両手を頭頂よりも上に挙げる」を多く使う。(2) あいさつ相手が「疎同」である時、専門女は②より⑥を明らかに優先して使用する特徴があるが、非専門女には同じ特徴が察知できない。(3) あいさつ相手が「親同」から「疎同」になると、非専門女から②「片手を頭頂よりも下に挙げる」の激しい増加と⑥「片手を左右に振る」の著しい減少が見られるのに対し、専門女はその2つの手振りにおいて顕著な増減を露呈していない。

参考文献

- アーヴィング・ゴッフマン (2002) 浅野徹夫訳『儀礼としての相互行為』法政大学出版局.
- 小野寺典子 (1989) 「非言語伝達手段にみられる伝達行為の定型性」『言語研究』(96) : 87—102.
- 沖久雄 (1989) 「あいさつ言語行動の記述モデルと『あいさつ』教材の分析」『奈良教育大学紀要』(38) : 1—12.
- 曲志強 (2008) 『日中日常あいさつ表現対照研究』九州大学博士論文.
- 国立国語研究所 (1984) 『言語行動における日独比較』三省堂.
- 吳映妍 (2009) 『身体接触行動における中日比較』神戸大学博士論文.
- ボリー・ザトラウスキー (2001) 「相互作用における非言語行動と日本語教育」『日本語教育』(110) : 7—21.
- 肖潔 (2019) 「あいさつとあいさつ表現の判断基準及び分類に関する考察」『研究論集』(19) : 233—243.
- 石井正彦・孫榮癪 (2013) 『マルチメディア・コーパス言語学』大阪大学出版会.
- 施暉 (2017a) 「会った時のあいさつ言語行動に伴う非言語行動」『広島国際研究』(23) : 107—119.
- (2017b) 「あいさつ言語行動における日中の非言語行動についての対照研究—暫くあいさつをする時の話者間の空間的距離を中心に—」『中国学研究論集』(35) : 52—62.
- (2019) 「日中あいさつ言語行動のモデルについて」『アジア日本学研究』(1) : 25—33.
- 大坊郁夫 (2012) 「対人関係における配慮行動の心理学」三宅和子編『「配慮」はどのように示されるか』ひつじ書房 : 51—68.
- 滝浦真人 (2008) 『ポライトネス理論』研究社.
- 土屋頼子 (1998) 「言語行動を構成する要素とその機能」『筑波応用言語学研究』(5) : 57—69.
- 馬瀬良雄ら (1988) 「言語行動における日本・台湾・マレーシア（マレー系）の比較—大学生の挨拶行動を中心に—」『国語学』(155) : 1—17.
- 劉靜慧 (2010) 「出会いのあさいつ言語行動の対照研究」『東アジア日本語教育』(13) : 173—191.
- (2012) 「出会いのあさいつ言語行動の対照研究再考」『東アジア日本語教育』(15) : 61—80.
- 毕继万 (1999) 《跨文化非语言交际》外语教学与研究出版社.
- 丁尚虎 (2019) 《汉日礼貌语对比研究》外语教学与研究出版社.
- 李凤琴 (2007) 《身势语的符号功能》哈尔滨地图出版社.
- 龙又珍 (2011) 《现代汉语寒暄系统研究》中国社会科学出版社.
- 施暉 (2010) 《汉日交际语言行为的跨文化比较研究》外语教学与研究出版社.
- (2021) 〈ポライトネス理論によるあいさつ言語行動の中日対照研究〉赵华敏主编《日语语用学研究》外语教学与研究出版社: 159—185.
- 于亮・苏娜 (2016) 《異文化コミュニケーションにおけるあいさつ言語行動の研究》辽宁民族出版社.
- 周国光・李向农 (2017) 《中国人的体态语》广东高等教育出版社.

陳望道訳『共産党宣言』の注釈付き術語の翻訳及び翻訳底本に関する研究

鄭 穎（嶺南師範学院）

ZHENG·Ying

A Study of the Annotated Translation and the Source Texts of *Manifesto of the Communist Party* Translated by Chen Wangdao

要旨

本稿はミクロな視点から、1906年堺利彦、幸徳秋水による『共産党宣言』の日本語訳、1920年陳望道による『共産党宣言』の中国語訳における注釈付き術語をピックアップし、1888年サミュエル訳の『共産党宣言』、1904年堺利彦、幸徳秋水共訳の『共産党宣言』と対照しながら考察した。陳望道の中国語訳の底本は1888年英語訳と1906年の日本語訳であり、1904年の日本語訳も参照した可能性がある。1904年の日本語訳には英語表記がないが、1906年の日本語訳に英語表記がついている。当時、西洋からの新語がまだ日本語として定着していなかったことと密接な関係を持っているほか、国際共産主義運動の国際性、連携の重要性を強調する狙いもあると考えられている。

キーワード：『共産党宣言』 注釈付き術語 翻訳底本

目次

1. はじめに
2. 先行研究
3. 陳望道訳『共産党宣言』における注釈付き術語の翻訳
4. 陳望道訳『共産党宣言』の翻訳底本
5. おわりに

1. はじめに

『共産党宣言』はマルクス主義の草分け的存在であり、マルクス主義範疇の術語をほとんど網羅している。『共産党宣言』は主に日本、旧ソ連、フランスという三つのルートを通じて、中国に伝わってきた。最初は西洋の新思想として注目を浴び、翻訳されていた。明治維新以降、日本が文明開化の道に邁進はじめ、マクルス主義、社会主義の研究もスタートし、19世紀90年代にブームを迎えていた。深井英五『現時社会主義』(1893年)、田島錦治『日本現時之社会問題』(1897年)、福井準造『近世社会主義』(1899年)、幸徳秋水『社会主義神髄』(1903年)などが挙げられる。上記の著作は断片的に『共産党宣言』の内容を翻訳し、

紹介した。

1904年、幸徳秋水、堺利彦による『共産党宣言』の日本語訳が第3章をかけたまま、『平民新聞』(1904年11月13日)に掲載された。その序文によると、翻訳底本はエンゲルス校訂の1888年サミュエル訳の英語版であるという。第3章は「社会主義及共産主義文書」であり、当時の日本はまだその下地がまだ整っていなかった。幸徳、堺は危険性を察知して、翻訳或いは掲載を控えたではないかと推測している。『平民新聞』当該号が発行した直後、発売禁止になり、罰金刑が言い渡されたという。1906年、堺利彦は学術研究を盾として、第3章を加えて、新たに『共産党宣言』の全訳を『社会主義研究』の創刊号に掲載したという。¹1904年の日本語訳本と1906年の日本語訳本を対照したところ、第3章の補充だけでなく、少なくならぬ修正を行ったことが明らかになった。

中国で最初に『共産党宣言』を全訳したのは陳望道であった。その初めての中国語訳を通じて、中国共産党が成立する直前、中国のインテリによる、マルクス著作の翻訳状況とマルクス主義の受容を垣間見ることができる。したがって、陳望道訳の『共産党宣言』に関する研究は近年、注目を集めている。

2. 先行研究

陳の翻訳底本をめぐって議論されてきた。葉永烈(2005)は陳の弟子によると、陳は自ら翻訳底本は1888年サミュエルによる『共産党宣言』の英語訳であると話したという。王東風ほか(2012)は英語表記がついていることを理由として、翻訳底本は英語訳であると主張している。石川禎浩(1992)は陳の翻訳底本は1906年堺利彦、幸徳秋水共訳の『共産党宣言』であって、英語訳を「参照した形跡は見いだしがたい」(石川禎浩1992:60)と論じている。陳力衛(2006)も日本語語彙の直訳が多い理由で、底本は日本語訳であると指摘した。大村泉(2009)は「日本語訳を底本に、適宜英訳を参照して成立した」(大村泉2009:10)と考えている。方紅ほか(2014)も同じ考え方を持っている。陳紅絹(2016)は翻訳底本は日本語訳がメインであると主張している。

本稿は『共産党宣言』の成立経緯によって、1888年サミュエル訳、1906年堺利彦、幸徳秋水共訳、及び1920年陳望道訳を視野に入れて、陳の中国語訳における注釈付き術語に焦点を当て、つけた理由、翻訳の特徴、それに陳の翻訳底本問題にも触れてみる。

3. 陳望道訳『共産党宣言』における注釈付き術語の翻訳

方紅は「翻訳の選択からみると、日本語訳はエンゲルス執筆の英語版序言及び注釈を翻訳したが、中国語訳はそれらの内容を切り捨てた」。理由は「序言や注釈は付属的な内容で翻訳する必要がなく、「宣言」の本文こそ中核であるからだ。言うまでもなく、時間の切迫も本文だけ翻訳した重要な原因の一つである。」また、英語表記が「日本語訳に英語表記が49箇所

¹大村泉(2009)「幸徳秋水／堺利彦訳『共産党宣言』の成立、伝承と中国語訳への影響」『大原社会問題研究所雑誌』(603):4を参照

あり、中国語訳には 45 箇所ある」という考えを示した。² (方紅ほか 2014 : 35)

調べたところ、1904 年日本語訳（第三章欠如）には英語表記がなく、1906 年日本語訳には英語表記が 47 箇所あり、40 箇所も 1904 年日本語訳に振り仮名がついている用語である。振り仮名がついていなかった英語表記は「紳士閥、中世都市、7 箇所『天然の長上』、労働階級、共産黨、米國の農業改良黨、万國の労働者団結せよ！」という 7 箇所である。人名、専門用語などに英語表記をつけるのは当時、西洋からの新語がまだ日本語として定着していなかつたからであろう。「紳士閥、共産黨、労働階級」といった高頻度のキーワードや「万國の労働者団結せよ！」といったキーセンテンスに英語表記をつけることで、国際共産主義運動の国際性、連携の重要性を強調する狙いもあると考えている。

テキストを対照してみると、『共産党宣言』の英語訳には注釈が合計 8 箇所、日本語訳には 7 箇所あるが、中国語訳には注釈がついていない。しかし、陳が注釈を全部切り捨てたのではなく、4 箇所の注釈を切り捨て、4 箇所の注釈はカッコつきで本文として翻訳したことが明らかになった。例えば、「社會主義植民地(Phalausteres 是福利耶計畫的)」「小伊加利亞(Icaria 是加伯理想鄉底名稱)」。

【1】英 : They still dream of experimental realisation of their social Utopias, of founding isolated “phalansteres”, of establishing “Home Colonies”, or setting up a “Little Icaria”.

日 : 彼等は猶ほ其の空想社會の試験的實現を夢み、或は孤立せる Phalansteres を起すべしと云ひ、或は Home Colonies (家庭殖民地) を作るべしと云ひ、或は 小 Icaria を立つべしと云ふ。

中 : 他們還在夢想那社會空想底試驗實現 : 有的設立孤獨的 “社會主義植民地” (Phalausteres 是福利耶計畫的), 有的設立 “家庭殖民地” (Home Colonies), 有的想設立 “小伊加利亞” (Icaria 是加伯理想鄉底名稱)。

「phalansteres」は日本語訳では英語で書かれており、カタカナの振り仮名がついている。「ファランステレスは、フーリエーの方案に基づける社會主義的殖民地なりき。イカリアはカバーの理想郷の名にして、後ち米國に於ける彼の共産村に名づけられたりき」という脚注もついている。

此乃依据傅里叶的方案建立的社会主义殖民地，伊加利亚是以加伯的理想乡命名，而后他们在美国的共产村的命名也源于此。³

陳は日本語の脚注に依拠して、「phalansteres」と「Icaria」を翻訳したわけである。

王向遠（2018）の「訳文学」理論によると、それらは解釈的な翻訳であり、いわゆる「釈訳」である。

また、「紳士」「平民」の対訳語として、陳は「有産者 Bourgeois」「無産者 Proletarians」を使っている。陳力衛（2006）はこれは河上肇の影響であると推測している。陳望道はカッコ付けてこのように注釈している。「有産者就是有財產的人資本家財主原文 Bourgeois 無產者

² 筆者訳

³ 筆者訳

就是沒有財產的勞動家原文 *Proletarians*」(有產者とは財産を有する資本家物持ちであり、原文 *Bourgeois* 無產者とは財産を持っていない労働家である 原文 *Proletarians*)⁴それは訳訳であると同時に、中国の郷土に適した創造的な訳文でもある。

日本語訳の本文には英語表記がないが、注釈には英語表記がある。それは日本語訳の注釈によるものか、英語訳によるものか、定かではない。

【2】第一章有产者及无产者

英語訳注釈 : By bourgeoisie is meant the class of modern capitalists, owners of the means of social production and employers of wage labour. By proletariat, the class of modern wage labourers who, having no means of production of their own, are reduced to selling their labour power in order to live.

日本語訳注釈 : 紳士とは近世資本家の階級、社会生産機関の所有者、及び賃金労働の雇用者を意味す。平民とは自ら生産機関を有せざるに依り、生活の為に其の労働力を売らざるを得ざる、近世賃金労働者の階級を意味す。(譯者云、紳士の原語はブルジョア (*Bourgeois*) にして、時に富豪と譯され、又多く資本家と譯さるるもの。然れども吾人は種々推敲を費したる後、姑く之を紳士と譯す。紳士とは元来君子人を意味するの語なれども、近来日本に於ける紳士紳商と云ふが如き用法に従へば、私利的にして俗惡なる、一般上流社会の人物を表現するの語として、其の頗る適切なるを見るに非ずや。但し或場合に於ては、或は市民と譯し、或は紳商と譯せり。平民の原語はプロルタリアン (*Proletarians*) にして之を労働者若くは労働階級と譯するも可なり。

中国語訳注釈 : 有产者就是有财产的人资本家财主原文 *Bourgeois* ; 无产者就是没有财产的劳动家原文 *Proletarian*。

日本語訳の前半は英語訳の注釈によるものであり、後半は当時日本社会に溶け込み、融合して、「紳士」と訳したわけを述べた。1908年民鳴訳の『共産党宣言』第一章は「紳士」「平民」そのまま、直訳した。当時の社会主義関連文献の翻訳にもしばしば見られる。趙必振訳『近世社会主義』は「平民」と訳し、「労働者」という注釈をつけた。

陳望道は日本語訳と英語訳の注釈から離れて、創造的に訳訳した。根本的な理由は中国情勢の特殊性と語彙の意味の差にあると思う。20世紀初頭、中国のような半封建的半殖民地的な社会においては、人口の大半が農民であり、対立していたのは農民と地主である。当時の中国は西洋のような産業革命も行われておらず、労働力の売買関係はほとんど存在していなかったといえよう。したがって、陳望道が強調したがっているのは財産の有無である。

中国語の「紳士」とは「地方上有地位权勢的人，一般是地主或退职官僚」⁵ (地方において、地位、権力、勢力を持っている人、一般的には地主或いは退職官僚のことである)。(筆者訳) 日本語訳の「私利的にして俗惡なる、一般上流社会の人物」と意味合いがずいぶん乖離しているため、陳は「有产者」と訳したわけである。「平民」とは「一般の民衆、庶民である」⁶。

⁴ 筆者訳

⁵ 『古今汉语词典』商務印書館 1267 ページ

⁶ 『古今汉语词典』商務印書館 1095 ページ

陳は「無産者」と訳して、財産のなしを取り上げ、「労働者」を「労働家」と褒め言葉に切り替えた。「～家」と「ある専門知識を有し、専門業務に携わる人」を指す。「中国近代デジタル文献コーパス」を利用して、調査したところ、1833年から1919年かけては、「労働者」「労働家」が両方、使われていたが、「労働者」の使用回数が大幅に上回っている。陳は『共産党宣言』第一章のタイトルの解釈だけでなく、もう一箇所「労働家」と翻訳した。

【3】英：The proletariat will use its political supremacy to wrest, by degree, all capital from the bourgeoisie, to centralise all instruments of production in the hands of the State, i.e., of the proletariat organised as the ruling class; and to increase the total productive forces as rapidly as possible.

日：既に其第一步に達せば、平民は其政權を以て漸次に一切の資本を紳士閥より奪取し、一切の生産機關を國家の手、即ち當時の權力階級を成せる平民の手に集中し、而して能ふ限り速に生産力の全體を増加すべし。

中：既達到第一步，勞動家就用他的政權漸次奪取資本階級的一切資本，將一切生産工具，集中在國家底手裏，就是集中在組織權力階級的勞動者手裏；這樣做去，那全生產力就可以用最大的速度增加了。

日本語訳の一文では、二つの「平民」の訳し方が違うのに気になる。対応する英語訳の語彙は同じであり、いずれも「proletariat」であるが、中国語訳はそれぞれ「労働家」「労働者」と翻訳した。『益世週刊』に署名「譲」という人が翻訳した「典型的な労働家」という一文を載せた。文脈からみて、「労働家」と「労働者」を区別して使われている。ユダヤ人大工を「真是一位千古昭彰中西的典型劳动家（中国と西洋において、千古に功績をしるす典型的な労働家）」（筆者訳）であると称賛している一方、「冒牌的劳动者的作风与精神（偽の労働者の態度と精神）」（筆者訳）を批判した。「労働家」は賛美と尊敬をこめている褒め言葉であることが浮き彫りになった。一般的には、陳は日本語訳における「労働者」をそのまま「労働者」と訳している場合が多いが、あえて「平民」を「労働家」に訳したのは労働階級に対する感情が潜んでいるからであろう。

1908年民鳴が『天義』第15期で「共产党宣言 The communist manifeste 序言」を発表した。陳望道は序言の翻訳を省いたのは民鳴の訳文があったからかもしれない。1920年までには、断片的に『共産党宣言』を中国語に訳した人がいたが、全訳がまだ世に出ていない。陳は『共産党宣言』本文の全訳に重点をおいた可能性が高い。

【4】英：But even in the domain of literature the old cries of the restoration period had become impossible.* * Not the English Restoration (1660-1689), but the French Restoration (1814-1830). [Note by Engels to the English edition of 1888.]

日：而も其の文字界に於てすら復古時代（イ）の如き舊時の叫聲は、再び之を聞くを得ざりき。（イ）是は一八一四年より一八三〇年に至る佛國の復古時代を意味す。

中：就是文字上的爭鬥，也不能有復古時代（就是一八一四年至一八三〇年間法國復古時代）那樣高的聲浪了。

陳は日本語訳の注釈をそのまま本文としてカッコ付けで翻訳した。英語訳の注釈と対照

してみると、「Not the English Restoration (1660-1689)」（英國の復古時代ではなく）は削除されたことに気づいた。それは日本語訳も中国語訳も内容の簡潔さを求めていたと推測している。

日本語訳はほとんど英語訳の注釈を忠実に訳した。一箇所だけ切り捨てた。陳の中国語訳で切り捨てた注釈は解釈的なものであり、論述が長くて、カッコ付けて本文として訳すのは無理であろう。それが一部の注釈を切り捨てた理由であると考えている。たとえば、第一章冒頭部の「society」（社会）に関する注釈「That is, all written history. In 1847, the pre-history of society, the social organisation existing previous to recorded history, all but unknown. Since then, August von Haxthausen (1792-1866) discovered common ownership of land in Russia, Georg Ludwig von Maurer proved it to be the social foundation from which all Teutonic races started in history, and, by and by, village communities were found to be, or to have been, the primitive form of society everywhere from India to Ireland. The inner organisation of this primitive communistic society was laid bare, in its typical form, by Lewis Henry Morgan's (1818-1861) crowning discovery of the true nature of the gens and its relation to the tribe. With the dissolution of the primeval communities, society begins to be differentiated into separate and finally antagonistic classes. I have attempted to retrace this dissolution in The Origin of the Family, Private Property, and the State, second edition, Stuttgart, 1886. [Engels, 1888 English Edition and 1890 German Edition (with the last sentence omitted)]」

4. 陳望道訳『共産党宣言』の翻訳底本

【1】英：To this end, Communists of various nationalities have assembled in London and sketched the following manifesto, to be published in the English, French, German, Italian, Flemish and Danish languages.

日：此目的の為めに、諸國の共産黨員は、倫敦に集會して左の宣言を草し、英、佛、獨、
伊、 Flemisk 、和蘭の諸語を以て茲にえを公けにす。

中：為了這緣故，各國共產黨員便在倫敦開了個會，草了下列的宣言，用英法德意佛蘭德丹麥各國底語言，公布於世界。

上記の日本語訳には間違いが二箇所ある。一つ目は英語訳の「Flemish」は日本語訳で「Flemisk」と誤植しているが、振り仮名は「フレッミッシュ」であり、「Flemish」の発音に合っている。二つ目は英語訳の「Danish」を日本語訳で「和蘭」と翻訳した。陳は中国語訳で「丹麥」と訳して、日本語訳のミスを修正して、英語訳と一致させている。

【2】英：Critical-Utopian Socialism and Communism

日：批評的空想社會主義及共產主義（Critical - utopian Socialism and Communism）

中：批評的空想社會主義和共產主義（Critical - Utopian Socialism and Communism）

また、日本語訳の英語表記「utopian」の「u」は小文字であるが、英語訳と中国語訳はいずれも頭文字「Utopian」である。陳は上記の日本語訳の英語表記に細かい修正を行った。「utopian」の「u」を頭文字「U」に書き換えた。

【3】英：Freeman and slave, patrician and plebeian, lord and serf, guild-master[‡] and journeyman
日：希臘の自由民（Freeman）と奴隸（Slave）、羅馬の貴族（Patrician）と平民（Plebeian）、中世の領主（Lord）と農奴（Serf）、同業組合員（Guild-master）と被雇職人（Journey-man）

中：自由民（Freeman）和奴隸（Slave），貴族（Patrician）和平民（Plebeian），領主（Lord）和農奴（Serf），行東（Guild - master）和傭工（Journey - man）

この文では中国語訳は英語訳と完全に合致している。日本語訳の英語表記「平民（Plebeian）」が間違っている。中国語訳は「平民（Plebeian）」であり、日本語訳を修正して、英語訳と同じにした。しかも、日本語訳には「希臘の」「羅馬の」「中世の」といった修飾語があるが、それは日本語訳が付け加えたものであり、英語訳と中国語訳にはない。

【4】英：Section II has made clear the relations of the Communists to the existing working-class parties, such as the Chartists in England and the Agrarian Reformers in America.

日：英國の Chartist 黨の如き、米國の農業改良黨（Agrarian Reformets）の如き今の勞働階級の諸黨派に対する共產黨の關係は、既に第二章に於て説けるが如し。

中：共產黨和英國改進黨，美國農地改良黨（Agrarian Reformers）等勞動階級各黨派的關係，已在前章說過了。

日本語訳における「米國の農業改良黨（Agrarian Reformets）」の英語表記にミスがある。中国語訳は「美國農地改良黨（Agrarian Reformers）」と訳して、英語訳に合わせている。

【5】英：We may cite Proudhon's Philosophie de la Misère as an example of this form.

ブルードン
日：Proudhon の『貧困の哲學』（Philosophy of Misery）の如きは、此形の一例として擧ぐるを得べし

中：蒲魯東（Proudhon）底《貧困底哲學》（Philosophie de la Misere）就是道樣社會主義底一個例。

『貧困の哲學』の日本語訳は英語の書名（Philosophy of Misery）が書かれており、中国語訳は英語訳と同じくフランス語の書名（Philosophie de la Misere）が残っている。

【6】英：The proletariat will use its political supremacy to wrest, by degree, all capital from the bourgeoisie, to centralise all instruments of production in the hands of the State, i.e., of the proletariat organised as the ruling class; and to increase the total productive forces as rapidly as possible.

日：既に其第一步に達せば、平民は其政權を以て漸次に一切の資本を紳士閥より奪取し、一切の生産機關を國家の手、即ち當時の權力階級を成せる平民の手に集中し、而して能ふ限り速に生産力の全體を増加すべし。

中：既達到第一步，勞動家就用他的政權漸次奪取資本階級的一切資本，將一切生産工具，集中在國家底手裏，就是集中在組織權力階級的勞動者手裏；這樣做去，那全生産力就可以用最大的速度增加了。

この文の句読点は中国語訳と英語訳は変わらない。同じところに「；」を付けた。日本語にはない符号「；」がしばしば中国語訳で見られる。それは英語訳によるものに違いない。

【7】英：One section of the French Legitimists and “Young England” exhibited this spectacle.

日：佛國尊王黨（French Legitimists）の一派、及び「英國青年（“Young England”）の如きは、即ち此の好例を示せる者なり。

中：法國底王黨（French Legitimists）和“青年英國”（Young England）都是好的例。

日本語訳は「英國青年（“Young England”）」と翻訳したが中国語訳は「“青年英國”（Young England）」と語順を変えて翻訳した。それは中国語訳「青年英國」は英語訳の「“Young England”」の語順に従うものであると推測している。同期の社会主义関連文献には「青年英國」という先例が見られなかった。中国語訳と英語訳の符号「“ ”」も語順も変わらない。

【8】英：Its last words are: corporate guilds for manufacture; patriarchal relations in agriculture.

日：彼等の結論に日はずや。製造業には同業組合ギルドの聯合、農業には族長的の關係と。

中：他們結論是：製造業該有同行組合（Guild），農業該有家長的關係。

日本語訳には振り仮名がついている、中国語訳は「Guild」と英語表記を付け加えて、「s」を落としたが、符号「:」は英語訳と同じである。

【9】英：The manufacturing system took its place.

日：工場制度の製造業（Manufacturing system）は即ち之に代れり。

中：於是手工工場組織（Manufacturing system）便占了他的地位。

「Manufacturing system」は 1904 年日本語訳では「工 場 組 織」と訳され、1906 年日本語訳では「工場制度の製造業」訳されるようになった。陳の中国語訳は「手工工場組織」と翻訳し、1904 年日本語訳を参照した可能性がある。農民が大多数を占めている中国においては、手工業が発展し、大規模な機械生産がなかった。陳の中国語訳が巧みに「手工」という二文字を入れているのは中国の風土に根差した訳語といえよう。

以上、考察してきたように、陳望道の中国語訳は日本語訳の間違いを修正し、語順、意味、語形、句読点は英語訳と一致している箇所が多い。陳は 1888 年サミュエル訳『共産党宣言』と 1906 年堺利彦、幸徳秋水共訳『共産党宣言』を底本としていた。1904 年堺利彦、幸徳秋水訳『共産党宣言』を参照した可能性がある。

5. おわりに

本稿はミクロな視点から、1906 年堺利彦、幸徳秋水による『共産党宣言』の日本語訳、1920 年陳望道による『共産党宣言』の中国語訳における注釈付き術語をピックアップし、1888 年サミュエル訳の『共産党宣言』、1904 年堺利彦、幸徳秋水共訳の『共産党宣言』と対照しながら考察した。陳望道は長い注釈を切り捨て、注釈を一部カッコ付けて本文として翻訳した。陳望道の中国語訳の底本は 1888 年英語訳と 1906 年の日本語訳であり、1904 年の日本語訳も参照した可能性がある。1904 年の日本語訳には英語表記がないが、1906 年の日本語訳に英語表記がついている。当時、西洋からの新語がまだ日本語として定着していなかったことと

密接な関係を持っているほか、国際共産主義運動の国際性、連携の重要性を強調する狙いもあると考えられている。

参考文献

- 石川禎浩 (1992) 「陳望道訳『共産党宣言』について」『飄風』(27) : 58-67
- 大村泉 (2009) 「幸徳秋水／堺利彦訳『共産党宣言』の成立. 伝承と中国語訳への影響」『大原社会問題研究所雑誌』(603) : 1-13
- 陈力卫 (2006) 〈《共产党宣言》的翻译问题-由版本的变迁看译词的尖锐化〉《二十一世纪》(93) : 100-110
- 陈红娟 (2016) 〈版本源流与底本甄别:陈望道《共产党宣言》文本考辨〉《中共党史研究》(3) : 79-87
- 方红, 王克非 (2014) 〈《共产党宣言》中日首个全译本比较研究〉《中国翻译》(35) : 34-38
- 王东风, 李宁 (2012) 〈译本的历史记忆:陈望道译《共产党宣言》解读〉《中国翻译》(33):75-82,128
- 王向远 (2018) 《译文学-翻译研究新范型》中央编译出版社
- 叶永烈 (2005) 《红色的起点》广西人民出版社
- 付配：本研究は中国広東省哲学社会科学の研究課題『首部中文全译本《共产党宣言》的译文研究 (GD19CMK05) (はじめての『共産党宣言』中国語全訳の訳文に関する研究)』の研究の一部である。

SF 小説で描かれた万物の共生構想

—上田早夕里著『華竜の宮』を読む—

李曉霞・川本真佐美（大連交通大学・京都西山短期大学）

LI Xiaoxia・Kawamoto Masami

The Symbiosis of All Things Concept Depicted in a Science Fiction Novel

—A Review of Ueda Sayuri's Karyu no Miya

要旨

上田早夕里的《华龙之宫》是一部格局宏大的海洋科幻启示录，作品被誉为“21世纪的《日本沉没》”。作品描绘了在巨大灾难来临之时，海上民与陆上民、人与其他生物、人与人工智能之间的矛盾、冲突、共存与共生，刻画了灾难下超越物种的共同体的危机应对，构建了人类与其他智慧及机器的理想共生关系，表达了对未来命运共同体的憧憬。

キーワード：華竜の宮 上田早夕里 共生構想 共同体

目次

1. はじめに
2. 共同体
3. 小説の概要
4. 万物の共生構想
5. おわりに

1. はじめに

上田早夕里著『華竜の宮』は、2010年10月にハヤカワSFシリーズJコレクションの一冊として刊行された長編小説で、上巻（第一部）と下巻（第二部）から成り、プロローグとエピローグ、及び8つの章で構成されている。この小説は、「21世紀の『日本沈没』」と称され、壮大な海洋SF启示録として読者や評論家から好評を得、『SFが読みたい！2011年版』（早川書房）において1位を獲得、第32回日本SF大賞を受賞、SFの名だたる賞を受賞、さらに第64回日本推理作家協会賞候補となるなどジャンル外においても高い評価を獲得した。なお、『日本沈没』は、1975年に「日本SFWJ¹⁾作品中、中国で最初に翻訳された」（丁2016：31）作品であり、『華竜の宮』は2018年に翻訳²⁾が出版されている。

作者の上田早夕里（以下、上田という）は兵庫県生まれ、2003年にデビュー作『火星ダーク・バラード』で第四回小松左京賞を受賞した。著書にはこの小説を含むオーシャンクロニクル・シリーズ（『魚舟・獣舟』、『リリエンタールの末裔』、『深紅の碑文』）の他、『ラ・パティスリー』『ショコラティエの勲章』『菓子フェスの庭』『美月の残香』『ブラック・アゲート』などがある。上田は、元日本SF作家クラブ会員であり、現在は宇宙作家クラブ会

員である。

中国で、『華竜の宮』に関連する研究は少なく、丁（2020）は論文の中で、「『複合超人』は心身の完璧な象徴であり、地球文明の究極の希望は、自己と他者との一体化である³⁾」と指摘した（丁卓 2020: 150）。日本でも、『華竜の宮』における「万物の共生構想」や「共同体」について考察した先行研究は、管見の限り見当たらない。

そこで、本稿では、この小説の概要をまとめるとともに、作品が描く海上民と陸上民、ならびに魚舟や獸舟、アシスタント知性体などとの関係、すなわち、人間と他の生物、AIといった万物の共生構想について考察する。

2. 共同体

イギリスの思想家レイモンド・ウィリアムズによると、「共同体」（community）という言葉は14世紀に登場し、時代によって異なる意味合いを持っていました（雷蒙・威廉斯 2005: 79）。ドイツの社会学者フェルディナント・テンニースは、形成のメカニズムによって共同体を血縁共同体、地縁共同体、精神共同体の3つに分類した（斐迪南・滕尼斯 2020: 76）。3つの共同体は、それぞれ共生意識、共有価値、共通感情を重視し、運命共同体の部分集合となる（陈天雨 2021: 271）。ジグムント・バウマンは、「共同体」について、主観的あるいは客観的に共有する特徴（これらの共有する特徴には人種、観念、地位、出会い、仕事、アイデンティティなど）、あるいは類似性に基づき存在する社会を指し、様々なレベルの集団や組織から成り、小規模な自発的組織や、より高次の政治組織、国家や民族といった最高レベルの総体も、民族共同体や国家共同体として含まれるとし（齐格蒙特・鲍曼 2003: 序1）、イギリスの社会学者ジェラード・デランティは、『Community』において、哲学、社会学、人類学、宗教、文化、文学等の観点から、数百の共同体概念を検証し、2000年以上にわたる西洋のコミュニティ理論の全体像を示した。デランティは、共同体とは意義、団結、承認、集団的アイデンティティの探求を表現するものだと述べている（Delanty, Gerard 2010: 103）。

また、マルクスとエンゲルスは、我々が自然界や人類の歴史、あるいは自分自身の精神活動を深く考察する時、まず我々の目の前にあるのは、つながりと効果が無限に織り成す一幅の絵画であると指摘した（中共中央编译局 2009: 359）。この世に存在するすべてのものは、密接に関連しあい、有機的総体を形成している。「人類運命共同体」に対する深い関心と考察は、マルクス哲学の中心テーマの一つである。

日本の学術・思想における「共同体」という言葉は、主に西洋、特にドイツ語圏から導入された概念であり、戦前から戦後にかけて歴史学、社会学、文学諸領域の共通テーマとして扱われてきた。マルクス主義理論におけるアジア生産方式の問題は、特に長い間、日本の研究者の「共同体論」に影響を及ぼしてきた。現代の日本において、資本主義のグローバル化がもたらすさまざまな危機の中で、如何に社会の「共同性」を発見し、構築するかは、今もなお、常に探求すべき課題である（高华鑫 2021: 67）。

上田はこの小説の中で、読者に万物共生の画面を呈している。科学技術が進歩し、AIが発達し、グローバル化が進む今日、我々にとって「共同体」を理解し、考えることは大きな意味を持つと考える。

3. 小説の概要

この小説は、地球惑星科学の最新理論であるプルームテクトニクス仮説をもとにしたものである。物語の舞台は、ポリネシア・ホットプルームの活性化により、海底が 260 メートル隆起し、地球の大部分の陸地が水没した 25 世紀。人類は環境の変化に適応するため、わずかな陸地と海上都市で高度な文明を維持する「陸上民」と、遺伝子改変による異形の生態システムを構築し苛酷な暮らしを続ける「海上民」に分かれた。従来の国家はネジエス、汎アジア連合などの連合組織に代わり、限られた資源やエネルギーをめぐって、衝突と対立を繰り返している世界観が、プロローグで説明されている。

この小説は、一人称と三人称で語られ、視点の移動が多いのも特徴的である。物語の主人公は日本政府の外交官である青澄誠司だが、青澄の行動は彼のアシスタント知性体マキによって語られる。第一部は、各登場人物の人物像や、陸上民と海上民のアジア海域での共生を目指した青澄の奮闘が描かれ、第二部は人類滅亡の危機に直面し、その中で協力し共に闘う人々や、人類が生き残るためにある「計画」が描かれている。

4. 万物の共生構想

4.1 人間と人間の共生

この小説の主な登場人物は、青澄誠司（日本政府の外交官、海洋公館の公使）、ツキソメ（アジア海域の海上民の長）、ツェン・タイフォン（汎ア海上警備隊隊長、上尉）の 3 人である。青澄は陸上民、他の 2 人は海上民だが、ツキソメは特異な体質を持っており、タイフォンは「緑子」である等、全てが異なる 3 人によって物語は紡がれる。

青澄とツキソメの会談において、海上民は日本政府に対し 2 つの要求を出した。1 つは海上民の生活に干渉しないこと、もう 1 つは海上民による病潮ウイルスのワクチンの生産を許可することである。病潮により無数の海上民が亡くなるが、ワクチンの生産と接種は政府が管理しており、接種を受けるには、タグの埋め込みと納税義務が条件となる。海上民は、高額の納税をしなければならないタグの埋め込みを嫌い、その結果、ワクチンの密売が横行している。ツキソメは、海上民独自の海上都市を建設し、海上交易の拠点を作ろうと考えていた。海上都市の収入の一部を日本政府に渡すことで、政府がタグの埋め込みを放棄し、海上民の独立性を維持することを望んだのだ。青澄は、海上での紛争について何とかして解決協力すべきだと思っていたが、他国のことであり、日本とは関係ないことだと阻まれた。それでも、相互に関連する共同体だと考えていた。

さらに、物語後半、人類滅亡の危機「プルームの冬」を乗り切るために、人類は再び身体改造を必要とし、特異な体質を持つツキソメの身体データは、人類を救う可能性のあ

る重要な資料とされた。各連合による策謀の中、青澄は人類共通のデータは全人類の財産であり、すべての政府や研究機関が共有されるべきものであると考えていた。

また、ブルームの冬に対し、ある者は自分が生きている内はその苦境に陥らないと思い、ある者は自分や自国民が苦しまなければ良いと思っていたが、青澄は違った。青澄は共存意識が強く、自国のことだけを考えるのは恥ずべきことだと思い、危機に面しては人類全体のことを考えるべきであり、人類全体が共に危機を乗り越えるように努力すべきだという思いが強かった。

4.2 人間と他の生物の共生

この小説において、海上民と魚舟の絡み合う関係は、非常に創意的な設定である。このようなインパクトある関係を思いついたきっかけについて、上田は、2005年10月に雑誌『サイエンス』に掲載された新種の海洋微生物の報告に触発されたと語った。中でも、「筑波大学が2000年に和歌山の海岸で発見し、『ハテナ』と命名したこの微生物は、単細胞生物なのに、分裂時、片方は葉緑素を持つ植物型に、もう片方は口を持って動き回る動物型となり」(SFマガジン編集部2010:218)、上田がその奇妙な生物について考えたことが、魚舟の設定につながった。

リ・クリティシャス以降、海に活路を求めた人類は、遺伝子改変により「海上民」とその舟となる海洋生物「魚舟」を生み出した。海上民と魚舟は、双子として生まれる。双子の一方はヒト、もう一方は魚舟として生まれ、ヒトは母親に育てられ、魚舟はその場で海に放たれる。その後、魚舟は自力で育ち、多くは成長途中で外敵に襲われ命を失うが、知恵と力のあるものは、厳しい海洋環境に耐え、やがて双子の片割れのいる船団に戻り、血の契約によって、その支配を受け入れる。操舵者のヒトと、ヒトに住まいを提供する魚舟は、再び互いの「朋」となる。海上民と魚舟は一対一の関係で、もし海上民が夭折すると、魚舟は行き場を失い、誰とも契約を結ぶことができず、操舵者のいないまま成長・変異して「獣舟」となり、陸に上がって人を襲い、村を荒らし、陸上民から憎まれる。それでも、海上民は獣舟を捕殺しない。

海上民にとって、獣舟は人類の期待の外に生まれた変異体だが、彼らも生まれたからには生きたい、ただそれだけなのである。人間は自分が最高の生存価値を有していると主張するが、これは人間自身の傲慢さに過ぎない。獣舟にも同様に生きる権利がある。ここから上田のこの世のすべての生命を尊重し、他者を思いやる気持ちが伝わってくる。

さらに、この小説は人類に危害を及ぼす生命との共存についても述べている。アカシデウニは、本来深海の上・中層に生息するが、その後、深海の下層に移動してきた。セイロン深海平原には水深700mの巨大な無酸素層があり、かつてそこに病潮の原因となるムツメクラゲがコロニーをつくっていたため、酸素生成細菌 OX105 を大量に投入し、有酸素層に変えることでクラゲを撃退する試みが行われていた。しかし、OX105 は投入されると無酸素層で大量に繁殖し、それを餌とするアカシデウニが増殖、OX105 の増殖に比例して

アカシデウニも増え、期待していた有酸素層は形成されず、低酸素層になっただけで、駆除しようとしたムツメクラゲも残ってしまった。OX105 が無酸素層で繁殖している間、過度に成長したクラゲは定期的に海面に上昇し、人間を脅かす病潮の発症率を高めたのである。一方、同様に増殖したアカシデウニも、餌を求めて人間に危害を加え続けた。

リ・クリティシャス以降、地球環境を積極的に改変する工学的技術が大きな発展を遂げ、人類は環境保護を顧みず、勝手な環境破壊と環境や生物の改造によって、環境をますます悪化させ、その結果、人類への脅威もますます強くなっていた。しかし、多くの人はこの問題に気づいていないか、気づいていても変えようとはしない。魚舟は人が改造してできたものであり、魚舟も副産物の獣舟の出現を招き、人は獣舟を殺し、追い出したのだ。

人類は環境との関係や他の生き物にどう対処するかを考え直す必要があり、他の生き物が危険だからといって駆逐するのではなく、どのように共存共生するかを考えるべきである。地球は人類と他の生き物が共に生きる環境であり、人類自身のために他の生き物を虐殺し、勝手に環境を改造すると、いずれ自然の懲罰を受けるに違いない。

アカシデウニも同様で、人間は知恵を絞ってウニに刺された場合の治療法を研究し、治せばウニを絶滅させる必要はない。しかし、薬の開発に時間をかけるより、ウニを駆除する方が早く効果的であるため、人間は後者を選ぶ。これはまさに、人類が自然との問題を処理する際、これまで多くとられてきた方法でもある。

人間と生物は共同体であり、共に自然のバランスを保っている。人類のためだけに他の生き物を殺すのであれば、結局は人類が自ら滅亡することになる。共存、人類に危害を及ぼす生命との共存がいかに大切か、ようやく理解する人が増えている。ムツメクラゲと OX105、アカシデウニの関係のように、人類は環境を改造し、生物を改造することで、本来の自然のバランスを崩し、より深刻な問題を引き起こす可能性が高い。人間は、たとえ人類にとって有害な存在であっても、知恵を絞って共存の道を考えるべきであり、人類と他の生物、人類と環境は密接に結びついた運命共同体であるということを漸く認識するに至った。

4.3 人間と AI の共生

この小説では人と AI の共生も描かれている。上田は取材に対し、「彼らは人間ではないので…（中略）…『純粹な理論性』と『人間と接点を持つ異種知性体』としてのバランスを取るのが難しかった」（SF マガジン編集部 2010：219）と、作品の中で最も握しにくいのはアシスタント知性体（AI）だと語った。人間はもともと機械の主人という立場にあり、人間と機械、人間と AI の間に主従関係があった。しかし、AI の時代には、「人間と機械が共存する空間では、……互いが構成する他者であり、共に共同体の『空白』を埋め、人間と機械が共存する空間、人機共同体を共同所有の贈り物とするため⁴⁾」（周敏 2020：73）、人間は人間中心主義の檻を脱し、ロボットや AI への接し方を考え直さなければならない。上田は、アシスタント知性体を生き生きと描き、明確で感動的な人と AI の共同体のイメ

ージを表現している。この小説にはマキ、燐などのアシスタント知性体が登場する。アシスタント知性体は、人間のために情報整理を行うよう存在し、そうした生存意義がプログラミングされている。彼らは人に頼らなければ行動できない AI だが、人との長い生活中で彼らは人と理解し合い、生涯思考を助けるパートナーとなり、不可分な人知共同体を形成した。アシスタント知性体はパートナーがいなければ生存できず、パートナーが亡くなると破壊される。この点は、海上民と魚舟の関係に似ている。

マキは、青澄のアシスタント知性体である。青澄は、30 年以上が経った今も、マキを大切に使っている。外務省への入省が決まった時、青澄はマキの他にもう一つのアシスタント知性体を加え、公私の使用を分ける機会を与えられたが、青澄は分けないという選択をした。青澄は、外交官という仕事は、仕事で得た経験だけでできるものではなく、人生で得た価値観をすべて注ぎ込まなければならないことが多いと考えていた。そのため、子供の頃から思考経験を共有しているマキを使うのが効果的だと考え、その選択が正しかったことが証明された。長年の共同生活を経、苦楽を共にしたアシスタント知性体マキと青澄は、調和のとれた共同体を形成した。

アシスタント知性体は、長年様々な状況で運用され、人間とのコミュニケーションによって人間の半分を確実に受け継ぐことができる。アシスタント知性体は「他者」ではなく、人間の影であり、人間の内面の充実に貢献するために作られた存在なのである。マキはパートナーである青澄の痛みに共感することはできないが、家族のように青澄を理解し、誠心誠意彼と共に闘った。

そして、燐はタイフォンのアシスタント知性体である。海上民は通常アシスタント知性体を使わぬが、汎アジア連合政府によって一方的に押しつけられたのだ。政府は、燐を通じてタイフォンの行動を簡単に追跡できた。また、タイフォンの兄であるリーは、汎ア連合政事院上級委員であり、燐を通じてリーに間接的な制約を課すことができた。このため、タイフォンは燐を非常に嫌っており、燐を単純なデータ端末、メーラー、ニュース解説者とみなし、自分の心に深くアクセスすることを許さなかった。しかし、タイフォンは燐とネットワークの間にダミー知性体 DAM を挿入できること、これを使えば自分と燐の行動が連合保安部に偽装できることを発見し、DAM を実装して以降、タイフォンは燐を大にし、燐も全力を尽くしてパートナーのタイフォンを保護し助けた。

やがて、汎アが海上民を虐殺し始めるようになると、タイフォンは海上民を守るために戦い、燐は全力でタイフォンを支援した。燐は危機の時、タイフォンを守ってきた。そして、タイフォンの魚舟である月牙も共に戦い、最も危険な場面で、タイフォン、燐、月牙は共に強固な共同体を構築した。彼らは一体となって外敵に抵抗した。そして、命尽きる時、タイフォン、月牙、燐、すなわち海上民、魚舟、アシスタント知性体は、一つになつて死へと向かった。それぞれが別の生命体や人工物だが、生きている間は共に闘い、死ぬときも一つの共同体として消えていった。

この小説は、人間と AI の関係を形作ることで、人間と AI の共存共生という構想を表し、

人々に自身の認識を見直し、人知の運命共同体、人間未来の生存について考えるきっかけを与えていた。

4.4 共同体の再構築

歴史上、優れた作家は、未来のより良い社会を思い描く「共同体衝動」を持っていた。それは、血縁や地域を超えて、有機的に生成され、ダイナミックに結合する共同体の形である（殷企平 2016 : 78）。作品に込められた運命共同体の意識は、生存という意味での人間と人間、人間と自然の共生意識、発展という意味での民族、国家、異性間の共通性、そして感情という意味での人類の連帯感に反映されている（李慧紅,申富英 2020 : 127）。

人類の運命は共通の脅威にさらされており、我々は全人類の共通の利益のために、運命共同体を構築するよう努力し、この矛盾に満ちた「リスク社会」に対処しなければならない。

この小説は、最後に人類が手を携えて迎える未来を描いている。国際環境研究連合（IERA）は、人類が2度目のホットプルームに直面し、災害が発生した時、人類の生存確率は限りなくゼロに近い「プルームの冬」の脅威にさらされると予測した。人類滅亡の大災害が近づく中、一部の陸上民と海上民が力を合わせ、プルームの冬の際に海上民の避難場所としても機能する海上交易センターを立ち上げた。ツキソメは、自分が知る海底資源情報を公開し、情報と交換した資金を交易センターの建設費に充てた。陸上民と海上民の共生、それはエド、ヘンリー・MUP ウオレスやツキソメ、青澄らが生涯追い求めたものである。「相互に一致し、結びついた信念（Gesinnung）は共同体特有の意志⁵⁾」（斐迪南・滕尼斯 2020 : 95）であり、青澄らが陸と海のため、人類とそれ以外の生命のため努力したように、強い共同体意識を持つ人々が心を一つにして努力すれば、人々は希望を見出し、人類が逃れられない危機に直面しても、人々は全力を尽くして共に対応することができる。

地球の災害が避けられないと予測した時、人々は地球の外部に人類の歴史、文化、文明を残そうと、宇宙船の打ち上げを計画した。宇宙船には擬似人間の遺伝子データ、それにより人工タンパク質を使って生命体を作る方法、必要な化学物質が入った保管庫と、同時に人工知性体を搭載し、擬似人間を再生できる環境に到達したら、人工知性体はそこで彼らの生体を製造するようにした。2隻打ち上げ、うち将来のバックアップである1隻は月に着陸し、もう1隻は太陽系外に打ち上げられる計画だ。マチなど20人の人工知性体が、人類文明を残すため宇宙に飛び出すとともに、地球上には未曾有の危機に対処するためのアシスタント知性体が多数存在した。

リ・クリティシャス以降、生存地域や資源を確保するため、陸上組織が海上民を虐殺し、組織同士が互いにだまし合い、殺し合い、地球全体が混沌とした状態に陥った。人類は次第に、地球全体が一つの生命共同体であり、様々な生物とAIの運命が密接に絡み合っており、協力してこそ危機に立ち向かうことができると分かってきた。人々は、共同体とは

「失われた楽園—しかしそれは私たちが再びそこに帰ることを熱望している楽園でもあり、ゆえにそこに行くための道を熱烈に探している—楽園の別名⁶⁾」（齐格蒙特・鲍曼 2003：序 5）であることを深く認識している。ブルームの冬に対し、全世界の組織機構が協力し、ネジエス、汎ア、オセアニア共同体等、相互の利益調整に基づいて手を携えて対応した。災害を前に、全世界の各機関がついに強固な共同体を構築し、人類のかつてない危機に対して、共に努力し闘った。人々は、地球上のある地域の状況が極端に悪化すれば、それは必ず周辺地域に波及し、影響を及ぼすため、世界の平和を守るには、世界全体の団結が必要であることを十分認識していた。災害の前には、我々は個人間の差異を保留し、「共同体」という観点から全人類の運命共同体を構築する必要があるのである。

5. おわりに

危機に直面した時、人類はどのように生きるべきか、どのように他の生物と共存すべきか、人類は未来に対しどのような憂慮と憧れを持っているのか、上田はこの小説を通じて壮大な絵を描いてみせた。この小説には、様々な政府間のだまし合い、官僚同士の対立、資源をめぐる人間の殺し合いなどが描かれているが、同時に、災害に直面した人間の善良さ、人類共通の運命に立ち向かう人間の姿も十分に描かれている。

人類は生きるために様々なジレンマを抱えるが、どのように変異し、どのような選択をしても、この小説の青澄、ツキソメ、タイフォン、春原のように、他者の生存と幸福のために奔走する人々が存在し、彼らは自然の中で種を超えた真情、共同体意識を持っているのである。彼らは、一人の力は小さくても、必ず何かを搖さぶり、誰かが始めさえすれば、他の誰かがそれに続くと信じている。リーとタイフォンの兄弟は、海上民のために戦うことを決意し、ツキソメとユズリハ、タイフォンと月牙など海上民と魚舟は互いに信頼し合って外敵を防ぎ、青澄とアシスタント知性体マキは共に戦い、タイフォンと燐は人を救うために命を落とした。共通の危機に対し陸上民と海上民は、対立から協力するようになり、各組織機構も武力対立から協力へと変化した。ブルームの冬を前にし、全世界のため、地球全体のために、さまざまな個体が大小無数の共同体を形成し、各共同体は種を越えて緊密につながり、運命を共にする大きな共同体を構成し、共に手を携えて危機に対処したのである。上田は、この小説においてさまざまな共同体を SF 的に描き、万物の共同体構築に重要なヒントを与えていた。

自然災害、気候変動、疫病、戦争は未だになくならず、AI、遺伝子操作、バーチャル技術、形状探査などの科学技術は常に進化し、どこにでもある地球規模の危機は、人々が共同状態で生活することを警告している。文学は、人類共同体の想像を構築し、人類に共同体意識を呼び覚ます上で必要かつ重要なものである。アイザック・アシモフは、「未来はグローバリゼーションの要求の中で、一体として考えなければならない⁷⁾」（艾萨克・阿西莫夫 1998：197）と述べ、劉（2016）も、「いつの日か、人類は SF 小説のように調和のとれた総体となる⁸⁾」と述べている（劉慈欣 2016：306）。文学は、共同体の想像と構築に対し、

人間の運命共同体をより良い未来に向けて推進させるだろう。

壊滅的な災害に見舞われた時、我々は差別や障壁を乗り越え、共に危機に立ち向かうことができるだろうか。『華竜の宮』は、我々に世界を見つめ直し、人と自然の関係を再考し、万物が共に生き、運命を共にする美しい未来への憧れを思い描かせる良書である。

注

- 1) 日本 SF 作家クラブの略称。同クラブは、1963 年 3 月 5 日に石川喬司、小松左京、川村哲郎、斎藤守弘、斎藤伯好、半村良、福島正実、星新一、光瀬龍、森優、矢野徹の 11 名で発足した、日本随一の SF&ファンタジー団体である。
- 2) 上田早夕里著、丁丁虫译 (2018) 『华龙之宫』化学工业出版社。
- 3)、4)、5)、6)、7)、8) 筆者日本語訳

参考文献

- Delanty, Gerard (2010) 『Community』 Routledge.
- 艾萨克・阿西莫夫著, 梁鸿鹰译 (1998) 『诠释人类万年』内蒙古人民出版社.
- 殷企平 (2016) 「西方文论关键词: 共同体」『外国文学』(2)、70-79 頁.
- 上田早夕里 (2012) 『華竜の宮 上』早川書房.
- 上田早夕里 (2012) 『華竜の宮 下』早川書房.
- 高华鑫 (2021) 「日本思想研究关键词: 共同体」『日语学习与研究』(6)、67-77 頁.
- SF マガジン編集部 (2010) 「『華竜の宮』刊行記念上田早夕里インタビュウ」『SF マガジン』2010 年 12 月号、218-221 頁.
- 齐格蒙特·鲍曼著, 欧阳景根译 (2003) 『共同体: 在一个不确定的世界中寻找安全』江苏出版集团.
- 周敏 (2020) 「人机共同体想象: 以《像我一样的机器》为例」『外国文学研究』(3)、73-86 頁.
- 陈天雨 (2021) 「论《露丝》中命运共同体的多维度表征」『英美文学研究论丛』、271-281 頁.
- 丁卓 (2020) 「日本当代科幻文学的近未来设定」『华南师范大学学报(社会科学版)』、144-155 頁.
- 丁茹 (2016) 「中国における星新一小説の受容についての研究」鹿児島大学、博士論文、1-165 頁.
- 斐迪南·滕尼斯著, 张巍卓译 (2020) 『共同体与社会——纯粹社会学的基本概念』商务印书馆.
- 中共中央编译局 (2009) 『马克思恩格斯全集 第 3 卷』人民出版社.
- 雷蒙·威廉斯著, 刘建基译 (2005) 『关键词: 文化与社会的词汇』三联书店.
- 李慧红, 申富英 (2020) 「弗吉尼亚·伍尔夫作品中的生命共同体意识」『海南大学学报人文社会科学版』(2)、127-134 頁.
- 刘慈欣 (2016) 『最糟的宇宙, 最好的地球——刘慈欣科幻评论随笔集』四川科学出版社.

番号	執筆者紹介（掲載順）	
1	許 永蘭	中国・瀋陽工業大学 準教授
2	張 北林	中国・大連理工大学 準教授
3	湯 明昱	中国・大連理工大学開発区キャンパス 講師
4	廖 琳	中国・湖南科技大学 講師、日本・広島大学 院
5	鄒 善軍	中国・大連理工大学開発区キャンパス 講師
	李 光赫	中国・大連理工大学 準教授
6	李 光赫	中国・大連理工大学 準教授
	劉 志穎	中国・大連理工大学 院
7	劉 志穎	中国・大連理工大学 院
8	徐 秀姿	中国・上海海事大学 講師
	徐 暢	中国・上海对外経貿大学 部
9	張 黎	中国・大連外国語大学 講師
10	崔 秀霞	中国・大連工業大学 講師
	永井由佳里	日本・北陸先端科学技術大学院大学 教授
11	杜 紅陽	日本・広島大学 院
12	林 樂青	中国・大連理工大学 準教授
	楊 玖瀅	中国・大連理工大学 院
13	孫 蓮花	中国・大連理工大学 準教授
	薛 静博	中国・大連理工大学 院
14	吳 春燕	中国・広東工業大学 教授
15	張 維薇	中国・四川大学 準教授
16	金 京愛	中国・揚州大学 準教授
	邱 怡清	中国・揚州大学 院
17	劉 智俊	中国・大連外国語大学 院
	姚 鮑玲	中国・大連外国語大学 教授
18	李 凌飛	中国・蘇州大学 院
	施 曄	中国・蘇州大学 教授
19	鄭 穎	中国・嶺南師範学院 準教授
20	李 晓霞	中国・大連交通大学 教授
	川本真佐美	日本・京都西山短期大学 準教授

英文目次

Studies in Japanese and Contrastive Studies in Japanese and Chinese

Meaning of the paired Intransitive Verb construction with wo case	XU Yonglan	1
Counterfactual Usage of the Adverb Semete	ZHANG Beilin	11
The model construction about Japanese- Chinese contrast study of the cause- reason sentence expressed by kara and node	TANG Mingyu	20
A Study on the Mixture of “Te-form” and Conjunctions Representing Cause and Reason by Chinese-Speaking Learners of Japanese	LIAO Lin	30
A Case Study on Methods of Translating“noni”Sentences From Japanses to Chinese based on KH Coder	ZOU Shanjun, LI Guanghe	40
A Study on Chinese counterfactual Syntax and Japanese translation tendencyLI Guanghe ,LIU Zhiying	50
A study on the Translation of conditional sentences expressing "hypothesis" and "counterfact" between China and Japan	LIU Zhiying	60
A Contrastive Study of the Image of ‘Nasu (Eggplant)’ in Chinese and Japanese Idioms	XU Xiuzi, XU Chang	70
A Contrastive Study of morpheme in Japanese and Chinese catchwords	Zhang Li	80

Japanese Language Education

A Study of New Media Environment for Autonomous Learning Using Online ResourcesXiuxia Cui, Yukari Nagai	90
An Analysis of the Misuses Conditional Expression ‘Ba’ by Chinese Japanese LearnersDU Hongyang	100
Function of Micro-Lecture in Japanese Teaching	LIN Leqing, YANG Jiuying	110
Lexical features of the "Easy Japanese" version of the frequent occurrence disasters information manual	SUN Lianhua, XUE Jingbo	119

Language and Culture

Five Mountain Zen Master’s Acceptance of Chuang-Tzu	WU Chunyan	129
Abenonakamaro ’s imperial Examination and Jinshi honor	Zhang Weiwei	139
A Study of Explicit Amplification in Ikeda Suetoshi’s Translation of ShangshuJIN Jingai ,QIU Yiqing	148

The Study on the Evidentiality in Japanese Discourse of Nuclear Crisis	LIU Zhijun, YAO Yanling 158
A Empirical Study of Chinese Female College Students' Greeting Behavior	LI Lingfei ,SHI Hui 168
A Study of the Annotated Translation and the Source Texts ofManifesto of the Communist Party Translated by Chen Wangdao	ZHENG Ying 178

Book Review

The Symbiosis of All Things Concept Depicted in a Science Fiction Novel	LI Xiaoxia ,Kawamoto Masami 187
---	---------------------------------

ISSN 1343-7550

East Asian Languages and Cultures Research
Kenkyûkai hôkoku-Nihongo Bumpô Kenkyûkai

日本語文法研究会
研究会報告 第 48 号
『東アジア言語文化研究 (4 号)』
2022 年 8 月 31 日 発行

編集
〒175-0045
東京都板橋区西台 4-4-3-315 高橋弥守彦 (発行)
日本語文法研究会 代表 : 高橋弥守彦

編集委員長 高橋弥守彦 李光赫
査読委員長 李光赫 趙海城
査読副委員長 鄒善軍
編集委員 湯明星

査読委員会 (日本)
石井宏明 大島吉郎 小高愛 金田章宏 上地宏一 神野智久 須田義治 高橋弥守彦
田中寛 趙海城 長野由季 福本陽介 橋本幸枝 浜野豊美 松浦恵津子 宮本大輔

査読委員会 (中国)
許永蘭 (瀋陽工業大学) 金京愛 (揚州大学) 吳春燕 (廣東工業大学)
徐秀姿 (上海海事大学) 鄒善軍 (大連理工大学) 蘇 鷹 (湖南大学)
曹捷平 (西安外国语大学) 譚 鐸 (北京理工大学) 張維薇 (四川大学)
陳愛陽 (清华大学) 陳建明 (西安外国语大学) 湯明星 (大連理工大学)
白曉光 (西安外国语大学) 熊 茜 (北京郵電大学) 林樂常 (大連大学)

○本冊子に関する問い合わせ (バックナンバー購入など) は、お手数ですが、以下の事務局まで連絡願います。

☆東アジア言語文化学会事務局 : higashiajiagengobunka@hotmail.com
☆東アジア言語文化学会 HP : <http://higashiajiagengobunka.com/>